但シ其ノ給籍國ガ日本船舶ノ純益ニ付同樣ノ免稅ヲ爲サザル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　法人營業收益稅ノ稅率ハ純益金額百分ノ三・四トス

第十條　納稅義務アル法人ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ純益金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十一條　法人ノ純益金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十二條　前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知スベシ

第十三條　納稅義務アル法人前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル純益金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十四條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ南洋群島所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

南洋群島所得稅令第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　法人營業收益稅ハ法人ノ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十六條　當該官吏ハ調査上必要アルトキハ納稅義務アル法人又ハ納稅義務アリト認ムル法人ニ質問シ又ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

第十七條　本令ニ定ムルモノノ外法人營業收益稅ニ關シ必要ナル規定ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ法人ノ昭和十三年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

南洋群島法人營業收益稅令施行規則

（昭和十三年四月一日南洋廳令第八號）

第一條　法人ノ營業ノ純益ハ法人營業收益稅ヲ課スベキ營業ニ付其ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シテ之ヲ計算ス法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ純益計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セズ

第二條　南洋群島ニ本店ヲ有セザル法人ノ南洋群島ニ有スル營業場ニ於テ爲ス營業ノ純益ノ計算ニ付南洋群島法人營業收益稅令（以下法人營業收益稅令ト稱ス）第三條ノ規定ニ依リ難キ場合ハ其ノ法人ノ全部ノ營業ニ付同令第三條ノ規定ニ依リ計算シタル純益金額ニ其ノ總收入金額ニ對スル南洋群島ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業ノ收入金額ノ割合ヲ乘ジ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ收入金額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ資產價額ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

前二項ノ規定ハ南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ガ南洋群島外ニ營業場ヲ有スル場合ニ於ケル純益ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第三條　左ニ揭グル物產ノ製造業ヲ營ム法人ニハ法人營業收益稅令第七條ノ規定ニ依リ法人營業收益稅ヲ免除ス

一　セメント
二　椰子油
三　澱粉及キヤッサバ切干
四　無水アルコール
五　水產物及農產物ノ罐詰
六　ブリキ罐

第四條　前條ノ製造業ヲ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ヨリ承繼又ハ其ノ承繼ト認ムベキ事實アリタル場合ニ

於テ其ノ營業ニ付法人營業收益稅ヲ免除スル期間殘存スルトキハ現營業者ハ其ノ殘存期間ヲ承繼ス

第五條　法人營業收益稅令第七條ノ規定ニ依リ法人營業收益稅ノ免除ヲ受ケントスル法人ハ同令第十條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄支廳長ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ第三條ノ製造業ヨリ生ズル純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スルトキハ第三條ノ製造業ヨリ生ズル純益ト其ノ他ノ純益トヲ區別シタル計算書ヲ添附スベシ

第六條　納稅義務アル法人ハ每事業年度決算確定ノ日ヨリ十四日內ニ財產目錄、貸借對照表、損益計算書及純益計算ノ基礎ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ其ノ純益金額ヲ所轄支廳長ニ申告スベシ

法人營業收益稅令第四條ノ規定ニ該當スル事業年度分ニ關スル前項ノ申告ハ其ノ解散、合併又ハ營業廢止ノ日ヨリ十四日內ニ之ヲ爲スベシ但シ前項ノ申告ハ南洋群島所得稅令ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第七條　支廳長法人營業收益稅令第十一條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知スベシ

第八條　法人營業收益稅令第十三條第一項ノ審查ノ請求ヲ爲サントスル者ハ不服ノ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ申出ヅベシ

第九條　南洋廳長官法人營業收益稅令第四條第一項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知ス

第十條　南洋群島ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル法人ハ其ノ設立又ハ支店其ノ他ノ營業場ニ於ケル營業開始ノ日ヨリ十四日內ニ定款又ハ之ニ相當スル書類ニ其ノ設立又ハ營業開始ノ當時ニ於ケル財產目錄及貸借對照表ヲ添ヘ所轄支廳長ニ提出スベシ

法人ノ本店ヲ南洋群島ニ本店ヲ有スル法人其ノ支廳管轄區域外又ハ南洋群島外ニ營業場ヲ有スルトキハ其ノ旨所轄支廳長ニ申告スベシ

第十一條　南洋群島ニ本店ヲ有スル法人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十四日內ニ其ノ旨所轄支廳長ニ申告スベシ

一　法人ノ名稱ヲ變更シタルトキ
二　本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキ
三　前各號ノ事項ヲ除クノ外定款ノ記載事項ヲ變更シタルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ移轉先ノ支廳長ニモ申告スベシ

第十二條　納稅義務アル法人ニ該當スルトキハ十四日內ニ其ノ旨所轄支廳長ニ申告スベシ

一　法人ノ名稱ヲ變更シタルトキ
二　本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキ
三　前各號ノ事項ヲ變更シタルトキ

事項ヲ變更シタルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ移轉先ノ支廳長ニモ申告スベシ

第十三條　南洋群島ニ本店ヲ有セザル法人ハ純益ノ申告、納稅其ノ他法人營業收益稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ其ノ住所及氏名ヲ所轄支廳長ニ申告スベシ

第十四條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ法人營業收益稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ稅金ヲ追徵ス但シ自首シタル者又ハ當該官吏ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

法人營業收益稅令第十六條ノ規定ニ依ル質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ帳簿物件ノ檢查ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十五條　法人營業收益稅ノ調查又ハ審查ノ事務ニ從事シタル者其ノ調查又ハ審查ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　大正十一年勅令第二百號第一條ノ規定ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十七條　當該官吏法人營業收益稅令第十六條ノ規定ニ依リ營業ニ關スル帳簿物件

ヲ檢査スルトキハ南洋群島所得稅令施行規則別表ニ定ムル檢査章ヲ携帶スベシ

第十八條　本令中支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第七條ノ規定ヲ除クノ外支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

第十九條　本令ノ規定ニ依リ支廳長ニ提出スベキ申告書又ハ支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ提出スベキ申請書ハ支廳出張所ノ管轄區域內ニ在リテハ所轄支廳出張所長ニ之ヲ提出スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際南洋群島ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル法人ハ本令施行ノ日ヨリ五十日內ニ定款ニ最近事業年度ノ財產目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ添ヘ所轄支廳長ニ提出スベシ

第十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

南洋群島臨時利益配當稅令中改正ノ件

（昭和十三年四月一日勅令第二百二十三號）

南洋群島臨時利益配當稅令中左ノ通改正ス

第一條　第二項ヲ左ノ如ク改ム

南洋群島所得稅令施行ノ際南洋群島ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル法人ハ本令施行ノ日ヨリ五十日內ニ定款ニ最近事業年度ノ財產目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ添ヘ所轄支廳長ニ提出スベシ

第十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島臨時利益配當稅令中改正ノ件

（昭和十三年四月一日勅令第二百二十三號）

南洋群島臨時利益配當稅令中左ノ通改正ス

第一條　第二項ヲ左ノ如ク改ム

南洋群島所得稅令施行ノ際南洋群島ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル法人ハ本令施行ノ日ヨリ五十日內ニ定款ニ最近事業年度ノ財產目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ添ヘ所轄支廳長ニ提出スベシ

第十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

南洋群島臨時利益配當稅令中改正ノ件

（昭和十三年四月一日勅令第二百二十三號）

南洋群島臨時利益配當稅令中左ノ通改正ス

第一條　第二項ヲ左ノ如ク改ム

南洋群島所得稅令施行ノ際南洋群島ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル法人ハ本令施行ノ日ヨリ五十日內ニ定款ニ最近事業年度ノ財產目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ添ヘ所轄支廳長ニ提出スベシ

第十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

臨時利得稅法中改正法律

（昭和十三年三月三十一日法律第四十五號）

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項第一號及第二號ノ利得ハ各之ヲ甲種利得及乙種利得ノ二種トス

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ昭和六年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部（甲既往事業年度ト稱ス以下同ジ）ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ法人ノ甲種利得トシ昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部（乙既往事業年度ト稱ス以下同ジ）ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ法人ノ乙種利得トス

第四條ノ二　前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計算スルニ當リ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ各其ノ定ムル所ニ依リ平均利益ヲ計算ス

一　甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ガ甲既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ七未滿、乙既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ十未滿ナルトキハ甲既往事業年度ニ在リテハ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ乙既往事業年度ノ平均利益トス

三　現事業年度ノ資本金額ガ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ增減アルトキハ比較セラレタル既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ現事業年度ノ資本金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均資本金額トシ比較セラレタル既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均利益トス

四　現事業年度ノ期間ガ甲既往事業年度ニ屬スル各事業年度又ハ乙既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ期間ト異ルトキハ既往ノ各事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ月數ノ既往各事業年度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換算ス

第四條ノ三　法人ノ甲種利得ニシテ臨時利得稅ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スルモノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得ヨリ控除ス

第四條ノ四　法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ノ金額年千圓未滿ナルトキハ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲甲種利得ノ金額ガ年千圓未滿ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條中「既往事業年度」ヲ「甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度」ニ改ム

第九條　個人ノ利益ガ昭和六年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ個人ノ甲種利得トシ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其

歲入徵收分掌官」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ノ超過額ヲ個人ノ乙種利得トス

第九條ノ二　前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和六年以前三年ノ平均利益ガ三千圓未滿ナルトキハ三千圓、昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ五千圓未滿ナルトキハ五千圓ヲ以テ各其ノ平均利益トス

第九條ノ三　個人ノ甲種利得ニシテ臨時利得稅ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スルモノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得ヨリ控除ス

第九條ノ四　個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ甲種利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ、一萬五千圓未滿ナルトキハ乙種利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ控除ス

個人ノ利益ガ一萬圓以上ナル場合ニ於テ甲種利得ノ金額千圓未滿ナルトキ又ハ一萬五千圓以上ナル場合ニ於テ乙種利得ノ金額千圓未滿ナルトキハ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲甲種利得ノ金額ガ千圓未滿ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條ノ二　營業ヲ繼續シ又ハ營業體續ト認ムベキ事實アル個人ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス

個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　個人ノ利益ガ六千圓未滿ナルトキハ甲種利得ニ對スル、一萬圓未滿ナルトキハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ

第十四條　法人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲種利得

利得金額ノ百分ノ	七・二五

乙種利得

利得金額ノ百分ノ	一・五

前條第三項ノ規定ハ個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ利得金額中千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス但シ第九條ノ四第一項ノ規定ニ依リ控除ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條ノ二　個人ノ利得ニ付利得金額決定後翌年利得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際利得額ガ決定利得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ利得金額ノ決定ニ付脫漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際利得額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ基キ之ヲ計算ス

第二十五條中「前條」ヲ「第二十四條」ニ改ム

附則第二項中「昭和十三年十二月三十一日ヲ含ム」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル」ニ、「昭和十三年分」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年分」ニ改ム

附則

第一條　本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第二十四條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

第三條　臨時租稅增徵法第十九條ノ規定ハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル法人ノ各事業年度分ノ臨時利得稅及昭和十三年分以降ノ個人ノ臨時利得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條　昭和十三年三月三十一日迄ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ臨時利得稅ニ付テハ第十四條ノ改正規定ニ拘ラズ甲種利得ニ對スル臨時利得稅ノ稅率ヲ利得金額ノ百分ノ十五トス

第五條　北支事件特別稅法第八條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ法人ノ甲種利得ニ對スル臨時利得稅額ヲ以テ同條ニ規定スル臨時利得稅額トス

第六條　臨時利得稅法第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十三年ニ限リ四月十五日トス

（參照）

昭和十年三月三十一日法律第二十號臨時利得稅法抄

第二條　臨時利得稅ハ左ノ利得ニ付之ヲ賦課ス

一　法人ノ利得

二　營業收益稅法（第二條ニ揭グル營業（鑛業又ハ第一種所得ヲ生ズベキ事業ヲ含ム）ニ因ル個人ノ利得

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ既往事業年度ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ前項ノ利得金額ト爲ス

法人ノ利得金額計算ノ場合ニ於テ左記各號ニ該當スルトキハ各其ノ定ムル所ニ依リ既往事業年度ノ平均利益ヲ計算ス

一　何レノ既往事業年度ノ平均利益ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七未滿ナルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次ノ事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタルトキハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

三　現事業年度ノ資本金額ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ增減アルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對スル平均利益ノ割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ノ適用ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ヲ既往事業年度ノ平均資本金額ト看做ス

四　現事業年度ノ期間ガ既往事業年度ノ期間ト異ナルトキハ現事業年度ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ既往事業年度ノ利益ヲ計算ス

本法ニ於テ現事業年度ト稱スルハ昭和十年一月一日以後ニ於テ終了スル各事業年度ヲ謂ヒ既往事業年度ト稱スルハ昭和六年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル各事業年度ヲ謂フ

利得金額年千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

第七條　法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往事業年度ト稱スルハ昭和六年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル各事業年度ヲ謂フ

第九條　個人ノ利益ガ昭和六年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ個人ノ利得金額ト爲ス

個人ノ利益ガ六千圓未滿ナルトキハ前項ノ超過額中二千圓ヲ控除シタル金額ヲ以テ前項ノ利得金額ト爲ス

營業ノ繼續ト認ムベキ事實アルトキハ各其ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス

個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ甲種利得ニ對スル、一萬圓以上ナル場合ニ於テ甲種利得ノ金額千圓未滿ナルトキ又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ

第十四條　法人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲種利得

利得金額ノ百分ノ	七・二五

乙種利得

利得金額ノ百分ノ	一・五

前條第三項ノ規定ハ個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ利得金額中千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス但シ第九條ノ四第一項ノ規定ニ依リ控除ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條ノ二　個人ノ利得ニ付利得金額決定後翌年利得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際利得額ガ決定利得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ利得金額ノ決定ニ付脫漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際利得額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ基キ之ヲ計算ス

第二十五條中「前條」ヲ「第二十四條」ニ改ム

附則第二項中「昭和十三年十二月三十一日ヲ含ム」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル」ニ、「昭和十三年分」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年分」ニ改ム

但シ第九條第二項ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第二十四條　罰條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ利益ヲ査額シ二分ノ一以上ノ減扣アルトキハ利得金額ヲ更訂ス

第二十五條　納稅義務者第二十二條ノ決定又ハ罰條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

附則第二項

本法ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ昭和十三年十二月三十一日ヲ含ム事業年度分ニ限リ個人ニ付テハ昭和十二年分ニ限リトス

昭和十二年三月三十一日公布　法律第二號臨時租稅增徵法

昭和十二年八月十二日公布　法律第六十六號北支事變特別稅法

第十九條　臨時利得稅ニ付テハ臨時利得稅法第十四條ニ規定スル稅率百分ノ十ヲ百分ノ十五百分ノ八ヲ百分ノ十トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

昭和十二年八月十二日公布　法律第六十六號北支事變特別稅法

第八條　法人ノ臨時利得稅ハ本法施行後一年內ニ終了スル各事業年度ノ利得ニ付之ヲ賦課シ其ノ利得ニ對スル臨時利得稅額（臨時利得稅增徵法ニ依ル增徵稅額ヲ含ム）ノ百分ノ十五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

臨時利得稅法施行規則中改正ノ件

（昭和十三年四月一日勅令百九十四號）

第二條　法人ノ甲ヘ甲種利得ヨリ控除スベキ部分ハ乙種利得ノ算出ニ當リ適用セラレダル稅率ヲ以テ除シタル金額ニ依ル

第三條　臨時利得稅法第四條ノ二第一號ノ年百分ノ七又ハ年百分ノ十ノ割合ノ金額ヲ甲既往事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ七又ハ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

法人ノ乙既往事業年度ノ平均利益ハ乙既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第四條ノ二　臨時利得稅法第四條ノ三ノ規定ニ依リ法人ノ甲種利得ヨリ控除スベキ部分ハ乙種利得ノ算出ニ當リ適用セラレダル稅率ヲ以テ除シタル金額ニ依ル

第五條中「第四條第四項」ヲ「第四條ノ四」ニ改ム

第八條中「既往事業年度」ヲ「甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度」ニ改ム

第八條ノ二　第四條ノ二ノ規定ハ臨時利得稅法第九條ノ三ノ規定ニ依リ個人ノ甲種利得ヨリ控除スベキ部分ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第九條中「昭和六年以前三年」ノ下ニ「又ハ昭和十一年以前三年」ヲ加フ

第十條中「昭和六年以前三年」ノ下ニ「ニ屬スル各年又ハ昭和十一年以前三年ニ屬スル各年」ヲ加フ

第十二條中「第十條第一項」ノ下ニ「又ハ第二十四條ノ二第二項」ヲ、「總收入金額」ノ下ニ「又ハ收入金額」ヲ加フ

第十三條中「第二項」ヲ「第三項」ニ改ム

第十三條ノ二　臨時利得稅法第十四條第三項ノ利得金額ハ甲種利得ニシテ臨時利得稅法第四條ノ三ノ規定ノ適用アルモノニ

付テハ其ノ適用前ノ金額ニ依ル

第十三條ノ三　法人ノ甲種利得ニ對スル稅額及乙種利得ニ對スル稅額ノ双方ガ臨時利得稅法第十四條第三項ノ規定ニ該當スルトキハ其ノ稅額ノ合計額ヲ同項ノ算出稅額ト看做シ甲種利得又ハ乙種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ其ノ利得金額ト看做シテ免除額ヲ計算ス

前項ノ規定ハ甲種利得ニ對スル稅額及乙種利得ニ對スル稅額ノ合計額ガ甲種利得又ハ乙種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヨリ年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十三條ノ四　前二條ノ規定ハ臨時利得稅法第十四條ノ二第二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十四條中「昭和六年以前三年」ノ下ニ「又ハ昭和十一年以前三年」ヲ加フ

第十七條中「昭和六年以前三年」ヲ加フ

第十七條ノ二　稅務署長臨時利得稅法第二十四條ノ二第一項ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定セントスル場合ニ於テハ其ノ利得金額ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ

第十八條中「第十九條」ノ下ニ「、第二十四條ノ二第一項」ヲ加フ

附則

本令ハ昭和十三年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第十七條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

第十八條中「第十九條」ノ下ニ「、第二十四條ノ二第一項」ヲ加フ

附則

本令ハ昭和十三年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第十七條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

（參照）

昭和十年三月三十一日公布　勅令第三十七號　臨時利得稅法施行規則中改正ノ件

第二條　法人ノ既往繰越年度ノ平均利益ハ既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第三條　臨時利得稅法第四條第二項第一號ノ年百分ノ七又ハ年百分ノ十ノ割合ノ金額ヲ既往事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ七又ハ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

法人ノ既往繰越年度ノ平均利益ハ既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ既往事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ七又ハ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

第四條　臨時利得稅法第四條第四項ノ年千圓ノ金額ハ現事業年度ノ月數ヲ千圓ニ乘ジタル金額ニ依ル

第八條　法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往事業年度ノ平均資本金額及平均利益ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ既往事業年度ノ資本金額及利益ヲ合算シテ之ヲ計算ス

第九條第一項

個人ノ利得金額計算ノ場合ニ於テ營業ヲ廢止シ又ハ營業用固定財產ノ全部若ハ一部ヲ讓渡シタル場合ニ於テ營業ノ廢止又ハ讓渡ノ日ノ屬スル年ノ臨時利得稅ニ付テハ臨時利得稅法第十條第一項ノ規定ニ依リ前二項ノ規定ニ依リ算出シタル利得金額ニ其ノ日ノ屬スル年ノ一月一日ヨリ其ノ日迄ノ期間ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ昭和六年以前三年ノ平均利益ヲ算出シテ平均利益ヲ計算ス

第十二條　臨時利得稅法第十條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限リ但シ家事上ノ費用及之ニ準ズルモノハ之ヲ控除セズ

第十三條　臨時利得稅法第十四條第二項ノ年千圓ノ

金額ハ第五條ノ規定ヲ適用シテ之ヲ計算ス

第十四條 個人ノ利得ノ申告、調査又ハ決定ハ各其ノ營業ノ時ノ現況ニ依リテ利得ヲ算出シ之ヲ昭和六年以前三年ノ平均利益ハ各別ニ法ニ依ル所得ノ決定當時ノ現況ニ依リ利益ヲ計算シテ之ヲ算出スベシ

第十五條 第九條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ前營業者ノ營業ノ種類、營業地等所在地、氏名又ハ名稱及住所又ハ居所並ニ昭和六年以前三年ノ平均利益ヲ臨時利得稅法第十六條ノ申告ト同時ニ所轄稅務署ニ申告スベシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ個人ノ利得ニ付納稅義務アル ニ至リタルトキハ利得金額ノ決定前其ノ利得金額ノ申告ト同時ニ之ヲ申告スベシ

第十八條 稅務署長ハ臨時利得稅法第十七條、第十九條又ハ第二十七條第二項ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

昭和十二年三月三十一日公布法律第四十五號ハ臨時利得稅法中改正ノ件ナリ

朝鮮臨時利得稅令中改正ノ件

（昭和十三年三月三十一日 制令第十四號）

第一條中「本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人」ヲ「住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者」ニ改ム

第二條中「法人」ヲ「者」ニ改ム

第三條 臨時利得稅ハ左ノ利得ニ付之ヲ賦課ス

一 法人ノ利得

二 朝鮮營業稅令第一條ニ揭グル營業（鑛業ヲ含ム）ニ因ル個人ノ利得

（鑛業ヲ含ム）ニ因ル個人ノ利得

前項第一號ノ利得ハ之ヲ甲種利得及乙種利得ノ二種トス

第四條 法人ノ現事業年度ノ利益ガ昭和六年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部（甲既往事業年度ト稱ス以下同ジ）ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ法人ノ甲種利得トシ昭和十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部（乙既往事業年度ト稱ス 以下同ジ）ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ法人ノ乙種利得トス

第四條ノ二 前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計算スルニ當リ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ各其ノ定ムル所ニ依リ平均利益ヲ計算ス

一 甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七未滿、乙既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ十未滿ナルトキハ甲既往事業年度ニ在リテハ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七、乙既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ現事業年度ノ資本金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均資本金額ト看做ス

二 法人ノ第一次事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ乙既往事業年度ノ平均利益トス

三 現事業年度ノ資本金額ガ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ增減アルトキハ比較セラレタル既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ現事業年度ノ資本金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均資本金額ト看做ス

四 現事業年度ノ期間ガ甲既往事業年度ニ屬スル各事業年度又ハ乙既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ期間ト異ルトキハ既往ノ各事業年度ノ平均利益ハ現事業

年度ノ月數ノ既往各事業年度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換算ス

第四條ノ三 法人ノ甲種利得ニシテ臨時利得稅ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スルモノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得ヨリ控除ス

第四條ノ四 法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ノ金額年千圓未滿ナルトキハ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲甲種利得ノ金額ガ年千圓未滿ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條中「既往事業年度」ヲ「甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度」ニ改ム

第九條ノ二 個人ノ利益ガ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ個人ノ利得トス

個人ノ利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ五千圓未滿ナルトキ又ハ營業ノ開始ガ昭和十二年一月一日以後ナルトキハ五千圓ヲ以テ平均利益トス

個人ノ利益ガ一萬五千圓未滿ナルトキハ利益金額ヨリ二千圓ヲ控除ス

個人ノ利益ガ一萬五千圓以上ナル場合ニ於テ利得金額千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

第九條ノ三 個人ノ利益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタル非ザル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ利益ヲ計算ス

第九條ノ四 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アル個人ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益ト看做ス

營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ其ノ平均利益ノ計算ニ付テハ朝鮮總督之ヲ定ム

第九條ノ五 個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十一條ノ二 個人ノ自己ノ牧種シタル農產物、畜產物若ハ水產物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造ノ利益ニ付テハ本令ヲ適用セズ但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ノ利益ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 法人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲種利得　利得金額ノ百分ノ十七・二五

乙種利得　利得金額ノ百分ノ三十

現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限リ前項ニ規定スル乙種利得ニ對スル稅率百分ノ三十ハ之ヲ百分ノ二十五トス

法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付前二項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ利得金額中年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス

第十二條ノ二 個人ノ臨時利得稅ノ稅率ハ利得金額百分ノ十三トス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ利得金額中千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル臨時利得稅ヲ免除ス但シ第九條ノ二第三項ノ規定ニ依リ控除ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條ノ二 納稅義務アル個人ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ每年四月中ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十四條 法人ノ利得金額ハ第十三條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ利得金額ハ朝鮮所得稅令ノ所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後個人ノ利得金額ノ

決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年ヨリ三年間ハ仍所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後個人ノ利得ニ付納稅義務アルコトヲ申出デ又ハ利得金額ノ增加アルコトヲ申出デタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定ス

第十四條ノ二　朝鮮所得稅令第四十三條及第四十四條ノ規定ハ個人ノ利得金額ノ決定ニ付之ヲ準用ス

第十五條中「前條」ヲ「前二條」ニ改ム

第十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

朝鮮所得稅令第五十二條第二項及第五十三條第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十七條ノ二　利得ニ付納稅義務アル個人ハ利得金額ニ減損アルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ政府ニ利得金額ノ更訂ヲ請求スルコトヲ得但シ利益二分ノ一以上減損セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

利得金額決定後營業繼續ニ因リ利得金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第十七條ノ三　前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ利益ヲ査覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ朝鮮所得稅令第四十三條及第四十四條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ更訂ス

第十八條　法人ノ利得ニ付テハ事業年度毎ニ臨時利得稅ヲ徵收ス

個人ノ利得ニ付テハ臨時利得稅ノ年額ヲ三分シ左ノ三期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ朝鮮外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第三期　翌年二月一日ヨリ末日限

第十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ個人ノ利得ニ付臨時利得稅ヲ通說シタル者ノ利得金額ハ朝鮮所得稅令ノ所得調査委員會ニ諮問セズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第二十二條中「朝鮮所得稅令」ノ下ニ「第二十二條第二項、」ヲ、「第四十九條、」ノ下ニ「第六十條、」ヲ加ヘ「第六十四條」ヲ「第六十五條」ニ改ム

附則第三項ヲ左ノ如ク改ム

本令ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リ、個人ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年分限リトス

附　則

第一條　本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス

第三條　朝鮮臨時租稅增徵令第七條ノ規定ハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル法人ノ各事業年度分ノ臨時利得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條　朝鮮北支事件特別稅令第八條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ法人ノ甲種利得ニ對スル稅率ヲ利得金額ノ百分ノ十五トシ算出シタル臨時利得稅額ヲ以テ同條ニ規定スル臨時利得稅額トス

第五條　昭和十三年八月十一日迄ニ終了スル法人ノ各事業年度分ノ利得ニ對スル臨時利得特別稅額ハ當該利得ニ付第十二條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ之ヲ控除ス

（參照）

昭和十年四月二日勅令第五號朝鮮臨時利得稅令抄

第一條　朝鮮ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人（本令ニ依リ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條　前條ノ規定ニ該當セザル法人朝鮮ニ資產又ハ營業ヲ有スルトキハ其ノ利得ニ付テノミ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條　臨時利得稅ハ法人ノ利得ニ付之ヲ賦課ス

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ既往事業年度ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ法人ノ利得金額計算ノ場合ニ於テ左記各號ニ該當スルトキハ各其ノ定ムル所ニ依リ既往事業年度ノ平均利益ヲ計算ス

一　何レノ既往事業年度ニ於テモ利益ナキトキ又ハ既往事業年度ノ平均利益ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七未滿ナルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次ノ事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタルトキハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル平均利益トス

前項利得金額計算ノ場合ニ於テ左記各號ニ該當スルトキハ各其ノ定ムル所ニ依リ既往事業年度ノ平均利益ヲ計算ス

一　何レノ既往事業年度ニ於テモ利益ナキトキ又ハ既往事業年度ノ平均利益ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七未滿ナルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次ノ事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタルトキハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

三　現事業年度ノ資本金額ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ增減アルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對スル平均利益ノ割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ノ適用ニ付テハ現事業年度ノ期間ガ既往事業年度ノ期間ト異ナルトキハ現事業年度ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益ヲ計算ス

本令ニ於テ現事業年度ト稱スルハ昭和十年一月一日以後ニ於テ終了スル各事業年度ヲ謂ヒ既往事業年度ト稱スルハ昭和六年十二月二十一日以前ニ年ヲ以テ定メタル事業年度ヲ謂フ

第五條　臨時利得稅ハ法人ノ利得ニ付之ヲ賦課ス

第六條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ既往事業年度ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ法人ノ利得金額計算ノ場合ニ於テ左記各號ニ該當スルトキハ各其ノ定ムル所ニ依リ既往事業年度ノ平均利益ヲ計算ス

一　何レノ既往事業年度ニ於テモ利益ナキトキ又ハ既往事業年度ノ平均利益ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七未滿ナルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次ノ事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタルトキハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

三　現事業年度ノ資本金額ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ增減アルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對スル平均利益ノ割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ノ適用ニ付テハ現事業年度ノ期間ガ既往事業年度ノ期間ト異ナルトキハ現事業年度ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益ヲ計算ス

本令ニ於テ現事業年度ト稱スルハ昭和十年一月一日以後ニ於テ終了スル各事業年度ヲ謂ヒ既往事業年度ト稱スルハ昭和六年十二月二十一日以前ニ年ヲ以テ定メタル事業年度ヲ謂フ

第七條　法人合併ヲ爲シタル場合ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併ニ因リテ存續シタル法人ノ既往事業年度ノ平均資本金額及平均利益ハ各其ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十二條　臨時利得稅ノ稅率ハ利得金額百分ノ十ス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ利得金額中千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル臨時利得稅ヲ減除ス

第十三條　納稅義務アル法人ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十四條　利得金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十五條　前條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十七條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ朝鮮所得稅令ノ所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十八條　臨時利得稅ハ法人ノ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十九條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ臨時利得稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第二十二條　朝鮮所得稅令第四十八條、第四十九條、第六十二條乃至第六十四條及第六十九條ノ規定ハ臨時利得稅ニ付之ヲ準用ス

附則第三項

本令ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ昭和十三年十二月三十一日ヲ含ム事業年度分限リトス

朝鮮臨時利得稅令施行規則中改正

（昭和十三年三月三十一日朝鮮總督府令第五十九號）

第二條　法人ノ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均利益ハ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ以テ其ノ各事業年度ノ總數ヲ除シテ之ヲ計算ス

第三條　朝鮮臨時利得稅令第四條ノ二第一號ノ年百分ノ七又ハ年百分ノ十ノ割合ノ

金額ハ現事業年度ノ月數ヲ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ七又ハ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ暦ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ朝鮮臨時利得稅令第四條ノ二第二號ノ年百分ノ七又ハ年百分ノ十ノ割合ノ金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四條中「第四條第二項第四號」ヲ「第四條ノ二第四號」ニ、「既往事業年度」ヲ「既往ノ各事業年度」ニ改ム

第四條ノ二　朝鮮臨時利得稅令第四條ノ三ノ規定ニ依リ法人ノ甲種利得ヨリ控除スベキ部分ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅額ヲ其ノ稅額ノ算出ニ當リ適用セラレタル稅率ヲ以テ除シタル金額ニ依ル

第五條第一項中「第四條第四項」ヲ「第四條ノ四」ニ改ム

第八條中「既往事業年度」ヲ「甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度」ニ改ム

第八條ノ二　朝鮮臨時利得稅令第九條ノ三第一項又ハ第十七條ノ四第二項ノ規定ニ依リ總收入金額又ハ收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ仕入品原料品ノ原價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第八條ノ三　個人ノ利得金額計算ノ場合ニ於テ營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アルトキハ納稅義務者ノ申告ニ依リ前營業者ノ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ其ノ昭和十一年以前三年ノ平均利益ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ前營業者ガ法人ナルトキハ法人ノ營業ニ付朝鮮臨時利得稅令第九條ノ三第一項ノ規定ヲ準用シテ其ノ利益ヲ計算ス

第八條ノ四　個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於テハ臨時利得稅ヲ課スベキ年ノ營業ノ期間ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ昭和十一年以前三年ニ屬スル各年ノ利益ヲ算出シテ平均利益ヲ計算ス

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第九條中「第十二條第二項」ヲ「第十二條第三項」ニ改ム

第九條ノ二　朝鮮臨時利得稅令第十二條第三項ノ規定ヲ準用シテ其ノ利益ヲ計算ス

第九條ノ三　法人ノ甲種利得ニ對スル稅額及乙種利得ニ對スル稅額ノ合計額ガ甲種利得又ハ乙種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヨリ年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス

第九條ノ四　個人ノ利得ノ申告、調査又ハ決定ハ各其ノ當時ノ現況ニ依リテ利得ヲ算出シ之ヲ爲スベシ但シ昭和十一年以前三年ノ平均利益ハ各朝鮮所得稅令ニ依ル所得ノ決定當時ノ現況ニ依リ利益ヲ計算シテ之ヲ算出スベシ

第十條ノ二　個人ノ利得ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、利得金額及利得算出ノ基礎ヲ明記シ所轄稅務署ニ申告スベシ此ノ場合ニ於テハ前條但書ノ規定ヲ準用ス

第十條ノ三　第八條ノ三ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ前營業者ノ營業ノ種類、營業場所在地、氏名又ハ名稱及住所又ハ居所竝ニ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ朝鮮臨時利得稅令第十三條ノ二ノ申告ト同時ニ所轄稅務署ニ申告スベシ但シ其ノ年五月一日以後ニ於テ個人ノ利得ニ付スルトキハ其ノ合計稅額ニ付免除額ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ合計稅額ヲ以テ朝鮮臨時利得稅令第十二條第三項ノ算出稅額ト看做シ甲種利得又ハ乙種利得ノ何レカ金額ノ多額ナル一方ヲ以テ其ノ利得金額ト看做ス

前項ノ規定ハ甲種利得ニ對スル稅額及乙種利得ニ對スル稅額ノ合計額ガ甲種利得又ハ乙種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヨリ年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス

第九條ノ四　個人ノ利得ノ申告、調査又ハ決定ハ各其ノ當時ノ現況ニ依リテ利得ヲ算出シ之ヲ爲スベシ但シ昭和十一年以前三年ノ平均利益ハ各朝鮮所得稅令ニ依ル所得ノ決定當時ノ現況ニ依リ利益ヲ計算シテ之ヲ算出スベシ

第十條ノ二　個人ノ利得ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、利得金額及利得算出ノ基礎ヲ明記シ所轄稅務署ニ申告スベシ此ノ場合ニ於テハ前條但書ノ規定ヲ準用ス

第十條ノ三　第八條ノ三ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ前營業者ノ營業ノ種類、營業場所在地、氏名又ハ名稱及住所又ハ居所竝ニ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ朝鮮臨時利得稅令第十三條ノ二ノ申告ト同時ニ所轄稅務署ニ申告スベシ但シ其ノ年五月一日以後ニ於テ個人ノ利得ニ付

納稅義務アルニ至リタルトキハ利得金額ノ決定前其ノ利得金額ノ申告ト同時ニ之ヲ申告スベシ

第十一條中「第十四條」ヲ「第十四條、第十四條ノ二、第十七條ノ四第一項又ハ第十九條第二項」ニ改ム

第十二條中「法人」ヲ「者」ニ改ム

第十三條ノ二　朝鮮臨時利得稅令第十七條ノ二第一項ノ規定ニ依リ利得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲サントスル者ハ利得金額改算ノ基礎ヲ詳記シ稅務署長ニ申出ヅベシ但シ翌年一月三十一日ヲ過ギタルトキハ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條ノ三　朝鮮臨時利得稅令第十七條ノ二第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求ガ手續ニ違背シタルモノナルトキ又ハ稅務署長ニ於テ利益二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

第十三條ノ四　稅務署長朝鮮臨時利得稅令第十七條ノ三ノ規定ニ依リ利得金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十四條中「第六十一條、第七十一條」ヲ「第四十八條乃至第五十條、第五十八條乃至第六十條、第七十一條、第七十二條」ニ改ム

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣臨時利得稅令中改正ノ件

（昭和十三年三月三十一日　律令第二一號）

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項第一號及第二號ノ利得ハ各之ヲ甲種利得及乙種利得ノ二種トス

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ昭和六年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部（甲既往事業年度ト稱ス以下同ジ）ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ終了シタル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス

昭和十三年一月一日以後ニ於テ決算確定シ、合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度ノ利得金額ニ付テハ第十條ノ申告ハ本令施行後三十日內ニスベシ但シ本令施行前第十條ノ規定ニ依リ利得金額ノ申告ヲ爲シタル法人ハ甲種利得ニ對スル申告ヲ爲スヲ省略スルコトヲ得

臺灣臨時利得稅令中改正ノ件

（昭和十三年三月三十一日　律令第二一號）

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項第一號及第二號ノ利得ハ各之ヲ甲種利得及乙種利得ノ二種トス

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ昭和六年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部（甲既往事業年度ト稱ス以下同ジ）ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ終了シタル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス

昭和十二年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部（乙既往事業年度ト稱ス以下同ジ）ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ヲ法人ノ乙種利得トス

第四條ノ二　前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計算スル場合ニ於テハ各其ノ定ムル所ニ依リ平均利益ヲ計算ス

一、甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ガ甲既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ七未滿、乙既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ十未滿ナルトキハ甲既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ七、乙既往事業年度ニ在リテハ平均資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ各其ノ既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割

合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ乙既往事業年度ノ平均利益トス

三　現事業年度ノ資本金額ガ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ增減アルトキハ比較セラレタル既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ現事業年度ノ資本金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均資本金額ト看做ス

四　現事業年度ノ期間ガ甲既往事業年度ニ屬スル各事業年度又ハ乙既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ期間ト異ルトキハ既往ノ各事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ月數ノ既往各事業年度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換算ス

第四條ノ三　法人ノ甲種利得ニシテ臨時利得稅ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スルモノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得ヨリ控除ス

第四條ノ四　法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ノ金額年千圓未滿ナルトキハ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲甲種利得ノ金額ガ年千圓未滿ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條中「既往事業年度」ヲ「甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度」ニ改ム

第九條　個人ノ利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ個人ノ甲種利得トシ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ個人ノ乙種利得トス

第九條ノ二　前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和六年以前三年ノ平均利益ガ三千圓未滿ナルトキハ三千圓、昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ五千圓未滿ナルトキハ五千圓ヲ以テ各其ノ平均利益ト看做ス

第九條ノ三　個人ノ甲種利得ニシテ臨時利得稅ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スルモノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得ヨリ控除ス

第九條ノ四　個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ甲種利得ニ付前二項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ利得金額中年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス

第十四條ノ二　個人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲種利得　利得金額ノ百分ノ十七・二五

乙種利得　利得金額ノ百分ノ三十

現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限リ前項ニ規定スル乙種利得ニ對スル稅率百分ノ三十ハ之ヲ百分ノ二十五トス

法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付前二項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ利得金額中年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス

第十四條ノ二　個人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲種利得　利得金額ノ百分ノ十一・五

乙種利得　利得金額ノ百分ノ二十

前條第三項ノ規定ハ個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ利得金額中千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス但シ第九條ノ四第一項ノ規定ニ依リ控除ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條第三項中「翌年」ヲ「翌年以後」ニ改ム

第二十一條ノ二　個人ノ利得ニ付利得金額決定後翌年利得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際利得額ガ決定利得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ利得金額ノ決定ニ付說明アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際利得額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ基キ之ヲ計算ス

第二十六條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同條第二項中「臨時利得稅法施行地」ノ下ニ「、朝鮮」ヲ加フ

第二十七條中「、臺地方費」ヲ「竝」ニ改ム

附則第二項中「昭和十三年十二月三十一日

ヲ含ム」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル」ニ、「昭和十三年分」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年分」ニ改ム

附　則

第一條　本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十二年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第二十一條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ之ヲ適用ス

第三條　臺灣北支事件特別稅令第八條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ法人ノ甲種利得ニ付テハ昭和十二年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ十五ヲ控除シタル臨時利得稅額ヲ以テ同條ノ稅額トス

第四條　昭和十三年八月十一日迄ニ終了スル法人ノ各事業年度分ノ利得ニ對スル臨時利得特別稅額ハ當該利得ニ付第十四條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ之ヲ控除ス

第五條　臺灣臨時利得稅令第十六條ノ規定中「三月十五日」ヲ「四月十五日」トアルハ昭和十三年ニ限リ四月十五日トス

（參照）

昭和十年三月十律令第四號　臺灣臨時利得稅令

抄

一、法人ノ利得

二　左ニ揭グル營業ニ因ル個人ノ利得

（左記略ス）

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ既往事業年度ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ法人ノ利得金額トス

前項利得金額計算ノ場合ニ於テ左記各號ニ該當スルトキハ各其ノ定ムル所ニ依リ既往事業年度ノ平均利益ヲ計算ス

一　何レノ既往事業年度ニ於テモ利益ナキトキ又ハ既往事業年度ノ平均利益ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七未滿ナルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次ノ事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタルトキハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

三　現事業年度ノ資本金額ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ增減アルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對スル平均利益ノ割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ハ昭和十三年分ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ之ヲ適用ス

四　現事業年度ノ期間ガ既往事業年度ニ屬スル法人ノ各事業年度ニ屬スル各事業年度ノ期間ト異ルトキハ既往ノ各事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ月數ノ既往各事業年度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換算ス

ズ

第七條　法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往事業年度ノ平均資本金額及平均利益ハ當該續會ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第九條　個人ノ利益ガ昭和六年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ個人ノ利得金額トス

個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ前項ノ超過額中二千圓ヲ控除シタル金額ヲ以テ前項ノ利得金額トス

個人ノ利益一萬圓以上ナル者ノ利得金額千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

營業ヲ廢廢シ又ハ營業廢廢ト認ムベキ事實アルトキハ當該續會ノ定ムル所ニ依リ前參業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス

營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ハ營業續會ノ定ムル所ニ依ル利得金額計算ノ場合ニ於テ昭和六年以前二年ノ平均利益ニ千圓未滿ナルトキ又ハ其ノ平均利益ナキトキハ三千圓ヲ以テ平均利益トス

第十一條　個人ノ利益ガ六千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十四條　臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

一　法人ノ利得　利得金額百分ノ十五

二　個人ノ利得　利得金額百分ノ十

前項ノ規定ニ依リ賦出シタル稅額ガ法人ニ在リテハ利得金額中千圓ヲ控除シタル金額、個人ニ在リテハ利得金額中千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル臨時利得稅ヲ免除ス但シ第九條第二項ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條第三項

所得調查委員會又ハ所得會後個人ノ利得金額ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲ス

ベカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

第二十六條　前項所得稅令第十二條、第四十條、第四十一條、第四十九條、第二十三條ノ二ノ二、第四十五條乃至第五十二條ノ二ノ規定ハ臨時利得稅ニ付之ヲ準用ス

臨時利得稅法施行地又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ臨時利得稅ヲ課セズ

第二十七條　州、廳、地方費、市、街、庄其ノ他ノ公共團體ハ臨時利得稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附則第二項

本令ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ昭和十二年十二月三十一日ヲ含ム事業年度分ヨリ個人ニ付テハ昭和十三年分ヨリ之ヲ適用ス

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ昭和六年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ個人ノ利得金額トス

個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ前項ノ超過額中二千圓ヲ控除シタル金額ヲ以テ前項ノ利得金額トス

個人ノ利益一萬圓以上ナル者ノ利得金額千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

營業ヲ廢廢シ又ハ營業廢廢ト認ムベキ事實アルトキハ當該續會ノ定ムル所ニ依リ前參業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス

營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ハ營業續會ノ定ムル所ニ依ル利得金額計算ノ場合ニ於テ昭和六年以前二年ノ平均利益ニ千圓未滿ナルトキ又ハ其ノ平均利益ナキトキハ三千圓ヲ以テ平均利益トス

第十一條　個人ノ利益ガ六千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十四條　臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

一　法人ノ利得　利得金額百分ノ十五

二　個人ノ利得　利得金額百分ノ十

前項ノ規定ニ依リ賦出シタル稅額ガ法人ニ在リテハ利得金額中千圓ヲ控除シタル金額、個人ニ在リテハ利得金額中千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル臨時利得稅ヲ免除ス但シ第九條第二項ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條第三項

所得調查委員會又ハ所得會後個人ノ利得金額ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲ス

臺灣臨時利得稅令施行規則中改正

（昭和十三年四月一日　臺灣總督府令第三十六號）

第二條　法人ノ甲既往事業年度ノ平均利益ハ甲既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ利益ヲ以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

法人ノ乙既往事業年度ノ平均利益ハ乙既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第三條　臺灣臨時利得稅令第四條ノ三ノ規定ニ依リ法人ノ甲種利得ヨリ控除スベキ部分ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅額ヲ其ノ稅額ノ算出ニ當リ適用セラレタル稅率ヲ以テ除シタル金額ニ依ル

第四條　臺灣臨時利得稅令第四條ノ三ノ規定ニ依リ法人ノ甲種利得ヨリ控除スベキ部分ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅額ヲ其ノ稅額ノ算出ニ當リ適用セラレタル稅率ヲ以テ除シタル金額ニ依ル

第五條中「第四條第四項」ヲ「第四條ノ四」ニ改ム

第八條中「既往事業年度」ヲ「甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度」ニ改ム

第八條ノ二　第四條ノ二ノ規定ハ臺灣臨時利得稅令第九條ノ三ノ規定ニ依リ個人ノ甲種利得ヨリ控除スベキ部分ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第九條中「昭和六年以前三年」ノ下ニ「又ハ

昭和十一年以前三年」ヲ加フ

第十條中「昭和六年以前三年」ノ下ニ「ニ屬スル各年又ハ昭和十一年以前三年ニ屬スル各年」ヲ加フ

第十二條中「第十條第一項」ノ下ニ「又ハ第二十一條ノ二ノ二第二項」ヲ、「總收入金額」ノ下ニ「又ハ收入金額」ヲ加フ

第十三條中「第二項」ヲ「第三項」ニ改ム

第十三條ノ二　臺灣臨時利得稅令第十四條第三項ノ利得金額ハ甲種利得ニシテ臺灣臨時利得稅令第四條ノ三ノ規定ノ適用アルモノニ付テハ其ノ適用前ノ金額ニ依ル

第十三條ノ三　法人ノ甲種利得ニ對スル稅額及乙種利得ニ對スル稅額ノ雙方ガ臺灣臨時利得稅令第十四條第三項ノ規定ニ該當スルトキハ其ノ稅額ノ合計額ヲ同項ノ算出稅額ト看做シ甲種利得又ハ乙種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ其ノ利得金額ト看做シテ免除額ヲ計算ス

前項ノ規定ハ甲種利得ニ對スル稅額及乙種利得ニ對スル稅額ノ合計額ガ甲種利得又ハ乙種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヨリ年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十三條ノ四　前二條ノ規定ハ臺灣臨時利得稅令第十四條ノ二第二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

臨時利得稅法中改正ノ件

（昭和十三年四月一日　勅令第二百十八號）

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項第一號及第二號ノ利得ハ各之ヲ甲種利得ノ二種トス

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ昭和六年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ個人ノ利得金額トス

個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ前項ノ超過額中二千圓ヲ控除シタル金額ヲ以テ前項ノ利得金額トス

個人ノ利益一萬圓以上ナル者ノ利得金額千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

營業ヲ廢廢シ又ハ營業廢廢ト認ムベキ事實アルトキハ當該續會ノ定ムル所ニ依リ前參業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス

營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ハ營業續會ノ定ムル所ニ依ル利得金額計算ノ場合ニ於テ昭和六年以前二年ノ平均利益ニ千圓未滿ナルトキ又ハ其ノ平均利益ナキトキハ三千圓ヲ以テ平均利益トス

第十一條　個人ノ利益ガ六千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十四條　臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

一　法人ノ利得　利得金額百分ノ十五

二　個人ノ利得　利得金額百分ノ十

前項ノ規定ニ依リ賦出シタル稅額ガ法人ニ在リテハ利得金額中千圓ヲ控除シタル金額、個人ニ在リテハ利得金額中千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル臨時利得稅ヲ免除ス但シ第九條第二項ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條第三項

所得調查委員會又ハ所得會後個人ノ利得金額ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲ス

第十四條中「昭和六年以前三年」ノ下ニ「又ハ昭和十一年以前三年」ヲ加フ

第十七條中「昭和六年以前三年」ノ下ニ「又ハ昭和十一年以前三年」ヲ加フ

第十八條中「第十八條」ノ下ニ、第二十一條ノ二第一項」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス

昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得金額ノ申告ハ既ニ之ヲ爲シタルト否トヲ問ハズ本令施行ノ日ヨリ決算確定又ハ合併ノ場合ニ在リテハ十四日內ニ、清算著手ノ場合ニ在リテハ二十日內ニ之ヲ爲スベシ

樺太臨時利得稅令中改正ノ件

（昭和十三年四月一日　勅令第二百十八號）

第四條ノ二　前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計算スルニ當リ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ各其ノ定ムル所ニ依リ平均利益ヲ計算ス

一　甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ガ甲既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ七未滿、乙既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ十未滿ナルトキハ甲既往事業年度ニ在リテハ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七、乙既往事業年度ニ在リテハ平均資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ各其ノ既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資

本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ乙既往事業年度ノ平均利益トス

三　現事業年度ノ資本金額ガ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ增減アルトキハ比較セラレタル既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ現事業年度ノ資本金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均資本金額ト看做ス

四　現事業年度ノ期間ガ甲既往事業年度ニ屬スル各事業年度又ハ乙既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ期間ト異ルトキハ既往ノ各事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ月數ノ既往各事業年度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換算ス

第四條ノ三　法人ノ甲種利得ニシテ臨時利得稅ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スルモノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得ヨリ控除ス

第四條ノ四　法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ノ金額年千圓未滿ナルトキハ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲甲種利得ノ金額ガ年千圓未滿ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條中「既往事業年度」ヲ「甲既往事業年度」ニ改ム

第九條　個人ノ利益ガ昭和六年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ個人ノ甲種利得トシ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ個人ノ乙種利得トス

第九條ノ二　前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和六年以前三年ノ平均利益ガ三千圓未滿ナルトキハ三千圓、昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ五千圓未滿ナルトキハ五千圓ヲ以テ各其ノ平均利益トス

第九條ノ三　個人ノ甲種利得ニシテ臨時利得稅ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スルモノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得ヨリ控除ス

第九條ノ四　個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ甲種利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ、一萬五千圓未滿ナルトキハ乙種利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ控除ス

個人ノ利益ガ一萬圓以上ナル場合ニ於テ甲種利得ノ金額千圓未滿ナルトキ又ハ一萬五千圓以上ナル場合ニ於テ乙種利得ノ金額千圓未滿ナルトキハ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲甲種利得ノ金額ガ千圓未滿ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條ノ二　營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アル個人ニ付テハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス

個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ニ付テハ樺太廳長官之ヲ定ム

第十一條　個人ノ利益ガ六千圓未滿ナルトキハ甲種利得ニ對スル、一萬圓未滿ナルトキハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ

第十四條　法人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲種利得

利得金額ノ百分ノ十七・二五

乙種利得

利得金額ノ百分ノ三十

現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限リ前項ニ規定スル乙種利得ニ對スル稅率百分ノ三十ハ之ヲ百分ノ二十五トス

法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付前二項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ利得金額中年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス

第十四條ノ二　個人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲種利得

利得金額ノ百分ノ十一・五

乙種利得

利得金額ノ百分ノ二十

前條第三項ノ規定ハ個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ利得金額中千圓ヲ控除シタル稅額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス但シ第九條ノ四第一項ノ規定ニ依リ控除ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條第二項中「翌年」ヲ「翌年以後」ニ改ム

第二十四條ノ二　個人ノ利得ニ付利得金額決定前ニ於テ營業ヲ廢止シ又ハ死亡シタル者ノ當該營業ノ實際利得額ガ決定利得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ利得金額ノ決定ニ付說明スベキモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際利得額ガ決定後翌年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ基キ之ヲ計算ス

第二十六條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同條第二項中「臨時利得稅法施行地」ノ下ニ「、朝鮮」ヲ加フ

附則第二項中「昭和十三年十二月三十一日」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル」ニ、「昭和十三年分」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年分」ニ改ム

附　則

第一條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第二十四條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

第三條　樺太臨時租稅增徵令第八條ノ規定ハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ各事業年度分ノ臨時利得稅及昭和十三年分以降ノ個人ノ臨時利得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條　樺太北支事件特別稅令第八條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ法人ノ甲種利得ニ對スル稅率ヲ利得金額ノ百分ノ十五トシ算出シタル臨時利得稅額ヲ以テ同條ニ規定スル臨時利得稅額トス

第五條　昭和十三年八月十一日迄ニ終了スル法人ノ各事業年度分ノ利得ニ對スル臨時利得特別稅額ハ當該利得ニ付第十四條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ之ヲ控除ス

第六條　樺太臨時利得稅令第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十三年ニ限リ四月二十日トス

〔參照〕
昭和十年四月十三日公布勅令第八十四號樺太臨時利得稅令抄錄

第三條　臨時利得稅ハ左ノ利得ニ付之ヲ賦課ス

一　法人ノ利得

二　樺太廳長官ノ定ムル營業ニ因ル個人ノ利得

第四條　法人ノ現事業年度ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ法人ノ利得金額トス

前項利得金額計算ノ場合ニ於テ左記各號ニ該當スルトキハ各其ノ定ムル所ニ依リ既往事業年度ノ平均利益ヲ計算ス

一　何レノ既往事業年度ニ於テモ利益ナキトキ又ハ既往事業年度ノ平均利益ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七未滿ナルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次ノ事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタルトキハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

三　現事業年度ノ資本金額ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ增加アルトキハ既往事業年度ノ平均利益ニ對スル平均利益ノ割合ヲ現事業年度ノ平均資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ノ適用ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ヲ既往事業年度ノ平均資本金額ト看做ス

四　現事業年度ノ期間ガ既往事業年度ノ期間ト異ルトキハ現事業年度ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ既往事業年度ノ利益ヲ計算ス

本令ニ於テ現事業年度ト稱スルハ昭和十年一月一日以後ニ於テ終了スル各事業年度ヲ謂ヒ既往事業年度トハ昭和六年十二月三十一日以前ニ在リテ終了シタル各事業年度ヲ謂フ

利得金額年千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

第七條　法人合併ヲ以テシタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往事業年度ノ平均資本金額及平均利益ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第九條　個人ノ利益ガ昭和六年以前二年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ個人ノ利得金額トス

個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ前項ノ超過額中二千圓ヲ控除シタル金額ヲ以テ前項ノ利得金額トス

個人ノ利益一萬圓以上ナル者ノ利得金額千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

營業ヲ開始シ又ハ營業ヲ廢止シ其ノ他營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於テハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ平均利益ヲ算出シタル金額ヲ以テ前項ノ利得金額トス

前項ノ利得金額ノ計算ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依ル

利得金額計算ノ場合ニ於テ昭和六年以前二年ノ平均利益ニ千圓未滿ナルトキ又ハ其ノ平均利益ナキトキハ二千圓ヲ以テ平均利益トス

第十條　臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

一　法人ノ利得　利得金額百分ノ十

二　個人ノ利得　利得金額ノ內前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ法人ニ在リテハ利得金額百分ノ八ニ相當スル金額ヲ超過スル部分ニ付テハ百分ノ十

第十四條　臨時利得稅法ハ法人ニ付テハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

個人ノ利得ニ付テハ昭和十三年分ヨリ之ヲ施行ス

第十五條　樺太廳長官ハ臨時利得稅ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十六條　納稅義務アル個人ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ每年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十七條第二項

所得調查委員會ノ設置ニ關スル勅令ノ施行地又ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ前項ノ申告ニ付調查ヲ爲シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ臨時利得稅ヲ課セズ

第二十條第二項

本令ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ昭和十二年十二月三十一日ヲ含ム事業年度ノ終リ、個人ニ付テハ昭和十三年分ヨリ之ヲ施行ス

樺太臨時利得稅令施行規則中改正

（昭和十三年四月一日　樺太廳令第二十一號）

第二條　法人ノ甲既往事業年度ノ平均利益ハ甲既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ利益ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

法人ノ乙既往事業年度ノ平均利益ハ乙既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ總數ヲ

以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第三條　樺太臨時利得稅令第四條ノ二第一號ノ年百分ノ七又ハ年百分ノ十ノ割合ノ金額ハ現事業年度ノ月數ヲ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ七又ハ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ樺太臨時利得稅令第四條ノ二第二號ノ年百分ノ七又ハ年百分ノ十ノ割合ノ金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四條中「第四條第二項」ヲ「第四條ノ二」ニ、「既往事業年度」ヲ「既往ノ各事業年度」ニ改ム

第四條ノ二　樺太臨時利得稅令第四條ノ三ノ規定ニ依リ法人ノ甲種利得ヨリ控除スベキ部分ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅額ヲ其ノ稅額ノ算出ニ當リ適用セラレタル稅率ヲ以テ除シタル金額ニ依ル

第五條中「第四條第四項」ヲ「第四條ノ四」ニ改ム

第八條中「既往事業年度」ヲ「甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度」ニ改ム

第八條ノ二　第四條ノ二ノ規定ハ樺太臨時利得稅令第九條ノ三ノ規定ニ依リ個人ノ甲種利得ヨリ控除スベキ部分ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十條中「昭和六年以前三年」ノ下ニ「又ハ昭和十一年以前三年」ヲ加フ

第十一條中「昭和六年以前三年」ノ下ニ「又ハ昭和十一年以前三年」ヲ加フ

第十三條中「第十條第一項」ヲ「第十條第一項又ハ第二十四條ノ二第二項」ニ、「總收入金額」ノ下ニ「又ハ牧入金額」ヲ加フ

第十四條中「第二項」ヲ「第三項」ニ改ム

第十四條ノ二　樺太臨時利得稅令第十四條第三項ノ規定ニ依リ法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十四條ノ三　法人ノ甲種利得ニ對スル稅額及乙種利得ニ對スル稅額ノ合計額ガ甲種利得又ハ乙種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヨリ年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十四條ノ四　前二條ノ規定ハ樺太臨時利得稅令第十四條ノ二第二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

甲種利得ヨリ控除スベキ部分ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十條中「昭和六年以前三年」ノ下ニ「又ハ昭和十一年以前三年」ヲ加フ

第十一條中「昭和六年以前三年」ノ下ニ「又ハ昭和十一年以前三年」ヲ加フ

第十三條中「第十條第一項」ヲ「第十條第一項又ハ第二十四條ノ二第二項」ヲ、「總收入金額」ヲ加フ

第十四條中「第二項」ヲ「第三項」ニ改ム

第十四條ノ二　樺太臨時利得稅令第十四條第三項ノ規定ニ依リ法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十四條ノ三　法人ノ甲種利得ニ對スル稅額及乙種利得ニ對スル稅額ノ合計額ガ甲種利得又ハ乙種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヨリ年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十四條ノ四　前二條ノ規定ハ樺太臨時利得稅令第十四條ノ二第二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十五條ノ二　樺太臨時利得稅令第十五條ノ二ノ規定ニ依リ法人ノ甲種利得ヨリ控除スベキ部分ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十五條ノ二　樺太臨時利得稅令第十五條ノ二ノ規定ニ依リ法人ノ甲種利得ヨリ控除スベキ部分ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十六條　納稅義務アル個人ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ每年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十七條第二項

所得調查委員會ノ設置ニ關スル勅令ノ施行地又ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ前項ノ申告ニ付調查ヲ爲シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ臨時利得稅ヲ課セズ

第二十條第二項

本令ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ昭和十二年十二月三十一日ヲ含ム事業年度ノ終リ、個人ニ付テハ昭和十三年分ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第十八條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得金額ノ申告ハ既ニ之ヲ爲シタル否トヲ問ハズ本令施行ノ日ヨリ決算確定又ハ合併ノ場合ニ在リテハ十四日內ニ、清算著手ノ場合ニ在

關東州臨時利得稅令中改正ノ件

（昭和十三年四月一日勅令第二百十二號）

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ利得ハ之ヲ甲種利得及乙種利得ノ二種トス

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ昭和六年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部（甲既往事業年度ト稱ス以下同ジ）ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ法人ノ甲種利得トシ昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部（乙既往事業年度ト稱ス以下同ジ）ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ法人ノ乙種利得トス

第四條ノ二　前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計算スルニ當リ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ各其ノ定ムル所ニ依リ平均利益ヲ計算ス

一　甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ガ甲既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ七未滿、乙既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ十未滿ナルトキハ甲既往事業年度ニ在リテハ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七、乙既往事業年度ニ在リテハ平均資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ各其ノ既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ現事業年度ノ資本金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七、乙既往事業年度ニ在リテハ平均資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ各其ノ既往事業年度ノ平均利益トス

三　現事業年度ノ資本金額ガ甲既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ增減アルトキハ比較セラレタル既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ現事業年度ノ資本金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トス

四　現事業年度ノ期間ガ甲既往事業年度ニ屬スル各事業年度又ハ乙既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ期間ト異ルトキハ既往ノ各事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換算ス

第四條ノ三　法人ノ甲種利得ニシテ臨時利得稅ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スルモノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得ヨリ控除ス

第四條ノ四　法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ノ金額年千圓未滿ナルトキハ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲甲種利得ノ金額ガ年千圓未滿ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條中「既往事業年度」ヲ「甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度」ニ改ム

第十條中「第十三條」ヲ「第十七條」ニ改ム

第十一條　臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲種利得　利得金額ノ百分ノ十一・五

乙種利得　利得金額ノ百分ノ二十

現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限リ前項ニ規定スル乙種利得ニ對スル稅率百分ノ二十ハ之ヲ百分ノ十六トス

法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付前二項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ利得金額中年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス

第十五條中「第二十一條及第二十二條」ヲ「第四十三條乃至第四十五條、第五十五條及第五十六條」ニ改ム

第十六條中「第十五條ノ二」ヲ「第二十三條」ニ改ム

附則第三項中「昭和十三年十二月三十一日ヲ含ム」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

關東州北支事件特別稅令第八條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ甲種利得ニ對スル稅率ヲ百分ノ十トシテ算出シタル金額ヲ以テ同條ニ規定スル臨時利得稅額トス

昭和十年勅令第二十號關東州臨時利得稅令抄錄

（參照）

第三條　臨時利得稅ハ法人ノ利得ニ付之ヲ賦課ス

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ既往事業年度ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ法人ノ利得金額トス

前項ノ利得金額ハ各其ノ定ムル所ニ依リ既往事業年度ノ平均資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ現事業年度ノ資本金額ヲ除シタル割合ヲ現事業年度ノ利益ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ現事業年度ノ平均利益トス

一　何レノ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次ノ事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

三　現事業年度ノ資本金額ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ增減アルトキハ既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ現事業年度ノ資本金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ各既往事業年度ノ平均利益トス

四　現事業年度ノ期間ガ既往事業年度ノ期間ト異ルトキハ現事業年度ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ既往事業年度ノ利益ヲ計算ス

本令ニ於テ現事業年度ト稱スルハ昭和十年一月一日以後ニ於テ終了スル各事業年度ヲ謂ヒ既往事業年度ト稱スルハ昭和六年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル各事業年度ヲ謂フ

利得金額年千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

第七條　法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往事業年度ノ平均資本金額及平均利益ハ大藏ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十條　關東州所得稅令第十三條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セザル法人ニハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十一條　臨時利得稅ハ利得金額百分ノ十ス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ利得金額中年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル臨時利得稅ヲ免除ス

第十五條　關東州所得稅令第二十一條及第二十二條ノ規定ニ依リ算出シタル當該事業年度分ノ臨時利得稅額ヨリ之ヲ控除ス

四　現事業年度ノ期間ガ既往事業年度ノ期間ト異ルトキハ現事業年度ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ既往事業年度ノ利益ヲ計算ス

本令ニ於テ現事業年度ト稱スルハ昭和十年一月一日以後ニ於テ終了スル各事業年度ヲ謂ヒ既往事業年度ト稱スルハ昭和六年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル各事業年度ヲ謂フ

利得金額年千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

第七條　法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往事業年度ノ平均資本金額及平均利益ハ大藏ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十條　關東州所得稅令第十三條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セザル法人ニハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十一條　臨時利得稅ハ利得金額百分ノ十ス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ利得金額中年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル臨時利得稅ヲ免除ス

第十五條　關東州所得稅令第二十一條及第二十二條ノ規定ニ依リ算出シタル當該事業年度分ノ臨時利得稅額ヨリ之ヲ控除ス

一　何レノ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次ノ事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

三　現事業年度ノ資本金額ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ增減アルトキハ既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ現事業年度ノ資本金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ各既往事業年度ノ平均利益トス

四　現事業年度ノ期間ガ既往事業年度ノ期間ト異ルトキハ現事業年度ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ既往事業年度ノ利益ヲ計算ス

本令ニ於テ現事業年度ト稱スルハ昭和十年一月一日以後ニ於テ終了スル各事業年度ヲ謂ヒ既往事業年度ト稱スルハ昭和六年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル各事業年度ヲ謂フ

利得金額年千圓未滿ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

第七條　法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往事業年度ノ平均資本金額及平均利益ハ大藏ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十條　關東州所得稅令第十三條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セザル法人ニハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十一條　臨時利得稅ハ利得金額百分ノ十ス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ利得金額中年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル臨時利得稅ヲ免除ス

第十五條　關東州所得稅令第二十一條及第二十二條ノ規定ニ依リ算出シタル當該事業年度分ノ臨時利得稅額ヨリ之ヲ控除ス

第十六條　關東州所得稅令第十五條ノ二ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除セラルル所得ニ付テハ本令ヲ適用セズ

附則第三項

本令ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ昭和十三年十二月三十一日ヲ含ム事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

昭和十二年八月二十七日公布　勅令第四百五十八號　關東州北支事件特別稅令抄錄

第八條　臨時利得稅ハ法人ノ本令施行後一年內ニ終了スル各事業年度ノ利得ニ付之ヲ賦課シ其ノ利得ニ對スル臨時利得稅額ノ百分ノ十五ニ相當ス

ル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

關東州臨時利得稅令施行規則中改正

（昭和十三年四月一日關東局令第二十七號）

第二條　法人ノ甲既往事業年度ノ平均利益ハ甲既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

法人ノ乙既往事業年度ノ平均利益ハ乙既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第三條　關東州臨時利得稅令（以下稅令ト稱ス）第四條ノ二第一號ノ年百分ノ七又ハ年百分ノ十ノ割合ノ金額ハ現事業年度ノ月數ヲ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ七又ハ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ稅令第四條ノ二第二號ノ年百分ノ七又ハ年百分ノ十ノ割合ノ金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四條中「第四條第二項」ヲ「第四條ノ二」ニ、「既往ノ各事業年度」ヲ「既往事業年度」ニ改ム

第四條ノ二　稅令第四條ノ三ノ規定ニ依リ法人ノ甲種利得ヨリ控除スベキ部分ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅額ヲ其ノ稅額ノ算出ニ當リ適用セラレタル稅率ヲ以テ除シタル金額ニ依ル

第五條中「第四條第四項」ヲ「第四條ノ四」ニ改ム

第八條中「既往事業年度」ヲ「甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度」ニ改ム

第十條中「第二項」ヲ「第三項」ニ改ム

第十條ノ二　稅令第十一條第三項ノ利得金額ハ甲種利得ニシテ稅令第四條ノ三ノ規定ノ適用アルモノニ付テハ其ノ適用前ノ金額ニ依ル

第十條ノ三　法人ノ甲種利得ニ對スル稅額及乙種利得ニ對スル稅額ノ合計額ガ甲種利得ノ稅額ノ二第二號ノ十一條第三項ノ規定ニ該當スルトキハ其ノ稅額ノ合計額ヲ同項ノ算出稅額ト看做シ又ハ乙種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ其ノ利得金額ト看做シテ前項ノ規定ハ甲種利得ニ對スル稅額ノ合計額ヲ算ス

十一條第三項ノ規定ニ該當スルトキハ其ノ稅額ノ合計額ヲ同項ノ算出稅額ト看做シ甲種利得又ハ乙種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ其ノ利得金額ト看做シテ前項ノ規定ハ甲種利得ニ對スル稅額ノ合計額ヲ算ス

免除額ヲ計算ス

前項ノ規定ハ甲種利得ニ對スル稅額及乙種利得ニ對スル稅額ノ合計額ガ甲種利得ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ控除シタル金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年勅令第二百十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本令ヲ適用ス

昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得金額ノ申告ハ關東州臨時利得稅令施行規則第十二條ノ規定ニ拘ラズ本令施行ノ日ヨリ十四日內又ハ二十日內ニ之ヲ爲スベシ

（參照）

昭和十三年四月一日勅令第二百十二號ハ關東州臨時利得稅令中改正ノ件ナリ

登錄稅法中改正法律

（昭和十三年三月三十一日法律第四十六號）

第二條第一項第二號中「千分ノ四十五」ヲ「千分ノ四十」ニ、「千分ノ二十五」ヲ「千分ノ二十三」ニ、同項第三號中「千分ノ三十三」ヲ「千分ノ三十」ニ改ム

第三條ノ二　信託財產タル不動產又ハ船舶ヲ受託者ヨリ受益者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

不動產　不動產價格　千分ノ四十

但シ神社、寺院、嗣宇、佛堂又ハ民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人カ受益者ナルトキハ千分ノ二十

三

船舶　船舶價格　千分ノ三十五

第三條ノ三及第三條ノ四ヲ削リ第三條ノ五ヲ第三條ノ三、第三條ノ六ヲ第三條ノ四、第三條ノ七ヲ第三條ノ五トス

第十九條ノ二　信託ニ因ル財產權取得ノ登記又ハ登錄ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登錄稅ヲ課セス

一　委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財產權取得ノ登記又ハ登錄

二　委託者ノミカ信託財產ノ元本ノ受益者タル信託ニ因リ受託者ヨリ受益者ニ移ス場合ニ於ケル新受託者ノ信託財產ノ取得ノ登記又ハ登錄

三　受託者ノ更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ財產權取得ノ登記又ハ登錄

前項第二號ノ規定ハ委託者ノ相續人ニ信託財產ヲ移ス場合ニ於テハ之ヲ適用セス

此ノ場合ニ於テハ當該相續人ノ財產權取得ノ登記又ハ登錄ヲ以テ相續ニ因ル財產權取得ノ登記又ハ登錄ト看做シ登錄稅ヲ課ス

附　則

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ改正規定ハ信託財產ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル新受託者ノ財產權取得ニ付從前ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ課セラレタルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

（參照）

明治二十九年三月二十八日公布法律第二十七號登錄稅法抄

錄

第二條第一項

不動產ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　相續ニ因ル所有權ノ取得

不動產價格　千分ノ五

二　遺言ニ贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

不動產價格　千分ノ四十五

但シ神社、寺院、嗣宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ無償名義又ハ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ千分ノ二十五

三　前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

不動產價格　千分ノ三十三

第三條ノ二　信託財產タル不動產又ハ船舶ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　委託者カ元本ノ關東州利益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ關東州利益者ナル信託ニシテ信託財產ノ處分ヲ目的トスルモノ

不動產

不動產價格　千分ノ四

船舶　船舶價格　千分ノ三

二　委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ關東州利益者ナル信託ニシテ信託財產ノ處分ヲ目的トスルモノ

不動產

不動產價格　千分ノ四十五

船舶　船舶價格　千分ノ三十五

三　委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ關東州利益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ收益ノ受益者ナル信託

不動產　不動產價格　千分ノ四十五

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ關係權利者ナルトキハ千分ノ二十五

船舶　船舶價格　千分ノ二十五

前項第一號ノ信託ニ付信託ノ登記事項ヲ變更シタル場合第二號又ハ第三號ノ信託ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ變更ノ登記ヲ以テ受託者ノ所有權取得ノ登記ト看做シ前項第二號又ハ第三號ノ規定ヲ適用ス

第三條ノ二　前條第一項各號ニ該當セサル信託（委託者カ取益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ關係權利者ナル信託ニシテ信託財產ノ管理ヲ目的トスルモノ及委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託ニ因リ不動產又ハ船舶ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セス但シ信託ノ登記事項ヲ變更シタル爲前條第一項各號ノ信託ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ變更ノ登記ヲ以テ受託者ノ所有權取得ノ登記ト看做シ前條ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ納ムヘシ

第三條ノ四　委託者カ取益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ關係權利者ナル信託ニシテ信託財產タル不動產又ハ船舶ノ管理ヲ目的トスルモノニ付其ノ元本ヲ受託者ヨリ受益者又ハ關係權利者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

不動產　不動產價格　千分ノ四十五

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ關係權利者ナルトキハ千分ノ二十五

船舶　船舶價格　千分ノ二十五

受託者ヨリ受益者又ハ關係權利者ニ不動產又ハ船舶ヲ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ前項ニ該當スル場合ノ外登錄稅ヲ課セス

第十九條ノ二　信託ニ因ル財產權取得ノ登記又ハ登錄ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登錄稅ヲ課セス

一　委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託ニ因リ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財產權取得ノ登記又ハ登錄

二　受益者又ハ關係權利者ノ變更ニ因リ受益者又ハ關係權利者ノ權利取得ノ登記又ハ登錄

第三條ノ四ニ依ル登錄ノ抹消ノ登記又ハ登錄

三　信託ノ受託者更迭ノ場合ニ於ケル前受託者ヨリ後受託者ヘノ信託財產ノ移轉ノ登記又ハ登錄

權利取得ノ登記又ハ登錄ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

前項第一號ノ規定ハ當該信託ニ關スル權利ニ付第三者ノ爲ニ設定シタル地上權、永小作權、質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記又ハ登錄ニ付テハ之ヲ適用セス

第二十條　第十九條第一項第一號ノ場合ニ於テ受託者ノ變更ニ因リ信託財產ノ全部ヲ受クヘキ信託ニ因リ受託者ヨリ受益者又ハ關係權利者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記又ハ登錄ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

第二十一條　第十九條第一項第二號ノ場合ニ於テ受益者又ハ關係權利者ノ變更ニ因リ受益者又ハ關係權利者ノ權利取得ノ登記又ハ登錄ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

第二十二條　第十九條第一項第三號ノ場合ニ於テ信託財產ノ全部ヲ受クヘキ信託ニ因リ受託者ヨリ受益者又ハ關係權利者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記又ハ登錄ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

第二十三條　第十九條第一項第四號ノ場合ニ於テ受益者又ハ關係權利者ニ不動產又ハ船舶ヲ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ前項ニ該當スル場合ノ外登錄稅ヲ課セス

第十九條ノ二　信託ニ因ル財產權取得ノ登記又ハ登錄ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登錄稅ヲ課セス

一　委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託ニ因リ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財產權取得ノ登記又ハ登錄

二　受益者又ハ關係權利者ノ變更ニ因リ受益者又ハ關係權利者ノ權利取得ノ登記又ハ登錄

第三條ノ四ニ依ル登錄ノ抹消ノ登記又ハ登錄

三　信託ノ受託者更迭ノ場合ニ於ケル前受託者ヨリ後受託者ヘノ信託財產ノ移轉ノ登記又ハ登錄

權利取得ノ登記又ハ登錄ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

前項第一號ノ規定ハ當該信託ニ關スル權利ニ付第三者ノ爲ニ設定シタル地上權、永小作權、質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記又ハ登錄ニ付テハ之ヲ適用セス

登錄稅法施行規則中改正ノ件

（昭和十三年六月八日　勅令第四百三號）

第四條ノ二　第三條ノ五又ハ第三條ノ六ノ二ヲ「第三條ノ四」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

明治三十二年五月十九日公布　勅令第二百五號　登錄稅法施行規則

第四條　同一價權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記又ハ登錄ヲ受ケル場合ニ於テ登記所又ハ登錄官吏ニ於テ受ケル登記又ハ登錄ニ付テハ價額金額ヨリ既ニ登記又ハ登錄ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ價額金額ト看做シテ登錄稅ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ登記又ハ登錄中ニ登錄稅法第三條ノ五又ハ第三條ノ六ニ該當スルモノト其ノ他ノモノトヲ包含スルトキハ先ヲ登錄稅法第三條ノ五又ハ第三條ノ六ニ該當スルモノノ登記又ハ登錄ニ付登錄稅ヲ徵收ス

登錄稅法施行規則中改正ノ件

（昭和十三年七月二十九日　勅令第五百二十八號）

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル登記ニシテ其ノ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登錄稅法第十九條第八號ノ二乃至第九號又ハ第十二號ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ免除ス

一　北海道府縣市町村、產業組合又ハ農事實行組合カ行フ農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

二　北海道府縣市町村、產業組合、農事實行組合又ハ養蠶實行組合ニ對シ農地調

整法第三條、第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲ス者カ其ノ貸付ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

三　北海道府縣市町村、產業組合、農事實行組合又ハ養蠶實行組合カ農地調整法第三條又ハ第四條ノ事業ノ爲ニスル土地ノ權利ノ取得ノ登記

四　北海道府縣市町村、產業組合又ハ農事實行組合カ農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

五　農地調整法第七條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル登記

六　農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、產業組合又ハ農事實行組合ノ土地所有權ノ取得ノ登記

附　則

本令ハ農地調整法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

明治三十二年五月十九日公布　勅令第二百五號　登錄稅法施行規則

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル登記ニシテ其ノ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登錄稅法第十九條第八號ノ二乃至第九號又ハ第十二號ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ免除ス

一　自作農ノ創設維持事業ニ關スル登記ニシテ其ノ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登錄稅ヲ課セス

二　自作農ノ創設維持ノ爲左ニ揭ケル事項ヲ以テ行フ北海道府縣市町村、產業組合又ハ養蠶實行組合ノ設立ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

（イ）設立ノ認可ニ關スル事項

（ロ）購入土地ノ價額及總價額ノ制限

（ハ）自作ヲ農業ニスヘキ年限

（ニ）資金借受人カ（イ）乃至（ニ）ノ事項ニ違反シタルトキノ處分ニ關スル事項

（ホ）設立ノ認可ノ取消ニ關スル事項

三　北海道府縣市町村、產業組合又ハ養蠶實行組合ノ前二號ニ規定スル自作農創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

四　第一號又ハ第二號ニ規定スル自作農創設維持事業ニ依リ資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、產業組合又ハ產業組合聯合會ノ土地所有權ノ取得ノ登記

朝鮮登錄稅令中改正ノ件

（昭和十三年三月二十一日　制令第十一號）

第一條　第一項第二號中「千分ノ四十五」ヲ「千分ノ四十」ニ、「千分ノ二十五」ヲ「千分ノ二十三」ニ、同項第三號中「千分ノ三十三」ヲ「千分ノ三十」ニ改ム

第一條ノ三　信託財產タル不動產又ハ船舶ヲ受託者ヨリ受益者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

不動產　不動產價格　千分ノ四十

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ關係權利者ナルトキハ千分ノ二十

船舶　船舶價格　千分ノ三十五

第七條ノ二第二號ヲ左ノ如ク改ム

二　委託者ノミカ信託財產ノ元本ノ受益者タル信託ニ因リ受託者ヨリ受益者ニ信託財產ヲ移ス場合ニ於ケル財產權取得ノ登記又ハ登錄

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項第二號ノ規定ハ委託者ノ相續人ニ信託財產ヲ移ス場合ニ於テハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ當該相續人ノ財產權取得ノ登記又ハ登錄ヲ以テ相續ニ因ル財產

権取得ノ登記又ハ登録ト看做シ登録税ヲ課ス

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（参照）
明治四十五年三月二日　勅令第十六號　鑛泉登録稅令
枩隆

第一條第一項

不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキ　左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

二　贈與、遺贈其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格　千分ノ四十五

但シ神社、寺院、佛堂又ハ民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人カ無償名義又ハ客附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ千分ノ二十五

三　前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格　千分ノ二十三

第一條ノ三　委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財産タル不動産又ハ船舶ノ管理ヲ目的トスルモノニ付其ノ元本ヲ受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ各號ニ依リ登録稅ヲ納ムヘシ

不動産　不動産價格　千分ノ四十五

但シ神社、寺院、佛堂又ハ民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五

船舶　船舶價格　千分ノ三十五

第七條ノ二　信託ニ因ル財産權取得ノ登記又ハ登録ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登録稅ヲ課セス

二　受益者又ハ歸屬權利者ノ財産權取得ノ登記又ハ登録但シ第一條ノ三ニ該當スル信託ニ付テハ同條ニ依ル

相續稅法中改正法律

（昭和十三年三月三十一日　法律第四十七號）

第一條　相續開始シタル場合ニ於テ被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキ又ハ本法施行地ニ相續財産アルトキハ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條　被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續財産ノ全部ニ對シ相續稅ヲ課ス

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ本法施行地ニ在ル相續財産ニ付テノミ相續稅ヲ課ス

第二條ノ二　財産ノ所在ハ動産、不動産及不動産ノ上ニ存スル權利ニ付テハ當該動産又ハ不動産ノ所在ニ依ル權利ニ付テハ當該動産又ハ不動産ノ所在ニ依ル但シ船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル

前項ニ揭クルモノ以外ノ財産ノ所在ハ濃利者ノ住所地ニ依ル

第三條　被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續稅ヲ課スヘキ相續財産ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ贈與シタル財産ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　公課

二　被相續人ノ葬式費用

三　債務

第三條ノ二　被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相續稅ヲ課スヘキ相續財産ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　其ノ財産ニ係ル公課

二　其ノ財産ヲ目的トスル留置權、特殊ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三　其ノ財産ニ關スル贈與ノ義務

第三條ノ三　被相續人ノ死亡ニ因リ相續人ノ受ケル生命保險ノ保險金ニシテ被相續人カ保險契約者タル保險契約ニ基クモノヲ之ヲ相續財産ト看做ス但シ相續人ノ受取ル保險金ノ合計額中五千圓迄ノ金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

被相續人カ保險契約者ナル場合ニ於テ被相續人以外ノ者ナル場合ニ於テモ被相續人カ現實ニ保險料ノ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テハ被相續人ヲ保險契約者ト看做シ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第三條ノ四　退職手當、功勞金及此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ被相續人ニ支給セラルルトキハ遺贈アリタルモノト看做ス

第三條ノ五　公共團體又ハ慈善其ノ他ノ公益事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ相續稅ノ課稅價格ニ算入セス

第四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

相續財産ノ價額ヘ相續財産ノ價額ニ加算スヘキ贈與ノ價額及ニ相續財産ノ價額中ヨリ控除スヘキ公課及債務金額ハ相續開始當時ノ現況ニ依ル

第五條第二項中「第三條」ヲ「第三條又ハ第三條ノ二ノ規定」ニ改ム

第十條中「相續稅ヲ課セラレタル後」ヲ「相續稅ヲ課セラルヘキ相續開始シタル後」ニ改メ「相續開始シタルトキハ」ノ下ニ「命令ノ定ムル所ニ依リ」ヲ加フ

第十條ノ二　第二條第一項ノ場合ニ於テ外國ニ在ル相續財産ニ付其ノ國ノ法令ニ依リ相續稅ヲ課セラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ財産ノ價額ニ對スル相

續稅ヲ免除ス

第十條ノ三　相續人（相續人二人以上ナルトキハ各相續人）、受遺者及第三條又ハ第三條ノ二ノ規定ニ依リ相續財産ノ價額ニ加算シタル贈與ヲ受ケタル者ハ課稅價格中各自其ノ受ケタル利益ノ價額ノ占ムル割合ニ應シテ相續稅ヲ納付スル義務アルモノトス但シ相續人ハ共同相續人、受遺者及第三條又ハ第三條ノ二ノ規定ニ依リ相續財産ノ價額ニ加算シタル贈與ヲ受ケタル者ノ納付スヘキ相續稅ニ付連帶納付ノ責ニ任ス

第三條又ハ第三條ノ二ノ規定ニ依リ相續財産ノ價額ニ加算シタル贈與ノ價額ニシテ第二十三條ノ規定ニ依リ相續稅ヲ課スヘキモノアルトキハ其ノ相續稅額ハ當該贈與ヲ受ケタル者カ前項ノ規定ニ依リ當該贈與ニ付納付スヘキ相續稅額ヨリ之ヲ控除ス

第十條ノ四　相續人アルコト分明ナラサルトキ又ハ相續人カ相續財産ニ付全ク處分ノ權能ナキトキハ本法中相續人ニ關スル規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外之ヲ相續財産管理人又ハ遺言執行者ニ適用ス

第十一條　相續人ハ相續開始ヲ知リタル日ヨリ三月以內ニ相續稅ヲ課セラルヘキ相續財産ノ目錄竝ニ相續財産ノ價額及相續財産ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ期間ハ遺言執行者又ハ相續財産管理人ニ付テハ就職ノ日ヨリ三月トス

被相續人又ハ相續人カ帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前二項ノ期間ハ六月トス

相續人確定シタルトキハ第一項ノ書類ヲ提出スル同時ニ又ハ其ノ確定ノ日ヨリ一月以內ニ相續人ノ相續關係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出スヘシ

第十一條ノ二　納稅義務者本法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ前條ノ書類ノ提出、納稅義務者他相續稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

第十二條中「戶籍吏」ヲ「市町村長」ニ、「牧稅官吏」ヲ「稅務署長」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ區長ニ、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第十二條ノ二　本法施行地ニ於テ生命保險金（償兵保險ヲ含ム以下同シ）ノ保險金ヲ支拂ヒタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第十二條ノ三　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調查上必要アルトキハ被相續人、納稅義務者若ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢若ハ物品ヲ支拂フ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ又ハ被相續人、納稅義務者若ハ納稅義務アリト認ムル者ヨリ金錢若ハ物品ノ支拂ヲ受クル權利ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價額、支拂期日等ニ付質問スルコトヲ得

第十三條第二項中「相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人」ヲ「納稅義務者」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

本法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第十四條中「相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人」ヲ「納稅義務者」ニ、「再審查」ヲ「審查」ニ、「三箇月」ヲ「三月」ニ改ム

第十六條　前條第一項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴額ヲ爲シ又ハ行政裁判法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十七條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

納稅義務者前項ノ規定ニ依リ年賦延納ヲ求メムトスルトキハ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以內ニ政府ニ申請スヘシ但シ連帶納付ノ責アル納稅義務者ニ在リテハ其ノ一人ヨリ申請スルヲ以テ足ル

納稅義務者帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ三月トス

第十八條中「相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ニ」ヲ「納稅義務者」ニ改ム

第十九條　削除

第二十條　削除

第二十二條中「、遺言執行者又ハ相續財産管理人」ヲ削ル

第二十三條　左ニ揭クル場合ニ於テ贈與ノ價額カ千圓以上ナルトキハ遺産相續開始シタルモノト看做シ其ノ財産ノ價額ヲ課稅價格トシテ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス但シ本法施行地ニ住所ヲ有セサル者ノ爲シタル贈與ニ在リテハ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタルモノニ限ル

一　親族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二　分家ヲ爲ス際ニ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戶主又ハ家族カ分家ノ戶主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

不動産又ハ船舶ノ贈與ニ付登錄稅ヲ納付シタルトキハ受益者カ其ノ元本ヲ受ケタル時但シ數回ニ之ヲ受クルトキハ最初ニ其ノ一部ヲ受ケタル時

前項ノ場合ニ於テ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ委託者又ハ其ノ相續人ヲ受益者ト看做シ受益者特定シ又ハ存在スルニ至リタル時ニ於テ新ニ信託アリタルモノト看做ス

元本又ハ收益ノ受益者カ其ノ元本又ハ收益ノ全部又ハ一部ヲ受クル迄ハ元本又ハ收益ノ利益ヲ受クヘキ權利ハ委託者又ハ其ノ相續人之ヲ有スルモノト看做ス

信託ノ利益ヲ受クル時ノ委託者ト受益者トノ身分關係カ信託ノ時ノ身分關係ト異ルトキハ其ノ身分關係ハ第一項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ信託ノ利益ヲ受クル時迄存續スルモノト看做ス

第二十三條ノ三　生命保險契約ニシテ保險金受取人カ保險契約者以外ノ者ナルトキハ保險事故ノ生シタル時ニ於テ保險契約者カ保險金額ニ相當スル金額ヲ保險金受取人ニ贈與シタルモノト看做ス但シ保險契約者ノ同一ナル保險契約ニ基キ同一事故ニ因リ同一人ノ受取ル保險金ノ合計額カ五千圓ヲ超ユル場合ニ於ケル其ノ超過額ニ相當スル金額ニ限ル

前項ノ規定ハ第三條ノ三ノ規定ニ依リ保險金ヲ相續財産ト看做ス場合ニ付テハ之ヲ適用セス

保險契約者以外ノ者カ現實ニ保險料ノ支拂ヲ爲スモノナルトキハ其ノ者ヲ保險契約者ト看做シ第一項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

前條第四項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條ノ四　郵便年金契約ニシテ年金受取人カ年金契約者以外ノ者ナルトキハ年金支拂ノ事由發生シタル時ニ於テ年金契約者カ當該郵便年金ノ價額ニ相當スル金額ヲ年金受取人ニ贈與シタルモノト看做ス但シ年金契約者ノ同一ナル年金契約ニ基キ同一事由ニ因リ同一人ノ受取ル年金ノ價額ノ合計額カ五千圓ヲ超ユル場合ニ於ケル其ノ超過額ニ相當スル金額ニ限ル

第二十三條ノ二第四項及前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條ノ五　死亡ニ因ル相續開始後一年内ニ於テ相續人カ相續財産ニ付爲シタル贈與ニ付テハ第二十三條ノ規定ヲ適用セス但シ自己ノ直系卑屬ニ贈與ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條ノ二　正當ノ事由ナクシテ第十二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ歩拂調書ヲ提出セス又ハ虚僞ノ記載ヲ爲シタル歩拂調書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル歩拂調書ニ付第十二條ノ二第二項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス

第二十五條中「三圓以上三十圓以下ノ罰金」ニ改ム

第二十七條　被相續人カ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルルトキハ本法施行地ニ在ル相續財産ニハ本法ニ依リ相續稅ヲ課セス

第二十八條　朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラレタル後五年又ハ七年以内ニ於テ更ニ本法施行地ニ於テ相續開始シタル後一年内ニ本法施行地ニ在ル財産ニ付テハ第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條　朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ死亡シタル被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スル者ナルトキハ第十條ノ規定ヲ準用ス

第三十條　朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル相續カ第二十三條ノ規定ニ依リ政府ニ提出シタル贈與ニ付テハ第二十三條ノ五ノ規定ヲ準用ス

附　則

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

永代借地權ハ當分ノ内相續稅ノ課稅價格ニ算入セズ

（參照）

明治二十八年一月一日公布法律第十號相續稅法抄錄

第一條　相續開始シタルトキハ開始地カ帝國内ニ在ルト否トヲ問ハス又被相續人若ハ相續人カ帝國臣民タルト否トヲ問ハス本法施行地ニ在ル相續財産ニハ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條　被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ左ニ掲クル財産ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財産トス

一　本法施行地ニ在ル動産及不動産

二　本法施行地ニ在ル不動産ノ上ニ存スル權利

三　前二號ニ掲ケタルモノ以外ノ財産價額

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ前項第一號及第二號ノ財産ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財産トス

船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル

相續開始前一年内ニ本法施行地内ヨリ本法施行地外ニ轉シタルモノノ住所又ハ船籍ハ本法施行地内ニ在ルモノト看做ス

第三條　被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財産ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在

ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタル其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　公課

二　被相續人ノ葬式費用

三　債務

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財産ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　其ノ財産ニ係ル公課

二　其ノ財産ヲ目的トスル留置權、質權ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三　其ノ財産ニ關スル贈與ノ義務

永代借地權ハ相續稅ノ課稅價格ニ算入セス

公共團體又ハ會社ノ發起ニ際シ其ノ他ノ公益事業ニ對シ爲シタル贈與及遺言ニ依ル贈與ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條第一項

相續財産ノ價額ハ相續開始ノ時ノ價額ニ依ル

第五條第二項

第三條ニ依リ控除スヘキ債務金額ハ政府カ確實ト認メタルモノニ限ル

第十條　相續稅ヲ課セラレタル後五年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續ニ對スル相續稅ニ相當スル相續稅ヲ減ス

相續稅ヲ課セラレタル後七年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續ニ對スル相續稅ノ半額ニ相當スル相續稅ヲ減ス

第十一條　相續人カ相續開始ヲ知リタル日ヨリ滿三月以内ニ相續財産ノ種類、數量及價額ヲ記載シタル歩拂調書ヲ政府ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ歩拂調書ニハ相續人カ相續開始ノ時本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ其ノ者ノ本法施行地ニ於ケル財産ノ管理人ノ氏名及住所ヲ記載スヘシ

相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ第一項ノ歩拂調書ニハ前項ニ掲ケタル事項ノ外相續人ノ本法施行地ニ於ケル財産ノ管理人ノ氏名及住所ヲ記載スヘシ

第十二條　戶籍吏左ノ事項ニ關スル戶籍ノ謄本ヲ政府ノ請求ニ應シ無料ニテ交付スヘシ

一　死亡又ハ失踪

二　戶主又ハ家族ノ國籍喪失

三　戶主カ家族ヲ除籍シ又ハ家族カ新ニ戶籍ニ入リタルコト

四　入夫婚姻ニ因リ女戶主カ戶主ヲ去リタルコト

五　戶主又ハ入夫ノ離緣

第十三條第二項

裁判所ハ前項ノ決定ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十四條　相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ第十條ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ歩拂調書ニ付テハ遺言執行者又ハ相續財産管理人ニ對シ其ノ提出ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ決定ニ對シ異議アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得

第十五條第一項

相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ前項ノ期間内ニ住所ヲ有セサルトキハ其ノ者ノ本法施行地ニ於ケル財産ノ管理人ノ氏名及住所ヲ記載スヘシ

第十六條　裁判所ハ前項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ抗告ヲ爲シ得

第十七條　相續稅ハ一時ニ之ヲ納ムルコトヲ得

第十一條　相續人カ相續開始ヲ知リタル日ヨリ滿三月以内ニ相續財産ノ種類、數量及價額ヲ記載シタル歩拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ但シ稅金ヲ減シ又ハ相續稅ヲ免ルル爲ニスルモノト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相續稅ヲ納ムル義務アル代理人ヲ本法施行地内ニ定メ其ノ住所又ハ居所ヲ政府ニ屆出ツヘシ

相續人カ前項ノ屆出ヲ爲サスシテ死亡シタルトキハ其ノ者ノ本法施行地ニ於ケル財産ノ管理人ハ其ノ者ノ相續稅ニ關シ相續人ノ爲メ本法ニ依リ爲スヘキ一切ノ行爲ヲ爲ス義務アルモノトス

相續人カ第一項ノ屆出ヲ爲サスシテ死亡シタル場合ニ於テ其ノ者ノ本法施行地ニ於ケル財産ノ管理人アルトキハ其ノ者ノ相續稅ニ關シ相續人ノ爲メ本法ニ依リ爲スヘキ一切ノ行爲ヲ爲ス義務アルモノトス

第十七條ノ二　相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ政府ハ之ヲ相續人ニ通知スヘシ

第十八條　相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ政府ハ之ヲ相續人ニ通知スヘシ但シ稅金ヲ減シ又ハ相續稅ヲ免ルル爲ニスルモノト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相續稅ヲ納付又ハ其ノ延納ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ遺産ノ處分ノ爲ニスルコトヲ得ス

第二十條　相續財産ヲ以テ相續稅ヲ完納スルコト能ハサルトキハ相續開始前一年内ニ被相續人ヨリ本法施行地ニ在ル財産ノ贈與ヲ受ケタル者ハ其ノ限度ニ於テ不足額ヲ納付スヘシ但シ相續稅ノ延納ヲ許可シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ政府ハ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ政府ハ其ノ一人ニ對シテ前項ノ催告ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ其ノ期間内ニ連署ヲ以テ相續人ノ中ヨリ一人ヲ定メ政府ニ屆出ツヘシ

第二十三條　政府ハ之ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ニ通知スヘシ

第二十四條　相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ第十條ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ歩拂調書ニ付テハ遺言執行者又ハ相續財産管理人ニ對シ其ノ提出ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ決定ニ對シ異議アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得

第二十五條第一項

相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ前項ノ期間内ニ住所ヲ有セサルトキハ其ノ者ノ本法施行地ニ於ケル財産ノ管理人ノ氏名及住所ヲ記載スヘシ

相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ第一項ノ期間ハ六箇月トス

相續人ノ確定シタルトキハ前二項ノ期間ハ二箇月トス

第二十六條　裁判所ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付政府ノ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ檢査ヲ爲シ又ハ其ノ檢査ヲ政府ニ求ムルコトヲ得

政府ハ前項ノ檢査ヲ求メタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十七條　相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ政府ハ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ政府ハ其ノ一人ニ對シテ前項ノ催告ヲナスコトヲ得

第二十八條　相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ政府ハ其ノ調査ヲ爲スコトヲ得

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ各相續人ハ前項ノ調査ニ關シ連帶シテ義務ヲ負フ

第二十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第三十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第三十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第三十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第三十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第三十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第三十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第三十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第三十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第三十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第三十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第四十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第四十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第四十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第四十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第四十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第四十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第四十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第四十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第四十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第四十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第五十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第五十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第五十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第五十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第五十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第五十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第五十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第五十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第五十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第五十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第六十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第六十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第六十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第六十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第六十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第六十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第六十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第六十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第六十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第六十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第七十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第七十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第七十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第七十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第七十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第七十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第七十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第七十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第七十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第七十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第八十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第八十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第八十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第八十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第八十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第八十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第八十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第八十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第八十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第八十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第九十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第九十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第九十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第九十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第九十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第九十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第九十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第九十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第九十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第九十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百二十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百二十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百二十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百二十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百二十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百二十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百二十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百二十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百二十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百二十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百三十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百三十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百三十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百三十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百三十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百三十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百三十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百三十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百三十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百三十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百四十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百四十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百四十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百四十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百四十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百四十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百四十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百四十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百四十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百四十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百五十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百五十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百五十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百五十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百五十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百五十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百五十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百五十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百五十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百五十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百六十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百六十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百六十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百六十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百六十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百六十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百六十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百六十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百六十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百六十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百七十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百七十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百七十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百七十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百七十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百七十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百七十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百七十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百七十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百七十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百八十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百八十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百八十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百八十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百八十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百八十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百八十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百八十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百八十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百八十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百九十條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百九十一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百九十二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百九十三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百九十四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百九十五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百九十六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百九十七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百九十八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第百九十九條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第二百條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第二百一條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第二百二條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第二百三條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第二百四條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第二百五條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第二百六條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第二百七條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第二百八條　政府ハ第十一條ニ依ル書類ニ記載スヘキ財産ニ付テハ其ノ價額ヲ決定ス

第

ノ戸主又ハ家族カ分家ノ戸主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

前項ノ遺產相續ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ適用セス

第二十二條ノ二　信託ニ付受託者カ他人ニ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セシメタルトキハ其ノ時ニ於テ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ贈與又ハ遺贈シタルモノト看做シ前三條第二十條及前條ノ規定ヲ適用ス但シ不動產又ハ船舶ノ贈與ニハ贈與ノ規定ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テ受益者不特定　ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ委託者ノ親族ニ權利ヲ受益者ト爲シタルモノト看做シ其ノ受託者ヲ相續財產管理人ト看做ス

第二十五條第一項

第二十一條ニ違反シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

相續稅法施行規則中改正ノ件

（昭和十三年四月一日勅令第百九十五號）

第二條中「、遺言執行者又ハ相續財產管理人」ヲ削リ第一項第五號ヲ左ノ如ク改ム

五　被相續人カ相續開始前一年內ニ贈與ヲ爲シタルトキ（被相續人カ相續稅法施行地ニ住所ヲ有セサル場合ニ於テハ相續稅法施行地ニ在ル財產ニ付贈與ヲ爲シタル場合ニ限ル）ハ其ノ

財產ノ價額及受贈者ノ住所氏名

第二條ノ二　相續人アルコト分明ナラサルトキ又ハ相續人カ相續財產ニ付全ク處分ノ權能ナキトキハ本令中相續人ニ關スル規定ハ之ヲ相續財產管理人又ハ遺言執行者ニ適用ス

第二條ノ三　相續稅ヲ課セラルヘキ相續開始シタル後五年又ハ七年以內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ相續開始カ五年以內ナル場合ハ相續稅額中前ノ相續額ニ對スル前ノ相續稅ニ相當スル金額ヲ、七年以內ナル場合ハ其ノ半額ヲ免除ス但シ前ノ相續カ後ノ相續ニ於ケル課稅價格ヲ超ユルトキハ相續開始カ五年以內ナル場合ハ其ノ超過額ニ對スル前ノ相續稅ニ相當スル金額、七年以內ナル場合ハ其ノ半額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル免除ヲ受ケムトスル者ハ相續稅ノ課稅價格決定前其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ外國ノ法令ニ依リ課セラレタル相續稅額及課稅ノ日ヲ記載シ其ノ事實ヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第二條ノ五　相續稅法第二十三條第二項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスル者ハ相續稅ノ課稅價格決定前其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ贈與ノ登記ニ付登錄稅ヲ納付シタル不動產又ハ船舶ノ表示、納付シタル登錄稅額及登記ノ日竝ニ其ノ登記所名ヲ記載スヘシ

第三條中「相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人」ヲ「納稅義務者」ニ改ム

第三條ノ二　相續稅法第十三條第三項ノ公告ハ納稅義務者ノ氏名及課稅價格ヲ官報ニ揭載シテ之ヲ爲スヘシ

第四條及第五條中「再審查」ヲ「審查」ニ改

ム

第六條中「又ハ北海道沖繩縣ノ區」ヲ削ル

第十四條　削除

第十五條中「出願」ヲ「申請」ニ改ム

第二十二條ノ二　相續稅法第十二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ每月支拂ヒタル生命保險（傷痍兵保險ヲ含ム）ノ保險金ニ付翌月十五日限支拂調書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ支拂調書ニハ各保險契約ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　保險ノ種類

二　保險金額

三　保險金受取人ノ住所氏名

四　保險契約者ノ住所氏名

五　被保險者ノ住所氏名

六　保險事故及其ノ生シタル日

第二十二條ノ三　前條ニ規定スル支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ一契約每ニ一錢ノ割合ニ依リ計算シタル金額ヲ交付ス

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ支拂調書提出後三十日以內ニ請求書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二十三條中「、遺言執行者又ハ相續財產管理人ヲ定メ納稅義務者納稅管理人ヲ定メ

第二十四條　納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ當該相續稅ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル相續稅ヲ課セラルヘキ相續人カ前ノ相續開始ノ際ニ於ケル相續財產ノ目錄竝ニ相續財產ノ價額ニ加算セラルヘキ贈與ノ價額及相續財產ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ第二條第一項ノ書類ト共ニ

第二十五條　朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル相續稅ヲ課セラルヘキ相續カ其ノ地ニ於テ開始シタル後五年又ハ七年以內ニ於テ更ニ相續稅法施行地ニ於テ相續開始シタル場合ニ於テ相續稅法施行地ニ於ケル財產ニ付相續稅ヲ課セラルヘキ場合ニ於テハ相續人ハ前ノ相續開始ノ際ニ於ケル相續財產ノ價額ニ加算セラルヘキ贈與ノ價額及相續財產ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ第二條第一項ノ書類ト共ニ相續稅法施行地ニ於テ相續開始シタル後五年又ハ七年以內ニ於テ更ニ相續稅法施行地ニ於テ相續開始シタル場合ニ於テハ相續人ハ前ノ相續開始ノ際ニ於ケル相續財產ノ價額ニ加算セラルヘキ贈與ノ價額及相續財產ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ第二條第一項ノ書類ト共ニ相續稅法施行地ニ於テ相續開始シタル場合ニ於テハ相續人ハ前ノ相續開始ノ際ニ於ケル相續財產ノ價額ニ加算セラルヘキ贈與ノ價額及相續財產ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ第二條第一項ノ書類ト共ニ

附　則

本令ハ昭和十三年法律第四十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

（參照）

明四二・八・二〇勅令第六八號相續稅法

施行規則抄錄

第二條關係（第一項及第二項）

相續開始ノ日ニ於ケル相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ相續稅法第十一條第一項ニ定メタル期間內ニ左ニ掲ケル事項ヲ記載シタル書面ニ相續財產目錄又ハ相續財產ノ價格中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ相續人二人以上ナル場合ニ於テ其ノ一人ヨリ本條ニ依ル書類ヲ提出シタルトキハ他ノ相續人ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス

五　被相續人カ相續開始ノ日前一年內ニ相續稅法施行地ニ在ル財產ニ付贈與ヲ爲シタルトキハ其ノ財產ノ價額及受贈者ノ住所氏名

前項ノ場合ニ於テ相續人確定シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ第一項第六號及第七號ニ掲ケル事項ヲ記載シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第三條　稅務署長ハ相續財產ノ價額ヲ評定シテ課稅價格ヲ決定シタル相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ニ通知スヘシ

相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ前項ノ決定ニ對シ其ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第四條　課稅價格ノ決定ニ對シ異議アル者ハ再審查ヲ求メムトスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ相續稅法第十四條ニ定メタル期間內ニ所轄稅務署長ニ申出ヲヘシ

第五條第一項

稅務署長再審查ノ請求ヲ受ケタルトキハ相續稅審查委員會ノ諮問ヲ經テ課稅價格ヲ決定シ之ヲ裁決申立人ニ通知スヘシ

第六條　各稅務署所轄內ニ相續稅審查委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄內ニ在ル前又ハ北海道沖繩縣ノ區ニ付テハ大藏大臣ハ特ニ審查委員會ヲ置クコトヲ得

第十四條　相續人二人以上ナル場合ニ於テ相續稅納付前相續財產ノ分割ヲ爲スモ相續稅ハ各相續人連帶シテソノ納付スルコトヲ要ス

第十五條　相續稅ノ年賦延納ヲ求メントスル者ハ擔保ノ種類ヲ記シ相續稅延納期間ヲ記シ相續財產ノ內訳ヲ附シ相續稅ノ期間內ニ所轄稅務署ニ出願スヘシ

第二十三條第一項

相續人遺言執行者又ハ相續財產管理人相續稅法第十一條ニ依ル書類ヲ期限內ニ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ期間ヲ定メテ之ヲ催告スヘシ

第二十四條　朝鮮、滿洲又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラレタル後五年又ハ七年以內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ各相續開始ノ際ニ於ケル朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ在ル相續財產ノ目錄及其ノ財產ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ第二條第一項ノ書類ト共ニ提出スヘシ

第二十五條　朝鮮ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラレタル後五年又ハ七年以內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ相續稅法第十條ノ規定ニ依ル外相續開始カ五年以內ナル場合ハ左ノ各號ノ金額ニ相當スル相續稅ニ對スル相續稅ノ金額、七年以內ナル場合ハ其ノ半額ヲ控除ス

一　相續開始カ五年以內ナル場合ハ朝鮮ニ於ケル前ノ相續稅ヨリ朝鮮ニ於ケル後ノ相續稅ヲ控除シタル金額

二　相續開始カ七年以內ナル場合ハ朝鮮ニ於ケル前ノ相續稅ヨリ朝鮮ニ於ケル後ノ相續稅ノ二倍ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額

三　前各號ノ場合ニ於テ朝鮮ニ於ケル後ノ相續稅額ナキトキハ前ノ相續稅額ニ相當スル金額

前項ノ場合ニ於テ滿洲又ハ樺太ニ於ケル法令カ其ノ相續稅ニ付同樣ノ免除ヲ爲ストキハ朝鮮各號ノ金額ニ相續開始ノ日ニ於ケル滿洲又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラレタル後五年又ハ七年以內ニ於テ更ニ相續開始シタル場合ニ付之ヲ準用ス

相續稅法施行規則第二十二條ノ二ノ規定ニ依ル支拂調書ノ書式

（昭和十三年四月一日大藏省令第十七號）

書式（用紙美濃判）

何年何月分生命保險（徵兵保險）支拂調書

何會社代表者　氏　名　㊞

月　日

保險契約ノ種類	保險金額	保險事故及事故ノ生シタル日	保險金受取人 住所	保險金受取人 氏名	保險契約者 住所	保險契約者 氏名	被保險者 住所	被保險者 氏名	備考
養老		年月日死亡							

備考

一　保險契約期間中ニ保險契約者ニ異動アリタルトキハ各契約者ノ住所氏名及異動ノ日ヲ記載スルモノトス

二　所轄稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ本書式ト異ナリタル書式ニ依リ調製スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮相續稅令中改正ノ件

（昭和十三年三月三十一日制令第十號）

第一條　相續開始シタル場合ニ於テ被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有スルトキ又ハ朝鮮ニ相續財產アルトキハ本令ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條　被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有スルトキハ相續財產ノ全部ニ對シ相續稅ヲ課ス

被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有セザルトキハ朝鮮ニ在ル相續財產ニ付テノミ相續稅ヲ課ス

第二條ノ二　財產ノ所在ハ動產、不動產及不動產ノ上ニ存スル權利ニ付テハ當該動產又ハ不動產ノ所在ニ依ル但シ船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル

前項ニ揭グルモノ以外ノ財產ノ所在ハ權利者ノ住所地ニ依ル

第三條　被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有スルトキハ相續稅ヲ課スヘキ相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人ガ爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　公課

二　被相續人ノ葬式費用

三　債務（相續開始前一年內ニ生ジタル贈與ノ義務ヲ除ク）

第三條ノ二　被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有スルトキハ相續稅ヲ課スヘキ相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人ガ爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　公課

二　被相續人ノ葬式費用

三　債務（相續開始前一年內ニ生ジタル贈與ノ義務ヲ除ク）

四　退職手當、功勞金及此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ被相續人ニ支給セラルヘキモノヲ被相續人死亡シタル爲其ノ相續人其ノ他ノ者ニ支給セラルルトキハ之ヲ相續財產ト看做ス但シ給與ノ合計額中五千圓迄ノ金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ給與ガ相續人以外ノ者ニ支給セラルルトキハ遺贈アリタルモノト看做ス

第三條ノ五　國、公共團體又ハ慈善其ノ他ノ公益事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ相續稅ノ課稅價格ニ算入セズ

第四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

相續財產ノ價額、相續財產ノ價額ニ加算スベキ贈與ノ價額竝ニ相續財產ノ價額中ヨリ控除スベキ公課及債務金額ハ相續開始當時ノ現況ニ依ル

第五條第二項中「第三條第一項又ハ第二項」ヲ「第三條又ハ第三條ノ二ニ」ニ改ム

第十條第一項及第二項中「相續開始後」ヲ「相續稅ヲ課セラルベキ相續開始シタル後」ニ改メ「相續開始シタルトキハ」ノ下ニ「朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ」ヲ加ヘ同條第三項ヲ削ル

第十條ノ二　第二條第一項ノ場合ニ於テ外國ニ在ル相續財產ニ付其ノ國ノ法令ニ依リ相續稅ヲ課セラレタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ財產ノ價額ニ對スル相續稅ヲ免除ス

第十條ノ三　相續人（相續人ニ人以上ナルトキハ各相續人）、受遺者及第三條又ハ第三條ノ二ノ規定ニ依リ相續財產ノ價額ニ加算シタル贈與ヲ受ケタル者ハ課稅價格中各自其ノ受ケタル利益ノ價額ノ占ムル割合ニ應ジテ相續稅ヲ納付スル義務アル

モノトス但シ相續人ハ共同相續人、受遺者及第三條又ハ第三條ノ二ノ規定ニ依リ相續財産ノ價額ニ加算シタル贈與ヲ受ケタル者ノ納付スベキ相續稅ニ付連帶納付ノ責ニ任ズ

第三條又ハ第三條ノ二ノ規定ニ依リ相續財産ノ價額ニ加算シタル贈與ノ價額ニシテ第二十條ノ規定ニ依リ相續稅ヲ課スベキモノアルトキハ其ノ相續稅額ハ當該贈與ヲ受ケタル者ガ前項ノ規定ニ依リ當該贈與ニ付納付スベキ相續稅額ヨリ之ヲ控除ス

第十條ノ四　相續人アルコト分明ナラザルトキ又ハ相續人ガ相續財産ニ付全ク處分ノ權能ナキトキハ本令中相續人ニ關スル規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外之ヲ相續財産管理人又ハ遺言執行者ニ適用ス

第十一條　相續人ハ相續開始ヲ知リタル日ヨリ三月內ニ相續稅ヲ課セラルベキ相續財産ノ目錄竝ニ相續財産ノ價額ニ加算セラルベキ贈與ノ價額及相續財産ノ價額中ヨリ控除セラルベキ金額ノ明細書ヲ政府ニ提出スベシ

前項ノ期間ハ遺言執行者又ハ相續財産管理人ニ付テハ就職ノ日ヨリ三月トス

被相續人又ハ相續人ガ外國ニ住所ヲ有スルトキハ前二項ノ期間ハ六月トス相續人確定シタルトキハ第一項ノ書類ヲ提出スルト同時ニ又、其ノ確定ノ日ヨリ一月內ニ相續人ノ相續關係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出スベシ

第十一條ノ二　納稅義務者朝鮮ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ前條ノ書類ノ提出、納稅其ノ他相續稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スベシ朝鮮外ニ住所又ハ居所ヲ移サントスルトキ亦同ジ

第十二條ノ二　朝鮮ニ於テ生命保險（徵兵保險ヲ含ム以下同ジ）ノ保險金ヲ支拂ヒタル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ支拂前項ノ支拂調書ヲ提出スベシ

朝鮮總督ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヘ朝鮮ニ在ル財産ニ限ル

一　親族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二　分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戶主又ハ家族ガ分家ノ戶主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

三　絕家ノ場合ニ於テ親族ニ財産ノ歸屬アリタルトキ

前項ノ贈與又ハ歸屬ニ因ル不動産又ハ船舶ノ所有權ノ取得ニ付登錄稅ヲ納付シタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ登錄稅額ガ相續ニ因ル所有權ノ取得ニ付テノ登錄稅額ヲ超過スル金額ヲ前項ノ相續稅額ヨリ控除ス

第一項ノ規定ニ依リ相續稅ヲ課スル場合ニ於テハ第十條ノ規定ヲ適用セズ

第二十一條　信託ニ因リ委託者ガ他人ニ信託ノ利益ヲ受クベキ權利ヲ有セシメタルトキハ左ニ揭グル時ニ於テ信託ノ利益ヲ受クベキ權利ヲ贈與シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ不動産又ハ船舶ノ信託ニ因ル所有權取得ノ登記ハ前條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ贈與ニ因ル所有權取得ノ登記ト看做ス

一　元本ノ利益ヲ受クベキ權利ヲ有セシメタルトキハ受益者ガ其ノ元本ヲ受ケタル時但シ數回ニ之ヲ受クルトキハ最初ニ其ノ一部ヲ受ケタル時

二　收益ノ利益ヲ受クベキ權利ヲ有セシメタルトキハ受益者ガ其ノ收益ヲ受ケタル時但シ數回ニ之ヲ受クルトキハ最初ニ其ノ一部ヲ受ケタル時

前項ノ場合ニ於テ受益者不特定ナルトキ又ハ未ダ存在セザルトキハ委託者又ハ其ノ相續人ヲ受益者ト看做シ受益者特定シ又ハ存在スルニ至リタルトキニ於テ新ニ信託アリタルモノト看做ス

前項ノ受益者ガ其ノ元本又ハ收益ノ全部又ハ一部ヲ受クル迄ハ元本又ハ收益ノ利益ヲ受クベキ權利ハ委託者又ハ其ノ相續人之ヲ有スルモノト看做ス

信託ノ利益ヲ受クル時ノ委託者ト受益者トノ身分關係ガ信託ノ時ノ身分關係ト異ルトキハ其ノ身分關係ハ第一項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ信託ノ利益ヲ受クル時ニ於テ信託ノ利益ヲ受クベキ權利ヲ有スルモノト看做ス

第二十一條ノ二　生命保險契約ニシテ保險金受取人ガ保險契約者以外ノ者ナルトキハ保險事故ノ生ジタル時ニ於テ保險契約者ガ保險金額ヲ保險金受取人ニ贈與シタルモノト看做ス但シ保險契約者ノ同一ナル保險契約ニ基キ同一事故ニ因リ同一人ノ受取ル保險金ノ合計額ガ五千圓ヲ超ユル場合ニ於ケル其ノ超過額ニ相當スル金額ニ限ル

前項ノ規定ハ第三條ノ三ノ規定ニ依リ保險金ヲ相續財産ト看做ス場合ニ付テハ之ヲ適用セズ

保險契約者以外ノ者ガ現實ニ保險料ノ支拂ヲ爲スモノナルトキハ其ノ者ヲ保險契約者ト看做シ第一項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

前條第四項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條ノ三　郵便年金契約ニシテ年金受取人ガ年金契約者以外ノ者ナルトキハ年金支拂ノ事由發生シタル時ニ於テ年金契約者ガ當該郵便年金ノ價額ニ相當スル金額ヲ年金受取人ニ贈與シタルモノト看做ス但シ年金契約者ノ同一ナル年金契約ニ基キ同一事由ニ因リ同一人ノ受取ル年金ノ價額ノ合計額ガ五千圓ヲ超ユル場合ニ於ケル其ノ超過額ニ相當スル金額ニ限ル

第二十一條第四項及前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條ノ四　生命保險金受取人ガ保險契約者ノ死亡ニ因ル相續開始後一年內ニ於テ相續人ガ相續財産ニ付爲シタル贈與ニ付テハ第二十條ノ規定ヲ適用セズ但シ自己ノ直系卑屬ニ贈與ヲ爲シタル

歸屬ニ係ル財産ノ價額ガ千圓以上ナルトキハ遺産相續又ハ戶主相續ヲ伴ハザル財産相續開始シタルモノト看做シ其ノ財産ノ價額ヲ課稅價格トシテ本令ニ依リ相續稅ヲ課ス但シ朝鮮ニ住所ヲ有セザル者ノ爲シタル贈與又ハ其ノ者ノ財産ノ歸屬ニ在リテハ朝鮮ニ在ル財産ニ限ル

トキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條ノ二　正當ノ事由ナクシテ第十二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スベキ支拂調書ヲ提出セズ又ハ虚僞ノ記載ヲ爲シタル支拂調書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書ニ付第十二條ノ二第二項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セズ

第二十二條ノ三　第十二條ノ三又ハ第十二條ノ四ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者、帳簿物件ノ檢査ヲ拒ミ妨ゲ若ハ忌避シタル者又ハ虚僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ提示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條　被相續人ガ相續稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ其ノ地ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルルトキハ朝鮮ニ相續財產アルモ相續稅ヲ課セズ

第二十六條　相續稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルベキ相續ガ其ノ地ニ於テ開始シタル後五年又ハ七年內ニ於テ更ニ朝鮮ニ於テ相續開始シタルトキハ第十條ノ規定ノ準用ス

第二十七條　相續稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者ガ朝鮮ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ニハ第二十條ノ規定ヲ適用セズ

第二十八條　相續稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ於テ死亡ニ因リ相續開始シタル後一年內ニ朝鮮ニ住所ヲ有スル相續人ガ相續財產ニ付爲シタル贈與ニ付テハ第二十一條ノ四ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

（參照）

昭和九年六月二日勅令第百十二號

第一條　相續開始シタルトキハ相續人又ハ相續人ト否トヲ問ハズ被相續人又ハ被相續人ノ配偶者ヲ有スル者タルト否トヲ問ハズ被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有セザルトキハ朝鮮ニ在ル被相續人ノ財產ニ付テハ本令ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條　被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有シ又ハ朝鮮ニ在ル財產ヲ以テ朝鮮ニ在ル動產及不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務ヲ負擔シテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ債務ノ金額ハ左ノ各號ニ揭グル財產ノ區分ニ從ヒ各號ニ定ムル順序ニ依リ其ノ財產ヨリ之ヲ控除ス

一　朝鮮ニ在ル動產及不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

二　朝鮮ニ在ル不動產ノ上ニ存スル權利ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三　其ノ財產ニ關シ相續開始ノ一年前ニ生ジタル贈與ノ義務

四　其ノ他ノ債務（朝鮮外ニ在ル財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務ヲ除ク）

被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有セザルトキハ相續開始ノ際朝鮮ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人ガ朝鮮ニ在ル財產ヲ目的トスル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　公課（朝鮮外ニ在ル財產ニ係ル公課ヲ除ク）

二　被相續人ノ葬式費用

三　相續開始ノ一年前ニ生ジタル贈與ノ義務（朝鮮外ニ在ル財產ニ關スル贈與ノ義務ヲ除ク）

四　其ノ他ノ債務（朝鮮外ニ在ル財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務ヲ除ク）

被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有セザルトキハ相續開始ノ際朝鮮ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人ガ朝鮮ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　其ノ財產ニ係ル公課

二　其ノ財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三　其ノ財產ニ關シ相續開始ノ一年前ニ生ジタル贈與ノ義務

四　其ノ他ノ債務（朝鮮外ニ在ル財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務ヲ除ク）

第三條　被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有スルトキハ相續開始ノ際朝鮮ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人ガ朝鮮ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ（其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　公課（朝鮮外ニ在ル財產ニ係ル公課ヲ除ク）

二　被相續人ノ葬式費用

三　相續開始ノ一年前ニ生ジタル贈與ノ義務（朝鮮外ニ在ル財產ニ關スル贈與ノ義務ヲ除ク）

四　其ノ他ノ債務（朝鮮外ニ在ル財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務ヲ除ク）

被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有セザルトキハ相續開始ノ際朝鮮ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人ガ朝鮮ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　其ノ財產ニ係ル公課

二　其ノ財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三　其ノ財產ニ關シ相續開始ノ一年前ニ生ジタル贈與ノ義務

四　其ノ他ノ債務（朝鮮外ニ在ル財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務ヲ除ク）

第四條　第一條乃至第三條ノ規定ニ依リ控除スベキ債務ノ金額ガ相續財產ノ價額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ對スル相續稅ハ之ヲ還付ス

第五條　第二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ控除スベキ債務ノ金額ハ政府ガ確實ト認メタルモノノ額

第十條　相續開始後五年內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ課稅價格中相續稅シタルモノニ對スル相續稅ニ相當スル相續稅ヲ控除ス

相續開始後七年內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ課稅價格中相續稅シタルモノニ對スル相續稅ノ半額ニ相當スル相續稅ヲ控除ス

相續稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラレタル後五年又ハ七年內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ相續稅ノ全部又ハ一部ヲ控除ス

第十一條　相續人ノ相續開始ヲ知リタル日ヨリ遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ財產目錄及相續財產ノ價額中ヨリ經除セラルベキ金額ノ明細書ヲ政府ニ提出スベシ

相續ガ外國ニ於テ開始シタルトキ又ハ前項ノ書類ヲ提出スベキ者ガ外國ニ住所ヲ有スルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ六月トス

相續人確定シタルトキハ前二項ノ書類ヲ提出スルト同時又ハ其ノ確定ノ日ヨリ一月內ニ相續人ノ相續開始ノ係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出スベシ

第十二條　第二項

課稅價格ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ相續人遺言執行者又ハ相續財產管理人ニ通知スベシ

第十四條　相續人遺言執行者又ハ相續財產管理人前條第一項ノ決定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

相續人遺言執行者又ハ相續財產管理人外國ニ住所ヲ有スルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ二月トス

第十六條　相續稅ハ一時ニ之ヲ納付スベシ但シ稅金ヲ分割ニ國以上ナルトキハ相續稅ニ相當スル擔保ヲ提供シ七年內ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ年賦延納ヲ求メントスル者ハ第十二條ノ二第二項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セズ

第二十二條ノ三　第十二條ノ三又ハ第十二條ノ四ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者、帳簿物件ノ檢査ヲ拒ミ妨ゲ若ハ忌避シタル者又ハ虚僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ提示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條　被相續人ガ相續稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ其ノ地ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルルトキハ朝鮮ニ相續財產アルモ相續稅ヲ課セズ

第二十六條　相續稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルベキ相續ガ其ノ地ニ於テ開始シタル後五年又ハ七年內ニ於テ更ニ朝鮮ニ於テ相續開始シタルトキハ第十條ノ規定ノ準用ス

第二十七條　相續稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者ガ朝鮮ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ニハ第二十條ノ規定ヲ適用セズ

第二十八條　相續稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ於テ死亡ニ因リ相續開始シタル後一年內ニ朝鮮ニ住所ヲ有スル相續人ガ相續財產ニ付爲シタル贈與ニ付テハ第二十一條ノ四ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

（參照）

昭和九年六月二日勅令第百十二號

第一條　相續開始シタルトキハ相續人又ハ相續人ト否トヲ問ハズ被相續人又ハ被相續人ノ配偶者ヲ有スル者タルト否トヲ問ハズ被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有セザルトキハ朝鮮ニ在ル被相續人ノ財產ニ付テハ本令ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條　被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有シ又ハ朝鮮ニ在ル財產ヲ以テ朝鮮ニ在ル動產及不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務ヲ負擔シテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ債務ノ金額ハ左ノ各號ニ揭グル財產ノ區分ニ從ヒ各號ニ定ムル順序ニ依リ其ノ財產ヨリ之ヲ控除ス

一　朝鮮ニ在ル動產及不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

二　朝鮮ニ在ル不動產ノ上ニ存スル權利ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三　其ノ財產ニ關シ相續開始ノ一年前ニ生ジタル贈與ノ義務

四　其ノ他ノ債務（朝鮮外ニ在ル財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務ヲ除ク）

被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有セザルトキハ相續開始ノ際朝鮮ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人ガ朝鮮ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　其ノ財產ニ係ル公課

二　其ノ財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三　其ノ財產ニ關シ相續開始ノ一年前ニ生ジタル贈與ノ義務

四　其ノ他ノ債務（朝鮮外ニ在ル財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務ヲ除ク）

被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有セザルトキハ相續開始ノ際朝鮮ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人ガ朝鮮ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　公課（朝鮮外ニ在ル財產ニ係ル公課ヲ除ク）

二　被相續人ノ葬式費用

三　相續開始ノ一年前ニ生ジタル贈與ノ義務（朝鮮外ニ在ル財產ニ關スル贈與ノ義務ヲ除ク）

四　其ノ他ノ債務（朝鮮外ニ在ル財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務ヲ除ク）

被相續人ガ朝鮮ニ住所ヲ有セザルトキハ相續開始ノ際朝鮮ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人ガ朝鮮ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　其ノ財產ニ係ル公課

二　其ノ財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三　其ノ財產ニ關シ相續開始ノ一年前ニ生ジタル贈與ノ義務

四　其ノ他ノ債務（朝鮮外ニ在ル財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務ヲ除ク）

第三條　朝鮮相續稅令第十條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル相續稅ノ免除ハ相續開始ガ五年內ナル場合ハ前ノ課稅價格中相續シタルモノニ對スル前ノ相續稅ニ相當スル相續稅ノ全額、七年內ナル場合ハ其ノ半額ニ付之ヲ爲ス但シ前ノ課稅價格ヲ超ユルトキハ相續開始ガ五年內ナル場合ハ其ノ超過額ニ對スル前ノ相續稅ニ相當スル金額、七年內ナル場合ハ其ノ半額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テ後ノ相續ガ財產ヲ留保シテ隱居又ハ入夫婚姻ヲ爲シタル者ニ付開始シタルモノナルトキハ前ノ課稅價格中相續シタルモノヨリ其ノ隱居又ハ入夫

婚姻ニ因リ開始シタル家督相續ニ對スル課税價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ前ノ課税價格中相續シタルモノトス

前二項ノ規定ハ朝鮮相續税令第二十六條ノ規定ニ依ル相續税ノ免除ニ付之ヲ準用ス

第三條ノ二　朝鮮相續税令第十條ノ二ノ規定ニ依ル相續税ノ免除ハ外國ニ在ル相續財産ニ付其ノ國ノ法令ニ依リ相續税ヲ課セラレタル財産ノ價額ニ對スル相續税ニ付之ヲ爲ス但シ其ノ免除額ハ外國ニ在ル相續財産ニ付其ノ國ノ法令ニ依リ課セラレタル相續税額ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ相續税ノ免除ヲ受ケントスル者ハ相續税ノ課税價格決定前免除ヲ受クベキ金額及其ノ算出ノ基礎竝ニ外國ノ法令ニ依リ相續税ヲ課セラレタル年月日ヲ記載シタル書面ヲ添附シ其ノ旨所轄税務署長ニ申請スベシ

第四條第一項中「第十一條第一項又ハ第二項」ヲ「第十一條第一項乃至第三項」ニ改メ第五號ヲ左ノ如ク改ム

五　相續財産ノ價額ニ加算セラルベキ贈與財産アルトキハ其ノ財産ノ所在、價額竝ニ受贈者ノ住所及氏名

同條同項第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五ノ二　相續財産中ニ遺贈財産アルトキハ其ノ財産ノ所在、價額竝ニ受遺者ノ住所及氏名

同條第五項ヲ左ノ如ク改ム

朝鮮相續税令第十條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ相續税ノ免除ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ免除額計算ノ基礎ヲ明ニシタル書面ヲ第一項ノ書類ト共ニ提出スベシ

第四條ノ二　納税義務者納税管理人ヲ定メタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキハ其ノ住所又ハ居所及氏名ヲ納税地ノ税務署長ニ申告スベシ

納税管理人ハ納税地ノ税務署所轄内ニ住所又ハ居所ヲ有スル者タルコトヲ要ス

納税管理人其ノ住所若ハ居所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ納税管理人ヨリ其ノ旨所轄税務署長ニ申告スベシ

第四條ノ三　朝鮮相續税令第十二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者生命保險(徴兵保險ヲ含ム)ノ保險金ノ支拂ヲ爲シタルトキハ翌月十五日迄ニ各保險契約別ニ左ノ事項ヲ記載シタル支拂調書ヲ所轄税務署長ニ提出スベシ

一　保險ノ種類
二　保險金額
三　保險金受取人ノ住所及氏名
四　保險契約者ノ住所及氏名
五　被保險者ノ住所及氏名
六　保險事故竝ニ事故ノ生ジタル日

前項ノ支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ記載事項一件一人毎ニ一錢ノ割合ニ依リ計算シタル金額ヲ交付ス

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケントスル者ハ支拂調書提出後三十日内ニ請求書ヲ所轄税務署長ニ提出スベシ

第六條第二項中「相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人」ヲ「納税義務者」ニ改ム

第六條ノ二　朝鮮相續税令第十三條第三項ノ公告ハ納税義務者名及課税價格ヲ朝鮮總督府官報ニ掲載シテ之ヲ爲スベシ

第九條　共同相續人、受遺者又ハ朝鮮相續税令第三條若ハ第三條ノ二ノ規定ニ依リ相續財産ノ價額ニ加算シタル贈與ヲ受ケタル者相續税ヲ滯納シタルトキハ連帶納付ノ責アル相續人ニ通知シテ其ノ税金ヲ納付セシムベシ

第十八條　朝鮮相續税令第二十條第二項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスル者ハ相續税ノ課税價格決定前其ノ旨所轄税務署長ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ登錄税ヲ納付シタル不動産又ハ船舶ノ表示、納付シタル登錄税額、登記年月日及登記所名ヲ記載スベシ

第十九條　税務官吏ガ朝鮮相續税令第十二條ノ三及第十二條ノ四ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ檢査スルトキハ別表樣式ノ檢査章ヲ携帶スベシ

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

但シ本令施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

別表

檢査章樣式　用紙厚質白紙 縦八センチメートル 横五センチメートル

表

第「何」號
檢査章
税務署印

裏

「何」税務署
官氏名

臺灣相續税令中改正ノ件

（昭和十三年三月三十一日 律令第四號）

第一條　相續開始シタル場合ニ於テ被相續人ガ臺灣ニ住所ヲ有スルトキ又ハ臺灣ニ相續財産アルトキハ本令ニ依リ相續税ヲ課ス

第二條　被相續人ガ臺灣ニ住所ヲ有スルトキハ相續財産ノ全部ニ對シ相續税ヲ課ス

被相續人ガ臺灣ニ住所ヲ有セザルトキハ臺灣ニ在ル相續財産ニ付テノミ相續税ヲ課ス

第二條ノ二　財産ノ所在ハ動産、不動産及不動産ノ上ニ存スル權利ニ付テハ當該動産又ハ不動産ノ所在ニ依ル但シ船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル

前項ニ揭グルモノ以外ノ財産ノ所在ハ權利者ノ住所地ニ依ル

第三條　被相續人ガ臺灣ニ住所ヲ有スルトキハ相續税ヲ課スベキ相續財産ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人ガ爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課税價格トス

一　公課
二　被相續人ノ葬式費用
三　債務

第三條ノ二　被相續人ガ臺灣ニ住所ヲ有セザルトキハ相續税ヲ課スベキ相續財産ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人ガ臺灣ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課税價格トス

一　其ノ財産ニ係ル公課
二　其ノ財産ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務
三　其ノ財産ニ關スル贈與ノ義務

第三條ノ三　被相續人ノ死亡ニ因リ相續人ノ受取ル生命保險ノ保險金ニシテ被相續人ガ保險契約者タル保險契約ニ基クモノハ之ヲ相續財産ト看做ス但シ相續人ノ受取ル保險金ノ合計額中五千圓迄ノ金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

保險契約者ガ被相續人以外ノ者ナル場合ト雖モ被相續人ガ現實ニ保險料ノ支拂ヲ爲スモノナルトキハ被相續人ヲ保險契約者ト看做シ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第三條ノ四　退職手當、功勞金及此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ被相續人ニ支給セラルベキモノガ被相續人死亡シタル爲其ノ相續人其ノ他ノ者ニ支給セラルルトキハ之ヲ相續財産ト看做ス但シ給與ノ合計額中五千圓迄ノ金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ給與ガ相續人以外ノ者ニ支給セラルルトキハ遺贈アリタルモノト看做ス

第三條ノ五　國、公共團體又ハ慈善其ノ他ノ公益事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ相續税ノ課税價格ニ算入セズ

第六條第二項中「第三條第一項又ハ第二項」ヲ「第三條又ハ第三條ノ二」ニ改ム

第九條第三項ヲ削ル

第九條ノ二　相續ガ外國ノ法令ニ依リ開始シタル場合ニ於テハ第七條及前條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ遺産相續ト看做ス

第十一條第一項及第二項中「相續開始シタルトキハ」ノ下ニ「臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ」ヲ加ヘ同條第三項ヲ削ル

第十一條ノ二　第二條第一項ノ場合ニ於テ外國ニ在ル相續財産ニ付其ノ國ノ法令ニ依リ相續稅ヲ課セラレタルトキハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ財産ノ價額ニ對スル相續稅ヲ免除ス

第十二條中「相續人、受遺者」ヲ「相續人（相續人ニ人以上アルトキハ各相續人）、受遺者」ニ、「第三條第一項又ハ第二項」ヲ「第三條又ハ第三條ノ二」ニ改ム

第十五條ノ二　臺灣ニ於テ生命保險（徵兵保險ヲ含ム以下同ジ）ノ保險金ヲ支拂ヒタル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スベシ

前項ノ支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ臺灣總督ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第十九條　左ニ揭グル場合ニ於テ贈與ノ價額ガ千圓以上ナルトキハ遺産相續又ハ本島人ノ家族ノ死亡ニ因リ開始スル財産相續開始シタルモノト看做シ其ノ財産ノ價額ヲ課稅價格トシテ本令ニ依ル相續稅ヲ課ス但シ臺灣ニ住所ヲ有セザル者ノ爲シタル贈與ニ在リテハ臺灣ニ在ル財産ニ付爲シタルモノニ限ル

一　親族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二　分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戶主又ハ家族ガ分家ノ戶主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

不動産又ハ船舶ノ贈與ニ付登錄稅ヲ納付シタルトキハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ登錄稅額ガ相續ニ因ル所有權ノ取得ニ付テノ登錄稅額ヲ超過スル金額ヲ前項ノ相續稅額ヨリ控除ス

第一項ノ規定ニ依リ相續稅ヲ課スル場合ニ於テハ第十一條ノ規定ヲ適用セズ

第十九條ノ二　生命保險契約ニシテ保險金受取人ガ保險契約者以外ノ者ナルトキハ其ノ者ヲ保險契約者ト看做シ第一項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

保險事故ノ生ジタル時ノ保險契約者ト保險金受取人トノ身分關係ガ保險契約ノ時ニ於ケル其ノ超過額ヲ保險金受取人ニ贈與シタルモノト看做ス但シ保險契約ニ基キ同一事故ニ因リ同一人ノ受取ル保險金ノ合計額ガ五千圓ヲ超ユル場合ニ於ケル其ノ超過額ニ相當スル金額ニ限ル

前項ノ規定ハ第三條ノ三ノ規定ニ依リ保險金ヲ相續財産ト看做ス場合ニ付テハ之ヲ準用ス

保險契約者以外ノ者ガ現實ニ保險料ノ支拂ヲ爲シモノナルトキハ其ノ者ヲ保險契約者ト看做シ第一項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第二十條　正當ノ事由ナクシテ第十五條ノ二第一項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スベキ支拂調書ヲ提出セズ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル支拂調書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書ニ付第十一條第一項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ保險事故ノ生ジタル時迄存續スルモノト看做ス

第十九條ノ三　郵便年金契約ニシテ年金受取人ガ年金契約者以外ノ者ナルトキハ年金支拂ノ事由發生シタル時ニ於テ年金契約者ガ當該郵便年金ノ價額ニ相當スル金額ヲ年金受取人ニ贈與シタルモノト看做ス但シ年金契約者ノ同一ナル年金契約ニ基キ同一事由ニ因リ同一人ノ受取ル年金ノ價額ノ合計額ガ五千圓ヲ超ユル場合ニ於ケル其ノ超過額ニ相當スル金額ニ限ル

前條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十條中「前條」ヲ「第十九條」ニ改ム

第二十一條中「又ハ納稅義務アリト認ムル者又ハ第十五條ノ二第一項ノ支拂調書ヲ提出スル義務アル者」ニ改ム

第二十三條ノ二　正當ノ事由ナクシテ第十五條ノ二第一項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スベキ支拂調書ヲ提出セズ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル支拂調書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書ニ付第十

五條ノ二第二項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セズ

第二十七條中「廳地方費」ヲ「廳」ニ改ム

第二十八條　被相續人ガ相續稅法施行地、朝鮮又ハ樺太ニ住所ヲ有シ其ノ地ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルルトキハ臺灣ニ相續財産アルモ相續稅ヲ課セズ

第二十九條　相續稅法施行地、朝鮮又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルベキ相續ガ其ノ地ニ於テ開始シタル後五年又ハ七年內ニ於テ更ニ臺灣ニ於テ相續開始シタルトキハ第十一條ノ規定ヲ準用ス

第三十條　相續稅法施行地、朝鮮又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者ガ臺灣ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ニハ第十九條ノ規定ヲ適用セズ

第三十一條　相續稅法施行地、朝鮮又ハ樺太ニ於テ死亡ニ因リ相續開始シタル後一年內ニ臺灣ニ住所ヲ有スル相續人ガ相續財産ニ付爲シタル贈與ニ付テハ第二十條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

但シ本令施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

臺灣相續稅令施行規則中改正

（昭和十三年四月一日　臺灣總督府令第三十八號）

第二條　相續稅ヲ課セラルベキ相續開始シタル後五年又ハ七年內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ相續開始ガ五年內ナル場合ハ相續稅額ニ對スル前ノ相續稅額ヲ免除ス但シ前ノ相續額ガ其ノ地ニ於ケル課稅價格ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル免除ヲ受ケントスル者ハ相續稅ノ課稅價格決定前其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ免除セラルベキ相續稅額及其ノ算出ノ基礎竝ニ外國ノ法令ニ依リ相續稅ヲ課セラレタル日ヲ記載スベシ

第二條ノ三　臺灣相續稅令第十九條第二項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスル者ハ相續稅ノ課稅價格決定前其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ贈與ノ登記ニ付登錄稅ヲ納付シタル不動産又ハ船舶ノ表示、納付シタル登錄稅額及登記ヲ爲シタル日竝ニ其ノ登記所名ヲ記載スベシ

第三條第一項中「相續財産管理人（相續未定地整理規則ニ依ル保管人ヲ含ム以下同ジ）又ハ遺言執行者」ヲ削リ同項第五號ヲ左ノ如ク改ム

五　被相續人ガ相續開始前一年內ニ贈與又ハ遺贈ヲ爲シタルトキ（被相續人ガ臺灣ニ住所ヲ有セザルトキハ臺灣ニ在ル財産ニ付贈與又ハ遺贈ヲ爲シタルトキ）ハ其ノ財産ノ種類、數量及價額竝ニ受贈者又ハ受遺者ノ住所及氏名

同條第三項中「、相續財産管理人又ハ遺言執行者」ヲ削ル

第三條ノ二　相續人アルコト分明ナラザルトキ又ハ相續人ガ相續財産ニ付全ク處分ノ權能ナキトキハ本令中相續人ニ關スル規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外之ヲ相續財産管理人（相續未定地整理規則ニ依ル保管人ヲ含ム）又ハ遺言執行者ニ適用ス

第四條第一項中「第十一條」ノ下ニ「又ハ第二十九條」ヲ加ヘ同條第二項ヲ創ル

第五條第一項中「相續財産管理人、遺言執行者」ヲ削ル

第十四條ノ二　臺灣相續稅令第十五條ノ二第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ毎月中其ノ支拂ヒタル生命保險（徵兵保險ヲ含ム）ノ保險金ニ付翌月十五日限之ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

前項ノ支拂調書ニハ各保險契約ニ付左ノ事項ヲ記載スベシ

一　保險ノ種類
二　保險金額
三　保險金受取人ノ住所及氏名
四　保險契約者ノ住所及氏名
五　被保險者ノ住所及氏名
六　保險事故竝ニ事故ノ生ジタル日

第十四條ノ三　前條ニ規定スル支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ記載事項一件一人毎ニ一錢ノ割合ニ依リ計算シタル金額ヲ交付ス

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケントスル者ハ支拂調書提出後三十日內ニ請求書ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

第十五條第一項中「相續財産管理人又ハ遺言執行者」ヲ削ル

第十七條　納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ當該相續稅ノ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第十八條　相續稅法施行地、朝鮮又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルベキ相續ガ其ノ地ニ於テ開始シタル後五年又ハ七年內ニ於テ更ニ臺灣ニ於テ相續開始シタルトキハ第二條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

樺太相續稅令中改正ノ件

（昭和十三年四月一日勅令第二百十七號）

第一條　相續開始シタル場合ニ於テ被相續人ガ樺太ニ住所ヲ有スルトキハ本令ニ依リ相續稅ヲ課スベキ相續財産ノ所在ハ樺太ニ在ル相續財産ニ付テノミ相續稅ヲ課ス

第二條　被相續人ガ樺太ニ住所ヲ有セザルトキハ樺太ニ在ル相續財産ニ付テノミ相續稅ヲ課ス

第二條ノ二　財産ノ所在ハ、動産、不動産及不動産ノ上ニ存スル權利ニ付テハ當該動産又ハ不動産ノ所在ニ依ル但シ船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル

前項ニ揭グルモノ以外ノ財産ノ所在ハ權利者ノ住所地ニ依ル

第三條　被相續人ガ樺太ニ住所ヲ有スルトキハ相續稅ヲ課スベキ相續財産ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人ガ樺太ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　公課
二　被相續人ノ葬式費用
三　債務

第三條ノ二　被相續人ガ樺太ニ住所ヲ有セザルトキハ相續稅ヲ課スベキ相續財産ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人ガ樺太ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　其ノ財産ニ係ル公課
二　其ノ財産ヲ目的トスル留置權、特別

ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三　其ノ財産ニ關スル贈與ノ義務

第三條ノ三　被相續人ノ死亡ニ因リ相續人ノ受取ル生命保險ノ保險金ニシテ被相續人ガ保險契約者タル保險契約ニ基クモノヘ之ヲ相續財産ト看做ス但シ相續人ノ受取ル保險金ノ合計額中五千圓迄ノ金額ニ付テヘ此ノ限ニ在ラズ

保險契約者ガ被相續人以外ノ者ナル場合ト雖モ被相續人ガ現實ニ保險料ノ支拂ヲ爲スモノナルトキハ被相續人ヲ保險契約者ト看做シ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第三條ノ四　退職手當、功勞金及此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ被相續人ニ支給セラルベキモノガ被相續人死亡シタル爲其ノ相續人其ノ他ノ者ニ支給セラルルトキヘ之ヲ相續財産ト看做ス但シ給與ノ合計額中五千圓迄ノ金額ニ付テヘ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ給與ガ相續人以外ノ者ニ支給セラルルトキハ遺贈アリタルモノト看做ス

第三條ノ五　國、公共團體又ハ慈善其ノ他ノ公益事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ相續稅ノ課稅價格ニ算入セズ

第六條第二項中「第三條第一項又ハ第二項」ヲ「第三條又ハ第三條ノ二」ニ改ム

第十一條第一項及第二項中「相續開始シタル場合ニ於テ」ヲ削リ「樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ」ヲ加ヘ同條第三項中「第二條第一項又ハ第三項」ヲ「第二條」ニ改ム

第十一條ノ二　第二條第一項ノ場合ニ於テ外國ニ在ル相續財産ニ付其ノ國ノ法令ニ依リ相續稅ヲ課セラレタルトキハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ財産ノ價額ニ對スル相續稅ヲ免除ス

第十二條中「相續人、受遺者」ヲ「相續人（相續人ガ二人以上アルトキハ各相續人）、受遺者ト看做シ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得」ニ改ム

第十三條ノ二　樺太ニ於テ生命保險（徵兵保險ヲ含ム以下同ジ）ノ保險金ヲ支拂ヒタル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ提出スベシ

前項ノ支拂調書ニハ各保險契約ニ付左ノ事項ヲ記載スベシ

一　保險ノ種類
二　保險金額
三　保險金受取人ノ住所及氏名
四　保險契約者ノ住所及氏名
五　被保險者ノ住所及氏名
六　保險事故竝ニ事故ノ生ジタル日

第十三條ノ三　前條ニ規定スル支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ記載事項一件一人毎ニ一錢ノ割合ニ依リ計算シタル金額ヲ交付ス

第十四條　左ニ揭グル場合ニ於テ贈與ノ價額ガ千圓以上ナルトキハ遺産相續開始ノ時ニ於ケル其ノ財産ノ價額ヲ課稅價格トシテ本令ニ依リ相續稅ヲ課ス但シ樺太ニ住所ヲ有セザル者ノ爲シタル贈與ニ在リテヘ樺太ニ在ル財産ニ付爲シタルモノニ限ル

一　親族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二　分家ヲ爲ス際ジ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戶主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

不動産又ハ船舶ノ贈與ニ付登錄稅ヲ納付シタルトキハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ登錄稅額ガ相續ニ因ル所有權ノ取得ニ付テノ登錄稅額ヲ超過スル金額ヲ前項ノ相續稅額ヨリ控除ス

第一項ノ規定ニ依リ相續稅ヲ課スル場合ニ於テハ第十一條ノ規定ヲ適用セズ

第二十四條ノ二　生命保險契約ニシテ保險金受取人ガ保險契約者以外ノ者ナルトキハ保險事故ノ生ジタル時ニ於テ保險契約者ガ保險金額ニ相當スル金額ヲ保險金受取人ニ贈與シタルモノト看做ス但シ保險契約者ノ同一ナル保險契約ニ基キ同一事故ニ因リ同一人ノ受取ル保險金ノ合計額ガ五千圓ヲ超ユル場合ニ於ケル其ノ超過額ニ相當スル金額ニ限ル

前項ノ規定ハ第三條ノ三ノ規定ニ依リ保險金ヲ相續財産ト看做ス場合ニ付テハ之ヲ適用セズ

保險契約者以外ノ者ガ現實ニ保險料ノ支

拂ヲ爲スモノナルトキハ其ノ者ヲ保險契約者ト看做シ第一項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

保險事故ノ生ジタル時ノ保險契約者ト保險金受取人トノ身分關係ガ保險契約ノ時ノ身分關係ト異ルトキハ其ノ身分關係ハ第一項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ保險事故ノ生ジタル時迄存續スルモノト看做ス

第二十四條ノ三　郵便年金契約ニシテ年金受取人ガ年金契約者以外ノ者ナルトキハ年金支拂ノ事由發生シタル時ニ於テ年金契約者ガ當該郵便年金ノ價額ニ相當スル金額ヲ年金受取人ニ贈與シタルモノト看做ス但シ年金契約者ノ同一ナル年金契約ニ基キ同一事由ニ因リ同一人ノ受取ル年金ノ價額ノ合計額ガ五千圓ヲ超ユル場合ニ於ケル其ノ超過額ニ相當スル金額ニ限ル

前條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條中「前條」ヲ「第二十四條」ニ改ム

第二十六條中「又ハ納稅義務アリト認ムル者」ヲ「、納稅義務アリト認ムル者又ハ第十六條ノ二第一項ノ支拂調書ヲ提出スル義務アル者」ニ改ム

第二十八條ノ二　被相續人ガ相續稅法施行地、朝鮮又ハ臺灣ニ住所ヲ有シ其ノ地ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルルトキハ樺太ニ相續財産アルモ相續稅ヲ課セズ

第二十八條ノ三　相續稅法施行地、朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルベキ相續ガ其ノ地ニ於テ開始シタル後五年又ハ七年內ニ於テ更ニ樺太ニ於テ相續ガ開始シタルトキハ第十一條ノ規定ヲ準用ス

第二十八條ノ四　相續稅法施行地、朝鮮又ハ臺灣ニ住所ヲ有スル者ガ樺太ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ニハ第二十四條ノ規定ヲ適用セズ

第二十八條ノ五　相續稅法施行地、朝鮮又ハ臺灣ニ於テ死亡ニ因リ相續開始シタル後一年內ニ樺太ニ住所ヲ有スル相續人ガ相續財産ニ付爲シタル贈與ニ付テハ第十五條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

樺太相續稅令施行規則中改正

（昭和十三年四月一日）
（樺太廳令第二十號）

第二條　相續稅ヲ課セラルベキ相續開始後五年又ハ七年內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ相續開始ガ五年內ナル場合ハ相續稅額中前ノ相續額ニ對スル前ノ相續稅ニ相當スル金額ヲ、七年內ナル場合ハ其ノ半額ヲ免除ス但シ前ノ相續額ガ後ノ相續ニ於ケル課稅價格ヲ超ユルトキハ相續開始ガ五年內ナル場合ハ其ノ超過額ニ對スル前ノ相續稅ニ相當スル金額、七年內ナル場合ハ其ノ半額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テ後ノ相續ガ財産ヲ留保シテ隱居又ハ入夫婚姻ヲ爲シタル者ニ付開始シタルモノナルトキハ前ノ相續額ヨリ其ノ隱居又ハ入夫婚姻ニ因リ開始シタル家督相續ニ於ケル課稅價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ前ノ相續額トス

第三條中「、相續財産管理人又ハ遺言執行者」ヲ削リ同條第一項第四號ヲ左ノ如ク改ム

四　被相續人ガ相續開始前一年內ニ贈與ヲ爲シタルトキ（被相續人ガ樺太ニ在ル財産ニ付贈與ヲ爲シタル場合ニ限ル）

ハ其ノ財産ノ種類、數量、價額及受贈者ノ住所氏名

第三條ノ二　相續人アルコト分明ナラザルトキ又ハ相續人ガ相續財産ニ付全ク處分ノ權能ナキトキハ本令中相續人ニ關スル規定ハ之ヲ相續財産管理人又ハ遺言執行者ニ適用ス

第三條ノ三　外國ニ在ル相續財産ニ付其ノ國ノ法令ニ依リ相續稅ヲ課セラレタルトキハ樺太相續稅令第十一條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ財産ノ價額ニ對スル分ノ相續稅ヲ免除ス但シ外國ニ在ル相續財産ノ價額ニ對スル分ノ相續稅額ガ當該財産ニ付其ノ國ノ法令ニ依リ課セラレタル相續稅額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル免除ヲ受ケントスル者ハ相續稅ノ課稅價格決定前其ノ旨ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ外國ノ法令ニ依リ課セラレタル相續稅額及課稅ノ日ヲ記載シ其ノ事實ヲ證スベキ書類ヲ添附スベシ

第三條ノ四　樺太相續稅令第二十四條第二項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスル者ハ相續稅ノ課稅價格決定前其ノ旨ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ財團ノ登記ニ付登錄稅ヲ納付シタル不動産又ハ船舶ノ表示、納付シタル登錄稅額及登記ノ日並ニ其ノ登記所名ヲ記載スベシ

第四條第二項ヲ削ル

第二十二條ノ二　樺太相續稅令第十六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ毎月支拂ヒタル生命保險金ノ保險金（給付金ヲ含ム）ノ保險金ニ付翌月十五日限支拂調書ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

前項ノ支拂調書ニハ各保險契約ニ付左ノ事項ヲ記載スベシ

一　保險ノ種類

二　保險金額

三　保險金受取人ノ住所氏名

四　保險契約者ノ住所氏名

五　被保險者ノ住所氏名

六　保險事故及其ノ生ジタル日

第二十二條ノ三　前條ニ規定スル支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ一契約毎ニ一錢ノ割合ニ依リ計算シタル金額ヲ交付ス

前項ノ交付ヲ受ケントスル者ハ支拂調書提出後三十日內ニ請求書ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

第二十三條中「相續財産管理人又ハ遺言執行者」ヲ削ル

第二十三條ノ二　納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ當該相續稅ノ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第二十三條ノ三　相續稅法施行地、朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルベキ相續ガ其ノ地ニ於テ開始シタル後五年又ハ七年內ニ於テ更ニ樺太ニ於テ相續開始シタルトキハ相續人ハ前ノ相續開始ノ際ニ於ケル相續財産ノ目錄竝ニ相續財産ノ價格ニ加算セラルベキ贈與ノ價額及相續財産ノ價額中ヨリ控除セラルベキ金額ノ明細書ヲ第三條第一項及第四條ノ書類ト共ニ提出スベシ

第二十三條ノ四　第二條ノ規定ハ相續稅法施行地、朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルベキ相續ガ其ノ地ニ於テ開始シタル後五年又ハ七年內ニ於テ更ニ樺太ニ於テ相續開始シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第二十六條ノ二　正當ノ事由ナクシテ樺太相續稅令第十六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スベキ支拂調書ヲ提出セズ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル支拂調書ヲ提出シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書ニ付樺太相續稅令第十六條ノ二第二項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

酒造税法中改正法律

（昭和十三年三月三十一日 法律第四十八號）

第二條ノ二　酒類ノ販賣業（販賣ノ仲介業ヲ含ム）ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ但シ酒類製造者カ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

酒類販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

第二十二條ノ二　第二條ノ二ニ違反シ免許ヲ受ケスシテ酒類ノ販賣業ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條中「酒類ヲ製造スル者」ノ下ニ「又ハ之ヲ販賣スル者」ヲ加フ

第三十三條ノ二　第二十九條又ハ第三十條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ二年以上引續キ酒類ヲ販賣セサル者ニ對シテハ政府ハ酒類販賣業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前條第二項ハ前項ニ依リ免許ヲ取消サレタル者ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年一月一日前ヨリ引續キ酒類ノ販賣業ヲ爲ス者本法施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ販賣業ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

（參照）

明治二十九年八月十八日公布　勅令第二百八十七號　酒造稅法施行規則抄錄

第一條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場ノ位置及製造ス（キ酒類ヲ定メ其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記シタル營許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條　酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場每ニ地所建物ノ詳細ナル圖面竝ニ酒造用器具ノ種類ノ目錄ヲ調製シ事業着手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ但シ酒類移出ノ場合ニ於テ製造場等及容器具ノ種類ニ變更ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ容器具ノ種類ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面ノ變更ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造王ノ場所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

昭和十二年三月三十一日公布　法律第四十八號　酒造稅法中改正ノ件ナリ

（參照）

明治二十九年八月十八日公布　勅令第二百八十七號　酒造稅法施行規則抄錄

第一條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場ノ位置及製造ス（キ酒類ヲ定メ其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記シタル營許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條　酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場每ニ地所建物ノ詳細ナル圖面竝ニ酒造用器具ノ種類ノ目錄ヲ調製シ事業着手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ但シ酒類移出ノ場合ニ於テ製造場等及容器具ノ種類ニ變更ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ容器具ノ種類ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面ノ變更ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造王ノ場所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

昭和十二年三月三十一日公布　法律第四十八號　酒造稅法中改正ノ件ナリ

酒造稅法施行規則中改正ノ件

（昭和十三年四月一日 勅令第百九十六號）

第一條ニ左ノ二項ヲ加フ

酒類ノ販賣業ヲ爲サムトスル者ハ前項ニ準スル免許申請書ヲ販賣場所轄稅務署ニ提出スヘシ

販賣場ヲ有セシテ酒類ノ販賣業ヲ爲サムトスル者ニ付テハ其ノ住所ヲ以テ販賣場ト看做ス

第一條ノ三　酒場、料理店其ノ他酒類ヲ專ラ自己ノ營業場ニ於テ飲料ニ供スルコトヲ業トスル者ハ酒造稅法第二條ノ二ノ免許ヲ受クルコトヲ要セス

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

稅務署長ハ必要アリト認ムルトキハ酒類販賣業ヲ爲ス者ニ對シ第一項ニ準シ圖面及目錄ヲ提出シ又ハ第二項ニ準シ申告ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第四十三條ノ六　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第六條ノ三、第四十二條ノ二及第四十三條ハ酒類ノ販賣業ノ免許、酒類販賣場又ハ酒類販賣業者ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年法律第四十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年法律第四十八號附則第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條第二項ノ規定ニ準シ其ノ旨ヲ稅務署ニ提出スヘシ

酒稅令中改正ノ件

（昭和十三年六月二十一日 制令第二十三號）

第十九條ニ左ノ一號ヲ加フ

四　酒類製造者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納稅ヲ擔保シタルトキ

第二十條中「納稅保證人」ノ下ニ「又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員」ヲ加ヘ同ニ改ム

第四十七條ノ二　朝鮮總督ハ酒造組合ニ對シ微稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ酒造組合ニ對シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

大正五年七月二十五日制令第十八號　酒類製造者ハ其ノ造石高竝ニ酒類ノ販賣ニ關スル帳簿ニ記載スヘキ事項ニ關スル規則

第十九條　左ノ場合ニ於テハ酒類製造者ハ其ノ造石數ノ查定ニ付キ不服アルトキハ稅務監督官廳ニ對シ再查定ヲ請求スルコトヲ得

酒稅令施行規則中改正

（昭和十三年六月二十一日 朝鮮總督府令第百三十號）

第二條ノ二第三項ヲ削ル

第四十六條第一項中「納稅保證人」ノ下ニ「又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合」ヲ加ヘ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

樺太酒造稅規則中改正

（昭和十三年四月二十六日 樺太廳令第二十九號）

第一條ノ二第三項ヲ削ル

第二條ノ二　酒類製造者新ニ連續式蒸餾機ニ依リ燒酎ヲ製造セントスルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條ニ左ノ一號ヲ加フ

三　第三十三條ノ三ノ規定ニ依リ酒造稅免除ノ申請ヲ爲シタルトキ

第三十三條ノ二　揮發油混入ノ用ニ供セラルル酒精ニ對スル酒造稅ハ之ヲ免除ス

第三十三條ノ三　前條ノ規定ニ依リ酒造稅ノ免除ヲ請ハントスル者ハ每酒造年度製造著手前ニ其ノ旨豫メ所轄稅務監督局長ニ申請スベシ

第三十三條ノ四　酒類製造者第三十三條ノ二ノ酒精ヲ製造場外ニ移出セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務監督局長ニ提出シ承認ヲ受クベシ

一　酒精ノ石數及酒精分

二　容器ノ種類及箇數

三　買入指令書又ハ之ニ代ルベキ書類

四　移出先及移出ノ年月日

五　移出者ノ住所及氏名又ハ名稱

第三十三條ノ五　第三十三條ノ二ノ酒精ニシテ製造場外ニ移出後六月內ニ其ノ用途ニ供セラルルコトノ證明ナキモノハ直ニ酒造稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ所轄稅務監督局長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律

（昭和十三年三月三十一日　法律第四十九號）

第五條ノ三　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ販賣業（販賣ノ仲介業ヲ含ムヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ但シ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者カ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一箇所每ニ之ヲ受クヘシ

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ由告スヘシ

第十五條ノ二　第五條ノ三ノ規定ニ違反シ免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ販賣業ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條ノ三　第十九條乃至第二十一條ノ規定ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ二年以上引續キ酒精若ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ販賣セサル者ニ對シテハ政府ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ販賣業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年四月一日前ヨリ引續キ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ販賣業ヲ爲ス者本法施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ販賣業ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

（參照）

明治四十四年三月三十日公布　法律第八號　酒精及酒精含有飲料稅法

第十九條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ營業若ハ帳簿書類ヲ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ忌リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者其ノ製造場ニ入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ忌リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ヲ妨ケタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ依ル

酒精及酒精含有飲料稅法施行規則中改正ノ件

（昭和十三年四月一日　勅令第百九十七號）

第一條ニ左ノ二項ヲ加フ

酒精又ハ酒精含有飲料ノ販賣業ヲ爲サムトスル者ハ前項ニ準スル免許申請書ヲ販賣場所轄稅務署ニ提出スヘシ

販賣場ヲ有セスシテ酒精又ハ酒精含有飲料ノ販賣業ヲ爲サムトスル者ニ付テハ其ノ住所ヲ以テ販賣場ト看做ス

第一條ノ三　酒場、料理店其ノ他酒精又ハ酒精含有飲料ヲ專ラ自己ノ營業場ニ於テ飲料ニ供スルコトヲ業トスル者ハ酒精及酒精含有飲料稅法第五條ノ三ノ免許ヲ受クルコトヲ要セス

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

稅務署長ハ必要アリト認ムルトキハ酒精又ハ酒精含有飲料ノ販賣業ヲ爲ス者ニ對シ第一項ニ準シ圖面及目錄ヲ提出シ又ハ第二項ニ準シ申告ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十七條ノ二　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第七條及第十六條ハ酒精若ハ酒精含有飲料ノ販賣業ノ免許、酒精若ハ酒精含有飲料ノ販賣場又ハ酒精若ハ

酒精含有飲料ノ販賣業者ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年法律第四十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年法律第四十九號附則第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條第二項ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ昭和十三年一月一日前ヨリ引續キ酒精又ハ酒精含有飲料ノ販賣業ヲ爲スコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

（參照）

明治二十四年八月二十勅令第百六十五號酒精及酒精含有飲料稅法施行規則抄錄

第一條　酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面、製造用器具、器械ノ目錄及酒精又ハ酒精含有飲料製造方法書ヲ副ヘ事業着手前所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ製造場ノ變更ノ場合ニ於テ製造場ノ位置、器具、器械ニ變更ナキトキハ其ノ圖面及目錄ヲ提出スルコトヲ要セス

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

昭和十三年三月三十一日公布法律第四十九號ノ酒精及酒精含有飲料稅法中改正ノ件ナリ

麥酒稅法中改正法律

（昭和十三年三月三十一日　法律第五十號）

第二條ノ二　麥酒ノ販賣業（販賣ノ仲介業ヲ含ム）ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ但シ麥酒ヲ製造スル者カ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

麥酒販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

第十一條ノ二　第二條ノ二ニ違反シ免許ヲ受ケスシテ麥酒ノ販賣業ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條ノ三　第十五條乃至第十七條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ二年以上引續キ麥酒ヲ販賣セサル者ニ對シテハ政府ハ麥酒販賣業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前條第二項ハ前項ニ依リ免許ヲ取消サレタル者ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年一月一日前ヨリ引續キ麥酒ノ販賣業ヲ爲ス者本法施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ販賣業ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

（參照）

明治二十四年三月三十日法律第十二號麥酒稅法抄錄

第十五條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者麥酒ノ製造、出入ニ關シ報告ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ銘行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

麥酒稅法施行規則中改正ノ件

（昭和十三年四月一日　勅令第百九十八號）

第一條ニ左ノ二項ヲ加フ

麥酒ノ販賣業ヲ爲サムトスル者ハ前項ニ準スル免許申請書ヲ販賣場所轄稅務署ニ提出スヘシ

販賣場ヲ有セスシテ麥酒ノ販賣業ヲ爲サムトスル者ニ付テハ其ノ住所ヲ以テ販賣場ト看做ス

第一條ノ三　酒場、料理店其ノ他麥酒ヲ專ラ自己ノ營業場ニ於テ飲料ニ供スルコトヲ業トスル者ハ麥酒稅法第二條ノ二ノ免許ヲ受クルコトヲ要セス

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

稅務署長ハ必要アリト認ムルトキハ麥酒販賣業ヲ爲ス者ニ對シ第一項ニ準シ圖面及目錄ヲ提出シ又ハ第二項ニ準シ申告ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十七條ノ二　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第七條及第十六條ハ麥酒ノ販賣業ノ免許、麥酒販賣場又ハ麥酒販賣業者ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年法律第五十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年法律第五十號附則第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條第二項ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ昭和十三年一月一日前ヨリ引續キ麥酒ノ販賣業ヲ爲スコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

（參照）

明治二十四年八月二十四日公布　勅令第百六十八號　麥酒稅法施行規則抄錄

第一條　麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第三條　麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面【製造用具ノ配置ヲ明記スヘシ】及麥酒製造方法書ヲ【圖面ニ】添ヘ命令ノ日錄及麥酒製造方法書ヲ【圖面ニ】添ヘ命令ノ日錄及麥酒製造方法書ヲ【圖面ニ】添ヘ事業着手前ニ所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ變動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ變動ヲ生シタルトキ亦同シ

昭和十三年三月三十日法律第五十號ハ麥酒稅法中改正ノ件ナリ

支那事變特別稅法

（昭和十三年三月三十一日　法律第五十一號）

第一條　當分ノ內本法ニ依リ所得稅、法人資本稅、砂糖消費稅及取引所稅ヲ增徵シ利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ヲ課ス

第二條　所得稅中法人ノ普通所得及清算所得ニ對スル所得稅ニ付テハ臨時租稅增徵法第二條ノ規定ニ拘ラズ所得稅法第二十一條ニ規定スル稅率百分ノ五ヲ百分ノ十二・二五、百分ノ十ヲ百分ノ二十二・五トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

所得稅中法人ノ超過所得ニ對スル所得稅ニ付テハ同法第二十一條ニ規定スル稅率ヲ以テ算出シタル稅額ノ百分ノ十ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

前二項ノ規定ニ依ル普通所得及超過所得ニ對スル所得稅ノ增徵稅額ハ普通所得ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヨリ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅額（所得稅法第二十一條ノ二第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ヲ含マズ）、臨時利得稅額及臨時租稅增徵法第二條ノ規定ニ依ル增徵稅額ノ合計金額ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル金額ヲ控除シタル殘額ヲ增徵ス

第三條　所得稅中同族會社ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ニ付テハ臨時租稅增徵法第四條ノ規定ニ拘ラズ所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヲ增徵ス

同族會社ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ付テハ所得稅中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ所得稅法第二十二條第一項及臨時租稅增徵法第五條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子

利率年四分以下ノモノ　百分ノ二

利率年四分ヲ超ユルモノ　百分ノ二・五

國債以外ノ公債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ　百分ノ六・五

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ　百分ノ七・五

社債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ　百分ノ八

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ　百分ノ九・五

其ノ他　百分ノ八

乙

第五條　所得稅中第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ所得稅額ノ百分ノ二十二・五ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

前項ノ規定ニ依ル增徵稅額ハ第三種所得ノ百分ノ五十五ニ相當スル金額ヨリ第三種ノ所得ニ對スル所得稅額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六條　所得稅法第二十條ノ規定ニ拘ラズ第三種ノ所得千圓以上ナルトキハ所得稅ヲ課ス

前項ノ所得ハ所得稅法第十五條、第十六條及第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル殘額ニ依リ、戶主及其ノ同居家族

ノ所得又ハ戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ヘ其ノ合算總額ニ依ル

前條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ課セラルル所得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條　第三種ノ所得ニ付所得金額決定後翌年所得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際所得額ガ決定所得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ所得金額ノ決定ニ付說明アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際所得額ヘ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第八條　法人資本稅ニ付テハ法人資本稅法第八條第一項ニ規定スル稅率千分ノ一ヲ千分ノ一・二トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

第九條　砂糖消費稅ハ砂糖消費稅法第三條及臨時租稅增徵法第十七條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依ル

一　砂糖

第一種　砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　三圓九十錢

乙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　八圓六十錢

第二種　砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　七圓十錢

第三種　砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖　百斤ニ付　八圓六十錢

第四種　氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ　百斤ニ付　十一圓

二　糖蜜

第一種　氷砂糖ヲ製造スルトキニ生ズル糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エザルモノ　百斤ニ付　三圓九十錢

乙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　一圓二十錢

第二種　砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　七圓十錢

第三種　砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖　百斤ニ付　八圓六十錢

第四種　氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ　百斤ニ付　十一圓

二　糖蜜

第一種　氷砂糖ヲ製造スルトキニ生ズル糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エザルモノ　百斤ニ付　三圓九十錢

乙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　一圓二十錢

三　糖水　百斤ニ付　七圓十錢

第十條　砂糖消費稅ニ付徵收ヲ猶豫シ得ル期間ハ砂糖消費稅法第四條第一項但書ノ規定ニ拘ラズ之ヲ三月內トス

第十一條　取引所稅中第二種有價證券ノ賣買取引ニ對スル取引稅ニ付テハ臨時租稅增徵法第十八條第二號ノ規定ニ拘ラズ取引所稅法第五條ニ規定スル稅率萬分ノ一・五ヲ萬分ノ四、萬分ノ二・五ヲ萬分ノ六トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

第十二條　利益配當稅ハ本法施行地ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ利益ノ配當ヲ受クル者ニハ利益配當稅ヲ課セラレザル者ニハ利益配當稅ヲ課

第十三條　利益配當稅ハ前條ノ法人ヨリ支拂ヲ受クル利益ノ配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十四條　利益配當稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十五條　公債及社債利子稅ハ本法施行地ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子稅ヲ課セズ

第十六條　公債及社債利子稅ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債（外貨債特別稅法第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク）ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十七條　公債及社債利子稅ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十八條　利益配當稅ヲ課セラルル利益配當又ハ公債及社債利子稅ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得稅（第一種所得稅ヲ除ク）又ハ資本利子稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ヲ超ユル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十九條　通行稅ハ汽車、電車、乘合自動車及汽船ノ乘客ニ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

五十粁未滿

一等	六錢
二等	三錢

五十粁以上

一等	十錢
二等	五錢
三等	二錢

百粁以上

一等	三十錢
二等	十五錢
三等	五錢

百五十粁以上

一等	六十錢
二等	三十錢
三等	十錢

回數乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

回數二十回以下ナルトキ

一等	二圓四十錢
二等	一圓二十錢
三等	四十錢

回數五十回以下ナルトキ　前項稅額ノ五倍

回數五十回ヲ超ユルトキ　前項稅額ノ十倍

定期乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

契約期間一月內ナルトキ　第一項稅額ノ五倍

契約期間三月內ナルトキ　第一項稅額ノ十倍
契約期間六月內ナルトキ　第一項稅額ノ二十倍
契約期間六月ヲ超ユルトキ　第一項稅額ノ三十倍
團體乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
人員百人以下ナルトキ　第一項稅額ノ五倍
人員二百人以下ナルトキ　第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ超ユルトキ　第一項稅額ノ二十倍
貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等　貸切運賃ノ百分ノ十
三等　貸切運賃ノ百分ノ五
前項ノ規定ニ依ル稅額ハ第一項稅額ニ乘客定員數ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ
第一項乃至第三項ニ規定スル通行稅ハ十二歲未滿ノ乘客ニ付テハ其ノ半額トス
第二十條　左ノ場合ニ於テハ通行稅ヲ課セズ
一　三等乘客ニシテ其ノ乘車船區間五十粁未滿ナルトキ
二　陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ命令ノ定ムルモノナルトキ
第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ（第十九條第一項及前條第一號ノ乘車船ノ區間ノ粁程ノ計算ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム）
一　往復乘車船又ハ廻遊乘車船ノ契約ヲ爲シタルトキ
二　運賃ガ均一制又ハ區間制ニ依リ定メラレタルトキ
第二十二條　汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ第十九條第一項、第五項及第二十條第一號ノ等級ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
乘客定員數ノ定ナキ車船ニ付貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第十九條第六項ノ乘客定員數ニ付亦同ジ
第二十三條　通行稅ハ汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者（以下運輸業者ト稱ス）運賃領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ
特別ノ事情アル運輸業者ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十四條　汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者及運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ
第二十五條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ
第二十六條　入場稅ハ左ニ揭グル第一種ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス
第一種
一　演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物（相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム）ヲ催ス場所
二　競馬場
三　前二號ニ揭グルモノヲ除クノ外一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ觀覽又ハ遊戲ニ供スル場所ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

第二種
一　舞踏場、麻雀場、撞球場
二　ゴルフ場、スケート場
第二十七條　入場稅ハ入場料ノ百分ノ十トス
本法ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ
前項ノ入場料ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十八條　第一種ノ場所ノ入場料ガ一人一回二十三錢ニ滿タザル場合ニハ入場稅ヲ課セズ
前項ノ規定ハ回數、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ
第二十九條　第一種ノ催物（第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ）若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ入場料又ハ收益ノ總額ヲ慈善事業其ノ他命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツル場合ニ於テハ入場稅ヲ免除ス
第三十條　入場稅ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ常時開設ニ非ザルモノニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外終了後直ニ政府ニ納ムベシ
第三十一條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ
第三十二條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ政府ニ申告スベシ
第三十三條　特別入場稅ハ運動競技ニシテ學生生徒又ハ該競技ヲ爲スコトヲ業トセザル者ノ行フモノニ付觀覽ノ爲競技場ニ入場スル者ヨリ料金ヲ徵スル場合ニ於テ其ノ入場者ニ之ヲ課ス
第三十四條　特別入場稅ハ特別入場料ノ百分ノ十トス
本法ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ前條ノ競技場ニ入場スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ
第二十七條乃至第三十四條ノ場所ノ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ常時開設ニ非ザルモノニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外終了後直ニ政府ニ納ムベシ
第三十五條　特別入場料ガ一人一回二十三錢ニ滿タザル場合ニハ特別入場稅ヲ課セズ
第二十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス
第三十六條　特別入場稅ハ運動競技ノ主催者特別入場料領收ノ際之ヲ徵收シ競技終了後直ニ政府ニ納ムベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ
第三十七條　第二十九條、第三十一條及第三十二條ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス
第三十八條　物品稅ハ左ニ揭グル物品ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ之ヲ課ス
第一種
甲類
一　貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品
二　眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品
三　貴金屬製品又ハ金若ハ白金ヲ用ヒタル製品
四　電甲製品

五　珊瑚製品

乙類

六　時計

七　萬年筆、金ペン及シャープペンシル

八　身邊用細貨類

九　化粧用具

十　喫煙用具

十一　帽子、杖、傘及傘

十二　皮革製又ハ金屬製ノ鞄及トランク

十三　靴及履物

十四　書畫及骨董

十五　室內裝飾用品

十六　照明器具

十七　喪葬及將棋用具

十八　家具

十九　漆器、陶磁器及硝子製器具ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ

二十　貴金屬ヲ鍍シ又ハ張リタル製品ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ

二十一　毛皮又ハ毛皮製品

二十二　羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品

二十三　皮革製品ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ

二十四　メリヤス、レース、フェルト及同製品

第二種

甲類

一　寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品

二　寫眞用ノ乾板、フィルム及感光紙

三　蓄音器及同部分品

四　蓄音器用レコード

五　樂器、同部分品及附屬品

六　雙眼鏡及隻眼鏡

七　鉄及同部分品

八　藥莢及彈丸

九　ゴルフ用具、同部分品及附屬品

十　娛樂用ノモーターボート、スカール及ヨット

十一　撞球用具

十二　ネオン管及同變壓器

十三　喫煙用ライター

乙類

十四　ラヂオ聽取機及同部分品

十五　受信用眞空管及擴聲器

十六　扇風機及同部分品

十七　煖房用ノ電氣、瓦斯又ハ石油ストーブ

十八　冷藏器及同部分品

十九　金庫及鋼鐵製家具

二十　乘用自動車

二十一　化粧品

第三種

一　燐寸

二　酒類但シ濁酒及果實酒（酒精及酒精含有飲料稅法第三條ノ三ニ規定スルモノ）ヲ除ク

同一物品ニシテ第一種及第二種ニ該當スルモノハ之ヲ第二種トシ、甲類及乙類ニ該當スルモノハ之ヲ甲類トス

第三十九條　物品稅ノ稅率左ノ如シ

第一種

甲類　物品ノ價格百分ノ十五

乙類　物品ノ價格百分ノ十

第二種

甲類　物品ノ價格百分ノ十五

乙類　物品ノ價格百分ノ十

第三種

一　燐寸　千本ニ付　五錢

二　酒類

イ　清酒、白酒、味淋、燒酎及麥酒　一石ニ付　五圓

ロ　葡萄酒（酒精及酒精含有飲料稅法第三條ノ二ニ規定スルモノ以下同ジ）　一石ニ付　十圓

ハ　其ノ他ノ酒類ニシテ酒精及酒精含有飲料稅法ノ適用ヲ受クルモノ　一石ニ付　七圓

第四十條　前條ノ價格ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スル時ノ價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格トス

前項ノ價格及嵩寸ノ本數ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條　物品稅ハ第一種ノ物品ニ付テハ販賣セラレタル物品ノ價格ニ應ジ小賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出セラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル物品ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外引取ノ際ニ於ケル價格トス

第四十二條　物品稅ハ第一種第十四號ニ揭グル物品ニ付テハ其ノ物品ガ入札其ノ他競爭ノ方法ニ依リ賣買セラルル場合ニシテ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ之ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ札元又ハ之ニ準ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物品ヲ販賣スルモノト看做ス

第四十三條　製造場以外ノ場所ニ於テ販賣ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物品ヲ販賣スルモノト看做ス

第四十四條　酒類ヲ製造場內ニ於テ飲用シ又ハ之ヲ化粧品ヲ容器ニ充塡シ又ハ改裝スルトキハ之ヲ化粧品ノ製造ト看做ス

第四十五條　第一種ノ物品ノ小賣業者ハ每月其ノ販賣價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ノ製造者ハ每月其ノ製造場ヨリ移出シタルモノノ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第三種ノ物品ノ製造者ハ每月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ノ品名每ニ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ

但シ保稅地域ヨリ引取ラルル物品ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第四十六條　小賣業者ガ其ノ販賣シタル第一種ノ物品ノ返還ヲ受ケタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ課稅標準額ヨリ其ノ物品ノ價格ヲ控除ス製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シタル場合亦同ジ

製造場ヨリ移出シタル第三種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シ又ハ酒類ヲ製造場外ヨリ移入シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スルモ更ニ物品稅ノ徵收ヲ爲サズ

第四十七條　物品稅ハ每月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第四十一條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

命令ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付物品稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ一月內物品稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十八條　命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入

スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種ノ物品又ハ鱗寸ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ適用セズ前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間內ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ滅失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ物品稅ヲ免除ス

第四十九條　命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ物品稅ヲ免除ス

一　第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スル

二　酒類製造ノ用ニ供スル葡萄酒

前條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間內ニ移出先若ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

第五十條　左ニ揭グル物品ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ物品稅ヲ免除ス

一　輸出スルモノ

二　學術研究用ニ供スルモノ

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル用途ニ供スルモノ

第四十八條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間內ニ輸出シ又ハ其ノ用途ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

第五十一條　第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者又ハ第二種ノ物品若ハ鱗寸ヲ製造センストスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ申告スベシ其ノ小賣業又ハ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第五十二條　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第五十三條　第十四條、第十七條、第二十三條、第三十六條ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ稅金ヲ納付セザルトキハ物品稅ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第五十四條　收稅官吏ハ通行稅ニ付運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

收稅官吏ハ入場稅ニ付第一種ノ物品ノ製造者又ハ第二種ノ物品ノ製造者若ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

收稅官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者若ハ販賣者ノ營業所ニ臨檢シ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

收稅官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者若ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

第五十五條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第五十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者

二　第四十五條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品若ハ鱗寸ヲ製造シタル者

第五十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第二十五條第一項、第三十二條第一項又ハ第五十二條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二　第二十五條第二項、第三十二條第二項又ハ第五十二條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　第四十五條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第五十六條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル者ハ其ノ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第五十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者

二　第四十五條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品若ハ鱗寸ヲ製造シタル者

第五十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第二十五條第一項、第三十二條第一項又ハ第五十二條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二　第二十五條第二項、第三十二條第二項、第五十二條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　第四十五條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

項又ハ第五十二條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

第五十九條　第五十五條及第五十六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第六十條　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法中物品稅ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第六十一條　北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ニハ本法ニ依リ增額ト爲ル部分ヲ含マズ)又ハ本法ニ依リ課スル利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル市町村ニ限リ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第六條ノ規定ニ依リ課スル所得稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

第六十二條　政府ハ當分ノ內酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合中央會ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ酒造組合中央會ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第六十三條　本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

附　則

第六十四條　本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十五條　北支事件特別稅法ハ之ヲ廢止ス

法人ノ昭和十三年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得特別稅及臨時利得特別稅、昭和十三年三月三十一日

以前ニ販賣、製造場ヨリノ移出又ハ保稅地域ヨリノ引取ヲ爲シタル北支事件特別稅法第二十條ニ揭グル第一種又ハ第二種ノ物品ニ對スル物品特別稅其ノ他昭和十三年三月三十一日以前ニ於テ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ北支事件特別稅ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

前項ノ規定ニ依ル北支事件特別稅ノ收入ハ之ヲ臨時軍事費特別會計ノ歲入トス

第六十六條　所得稅中第一種ノ所得稅ニ付テハ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅ハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分、清算所得ニ對スル所得稅ハ昭和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第七條ノ規定ハ昭和十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第六條ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ニ付新ニ納稅義務ヲ有スルニ至リタル者ハ昭和十三年四月十五日迄ニ其ノ所得金額ヲ申告スベシ

前項ノ場合ニ於テハ所得金額ノ申告ト同時ニ所得稅法第十六條又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ申請スルコトヲ得

法人ノ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル各事業年度分ノ所得ニ對スル所得稅及支拂期ノ昭和十三年四月一日以後ニ在ル貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅中ノ第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅中ノ第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ之ヲ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シ所得稅法第二十一條第二項及第三項又ハ第二十二條第二項ノ規定ヲ適用ス

第六十七條　法人資本稅ニ付テハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本法ヲ適用ス

第六十八條　昭和十三年六月三十日迄ニ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糘水ノ消費稅ニ付テハ第十條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ特別ノ徵收猶豫期間ヲ定ムルコトヲ得

第六十九條　本法施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ二萬斤ヲ超ユル數量ノ砂糖、糖蜜又ハ糘水ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本法施行ノ日ニ之ヲ製造場ヨリ引取リタルモノト看做シ砂糖消費稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ二萬斤ヲ超ユル數量ニ付第九條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額ト臨時租稅增徵法第十七條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トシ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ規定ニ依ル北支事件特別稅ノ收入ハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル各事業年度分ノ所得ニ對スル所得稅及支拂期ノ昭和十三年四月一日以後ニ在ル貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅中ノ第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ之ヲ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シ所得稅法第二十一條第二項及第三項又ハ第二十二條第二項ノ規定ヲ適用ス

第六十七條　法人資本稅ニ付テハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本法ヲ適用ス

第六十八條　昭和十三年六月三十日迄ニ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糘水ノ消費稅ニ付テハ第十條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ特別ノ徵收猶豫期間ヲ定ムルコトヲ得

第六十九條　本法施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ二萬斤ヲ超ユル數量ノ砂糖、糖蜜又ハ糘水ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本法施行ノ日ニ之ヲ製造場ヨリ引取リタルモノト看做シ砂糖消費稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ二萬斤ヲ超ユル數量ニ付第九條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額ト臨時租稅增徵法第十七條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トシ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス

其ノ旨ヲ申告シタルモノハ第五十一條前段ノ申告ヲ要セズ

第七十一條　第三十八條ニ揭グル第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本法施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同條各號ニ揭グル品名毎ニ價格三千圓ヲ超ユル第一種ノ物品（第一號乃至第五號ニ揭グル物品ヲ除ク）ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本法施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ其ノ價格中三千圓ヲ超ユル部分ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品稅ヲ徵收ス

前項ノ規定ハ同第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本法施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ千萬本ヲ超ユル數量ノ燐寸又ハ三十石ヲ超ユル數量ノ酒類ヲ所持スル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ製造者又ハ販賣者ハ第二種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月內ニ政府ニ申告スベシ

第七十二條　明治四十年法律第二十一號第一條第一項ニ左ノ六號ヲ加フ

十二　利益配當稅
十三　公債及社債利子稅
十四　通行稅
十五　入場稅
十六　特別入場稅
十七　物品稅

第七十三條　明治四十四年法律第四十五號中「骨牌稅法」ノ下ニ「、支那事變特別稅法」ヲ加ヘ同法第三條中「骨牌稅法」ノ下ニ「、支那事變特別稅法」ヲ加ヘ同法第四條中「骨牌稅法」ノ下ニ「、支那事變特別稅法」ヲ加ヘ「骨牌稅法」ノ下ニ「、支那事變特別稅法」ヲ加ヘ同法第五條中「揭グル物品（第一號乃至第五號ニ揭グル物品ヲ除ク）」ヲ「揭グル物品又ハ」ニ改メ同法ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條　葎太ニ於テハ本法ノ施行ニ關シ必要アルトキハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十四條　大正九年法律第五十一號中「北支事件特別稅法第二十條ニ揭グル物品」ヲ「燐寸、支那事變特別稅法第二種ノ物品」ヲ「移出先ニ於ケル內國稅ノ稅率」ニ改ム

第七十五條　葎太酒類出港稅法第二條中「燒酎ニ付テハ酒造稅法、酒精又ハ酒精含有飲料ニ付テハ酒精及酒精含有飲料稅法」ヲ「移出先ニ於ケル內國稅ノ稅率」ニ改ム

第七十六條　本法ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

（參照）

明治四十年三月二十七日公布　法律第二十一號　葎太ニ於ケル酒稅ニ關スル件

明治四十四年三月二十九日公布　法律第四十五號　砂糖消費稅等ノ徵收ニ關スル件

葎太ニ於テハ左ニ揭グル酒稅ヲ臨時徵收ス

（左記略ス）

明治四十四年三月二十九日公布　法律第四十五號　砂糖消費稅等ノ徵收ニ關スル件

第一條　關稅法第二十九條ノ規定ニ依ル護送ハ砂糖消費稅法、織物消費稅法、揮發油稅法、骨牌稅法又ハ北支事件特別稅法ノ引取ト看做サス但シ其ノ護送ニ付必要アリト認ムルトキハ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第二條　砂糖消費稅法、織物消費稅法、揮發油稅法、骨牌稅法又ハ北支事件特別稅法ニ依リ稅金ヲ徵收スル場合ノ外砂糖、糘蜜、糘水、織物、揮發油、骨牌又ハ北支事件特別稅法第二十條ニ揭グル物品ニ付關稅ヲ徵收スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅納付義務者ヨリ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ骨牌稅法ニ依リ骨牌ヲ稅收スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

大正九年八月七日公布　法律第五十一號　葎太ヨリ關鮮ニ移出スルモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ內國稅ヲ免除若ハ還付シ又ハ交付金ヲ交付スルコトヲ得

酒類、麥酒、酒精、酒精含有飲料、清涼飲料、砂糖、糖蜜、糘水、織物、織物製品、揮發油、骨牌、北支事件特別稅法第二十條ニ揭グル第一種ノ物品

大正元年八月十二日公布　法律第一號　葎太酒類出港稅法施行ニ關スル件

第二條　葎太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ヘ移出スルトキハ燒酎ニ付テハ酒造稅法、酒精

又ハ酒稅含有飲料ニ付テハ酒稅及酒稅含有飲料稅法ノ酒精稅ト同一ノ稅率ニ依リ出荷稅ヲ課ス

支那事變特別稅法施行規則

（昭和十三年四月一日勅令第二百號）

第一條　稅務署長支那事變特別稅法第七條第一項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定セントスル場合ニ於テハ其ノ所得金額ノ調査ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ

第二條　稅務署長支那事變特別稅法第七條第一項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第三條　支那事變特別稅法第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ依リ配當金又ハ利子金額ノ支拂者利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ

第四條　支那事變特別稅法第二十條第二號ノ規定ニ依リ陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ通行稅ヲ課セザルモノヲ定ムルコト左ノ如シ

一　鐵道軍事供用令ニ依ル乘車

二　軍事上ノ必要ニ依リ貸切ノ契約ニテ爲ス乘船

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ乘車船區間ノ粁程ハ各其ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

一　往復乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ粁程ハ往復各別ニ之ヲ計算ス

二　遨遊乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ粁程ハ各區間毎ニ之ヲ計算ス

三　均一制又ハ區間制ニ依リ運賃ヲ定メタル區間ヲ乘車船スル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ該乘車船契約ニ依リ乘車船シ得ベキ區間中最モ短キモノニ依リ乘車船區間ノ粁程ヲ計算ス

第六條　汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ支那事變特別稅法第十九條第一項、第五項及第二十條第一號ノ等級ハ等級ヲ分タザルモノヲ在リテハ三等、二等級ニ分チタルモノヲ在リテハ二等及三等、一等ノ上又ハ三等ノ下ニ更ニ等級ヲ設ケタルモノニ在リテハ一等又ハ三等ノ乘客定員數ハ運賃計算ノ基準ト爲リタル人員ニ依ル

第八條　支那事變特別稅法第二十三條第一項ノ納期限ハ鐵道省ニ付テハ翌月二十日トス

第九條　支那事變特別稅法第二十三條第一項ノ運輸業者通行稅ヲ徵收シタルトキハ納期限迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ

前項ノ計算書ハ鐵道省ニ在リテハ其ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第十條　汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ營業所所轄稅務署ニ提出スベシ

一　住所及氏名又ハ名稱

二　營業所ノ所在地及其ノ名稱

三　運輸業ノ種類（汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ノ區別）

四　線路、路線又ハ航路ノ名稱、起終點ノ地名及粁程

五　汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ノ等級區分

六　乘車船券ノ種類

第十一條　運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣セントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱、販賣場ノ所在地竝ニ運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務署ニ提出スベシ

第十二條　稅務署長ハ必要アリト認ムルトキハ運輸業者ニ左ノ事項ヲ申告セシムルコトヲ得

一　停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及其ノ所在地

二　停車場、停留所又ハ乘船場間ノ粁程

三　運賃ヲ粁制ニ依リ定メタルトキハ一粁當運賃、區間制ニ依リ定メタルトキハ各區間及其ノ運賃、均一制ニ依リ定メタルトキハ均一運賃

四　回數、定期、團體又ハ貸切ノ乘車船ニ付特別ノ運賃ヲ定メタルトキハ其ノ運賃

五　運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ其ノ販賣場ノ所在地

六　連帶運輸ヲ爲ス運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ連帶運輸ヲ爲ス線路、路線又ハ航路ノ名稱、其ノ停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及該停車場、停留所又ハ乘船場間ノ粁程

第十三條　前三條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スベシ

第十四條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ其ノ業ヲ相續又ハ合併ニ因リ承繼シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第十五條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者共ノ業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第十六條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　稅率ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレタル者ノ人員及稅額

二　支那事變特別稅法第二十條各號ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレザル者ノ人員

第十七條　第十條乃至前條ノ規定ハ鐵道省ニ付特別稅法第二十六條ニ規定スル收益ノ總額ハ入場料總額ヨリ其ノ入場料ヲ得ル ニ直接必要ナル經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第十八條　支那事變特別稅法第二十六條ニ掲グル第一種第三號ノ場所ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　博覽會場

二　展覽會場

三　遊園地

第十九條　支那事變特別稅法第二十六條ニ規定スル第一種ノ場所ノ入場料ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス

一　入場料ハ觀覽料、座席料、仲錢、下足料、敷物料其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ入場スル者ガ入場ノ爲ニ支拂フベキ金額ノ合計額

二　地方競馬場ノ入場料ハ前號ノ規定ニ拘ラズ入場ノ爲ニ支拂フベキ金額ヲ其ノ入場券ニ添附セラレタル優勝馬投票券ノ投票證引換券ノ票數ニテ除シテ得タル金額

支那事變特別稅法第二十六條ニ規定スル第二種ノ場所ノ入場料ハ舞踏料、謠抜料、會費其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ入場スル者ガ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ニ依ル

第二十條　支那事變特別稅法第二十九條ニ規定スル收益ノ總額ハ入場料總額ヨリ其ノ入場料ヲ得ル ニ直接必要ナル經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第二十一條　入場料又ハ收益ノ總額ヲ左ノ目的ニ充ツル場合ニ於テハ支那事變特別稅法第二十九條ノ規定ニ依リ入場稅ヲ免除ス

一　軍人ノ慰恤竝ニ支那事變ノ爲ニ從軍シタル軍人及軍屬ノ家族又ハ遺族ノ慰問其ノ他ノ軍事援護

二　兵器、繃帶其ノ他ノ國防金品ノ獻納

第二十二條　第一種ノ催物（第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ）若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者支那事變特別稅法第二十九條ノ規定ニ依リ入場稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ七日前ニ左ノ事項ヲ具シ第一種又ハ第二種ノ場所ノ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

一　期間

二　入場料又ハ收益ノ總額ヲ支出スベキ事業又ハ目的

三　入場料

四　收入支出ノ概算書

前項ノ承認ヲ受ケタル者其ノ開催若ハ經營ヲ終了シタルトキハ直ニ證憑書類ヲ添ヘ收入支出ノ計算書ヲ提出スベシ

第二十三條　支那事變特別稅法第三十條ノ規定ニ依リ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ入場稅ヲ徵收シタルトキハ直ニ掃込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ但シ常時開設ニ非ザルモノニ在リテハ左ノ場合ヲ除クノ外終了後直ニ之ヲ拂込ムベシ

一　開催又ハ經營ノ期間ガ一月以上ニ亘ル場合

二　開催期日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第二十四條　第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所每ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

一　主催者又ハ經營者ノ住所及氏名又ハ名稱

二　第一種又ハ第二種ノ場所ノ所在地及其ノ名稱

三　催物又ハ設備ノ種類

四　各等級別觀客定員及入場料

五　入場券發賣ノ方法

六　第一種又ハ第二種ノ場所ノ構造其ノ他設備ノ概要

七　開設ノ年月日及開催又ハ經營ノ期間

第二十五條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所每ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

一　主催者又ハ經營者ノ住所及氏名又ハ名稱

二　開催又ハ經營ノ期間ガ一月以上ニ亘ル場合ハ其ノ期間

三　入場料又ハ收益ノ總額ヲ支出スベキ事業又ハ目的

四　收入支出ノ概算書

第二十六條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ入場稅ヲ徵收シタルトキハ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　入場シタル人員

二　入場券ノ受入及拂出

三　入場料ノ總額

四　入場稅額

第二十七條　支那事變特別稅法第三十六條ノ規定ニ依リ運動競技ノ主催者特別入場稅ヲ徵收シタルトキハ競技終了後直ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ但シ左ノ場合ハ翌月十日迄ニ之ヲ拂込ムベシ

一　開催ノ期間ガ一月以上ニ亘ル場合

二　開催期日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第二十八條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ入場稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ

常時開設スル者其ノ催物又ハ經營ヲ一月以上休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スベシ

第二十六條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者前二條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スベシ

第二十七條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ相續又ハ合併ニ因リ承繼シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第二十八條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第二十九條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者若ハ移轉ノ事實ヲ具シ第二十四條及前條ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

第三十條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者ハ入場料領收ノ際入場券ヲ發行スベシ但シ稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催

者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　入場シタル人員

二　入場券ノ受入及拂出

三　入場料ノ總額

四　入場稅額

第三十二條　支那事變特別稅法第三十六條ノ規定ニ依リ運動競技ノ主催者特別入場稅ヲ徵收シタルトキハ競技終了後直ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ但シ左ノ場合ハ翌月十日迄ニ之ヲ拂込ムベシ

一　開催ノ期間ガ一月以上ニ亘ル場合

二　開催期日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第三十三條　第十九條第一項第一號、第二十條乃至第二十二條、第二十四條乃至第二十六條、第二十八條、第三十條及第三十一條ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第三十四條　支那事變特別稅法第三十八條ノ規定ニ依リ物品稅ヲ課スベキ物品ハ別表ニ定ムル所ニ依ル

別表ニ於テ貴金屬トハ金、銀、白金及此等ヲ主タル材料トスル合金ヲ謂フ

別表ニ於テ貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ヲ用ヒタル製品トハ其ノ用ヒタル貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ノ價格（二種以上ノモノヲ用ヒタルモノニ付テハ其ノ價格ヲ合算ス）ガ三圓以上ノモノヲ謂フ

第三十五條　支那事變特別稅法第三十八條ニ揭グル第一種ノ物品中第十四號ニ揭グル第二種ノ物品又ハ鱗寸ヲ製造セルモノニ付物品稅ヲ課スベキ場合ハ一回ノ賣買總金額ガ一萬圓ヲ超ユル場合ニ限リ物品稅ヲ課セラルル

支那事變特別稅法第三十八條ニ揭グル第一種ノ物品又ハ鱗寸ヲ製造セントスル者ハ製造場及製造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スベシ

支那事變特別稅法第三十八條第二種ノ物品又ハ鱗寸ノ製造者一月以上休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スベシ

第三十六條　支那事變特別稅法第三十八條ニ揭グル第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ鱗寸ノ製造者ハ製造場及製造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スベシ

第三十七條　支那事變特別稅法第三十八條ニ揭グル第二種ノ物品若ハ鱗寸ノ製造者ハ製造場及製造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スベシ

第三十八條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品若ハ鱗寸ノ製造者一月以上販賣又ハ製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スベシ

第三十九條　稅務署長ハ必要ト認ムルトキハ第二種ノ物品又ハ鱗寸ノ製造者ニ製造場ノ圖面及製造用ノ機械器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第四十條　第三十六條乃至第三十八條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スベシ

第四十一條　第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ鱗寸ノ製造業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ鱗寸ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄稅務署ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ鱗寸ノ製造業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第四十二條　第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ鱗寸ノ製造ヲ廢止セント

スルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第四十三條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造者販賣場又ハ製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第三十六條又ハ第三十七條及前條ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

第四十四條　第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ通常容器ト共ニ販賣セラルルモノノ價格ハ其ノ容器ノ價格ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十五條　保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノノ價格ハ輸入ノ際ニ於ケル到着價格ニ當該物品ニ課セラルベキ關稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十六條　燐寸ノ本數ハ軸木ノ本數ニ依ル但シ二個以上ノ點火裝置ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ點火裝置ノ個數ニ依ル

第四十七條　第一種ノ物品ノ販賣者又ハ製造者ガ第一種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ハ之ヲ徵收セズ

前項ノ場合ニ於テハ販賣場又ハ製造場ノ所轄稅務署ヨリ交付ヲ受ケタル販賣者又ハ製造者タルコトヲ證明スベキ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第一項ノ場合ニ於テハ支那事變特別稅法第四十五條第二項ノ規定ニ依ル申告書ノ提出ヲ要セズ

第四十八條　物品稅ノ免除ヲ受ケズシテ輸出シタル物品ヲ再輸入シ之ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ヲ徵收セズ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　支那事變特別稅法第四十五條第一項ノ規定ニ依ル申告書ハ所轄稅務署長其ノ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ稅務署長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スベシ

前項ノ規定ハ支那事變特別稅法第四十六條第二項ノ規定ニ依ル申告ニ付之ヲ準用ス

第五十條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ製造者返還ヲ受ケ又ハ戻入ヲ受ケタル物品ニ付支那事變特別稅法第四十六條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シタル旨ヲ所轄稅務署ヨリ交付ヲ受ケタル販賣者又ハ製造者タルコトヲ證明スベキ書類及返還又ハ戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量及價格ニ付所轄稅務署ノ承認ヲ受クベシ

第五十一條　支那事變特別稅法第三十八條ニ揭グル第三種ノ物品ノ製造者戻入又ハ移入シタル物品ニ付同法第四十六條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及戻入又ハ移入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名及數量ニ付所轄稅務署長ノ承認ヲ受クベシ

第五十二條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

擔保トシテ登錄國債ヲ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ

擔保トシテ提供シタル國債ノ償還ヲ受クルニ至リタルトキハ稅務署長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

第五十三條　支那事變特別稅法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ稅金及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第五十四條　支那事變特別稅法第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種ノ物品又ハ燐寸ヲ製造場ヨリ移出セントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第五十五條　前條ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品又ハ燐寸ヲ移出先タル製造場又ハ藏置場ニ移入シタルトキハ移出先ノ營業者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第五十六條　支那事變特別稅法第四十九條第一項ノ規定ニ依リ第二種ノ物品又ハ葡萄酒ヲ製造場ヨリ移出セントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

前條ノ規定ハ前項ノ物品ヲ其ノ移出先ニ移入シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十七條　支那事變特別稅法第四十九條第一項ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付其ノ用途ヲ變更セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第五十八條　支那事變特別稅法第五十條第一項第三號ノ規定ニ依リ物品稅ヲ免除スル物品ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　醫療用ニ供スルモノ但シ第三種ノ物品ヲ除ク

二　機械用又ハ工業用ニ供スルモノ但シ第三種ノ物品ヲ除ク

三　神社、寺院、祠宇、佛堂、教會所及說教所ニ於テ式典用又ハ禮拜用ニ供スルモノ但シ第三種ノ物品ヲ除ク

四　教育用ニ供スルモノ但シ中等學校又ハ小學校ニ於テ使用スル寫眞機、映寫機、寫眞用フィルム、寫眞用乾板、レコード、ピアノ、オルガン、琴、三絃、ラヂオ聽取機及蓄聲器ニ限ル

五　軍用ニ供スルモノ但シ陸海軍ノ購入ニ係ル皮革製又ハ金屬製ノ鞄及トランク、靴、毛皮、毛皮製品、第一種第二十三號ノ皮革製品、メリヤス、メリヤス製品、寫眞機、寫眞機部分品、寫眞用乾板、寫眞用フィルム、寫眞用感光紙、雙眼鏡、銃、銃部分品並ニ藥莢及彈丸ニ限ル

六　通信用ニ供スルモノ但シ無線電信又ハ無線電話（放送無線電話ヲ除ク）ノ用ニ供スルラヂオ聽取機及受信用眞空管ニ限ル

第五十九條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者支那事變特別稅法第五十條及前條ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ第一種ノ物品ヲ引渡シ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スル際其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第六十條　支那事變特別稅法第五十條第一項第一號ノ物品ニ付輸出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ輸出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第六十一條　支那事變特別稅法第四十八條第三項、第四十九條第二項及第五十條第二項ノ期間ハ稅務署長之ヲ指定ス

第六十二條　支那事變特別稅法第四十八條第三項但書、第四十九條第二項及第五十條第二項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第五十四條、第五十六條第一項又ハ第五十九條第一項ノ稅務署ニ申請スベシ

第五十七條　支那事變特別稅法第四十九條

第五十八條　支那事變特別稅法第五十條第一項第三號ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付其ノ用途ヲ變更セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

丸ニ限ル

前項ノ場合ニ於テ滅失シタル場所ガ前項ノ稅務署ノ管轄外ナルトキハ最寄稅務署ニ滅失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スベシ

第六十三條　第五十四條乃至第五十七條及第五十九條乃至前條ノ規定ハ支那事變特別稅法第四十八條乃至第五十條ノ規定ノ適用ヲ受ケ保稅地域ヨリ引取ラルル第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付之ヲ準用ス

第六十四條　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　受入レタル物品ノ品名、數量、價格及受入ノ日竝ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二　販賣シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣ノ日竝ニ其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セズ但シ所轄稅務署監督上必要アリト認メ其ノ記載ヲ命ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十五條　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　受入レタル材料ノ種類、數量及受入ノ日竝ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二　使用シタル材料ノ種類、數量及使用ノ日

三　製造シタル物品ノ品名、數量及製造ノ日

四　販賣シ又ハ移出シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣又ハ移出ノ日竝ニ其ノ買受人又ハ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱

前條第二項ノ規定ハ前項第四號ニ揭グル事項ノ記載ニ付之ヲ準用ス

第六十六條　販賣場ヲ有セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者ニ在リテハ其ノ住所、住所ナキトキハ居所ヲ以テ販賣場ト看做ス

第六十七條　本令中稅務署ニ關スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラルル物品ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

第六十八條　收稅官吏支那事變特別稅法第五十四條第一項ノ規定ニ依リ帳簿書類ヲ檢查スルトキハ檢查章ヲ携帶スベシ

收稅官吏支那事變特別稅法第六十五條第二項ニ規定スル北支事件特別稅ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

第七十二條　支那事變特別稅法第六十八條ノ規定ニ依リ砂糖消費稅ノ徵收猶豫期間ヲ定ムルコト左ノ如シ

四月一日ヨリ同月十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ

昭和十三年七月三十一日迄

四月十一日ヨリ同月二十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ

同年八月三十一日迄

四月二十一日ヨリ同月三十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ

同年九月三十日迄

五月一日ヨリ同月十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ

同年十月三十一日迄

五月十一日ヨリ同月二十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ

同年十一月三十日迄

五月二十一日ヨリ同月三十一日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ

同年十二月三十一日迄

六月一日ヨリ同月十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ

昭和十四年一月三十一日迄

六月十一日ヨリ同月二十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ

同年二月二十八日迄

六月二十一日ヨリ同月三十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ

同年三月三十一日迄

第七十三條　支那事變特別稅法第六十九條第一項又ハ第七十一條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依リ課スベキ砂糖消費稅又ハ物品稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十三年五月三十一日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス

稅額百圓ヲ超ユルトキ　昭和十三年五月及六月

稅額千圓ヲ超ユルトキ　同年五月乃至七月

稅額二千圓ヲ超ユルトキ　同年五月乃至八月

稅額五千圓ヲ超ユルトキ　同年五月乃至九月

第七十四條　支那事變特別稅法第七十一條第三項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル申告ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ所在地所轄稅務署ニ提出スベシ

第七十五條　支那事變特別稅法第七十條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ第二十四條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同法施行前ヨリ引續キ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品若ハ嵩寸ヲ製造スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

（別表）

課稅物品表

品名	課稅最低限單位	價格
第一種		
甲類		
一　貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品		
イ　貴石、半貴石		
ダイヤモンド、ルビー、サファイヤ、アレキサンドライト、クリソベリール、トパーズ、スピネル、エメラルド、アクアマリン、ベリール、トールマリン、ジルコン、クリソライト、ガーネット、オパール、翡翠、水晶、瑪瑙、猫眼石、虎眼石、孔雀石、土耳古玉、月長石、青金石、タンザナイト、ブラッドストーン及ヘマタイト	一個	三圓
ロ　貴石又ハ半貴石ヲ用ヒタル製品	一個又ハ一組	三圓
二　眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品		
イ　天然眞珠及養殖眞珠	一個又ハ一組	三圓
ロ　眞珠ヲ用ヒタル製品	一個又ハ一組	三圓
三　貴金屬製品又ハ金若ハ白金ヲ用ヒタル製品		
イ　貴金屬製品但シ金ペンヲ除ク	一個又ハ一組	三圓
ロ　金側又ハ白金側ノ時計但シ金ノ鎖シ又ハ張リタルモノヲ除ク	一個又ハ一組	三圓
ハ　金屏風及金箔立	一個	三圓
ニ　其ノ他金又ハ白金ヲ用ヒタル製品但シ金箔、金絲、金粉又ハ金液ヲ用ヒタルモノ及金ヲ鍍シ又ハ張リタルモノヲ除ク	一個又ハ一組	三圓
四　鑲甲製品	一個又ハ一組	三圓
五　測量製品	一個又ハ一組	三圓
乙類		
六　時計		
懷中時計、腕時計、置時計、掛時計及電氣時計	一個	十五圓
七　萬年筆、金ペン及シャープペンシル		
イ　萬年筆	一個	四圓
ロ　金ペン（軸ヲ附シタルモノヲ含ム）	一個	二圓
ハ　シャープペンシル	一個	一圓
八　身邊用細貨類		
イ　指環、飾鐶、耳飾、頸飾、ペンダント、襟止、襟飾留用ピン、ハットピン、ネクタイピン、煙止、煙入、パフタル、鋼、カフス釦、根付及メダル	一個又ハ一組	三圓
ロ　ハンドバッグ、手提袋、財布、懷中用書狀入、名刺入、莨入及シース	一個	五圓
九　化粧用具		
イ　化粧用鬘子（頭髮用ノモノヲ含ム）、コンパクト、香水噴及白粉入其ノ他ノ化粧品ノ容器	一個	三圓
ロ　化粧具揃（折疊式ノモノヲ含ム）及其ノ他ノ化粧用具セット	一個又ハ一組	五圓
十　喫煙用具		
イ　煙管、パイプ類及同ケース	一個又ハ一組	三圓
ロ　煙草入、灰皿及煙草セット	一個又ハ一組	五圓
十一　帽子、杖及傘		
イ　帽子	一個	五圓
ロ　杖及鞭	一個	三圓
ハ　傘（パーチバラソルヲ含ム）	一個	六圓
十二　皮革製又ハ金屬製ノ鞄及トランク	一個	十圓
十三　靴及靴物		
イ　靴		
(一)　長靴	一足	二十圓
(二)　其ノ他	一足	十二圓
ロ　履物	一足	四圓
十四　裝飾及令嬢		
十五　家内裝飾用品		
置物、花瓶、香爐、燭臺、掛物其ノ他ノ室内裝飾用品、人形及節句飾物	一個又ハ一組	十圓
十六　照明器具		
スタンド、シャンデリヤ、ペンダント、ブラケット、グローブ及シェード	一個又ハ一組	五圓
十七　圍碁及將棋用具		
イ　圍碁具		
(一)　碁盤	一個	十圓
(二)　碁石	一組	五圓
(三)　碁笥	一組	三圓
ロ　將棋用具		
(一)　將棋盤	一個	五圓
(二)　將棋駒	一組	二圓

十八　家具		
寢臺、臥臺、箱臺、鏡臺、机及卓子類、椅子及腰掛類、火鉢、衝立、屏風、摺立又ハ帳、衣桁、雪子掛	一個又ハ一組	五十圓
十九　洗面、陶磁器及硝子製品ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ但シ理化學用器、實驗用器、實驗材料及土木建築材料ヲ除ク	一個又ハ一組	二十圓
二十　貴金屬ヲ鍍シ又ハ張リタル製品ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ	一個又ハ一組	三圓
二十一　毛皮又ハ毛皮製品		
イ　毛皮	一個	五圓
ロ　毛皮製品		
衣物、敷物、手袋、襟巻、頭巾、被服用ノ裏地、襟及袖	一個又ハ一組	五圓
二十二　羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品		
イ　羽毛製品		
扇巻	一個	五圓
ロ　羽毛ヲ用ヒタル製品		
頭飾、床飾及クッション	一個	五圓
二十三　皮革製品ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ		
イ　被服類		
床敷類及クッション	一個	十圓
ロ　手袋	一個	五圓
ハ　手袋	一對	二圓
二十四　メリヤス、レース、フェルト及刺繍品		
イ　外套、勤服用コート及羽織	一個	七圓
ロ　襦袢	一個	五圓
ハ　ネクタイ、手巾及手袋	一個又ハ一組	二圓
靴下及之ニ類スルモノ	一足	一圓
ニ　スウェーター、肌着、下着及前各號以外ノ被服類	一個又ハ一組	四圓
ホ　窓掛、卓子掛、敷物及之ニ類スルモノ	一個又ハ一組	四圓
ヘ　毯乃至ハ鍵ニ掲ゲル物品ノ製造用ニ供シ得ベキ生地	一平方米	三圓

第二種

甲類	
一　寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品	
イ　寫眞機但シ航空機用ノモノ及顯微鏡用ノモノヲ除ク	一個
ロ　寫眞引伸機	一個
ハ　映寫機	一個
ニ　寫眞機部分品及附屬品	
レンズ（シャッター附ノモノヲ含ム）、暗箱（蛇腹ノ有無ヲ問ハズ）、シャッター、フィルムパックホルダー、取枠、ファインダー、三脚臺、カラーフィルター、セルフタイマー、露出計、距離計及寫眞機用又ハ三脚臺用ケース	一個
ホ　寫眞引伸機部分品	
暗箱、コンデンサー、レンズ及支持臺	一個
ヘ　映寫機部分品及附屬品	
コンデンサー、レンズ、フィルムゲール、ランプハウス、映寫機用ランプ、（ラプマシン、映寫機用モーター、發電裝置、フィルム卷取機、カラースクリーン及映寫機用ケース	一個
二　寫眞用乾板、フィルム及感光紙	
イ　寫眞用乾板但シ航空機用ノモノ及エックス線用ノモノヲ除ク	一個
ロ　寫眞用フィルム但シ航空機用ノモノ及エックス線用ノモノヲ除ク	一個
ハ　寫眞用感光紙	一個
三　蓄音器及同部分品	
イ　蓄音器（ラヂオ聽取裝置ヲ附シタルモノヲ含ム）	一個
ロ　蓄音器部分品	
蓄音器匣、サウンドボックス、發動機金、ピックアップ、蓄音器用モーター、四輪緩、動力用ゼンマイ及蓄音器用針	一個
四　蓄音器用レコード但シ六吋以下ノ紙製ノモノヲ除ク	一個
五　樂器（同部分品及附屬品	
イ　樂器	
ピアノ、オルガン、アコーディオン、ハーモニカ、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、コントラバス、マンドリン、マンドラ、マンドリラ、マンドセロ、マンドローネ、ギターギタローネ、バラライカ、ウクレレ、バンジョー、フリュート、ピアコロ、クラリネット、オーボエ、バスーン、コルネット、トランペット、トロンボーン、アルト、バリトン、チューバ、サクソフォーン、スザフォーン、ホルン、バイブラフォーン、木琴、鐵琴、ハープ、リラ、第三絃、琵琶、胡弓及尺八	一個
ロ　樂器部分品及附屬品	
鼓樂器用ノ絃、弓又ハ撥及樂器用ケース	一個
六　發聲機及發聲機	
七　鐵及同部分品	
イ　鐵	
鐵鉄、鋳鉄及空氣鉄	一個
ロ　鉄部分品	
鉄骨及鉄床	一個
八　鑄夾（鑄型ヲ含ム）及鑄丸但シ鐵鉄、鋳鉄又ハ空氣鉄用ノモノヲ除ク	一個
九　ゴルフ用具、同部分品及附屬品	
イ　ゴルフクラブ及ゴルフボール	一個
ロ　ゴルフクラブノヘッド及シャフト	一個
ハ　ゴルフクラブ用バッグ	一個
十　競樂用ノモーターボート、スカール及ヨット	一個
十一　撞球用具	
撞球臺、キュー、球及チョーク	一組
十二　ネオン管及同變壓器	一個
十三　寒熱用ライター	一個

乙類

十四　ラヂオ聽取機及同部分品
イ　ラヂオ聽取機但シ鳳笠管ヲ使用セザルモノ及大藏大臣ノ指定スルモノヲ除ク
ロ　ラヂオ聽取機部分品
ラヂオ聽取機用、トランスフォーマー、チョークコイル、コンデンサー及ジャンシー
十五　受信用眞空管及撮像器
イ　受信用眞空管
ロ　撮像器
十六　顯風機及同部分品
イ　顯風機
ロ　顯風機部分品
顯風機用ノ羽根及モーター
十七　輕務用ノ電氣瓦斯又ハ石油ストーブ
十八　冷藏器及同部分品
イ　冷藏器
ロ　冷藏器部分品
冷藏器用冷凍機
十九　金庫及鐵製家具
イ　金庫（手提金庫ヲ含ム）
ロ　鐵製家具
籐製、柳製、竹製、木製、椅子及腰掛類
二十　乘用自動車但シ普通乘用自動車ニシテ輪距二百八十九糎ヲ超ユルモノニ限ル
二十一　化粧品
香水、香紙、香袋、白粉、紅、化粧油、クリーム、化粧下、化粧水、化粧石鹸、頭髮用ノ香水、油及整髮料、シャンプー、染毛料、漂毛料、脫毛料、爪料、脫毛料、脫臭料

第三種

一　酒類
二　酒類但シ清酒及果實酒、酒精及酒精含有飲料稅法第三條ノ三ニ規定スルモノヲ除ク

支那事變特別稅法施行細則

（昭和十三年四月一日大藏省令第十八號）

第一條　支那事變特別稅法施行規則第三條、第九條、第二十三條及第三十二條ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式乃至第六號書式ニ依リ調製スベシ

第二條　日本銀行ニ於テ利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅及特別入場稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官ニ送付スベシ

第三條　利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ノ過誤納アリタル爲之ガ拂戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式（用紙適宜輪廓縱四寸五分橫三寸三分）

拂込書（利益配當稅（又ハ何々）稅）

管主省藏大	年度	號何第
署務稅何	利益配當稅（又ハ何々）	利益配當稅（又ハ何々）

Y　圓

頭書ノ金額拂込候也
何縣何郡何町何番地
何會社　代表者　何　某　㊞
（其ノ他之ニ準ズ）
宛日本銀行何店
昭和何年何月何日

備考

一、本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スベシ

二、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅又ハ特別入場稅ノ書式ニ付テハ本書式中利益配當稅トアル箇所ヲ公債及社債利子稅、通行稅、入場稅又ハ特別入場稅ト改記スルモノトス

第二號書式（用紙適宜輪廓縱四寸五分橫三寸三分二枚接續）

通知書

管主省藏大	年度	號何第
署務稅何	利益配當稅（又ハ何々）	利益配當稅（又ハ何々）

何縣何郡何町何番地
何會社　代表者　何　某　納
（其ノ他之ニ準ズ）

Y　圓

昭和何年何月何日領收
日本銀行何店　㊞
殿名氏官長署務稅何

領收證書

號何第	年度	稅配當益利（又ハ何々）

何縣何郡何町何番地
何會社　代表者　何　某　納
（其ノ他之ニ準ズ）

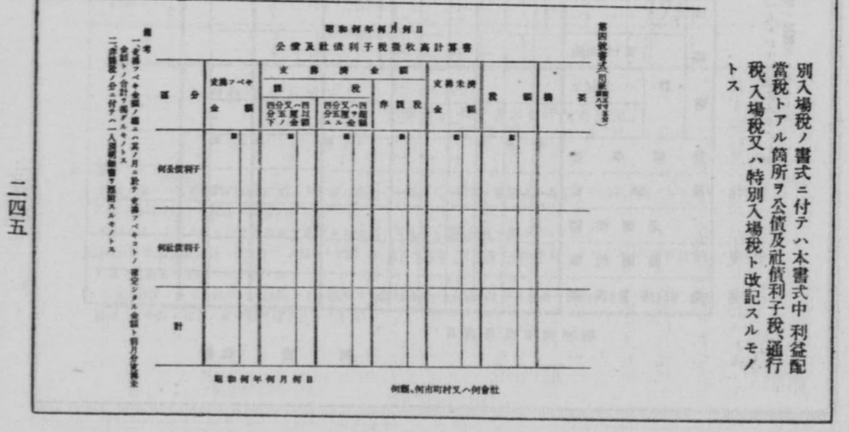
Y　圓

昭和何年何月何日領收
日本銀行何店　㊞

備考

一、日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

二、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅又ハ特別入場稅ノ書式ニ付テハ本書式中利益配當稅トアル箇所ヲ公債及社債利子稅、通行稅、入場稅又ハ特別入場稅ト改記スルモノトス



第五號書式（用紙縦六寸三分）

昭和何年何月分

通行稅徵收稅高計算書

區分		課稅 大人 一等	課稅 大人 二等	課稅 大人 三等	課稅 小兒 一等	課稅 小兒 二等	課稅 小兒 三等	非課稅	合計	稅額	摘要
種別	科目										
普通乘客	五十粁未滿	人	人	人 一	人	人	人 一	人	人	圓	
	……粁以上										
	………										
	計										
回數乘客	五十粁未滿（又ハ回數何回以上ヲ超ユルモノ）	枚	枚	枚 一	枚	枚	枚 一	枚	枚	圓	
	……粁以上										
	………										
	計 五十粁未滿			一			一				
	計 ……粁以上										
	計 ………										
定期乘客	五十粁未滿（又ハ契約ノ期間何月ヲ超ユルモノ）			一			一				
	……粁以上										
	………										
	計 五十粁未滿			一			一				
	計 ……粁以上										
	計 ………										
團體乘客	五十粁未滿（又ハ人員何人以下ヲ超ユルモノ）	件	件	件 一	件	件	件	件	件	圓	
	……粁以上										
	………										
	計 五十粁未滿			一			一				
	計 ……粁以上										
	計 ………										
貸切乘客		輛	輛	輛	輛	輛	輛	圓	圓	圓	
稅額計		圓	圓	圓	圓	圓	圓				
追徵稅額		圓	圓	圓	圓	圓	圓				
摘戻稅額		圓	圓	圓	圓	圓	圓				
差引拂込稅額		圓	圓	圓	圓	圓	圓				

昭和何年何月何日

何會社

備考

一、支那事變特別稅法第十九條所定ノ稅率區別ニ依リ記載スルモノトス

二、往復又ハ周遊乘車船ノ契約ヲ爲シタル者ノ人員ハ往復乘車船ニ付テハ往復各別ニ非課稅欄ニハ支那事變特別稅法第二十條各號ニ依リ非課稅ト爲リタル人員、件數、件數又ハ金額ヲ摘ゲ其ノ內譯ヲ摘要ニ記載スルモノトス

三、非課稅欄ニハ支那事變特別稅法第二十條各號ニ依リ非課稅ト爲リタル人員、件數又ハ金額ヲ摘ゲ其ノ內譯ヲ摘要ニ記載スルモノトス

四、貸切乘車船ニ付テハ其ノ件數ヲ摘要ニ記載スルモノトス

第六號書式（用紙縦六寸三分）

昭和何年何月分

入場稅（又ハ特別入場稅）徵收高計算書

區分		總額 人員	總額 料金 入場ノ種別 特別	內課稅 通常ノ料金 人員	內課稅 通常ノ料金 入場ノ種別 特別	內課稅 回數、定期、貸切其ノ他ニ依ルモノ 人員	內課稅 回數、定期、貸切其ノ他ニ依ルモノ 入場ノ種別 特別	內課稅 入場料計 特別	內非課稅 人員	內非課稅 入場ノ種別 特別	稅額	摘要
種別												
第一種			圓		圓		圓	圓		圓	圓	
何々	何圓ノモノ											
	何十錢ノモノ											
	……											
	二十三錢ニ滿タザルモノ											
	計											
何々	何圓ノモノ											
	何十錢ノモノ											
	……											
	二十三錢ニ滿タザルモノ											
	計											
第二種												
何々												
……												
合計												

昭和何年何月何日

地番何町何市何郡何府縣
社會何ハ又ハ何某
場所

備考

一、區分ノ欄ニハ支那事變特別稅法第二十六條ニ規定スル物品又ハ設備ノ種類ニ從ヒ料金額ヲ掲グルモノトス但シ第二種ノ場所ニ付テハ設備ノ種類ノミヲ掲グ

二、總額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ入場料ヲ徵シタル全部ノ人員及入場料金額ヲ掲グルモノトス

三、回數、定期、貸切其ノ他ニ依ルモノノ欄ニハ回數、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタル者ノ分ヲ各當該等級ノ欄ニ掲ゲ其ノ明細書ヲ添附スルモノトス

四、特別入場稅ノ書式ニ付テハ入場稅トアル箇所ヲ特別入場稅ト、入場料トアル箇所ヲ特別入場料ト改記シ、區分ノ欄ニハ藝技ノ種類ニ從ヒ料金額ヲ掲グルモノトス

間接國稅犯則者處分法施行規則中改正ノ件

（昭和十三年四月一日勅令第二百二號）

第一條ニ左ノ一號ヲ加フ

十三　物品稅

附　則

本令ハ支那事變特別稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

明治二十三年三月二十勅令第五十二號間接國稅犯則者處分法施行規則ニ於テ

第一條　間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス

（左記略ス）

明治四十四年勅令第百八十六號砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件中改正ノ件

（昭和十三年四月一日勅令第百九十九號）

第三條中「骨牌又ハ」ヲ「骨牌、支那事變特別稅法第三十八條ニ揭クル物品又ハ」ニ、「骨牌ノ數量又ハ」ヲ「骨牌ノ數量、支那事變特別稅法第三十八條ニ揭クル物品又ハ」ニ改ム

附　則

本令ハ支那事變特別稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

明治四十四年六月十六日公布勅令第百八十六號砂糖、鹽、水、織物、揮發油、骨牌又ハ北支那作戰特別稅法ニ依リ砂糖、鹽、水、織物、揮發油、骨牌ノ數量又ハ北支那作戰特別稅法第二十條ニ揭クル物品ノ品名、數量及價格ヲ記載シタル書類ヲ稅關ニ提出スヘキ場合ニ於テハ之ヲ准用スルコトヲ得

支那事變特別稅法施行規則第六十八條第二項ノ規定ニ依ル檢査章ノ書式

（昭和十三年四月一日大藏省令第二十號）

書式（用紙厚質白紙竪二寸五分橫二寸五分）

第何號

何稅務署

官氏名

入場稅
特別入場稅ニ關スル檢査章

稅務署印

年　月　日交付

何稅務署

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮支那事變特別稅令

（昭和十三年三月三十一日制令第十二號）

第一條　當分ノ內本令ニ依リ所得稅、法人資本稅、砂糖消費稅及取引所稅ヲ增徵シ利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ヲ課ス

第二條　所得稅中法人ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ付テハ朝鮮臨時租稅增徵令第二條ノ規定ニ拘ラズ朝鮮所得稅令第三十三條ニ規定スル稅率百分ノ五ヲ百分ノ十二・二五、百分ノ八ヲ百分ノ十六・五トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

所得稅中法人ノ超過所得ニ對スル所得稅ニ付テハ朝鮮所得稅令第三十三條ニ規定スル稅率百分ノ四ヲ百分ノ四・四、百分ノ十ヲ百分ノ十一、百分ノ二十ヲ百分ノ二十二トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

所得稅中法人ノ清算所得ニ對スル所得稅ニ付テハ朝鮮臨時租稅增徵令第二條ノ規定ニ拘ラズ朝鮮所得稅令第三十三條ニ規定スル稅率百分ノ三ヲ百分ノ五・二、百分ノ八ヲ百分ノ十六・五トシタル場合ノ差

增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

第一項及第二項ノ規定ニ依ル普通所得及超過所得ニ對スル所得稅ノ增徵稅額ハ普通所得ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヨリ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅額（朝鮮所得稅令第三十四條ノ規定ニ依リ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ヲ含マズ）ト臨時利得稅額トノ合計金額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三條　所得稅中同族會社ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ニ付テハ朝鮮所得稅令第三十四條第一項ニ規定スル割合百分ノ六ヲ百分ノ七・五、百分ノ十ヲ百分ノ十三、百分ノ十五ヲ百分ノ十九、百分ノ二十ヲ百分ノ二十五、百分ノ二十五ヲ百分ノ三十二トシ計算シタル合計金額ノ普通所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ稅率トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

同族會社ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ハ普通所得ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヨリ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅額（朝鮮所得稅令第三十四條ノ規定ニ依リ普通所得ニ對スル加算スル稅額ヲ含マズ）、臨時利得稅額及前條ノ規定ニ依ル增徵稅額ノ合計金額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ殘額ヲ超エザル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ル增徵ニ因リ之ヲ超ユルニ至ルトキハ其ノ增徵稅額ニ付亦同ジ

第四條　所得稅中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ朝鮮所得稅令第三十五條第一項及朝鮮臨時租稅增徵令第四條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子

利率年四分以下ノモノ　百分ノ一

利率年四分ヲ超ユルモノ　百分ノ一・三

國債以外ノ公債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ　百分ノ二・二

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ　百分ノ二・六

社債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ　百分ノ三・三

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ　百分ノ三・九

其ノ他　百分ノ六・五

乙

第五條　所得稅中第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ朝鮮所得稅令第三十六條第一項ニ規定スル各稅率ヲ左ノ各稅率トシ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ殘額ヲ超エザル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ル增徵ニ因リ之ヲ超ユルニ至ルトキハ其ノ增徵稅額ニ付亦同ジ

二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ八・五
三萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十
五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十二
七萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十四
十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十六
二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十九
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十二
百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十四
二百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十七
三百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十九
四百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十二
四百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十四

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同ジ

第六條　第三種ノ所得ニ付所得金額決定後翌年所得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際所得額ガ決定所得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ所得金額ノ決定ニ付脫漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際所得額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第七條　法人資本稅ニ付テハ朝鮮法人資本稅令第十條第一項ニ規定スル稅率千分ノ一ヲ千分ノ一・二トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

第八條　砂糖消費稅ハ砂糖消費稅令第一條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依ル

一　砂糖

第一種　砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲　樽入黑糖

百斤ニ付　一圓五錢

乙　樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

百斤ニ付　一圓八十錢

丙　其ノ他ノモノ

百斤ニ付　二圓七十五錢

第二種　砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖

百斤ニ付　五圓五錢

第三種　砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖

百斤ニ付　六圓七十五錢

第四種　砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖

百斤ニ付　八圓二十五錢

第五種　氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ

百斤ニ付　十圓四十五錢

二　糖蜜

第一種　氷砂糖ヲ製造スルトキニ生ズル糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エザルモノ

百斤ニ付　二圓九十五錢

乙　其ノ他ノモノ

百斤ニ付　一圓五錢

第二種　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ五十ヲ超エザルモノ

百斤ニ付　五十錢

乙　其ノ他ノモノ

百斤ニ付　一圓三十錢

第三種　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エザルモノ

百斤ニ付　一圓五錢

乙　其ノ他ノモノ

百斤ニ付　二圓七十五錢

六圓七十五錢

三　糖水

百斤ニ付　八圓二十五錢

第九條　砂糖消費稅ニ付徵收ヲ猶豫シ得ル期間ハ砂糖消費稅令第三條第一項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ三月內トス

第十條　取引所稅中第二種有價證券ノ賣買取引ニ對スル取引稅ニ付テハ朝鮮取引所稅令第四條ニ規定スル稅率萬分ノ一・五ヲ萬分ノ二・二、萬分ノ二ヲ萬分ノ一・七トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

第十一條　利益配當稅ハ朝鮮ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

朝鮮所得稅令第二十條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ニハ利益配當稅ヲ課セズ

第十二條　利益配當稅ハ前條ノ法人ヨリ支拂ヲ受クル利益配當ニ付之ヲ賦課シ配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十三條　利益配當稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十四條　公債及社債利子稅ハ朝鮮ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

朝鮮所得稅令第二十條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子稅ヲ課セズ

第十五條　公債及社債利子稅ハ朝鮮ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債（朝鮮外貨債特別稅令第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク）ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十六條　公債及社債利子稅ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十七條　利益配當稅ヲ課セラルル利益配當又ハ公債及社債利子稅ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得稅（第一種所得稅ヲ除ク）又ハ資本利子稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

第十八條　通行稅ハ汽車、電車及汽船ノ乘客ニ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

五十杆未滿	
一等	六錢
二等	三錢
五十杆以上	
一等	十錢
二等	五錢
三等	二錢
百杆以上	
一等	三十錢
二等	十五錢
三等	五錢
百五十杆以上	
一等	六十錢
二等	三十錢
三等	十錢
二百杆以上	
一等	一圓二十錢
二等	六十錢
三等	二十錢
五百杆以上	
一等	一圓八十錢
二等	九十錢
三等	三十錢
八百杆以上	
一等	二圓四十錢
二等	一圓二十錢
三等	四十錢

回數乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

回數二十回以下ナルトキ	
前項稅額ノ五倍	
回數五十回以下ナルトキ	
前項稅額ノ十倍	
回數五十回ヲ超ユルトキ	
前項稅額ノ二十倍	

定期乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

契約期間一月內ナルトキ	
第一項稅額ノ五倍	
契約期間三月內ナルトキ	
第一項稅額ノ十倍	
契約期間六月內ナルトキ	
第一項稅額ノ二十倍	
契約期間六月ヲ超ユルトキ	
第一項稅額ノ三十倍	

團體乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

人員百人以下ナルトキ	
第一項稅額ノ五倍	
人員二百人以下ナルトキ	
第一項稅額ノ十倍	
人員二百人ヲ超ユルトキ	
第一項稅額ノ二十倍	

貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ

ハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

一等及二等　貸切運賃ノ百分ノ十

三等　貸切運賃ノ百分ノ五

前項ノ規定ニ依ル稅額ハ第一項稅額ニ乘客定員數ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第一項乃至第三項ニ規定スル通行稅ハ十二歲未滿ノ乘客ニ付テハ其ノ半額トス

第十九條　左ノ場合ニ於テハ通行稅ヲ課セズ

一　三等乘客ニシテ其ノ乘車船區間五十粁未滿ナルトキ

二　陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ朝鮮總督ノ定ムルモノナルトキ

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十八條第一項及前條第一號ノ乘車船區間ノ粁程ノ計算ハ朝鮮總督之ヲ定ム

一　往復乘車船又ハ廻遊乘車船ノ契約ヲ爲シタルトキ

二　陸接國境ヲ越ユル乘車ノ契約ヲ爲シタルトキ

第二十一條　汽車、電車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ第十八條第一項、第五項及第十九條第一號ノ等級ハ朝鮮總督之ヲ定ム

乘客定員數ノ定ナキ車船ニ付貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第十八條第六項ノ乘客定員數ニ付亦同ジ

第二十二條　通行稅ハ汽車、電車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者（以下運輸業者ト稱ス）運賃領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ

特別ノ事情アル運輸業者ニ付テハ前項ノ納期限ヘ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十三條　汽車、電車又ハ汽船ニ依ル運輸業者及運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者及運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第二十四條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム）ヲ催ス場所

二　競馬場

三　前二號ニ揭グルモノヲ除クノ外一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ觀覽ニ供スル場所ニシテ朝鮮總督ノ定ムルモノ

第二種

一　舞踏場、麻雀場、撞球場

二　ゴルフ場、スケート場

第二十六條　入場稅ハ入場料ノ百分ノ五トス

本令ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

前項ノ入場料ノ算定ニ關シテハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十七條　第一種ノ場所ノ入場料ガ一人一回三十九錢ニ滿タザル場合ニハ入場稅ヲ課セズ

前項ノ規定ハ回數、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十八條　第一種ノ催物（第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ）若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ガ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ入場料又ハ收益ノ總額ヲ慈善事業其ノ他朝鮮總督ノ定ムル目的ニ充ツル場合ニ於テハ入場稅ヲ免除ス

第二十九條　入場稅ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ常時開設ニ

非ザルモノニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外終了後直ニ政府ニ納ムベシ

第三十條　第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第三十一條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第三十二條　特別入場稅ハ運動競技ヲ爲スコトヲ業トセザル者ノ行フモノニ付觀覽ノ爲競技場ニ入場スル者ヨリ料金ヲ徵スル場合ニ於テ其ノ入場者ニ之ヲ課ス

第三十三條　特別入場稅ハ特別入場料ノ百分ノ五トス

本令ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ前條ノ競技場ニ入場スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

第二十六條第三項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第三十四條　特別入場料ガ一人一回三十九錢ニ滿タザル場合ニハ特別入場稅ヲ課セズ

第二十七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十五條　特別入場稅ハ運動競技ノ主催者特別入場料領收ノ際之ヲ徵收シ競技終了後直ニ政府ニ納ムベシ但シ朝鮮總督ノ定ムル場合ニ於テハ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第三十六條　第二十八條、第三十條及第三十一條ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第三十七條　物品稅ハ左ニ揭グル物品ニシテ朝鮮總督ノ定ムルモノニ之ヲ課ス

第一種

甲類

一　貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品

二　眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品

三　貴金屬製品又ハ金若ハ白金ヲ用ヒタル製品

四　鼈甲製品

五　珊瑚製品

乙類

六　時計

七　萬年筆、金ペン及シヤープペンシル

八　身邊用細貨類

九　化粧用具

十　喫煙用具

十一　帽子、杖、鞭及傘

十二　皮革製又ハ金屬製ノ鞄及トランク

十三　靴及履物

十四　書畫及骨董

十五　室內裝飾用品

十六　照明器具

十七　圍碁及將棋用具

十八　家具

十九　漆器、陶磁器及硝子製器具ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ

二十　貴金屬ヲ鍍シ又ハ張リタル製品ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ

二十一　毛皮又ハ毛皮製品

二十二　羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品

二十三　皮革製品ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ

二十四　メリヤス、レース、フェルト及同製品

第二種

甲類

一　寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品

二　寫眞用ノ乾板、フィルム及感光紙

三　蓄音器及同部分品

四　蓄音器用レコード

五　樂器、同部分品及附屬品

六　雙眼鏡及雙眼鏡
七　鉄及同部分品
八　藥莢及彈丸
九　ゴルフ用具、同部分品及附屬品
十　操縱用ノモーターボート、スカール及ヨット
十一　撞球用具
十二　ネオン管及同變壓器
十三　喫煙用ライター
乙類
十四　ラヂオ聽取機及同部分品
十五　受信用眞空管及擴聲器
十六　扇風機及同部分品
十七　暖房用ノ電氣、瓦斯又ハ石油ストーブ
十八　冷藏器及同部分品
十九　金庫及鋼鐵製家具
二十　乘用自動車
二十一　化粧品
第三種　　千本ニ付　五錢
一　煙草
二　酒類但シ濁酒、藥酒及醸造酒タル果實酒ヲ除ク

同一物品ニシテ第一種及第二種ニ該當スルモノハ之ヲ第二種トシ、甲類及乙類ニ該當スルモノハ之ヲ甲類トス

第三十八條　物品稅ノ稅率左ノ如シ

第一種　　物品ノ價格百分ノ十五
甲類　　物品ノ價格百分ノ十
乙類

第二種
甲類　　物品ノ價格百分ノ十五
乙類　　物品ノ價格百分ノ十
第三種　　千本ニ付　五錢
一　煙草
二　酒類　　千石ニ付　四圓
イ　清酒、黄酒、白酒、味淋及麥酒　一石ニ付　四圓
ロ　燒酎　一石ニ付　一圓七十錢
ハ　其ノ他ノ酒類　一石ニ付　六圓

第三十九條　前條ノ價格ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ搬出スル時ノ價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格トス

前項ノ價格及嗜寸ノ本數ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四十條　物品稅ハ第一種ノ物品ニ付テハ販賣セラレタル物品ノ價格ニ應ジ小賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ搬出セラレタル物品ノ價格ニ應ジ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル第一種ノ輸入物品及第二種又ハ第三種ノ輸移入物品ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第四十一條　物品稅ハ第一種第十四號ニ揭グル物品ニ付テハ其ノ物品ガ入札其ノ他競爭ノ方法ニ依リ賣買セラルル場合ニシテ朝鮮總督ノ定ムル場合ニ限リ之ヲ課ス前項ノ場合ニ於テハ其ノ札元又ハ之ニ準ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物品ヲ販賣スルモノト看做ス

第四十二條　製造場以外ノ場所ニ於テ販賣ノ爲化粧品ヲ容器ニ充塡シ又ハ改裝スルトキハ之ヲ化粧品ノ製造ト看做ス

第四十三條　酒類ヲ製造場內ニ於テ飲用シタルトキハ之ヲ製造場ヨリ搬出シタルモノト看做ス

第四十四條　第一種ノ物品ノ小賣業者ハ每月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品名每ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ノ製造者ハ每月其ノ製造場ヨリ搬出シタル物品ニ付其ノ品名每ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第三種ノ物品ノ製造者ハ每月其ノ製造場ヨリ搬出シタル物品ニ付其ノ品名每ニ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ

第一種ノ輸入物品及第二種又ハ第三種ノ輸移入物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ其ノ

課稅標準額ヲ決定ス

第四十五條　小賣業者ガ其ノ販賣シタル第一種ノ物品ノ返還ヲ受ケタル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ課稅標準額ヨリ其ノ物品ノ價格ヲ控除ス製造場ヨリ搬出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シタル場合亦同ジ

製造場ヨリ搬出シタル第三種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シ又ハ酒類ヲ製造場外ヨリ搬入シタル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨリ搬出スルモ更ニ物品稅ノ徵收ヲ爲サズ

第四十六條　物品稅ハ每月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第四十條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付物品稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ一月內物品稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十七條　朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ搬入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種ノ物品又ハ嗜寸ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ場合ニ於テハ搬出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ搬出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間內ニ搬出先又ハ引取先ニ搬入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ甲類トス

第四十八條　朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ搬出シタル第二種ノ物品ニシテ第一項ノ指定シタル期間內ニ引取ラルルコトノ證明ナキモノニ付テハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ滅失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ物品稅ヲ免除ス

第四十九條　朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ搬出シタル第二種ノ物品ニシテ第一項ノ指定シタル期間內ニ搬出先若ハ引取先ニ搬入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ其ノ用途ヲ變更セラレタルモノニ付テハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ滅失シタルモノニ付テハ物品稅ヲ免除ス

第五十條　第一種ノ物品ノ小賣業又ハ製造又ハ第二種ノ物品ノ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第五十一條　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第五十二條　第十三條、第十六條、第二十二條、第二十九條又ハ第三十五條ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第五十三條　稅務官吏ハ通行稅ニ付運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

稅務官吏ハ入場稅ニ付第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

第五十條　第一種ノ物品ノ小賣業又ハ製造又ハ第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造ヲ廢止セントスル者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ揭グル物件ニ付檢

前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

稅務官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ揭グル物件ニ付檢

査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ

二　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

第五十四條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收スル但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第五十五條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル者ハ其ノ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第五十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者

二　第四十四條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ノ消費稅ニ付テハ第九條ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督ハ特別ノ徵收猶豫期間ヲ定ムルコトヲ得

第六十五條　本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ二萬斤ヲ超ユル數量ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本令施行ノ日ニ之ヲ製造場ヨリ引取リタルモノト看做シ砂糖消費稅ヲ課スル此ノ場合ニ於テハ二萬斤ヲ超ユル數量ニ付第八條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額ト砂糖消費稅令第一條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トシ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ノ所持者ハ其ノ所持スル砂糖又ハ糖蜜ノ種別、數量及貯藏ノ場所ヲ本令施行後一月內ニ政府ニ申告スベシ

第六十六條　昭和十三年八月十一日以前ニ受クル利益ノ配當及支拂期ガ昭和十三年八月十一日以前ニ在ル公債又ハ社債ノ利子ニ對シテハ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ニ關スル規定ヲ適用セズ

第六十七條　本令施行前ヨリ引續キ汽車、電車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告セラレタルモノト看做ス

第六十八條　第三十七條ニ揭グル第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ二萬斤ヲ超ユル數量ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第五十七條　本令施行前ヨリ引續キ第二十五條ニ規定スル第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營スル者、同第二種ノ場所ヲ經營スル者又ハ運動競技ヲ開催スル者本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

本令施行前ヨリ引續キ第二十五條ニ規定スル第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營スル者、同第二種ノ場所ヲ經營スル者又ハ運動競技ヲ開催スル者本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

本令施行前ヨリ引續キ第二十五條ニ規定スル第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營スル者、同第二種ノ場所ヲ經營スル者又ハ運動競技ヲ開催スル者本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

本令施行前ヨリ引續キ第二十五條ニ規定スル第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營スル者、同第二種ノ場所ヲ經營スル者又ハ運動競技ヲ開催スル者本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第二種ノ物品若ハ嬙寸ノ製造ヲ爲ス者又ハ同第二種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第十九條　朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ揭グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同令ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノハ第五十條前段ノ申告ヲ要セズ

第六十八條　第三十七條ニ揭グル第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ二萬斤ヲ超ユル數量ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第六十四條　昭和十三年六月三十日迄ニ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ノ消費稅ニ付テハ第九條ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督ハ特別ノ徵收猶豫期間ヲ定ムルコトヲ得

第六十五條　本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ二萬斤ヲ超ユル數量ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做シ砂糖消費稅ヲ課スル此ノ場合ニ於テハ二萬斤ヲ超ユル數量ニ付第八條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額ト砂糖消費稅令第一條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トシ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ノ所持者ハ其ノ所持スル砂糖又ハ糖蜜ノ種別、數量及貯藏ノ場所ヲ本令施行後一月內ニ政府ニ申告スベシ

第六十六條　昭和十三年八月十一日以前ニ受クル利益ノ配當及支拂期ガ昭和十三年八月十一日以前ニ在ル公債又ハ社債ノ利子ニ對シテハ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ニ關スル規定ヲ適用セズ

第六十七條　本令施行前ヨリ引續キ汽車、電車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依

小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品若ハ嬙寸ヲ製造シタル者

第五十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第二十四條第一項、第三十一條第一項又ハ第五十一條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二　第二十四條第二項、第三十一條第二項又ハ第五十一條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　第五十三條第一項、第二項又ハ第四項ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第五十八條　大正元年制令第四號第二條ノ規定ハ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ付之ヲ準用ス

第五十九條　道、府邑面其ノ他ノ公共團體ハ本令ニ依リ增額ト爲ル部分ヲ含マズ)又ハ本令ニ依リ課スル利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附　則

第六十條　本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十一條　所得稅中第一種ノ所得稅ニ付テハ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅ハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分、清算所得ニ對スル所得稅ハ昭和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第六條ノ規定ハ昭和十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

法人ノ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル各事業年度分ノ所得ニ對スル所得稅、昭和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得稅及支拂期ノ昭和十三年四月一日以後ニ在ル貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅ニ付テハ北支事件特別稅中ノ第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ之ヲ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シ朝鮮所得稅令第三十三條第二項乃至第四項又ハ第三十五條第二項及第三項ノ規定ヲ適用ス

第六十二條　法人ノ昭和十三年八月十一日迄ニ終了スル各事業年度分ノ普通所得及超過所得ニ對スル所得特別稅額ハ當該所得ニ付第二條及第三條ノ規定ニ依リ算出シタル增徵稅額ヨリ之ヲ控除ス

支拂期ノ昭和十三年八月十一日以前ニ在ル第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得特別稅額ハ當該所得ニ付第四條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ之ヲ控除ス

第六十三條　法人資本稅ニ付テハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本令ヲ適用ス

朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品稅ヲ徵收ス

前項ノ規定ハ同第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ二萬斤ヲ超ユル數量ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

前二項ノ製造者又ハ販賣者ハ第二種ノ物品ニ付テハ其ノ品名每ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名每ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本令施行後一月內ニ政府ニ申告スベシ

第六十九條　朝鮮間接國稅犯則者處分令第二條中「揮發油ノ揮發油稅」ノ下ニ「、朝鮮支那事變特別稅令第三十七條ニ揭グル物品ノ物品稅」ヲ加フ

第七十條　大正八年制令第十一號第一條及第二條中「朝鮮揮發油稅令」ノ下ニ「、朝鮮支那事變特別稅令」ヲ加フ

同令第三條中「朝鮮揮發油稅令」ノ下ニ「、朝鮮支那事變特別稅令」ヲ、「揮發油稅」ノ下ニ「、物品稅」ヲ、「若ハ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ揭グル物品」ノ上ニ「、朝鮮支那事變特別稅令第十九條ニ揭グル物品」ノ上ニ「朝鮮支那事變特別稅令第三十七條ニ揭グル物品」ヲ、「又ハ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ揭グル第二種ノ物品」ノ上ニ「、朝鮮支那事變特別稅令第三十七條ニ揭グル物品(第一號乃至第五號ニ揭グル物品ヲ除ク)ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第七十一條　朝鮮出港稅令第一條第一號中「砂糖、糖水、」ヲ削リ「及北支事件特別稅

法第二十條ニ揭クル物品竝」ヲ「、朝鮮支那事變特別稅令第三十七條ニ揭クル物品ニシテ朝鮮總督ノ指定シタルモノ及」ニ改メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

四　朝鮮ニ於テ砂糖又ハ糖水ヲ原料トシテ製造シタル菓子又ハ糖果

同令第二條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

四　前條第四號ノ物品ニ在リテハ含有蔗糖百斤ニ付七圓十錢ノ稅率

第七十二條　朝鮮臨時租稅增徵令第十五條ハ之ヲ削除ス

第七十三條　本令ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

（參照）

大正三年八月二十一日制令第二十四號朝鮮間接國稅犯則者處分令抄錄

第二條　輸入又ハ移入ノ酒類ノ酒稅、砂糖、糖蜜及糖水ノ消費稅、骨牌ノ骨牌稅、清涼飲料ノ清涼飲料稅、揮發油ノ揮發油稅竝ニ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ揭グル物品ノ物品特別稅ニ關スル犯則事件ニ付テハ間接國稅犯則者處分法中收稅官吏ニ關スル職務ハ稅關官吏、稅務署長ニ關スル職務ハ稅關長之ヲ行フコトヲ得

大正八年四月二十八日制令第十一號酒稅、砂糖消費稅ノ徵收ニ關スル件抄錄

第一條　酒稅令、砂糖消費稅令、朝鮮骨牌稅令、朝鮮清涼飲料稅令、朝鮮揮發油稅令又ハ朝鮮北支事件特別稅令ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

第二條　關稅法第三十九條ノ規定ニ依ル運送ハ酒稅令、砂糖消費稅令、朝鮮骨牌稅令、朝鮮清涼飲料稅令、朝鮮揮發油稅令又ハ朝鮮北支事件特別稅令ノ引取ト看做サス但シ其ノ運送ニ付必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條　酒稅令、砂糖消費稅令、朝鮮骨牌稅令、朝鮮清涼飲料稅令、朝鮮揮發油稅令又ハ朝鮮北支事件特別稅令ニ依リ稅金ヲ徵收スル場合ノ外左ニ揭クル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ關稅若ハ移入稅ノ納付義務者、移入者、運送申告者又ハ郵便物ノ名宛人ヨリ酒稅、砂糖消費稅、骨牌稅、清涼飲料稅、揮發油又ハ物品特別稅ヲ徵收ス

一　酒類、砂糖、糖蜜、糖水、骨牌、揮發油若ハ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ揭クル物品ニ付關稅ヲ徵收シ又ハ酒類ニ付移入稅ヲ徵收スルトキ

二　保稅地域以外ノ地域ニ砂糖、糖蜜、糖水、骨牌、清涼飲料、揮發油又ハ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ揭クル第二種ノ物品ヲ移入シタルトキ但シ大正十二年制令第六號第十二條ノ規定ニ依リ保稅地域ニ運送ノ認許ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　大正十二年制令第六號第十二條ノ規定ニ依リ保稅地域又ハ保稅地域間ニ運送ノ認許又ハ免許ヲ受ケタル砂糖、糖蜜、糖水、骨牌、清涼飲料、揮發油又ハ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ揭クル第二種ノ物品カ相當ノ期間內ニ運送先ニ到達セサルトキ但シ災害ニ因リ滅失シ又ハ稅關ノ認許ヲ得テ滅却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四　郵便ニ依リ移入スル砂糖、糖蜜、糖水、骨牌、清涼飲料又ハ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ揭クル第二種ノ物品ヲ名宛人ニ交付スルトキ

大正九年八月二十六日制令第二十一號朝鮮出港稅令抄錄

第一條　朝鮮ヨリ內地、臺灣又ハ樺太ニ移出スル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ出港稅ヲ課ス

一　移出先ニ於テ內國稅ヲ課スル物品但シ砂糖、糖水、揮發油及北支事件特別稅法第二十條ニ揭クル物品ガ移出先ニ輸入スル場合ニ內國稅ヲ課セサル物品ニシテ朝鮮ニ輸入シタルモノヲ除ク

第二條第一項

出港稅ノ稅率ハ左ノ區分ニ依ル

（左記略ス）

昭和十二年三月三十一日制令第二號朝鮮臨時租稅增徵令抄錄

第十五條　移出ノ砂糖又ハ糖水ニハ朝鮮出港稅令第一條第一號但書ノ規定ニ拘ラズ其ノ移出先ニ於ケル內國稅ノ稅率ト同一ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

朝鮮ニ於テ砂糖又ハ糖水ヲ原料トシテ製造シタル菓子又ハ糖果ヲ移出スルトキハ含有蔗糖ニ百斤ニ付六圓五十錢ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

朝鮮支那事變特別稅令施行規則

（昭和十三年三月三十一日朝鮮總督府令第五十七號）

第一條　稅務署長朝鮮支那事變特別稅令第六條第一項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二條　朝鮮支那事變特別稅令第六條第二項ノ規定ニ依リ收入金額ヨリ控除スベキ

經費ハ仕入品原料品ノ原價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第三條　朝鮮支那事變特別稅令第十三條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ配當金又ハ利子金額ノ支拂者利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ第一號書式ノ拂込書又ハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則第八號書式ノ納付書ニ第三號書式又ハ第四號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行代理店又ハ國庫金ヲ取扱フ遞信官署ニ拂込ムベシ

第四條　日本銀行代理店又ハ國庫金ヲ取扱フ遞信官署ニ於テ前條ノ規定ニ依リ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式又ハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則第八號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ第二號書式又ハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則第八號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官ニ送付スベシ

第五條　第三條ノ規定ニ依リ拂込ヲ爲シタル利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ニ付過誤納アリタル爲之ガ下戾ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ配當金、利子等ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スベシ

第六條　朝鮮支那事變特別稅令第十九條第二號ノ規定ニ依リ陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ通行稅ヲ課セザルモノヲ定ムルコト左ノ如シ

一　鐵道軍事供用令ニ依ル乘車

二　軍事上ノ必要ニ依リ貸切ノ契約ニテ爲ス乘船

第七條　朝鮮支那事變特別稅令第二十條ノ規定ニ依ル粁程ノ計算ハ左ノ如シ

一　往復乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ粁程ハ往復各別ニ之ヲ計算ス

二　廻遊乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ粁程ハ各區間每ニ之ヲ計算ス

三　陸接國境ヲ超ユル乘車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車區間ノ粁程ハ全粁程ヨリ外國（關東州ヲ含マズ）ニ於ケル粁程ヲ控除シタル粁程ニ依リ之ヲ計算ス

第八條　汽車、電車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ朝鮮支那事變特別稅令第十八條第一項及第五項及第十九條第一號ノ等級ハ等級ヲ分タザルモノニ在リテハ三等、二等級ニ分チタルモノニ在リテハ二等及三等、一等ノ上又ハ三等ノ下ニ更ニ等級ヲ設ケタルモノニ在リテハ一等ノ上ノ等級ハ一等、三等ノ下ノ等級ハ三等トス

第九條　乘客定員數ノ定ナキ車船ニ付貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ朝鮮支那事變特別稅令第十八條第六項ノ乘客定員數ハ運賃計算ノ基準トナリタル人員數トス

第十條　朝鮮支那事變特別稅令第二十二條第一項ノ納期限ハ朝鮮總督府鐵道局ニ付テハ翌月二十日トス

第十一條　朝鮮支那事變特別稅令第二十二條第一項ノ運輸業者（以下運輸業者ト稱ス）通行稅ヲ徵收シタルトキハ每月分ヲ取纏メ納期限迄ニ第一號書式ノ拂込書又ハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則第八號書式ノ納付書ニ第五號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ各營業所最寄ノ日本銀行代理店又ハ國庫金ヲ取扱フ遞信官署ニ拂込ムベシ但シ運輸業者ハ本店（朝鮮ニ本店ナキモノニ在リテハ朝鮮ニ於ケル主タル營業所）及營業所所在地所轄稅務署長ニ申告シテ之ヲ本店（朝鮮ニ本店ナキモノニ在リテハ朝鮮ニ於ケル主タル營業所）最寄ノ日本銀行代理店又ハ國庫金ヲ取扱フ遞信官署ニ拂込ムコトヲ得

前項ノ計算書ハ朝鮮總督府鐵道局ニ在リテハ其ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第十二條　日本銀行代理店又ハ國庫金ヲ取扱フ遞信官署ニ於テ前條ノ規定ニ依リ通行稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式又ハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則第

八號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ第二號書式又ハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則第八號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官ニ送付スベシ

第十三條　汽車、電車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ營業所所轄稅務署長ニ提出スベシ

一　住所及氏名又ハ名稱

二　營業所ノ所在地及其ノ名稱

三　運輸業ノ種類（汽車、電車又ハ汽船ニ依ル運輸業ノ區別）

四　線路又ハ航路ノ名稱、起終點ノ地名及軌程

五　汽車、電車又ハ汽船ノ等級區分

六　乘車船券ノ種類

第十四條　運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣セントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱、營業所ノ所在地並ニ運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ營業所所轄稅務署長ニ提出スベシ

第十五條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ業ヲ相續シタル者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ營業所所轄稅務署長ニ申告スベシ

運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ遲滯ナク其ノ旨ヲ營業所所轄稅務署長ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ運輸業又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ノ販賣ヲ爲ス業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ營業所所轄稅務署長ニ申告スベシ

第十六條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者其ノ業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ營業所所轄稅務署長ニ申告スベシ

第十七條　稅務署長必要アリト認ムルトキハ運輸業者ニ左ノ事項ヲ申告セシムルコトヲ得

一　停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及其ノ所在地

二　停車場、停留所又ハ乘船場間ノ軒程

三　運賃ヲ軒制ニ依リ定メタルトキハ其ノ軒運賃

四　回數、定期、團體、貸切ノ乘車船ニ付特別ノ運賃ヲ定メタルトキハ其ノ運賃

五　運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ其ノ營業所ノ所在地

六　連帶運輸ヲ爲ス運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ連帶運輸ヲ爲ス線路若ハ航路ノ名稱、其ノ停車場、停留所又ハ乘船場間ノ軒程

第十八條　第十三條、第十四條及前條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度遲滯ナク所轄稅務署長ニ申告スベシ

第十九條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　通行稅ヲ課セラレタル者ニ付稅率ノ區別ニ從ヒ其ノ人員數及稅額

二　朝鮮支那事變特別稅令第十九條各號ノ規定ニ依リ通行稅ヲ課セラレザル者ニ付同條各號ノ區別ニ從ヒ其ノ人員數

第二十條　第十三條乃至前條ノ規定ハ朝鮮總督府鐵道局ニハ之ヲ適用セズ

第二十一條　朝鮮支那事變特別稅令第二十五條第一種第三號ノ規定ニ依リ入場稅ヲ課スベキ場所ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　博覽會場

二　展覽會場

三　遊園地及遊覽所

第二十二條　朝鮮支那事變特別稅令第二十五條ニ掲グル第一種ノ場所（以下第一種ノ場所ト稱ス）ノ入場料ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス

一　入場スル爲ニ支拂フベキ通常料金額但シ特別入場券ニ依リ通常料金額以下ノ料金ニテ入場セシムル場合ハ其ノ料金額

二　前號ノ料金額ハ觀覽料、席席料、仲

錢、下足料、敷物料其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ入場スル爲ニ支拂フベキ金額ニ依ル

朝鮮支那事變特別稅令第二十五條ニ掲グル第二種ノ場所（以下第二種ノ場所ト稱ス）ノ入場料ハ舞踏料、競技料、會費其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ニ依ル

第二十三條　第一種ノ催物（第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ）若ハ設備ノ主催者若ハ經營者ハ入場料領收ノ際入場券ヲ發行スベシ但シ稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條　入場料又ハ收益ノ總額ヲ左ノ目的ニ充ツル場合ニ於テハ朝鮮支那事變特別稅令第二十八條ノ規定ニ依リ入場稅ヲ免除ス

一　事變ノ爲傷痍又ハ疾病ヲ受ケタル軍人及軍屬竝ニ從軍シタル軍人及軍屬ノ家族（遺族ヲ含ム）ノ慰問其ノ他ノ軍事援護

二　兵器、艦船其ノ他國防費ノ獻納

三　陸海軍人ノ慰恤

第二十五條　朝鮮支那事變特別稅令第二十八條ノ規定ニ依リ入場稅ヲ免除スベキ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ其ノ七日前ニ左ノ事項ヲ具シ第一種ノ場所又ハ第二種ノ場所ノ所轄稅務署長ニ申請シ承認ヲ受クベシ

一　期間

二　入場料又ハ收益ノ總額ヲ支出スベキ事業又ハ目的

三　入場料

四　收入支出ノ概算

前項ノ承認ヲ受ケタル者其ノ開催若ハ經營ヲ終了シタルトキハ直ニ證憑書類ヲ添ヘ收入支出ノ計算書ヲ提出スベシ

第二十六條　朝鮮支那事變特別稅令第二十八條ニ規定スル收益ノ總額トハ入場料總額ヨリ其ノ入場料ヲ得ルニ直接必要ナル經費ノミヲ控除シタル金額ニ依ル

第二十七條　朝鮮支那事變特別稅令第二十九條ノ規定ニ依リ第一種ノ催物若ハ第二種ノ場所ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ第一號書式ノ拂込書又ハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則第八號書式ノ納付書ニ第六號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行代理店又ハ國庫金ヲ取扱フ遞信官署ニ拂込ムベシ但シ常時開設ニ非ザルモノニ付テハ左ニ掲グル場合ヲ除ク外終了後直ニ之ヲ拂込ムベシ

一　主催又ハ經營ノ期間ガ一月以上ニ亙ル場合

二　開催期日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第二十八條　日本銀行代理店又ハ國庫金ヲ取扱フ遞信官署ニ於テ前條ノ規定ニ依リ入場稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式又ハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則第八號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ第二號書式又ハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則第八號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官ニ送付スベシ

第二十九條　第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ每場所ニ付左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ豫メ所轄稅務署長ニ提出スベシ

一　主催者又ハ經營者ノ住所及氏名又ハ名稱

二　第一種ノ場所又ハ第二種ノ場所ノ所在地及其ノ名稱

三　催物又ハ設備ノ種類

四　各等級別觀客定員數及各等級每ノ一人當料金但シ第二種ノ場所ニ在リテハ一競技又ハ一回當ノ料金

五　入場券發賣ノ方法

六　設備ノ概要

七　開催又ハ開設年月日及期間

第三十條　第一種ノ催物若ハ設備ノ開催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ相續シタル者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ申告スベシ

第一種ノ催物若ハ設備ノ開催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ讓受ケタル者ハ

譲渡人ト連署シテ遲滯ナク其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種ノ催物若ハ設備ノ開催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ申告スベシ

第三十一條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ニシテ常時開設スル者ニ在リテハ其ノ催物又ハ經營ヲ一月以上休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署長ニ申告スベシ再開セントスルトキ亦同ジ

第三十二條　第一種ノ催物若ハ設備ノ開催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營場所ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ申告スベシ

第三十三條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者第二十九條及第三十一條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度遲滯ナク所轄稅務署長ニ申告スベシ

第三十四條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ但シ第一種ノ場所ニ在リテハ各等級別ニ、第二種ノ場所ニ在リテハ回數別ニ之ヲ記載スベシ

一　入場シタル人員

二　入場券ノ受入及拂出

三　入場料ノ總額

四　入場稅額

五　前各號ノ外必要ナル事項

第三十五條　朝鮮支那事變特別稅令第三十五條ノ規定ニ依リ運動競技ノ主催者特別入場稅ヲ徵收シタルトキハ競技終了後直ニ第一號書式ノ拂込書又ハ朝鮮總督府選信官署現金受拂規則第八號書式ノ納付書ニ第六號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行代理店又ハ國庫金ヲ取扱フ選信官署ニ拂込ムベシ但シ左ニ揭グル場合ハ翌月十日迄ニ之ヲ拂込ムベシ

一　競技開催ノ期間ガ一月以上ニ亙ル場合

二　開催期間一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十六條　第二十二條第一項、第二十三條乃至第二十六條、第二十九條、第三十條及第三十二條乃至第三十四條ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第三十七條　朝鮮支那事變特別稅令第三十七條ノ規定ニ依リ物品稅ヲ課スベキ物品ハ別表第一號ニ依ル

別表ニ於テ貴金屬トハ金、銀、白金及此等ヲ主タル材料トスル合金ヲ謂ヒ金及白金ニハ此等ヲ主タル材料トスル合金ヲ含ム

別表ニ於テ貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ヲ用ヒタル製品トハ其ノ用ヒタル貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ノ價格（二種以上ソモノヲ用ヒタルモノニ付テハ其ノ價格ヲ合算ス）ガ三圓以上ノモノヲ謂フ

別表ノ寫眞用フィルムニ中移入ノ撮影濟映畫用フィルムニハ物品稅ヲ課セズ

第三十八條　朝鮮支那事變特別稅令第四十一條第一項ノ規定ニ依リ同令第三十七條ニ揭グル第一種ノ物品中第十四號ニ揭グルモノニ付物品稅ヲ課スベキ場合ハ一回ノ賣買總金額ガ一萬圓ヲ超ユル場合ニ限ル但シ强制競賣ノ場合ハ物品稅ヲ課セズ

第三十九條　朝鮮支那事變特別稅令第三十七條ニ揭グル第一種ノ物品（以下第一種物品ト稱ス）ノ小賣業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所ノ所在地ヲ所轄稅務署長ニ提出スベシ

一　住所及氏名又ハ名稱

二　販賣場ノ位置

三　販賣スベキ物品

第四十條　朝鮮支那事變特別稅令第三十七條ニ揭グル第一種ノ物品（以下第二種物品ト稱ス）ノ製造業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所ノ所在地ヲ所轄稅務署長ニ提出スベシ

一　住所及氏名又ハ名稱

二　製造場ノ位置

三　製造スベキ物品

第四十一條　第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ相續シタル者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ申告スベシ

第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ遲滯ナク其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ申告スベシ

第四十二條　第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品若ハ燐寸ノ製造者一月以上販賣ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署長ニ申告スベシ

第四十三條　第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品若ハ燐寸ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ申告スベシ

第四十四條　第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品若ハ燐寸ノ製造者ハ燐寸ノ製造者ヲ販賣場又ハ製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第三十九條又ハ第四十條及前條ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

第四十五條　稅務署長必要ト認ムルトキハ第二種物品又ハ燐寸ノ製造者ニ製造場ノ製造用ノ機械器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第四十六條　第三十九條、第四十條及第四十一條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ依リ提出シタル國面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度遲滯ナク所轄稅務署長ニ申告スベシ

第四十七條　通常容器ト共ニ販賣セラレ又ハ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出セラルル第一種物品又ハ第二種物品ノ價格ハ其ノ容器ノ價格ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十八條　保稅地域ヨリ引取ラルル第一種物品又ハ第二種物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノノ價格ハ輸入物品ニ付テハ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ニ當該物品ニ課セラルベキ關稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額ニ、移入物品ニ付テハ移入ノ際ニ於ケル到著價格ニ依ル

第四十九條　燐寸ノ本數ハ軸木ノ箇數ニ依ル但シ二箇以上ノ點火裝置ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ點火裝置ノ箇數ニ依ル

第五十條　第一種物品ノ販賣者又ハ製造者ガ第一種物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ハ之ヲ徵收セズ

前項ノ場合ニ於テハ販賣場又ハ製造場所轄稅務署長ヨリ交付ヲ受ケタル販賣者又ハ製造者タルコトヲ證明スベキ書類ヲ所轄稅關長（稅關支署長及稅關出張所長ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ提出スベシ

第一項ノ場合ニ於テハ朝鮮支那事變特別稅令第四十四條第二項ノ規定ニ依ル申告書ノ提出ヲ要セズ

第五十一條　物品稅ノ免除ヲ受ケズシテ輸移出シタル物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ハ之ヲ徵收セズ

前項ノ場合ニ於テハ當該物品ガ物品稅ノ免除ヲ受ケタルモノニ非ザルコトヲ證明スベキ書類ヲ所轄稅關長ニ提出スベシ

前條第三項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第五十二條　朝鮮支那事變特別稅令第四十四條ノ規定ニ依ル申告書ハ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ申告書ノ提出ナキトキ又ハ稅務署長若ハ稅關長其ノ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ稅務署長又ハ稅關長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スベシ

第五十三條　第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品ノ製造者ガ返還ヲ受ケ又ハ戻入シタル物品ニ付朝鮮支那事變特別稅令第四十五條但シ二箇以上ノ點火裝置ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ點火裝置ノ箇數ニ依ル

品ト稱ス）又ハ燐寸ヲ製造セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄稅務署長ニ提出スベシ

一　住所及氏名又ハ名稱

二　製造場ノ位置

三　製造スベキ物品

第四十一條　第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ相續シタル者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ申告スベシ

第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ遲滯ナク其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ申告スベシ

第四十二條　第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品若ハ燐寸ノ製造者一月以上販賣ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署長ニ申告スベシ

第四十三條　第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品若ハ燐寸ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ申告スベシ

第四十四條　第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品若ハ燐寸ノ製造者ハ燐寸ノ製造者ヲ販賣場又ハ製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第三十九條又ハ第四十條及前條ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

第四十五條　稅務署長必要ト認ムルトキハ第二種物品又ハ燐寸ノ製造者ニ製造場ノ製造用ノ機械器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第四十六條　第三十九條、第四十條及第四十一條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ依リ提出シタル國面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度遲滯ナク所轄稅務署長ニ申告スベシ

第四十七條　通常容器ト共ニ販賣セラレ又ハ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出セラルル第一種物品又ハ第二種物品ノ價格ハ其ノ容器ノ價格ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十八條　保稅地域ヨリ引取ラルル第一種物品又ハ第二種物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノノ價格ハ輸入物品ニ付テハ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ニ當該物品ニ課セラルベキ關稅ニ相當スル金額ニ、移入物品ニ付テハ移入ノ際ニ於ケル到著價格ニ依ル

第四十九條　燐寸ノ本數ハ軸木ノ箇數ニ依ル但シ二箇以上ノ點火裝置ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ點火裝置ノ箇數ニ依ル

スルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及第一種物品ニ付テハ返還、第二種物品ニ付テハ戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量及價格ニ付所轄稅務署長ノ承認ヲ受クベシ

第五十四條　朝鮮支那事變特別稅令第三十七條ニ揭グル第三種ノ物品（以下第三種物品ト稱ス）ノ製造者戻入又ハ搬入シタル物品ニ付同令第四十五條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及戻入又ハ搬入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名及數量ニ付所轄稅務署長ノ承認ヲ受クベシ

第五十五條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

擔保トシテ登錄國債ヲ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ倘記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ

擔保トシテ提供シタル國債ノ償還ヲ受ケ

ルニ至リタルトキハ稅務署長又ハ稅關長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

第五十六條　朝鮮支那事變特別稅令第四十六條第二項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第五十七條　朝鮮支那事變特別稅令第四十七條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品又ハ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル第二種物品ヲ搬出先若ハ引取先ニ搬入シタルトキハ之ヲ還付ス

第五十八條　前條ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル第二種物品又ハ燃料ヲ搬出先又ハ引取先ニ搬入シタルトキハ前條ノ稅務署長又ハ稅關長ニ申請シテ其ノ承認ヲ受ケタル物品ヲ搬出先若ハ引取先ニ搬入シタル者ハ豫メ其ノ旨ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ申告スベシ

第五十九條　前條ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル第二種物品ヲ搬出先又ハ引取先ニ搬入シタルトキハ前條ノ稅務署長又ハ稅關長ニ申請シテ其ノ承認ヲ受ケタル物品ヲ搬出先若ハ引取先ニ搬入シタル者ハ豫メ其ノ旨ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ申告スベシ

第六十條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第六十一條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第六十二條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第六十三條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第六十四條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第六十五條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第六十六條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第六十七條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第六十八條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第六十九條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第七十條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第七十一條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第七十二條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第七十三條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第七十四條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第七十五條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第七十六條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第七十七條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第七十八條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第七十九條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第八十條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第八十一條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第八十二條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第八十三條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第八十四條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第八十五條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第八十六條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第八十七條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第八十八條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第八十九條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第九十條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第九十一條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第九十二條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第九十三條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第九十四條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第九十五條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第九十六條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第九十七條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第九十八條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第九十九條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第百條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品ノ製造場ヨリ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

物品ヲ搬出先若ハ引取先ニ搬入シ又ハ第二種物品ノ製造ノ用ニ供シタルトキハ前條ノ稅務署長又ハ稅關長及搬出先又ハ引取先ノ所轄稅務署長ニ其ノ旨ヲ申告スベシ

第六十一條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第六十二條　朝鮮支那事變特別稅令第四十八條第一項第一號及第三號ノ規定ニ依リ物品稅ヲ免除ヲ受ケタル物品ニ付其ノ用途ヲ變更セントスルトキハ豫メ第五十九條ノ稅務署長又ハ稅關長ノ承認ヲ受クベシ

第六十三條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號及第三號ノ規定ニ依リ物品稅ヲ免除スル物品ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　輸出ノ第一種物品、第二種物品又ハ鱗寸及輸移出ノ酒類

二　醫療用ニ供スルモノ但シ第三種物品ヲ除ク

三　機械用又ハ工業用ニ供スルモノ但シ第三種物品ヲ除ク

四　神社、寺院、祠宇、佛堂、教會所及說教所ニ於テ式典用又ハ禮拜用ニ供スルモノ但シ第三種物品ヲ除ク

五　教育用ニ供スルモノ但シ中等學校又ハ初等學校ニ於テ使用スル寫眞機、映寫機、寫眞用フイルム、蓄音器、蓄音器用、レコード、ピアノ、オルガン、樂器、三絃、ラヂオ聽取機及擴聲器ニ限ル

六　軍用ニ供スルモノ但シ陸海軍ノ購入ニ係ル皮革製又ハ金屬製ノ鞄及トラン

ク、靴、毛皮、毛皮製品、皮革製品（第一種第二十三號ニ該當スルモノ）、メリヤス、メリヤス製品、寫眞機、寫眞機部分品、寫眞用乾板、寫眞用フイルム、寫眞用感光紙、雙眼鏡、隻眼鏡、銃、銃部分品、藥莢及彈丸ニ限ル

七　通信用ニ供スルモノ但シ無線電信又ハ無線電話（放送無線電話ヲ除ク）ノ用ニ供スルラヂオ聽取機及受信用眞空管ニ限ル

第六十三條　第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品若ハ第三種物品ノ製造者若ハ引取人朝鮮支那事變特別稅令第四十九條及前條ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ第一種物品ヲ引渡シ又ハ第二種物品若ハ第三種物品ヲ製造場ヨリ搬出シ若ハ保稅地域ヨリ引取ル際豫メ其ノ旨ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ申請シテ其ノ承認ヲ受クベシ

第六十四條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第六十五條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第六十六條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第六十七條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第六十八條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第六十九條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第七十條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第七十一條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第七十二條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第七十三條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第七十四條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第七十五條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第七十六條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第七十七條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第七十八條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第七十九條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第八十條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第八十一條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第八十二條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第八十三條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第八十四條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第八十五條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第八十六條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第八十七條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第八十八條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第八十九條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第九十條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第九十一條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第九十二條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第九十三條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第九十四條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第九十五條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第九十六條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付輸移出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ指定スル期間內ニ輸移出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第九十七條　朝鮮支那事變特別稅令第四十九條第一項第一號ノ物品ニ付

第七十三條 朝鮮支那事變特別税令第六十四條ノ規定ニ依リ砂糖消費税ノ徴收猶豫期間ヲ定ムルコト左ノ如シ

四月一日ヨリ同月十日迄ニ徴收ヲ猶豫スルモノ	昭和十三年七月末日迄
四月十一日ヨリ同月二十日迄ニ徴收ヲ猶豫スルモノ	同年八月末日迄
四月二十一日ヨリ同月末日迄ニ徴收ヲ猶豫スルモノ	同年九月末日迄
五月一日ヨリ同月十日迄ニ徴收ヲ猶豫スルモノ	同年十月末日迄
五月十一日ヨリ同月二十日迄ニ徴收ヲ猶豫スルモノ	同年十一月末日迄
五月二十一日ヨリ同月末日迄ニ徴收ヲ猶豫スルモノ	同年十二月末日迄
六月一日ヨリ同月十日迄ニ徴收ヲ猶豫スルモノ	昭和十四年一月末日迄
六月十一日ヨリ同月二十日迄ニ徴收ヲ猶豫スルモノ	同年二月末日迄
六月二十一日ヨリ同月末日迄ニ徴收ヲ猶豫スルモノ	同年三月末日迄

第七十四條 朝鮮支那事變特別税令第六十五條第一項又ハ第六十八條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依リ課スベキ砂糖消費税又ハ物品税ハ其ノ税額百圓以下ナルトキハ昭和十三年五月末日限、税額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徴收ス

税額百圓ヲ超ユルトキ	昭和十三年五月及六月
税額千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至七月
税額二千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至八月
税額五千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至九月

第七十五條 朝鮮支那事變特別税令第六十五條第二項又ハ第六十八條第三項ノ規定ニ依ル申告ハ砂糖、糖蜜、第一種物品、第二種物品又ハ第三種物品ノ所在地所轄税務署長ニ之ヲ爲スベシ

第七十六條 朝鮮支那事變特別税令第六十七條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ準ジ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ汽車、電車又ハ汽船ノ運輸業ヲ營ミ又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄税務署長ニ提出スベシ

朝鮮支那事變特別税令第六十七條第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ毎場所ニ付第二十九條ノ規定ニ準ジ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ、第二種ノ場所ヲ經營シ又ハ運動競技ヲ開催セルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄税務署長ニ申告スベシ

朝鮮支那事變特別税令第六十七條第三項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第三十九條又ハ第四十條ノ規定ニ準ジ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種物品若ハ燐寸ヲ製造スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄税務署長ニ提出スベシ

第七十七條 朝鮮間接國税犯則者處分令施行規則第一條ニ左ノ一號ヲ加フ

九 物品税

第七十八條 大正元年朝鮮總督府令第八號ニ左ノ一號ヲ加フ

九 物品税

第七十九條 大正八年朝鮮總督府令第七十六號第一條中「又ハ朝鮮北支事件特別税令第十九條ニ掲クル物品」ヲ「、朝鮮北支事件特別税令第十九條ニ掲クル物品又ハ朝鮮支那事變特別税令第三十七條ニ掲クル物品」ニ改メ同令第四條ノ二中「輸入物品」ノ下ニ「又ハ朝鮮支那事變特別税令第三十七條ニ掲クル第一種ノ輸入物品」ヲ、「物品特別税」ノ下ニ「又ハ 物品税」ヲ加フ

第八十條 昭和六年朝鮮總督府令第五十號第一條中「又ハ朝鮮北支事件特別税令第十九條ニ掲グル物品」ヲ「、朝鮮北支事件特別税令第十九條ニ掲グル物品又ハ朝鮮支那事變特別税令第三十七條ニ掲グル物品」ニ、「又ハ物品特別税」ヲ「、物品特別税又ハ物品税」ニ改メ同令第三條中「及物品特別税」ヲ「、物品特別税及物品税」ニ改ム

第八十一條 朝鮮出港税令施行規則ニ左ノ一條ヲ加フ

第一條ノ二 朝鮮出港税令第一條第一號但書ノ規定ニ依リ朝鮮支那事變特別税令第三十七條ニ掲クル物品ヲ指定スルコト左ノ如シ

一 第一種甲類及第二種ノ物品

二 第一種乙類ノ物品但シ朝鮮ニ於テ物品税ヲ課セサルモノニシテ製造又ハ販賣ノ用ニ供スル爲移出スルモノ以外ノモノヲ除ク

三 燐寸

（別表省略）

（參照）

大正元年八月朝鮮總督府令第八號ハ大正元年制令第四號第二條ノ間接國税ノ件同八年四月同第七十六號ハ大正八年制令第十一號（酒税、煙草消費税等ニ關スル件）施行ニ關スル件及昭和六年四月同第五十號ハ郵便ニ依リ輸入又ハ移入スル酒類、砂糖等ノ課税ニ關スル件ナリ

支那事變特別税法ノ一部ヲ臺灣及樺太ニ施行スルノ件

（昭和十三年四月一日勅令第二百七號）

支那事變特別税法第九條、第十條、第六十八條及第六十九條ノ規定ハ之ヲ臺灣及樺太ニ施行ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和十三年三月三十一日公布 法律第五十一號 支那事變特別税法抄録

第九條 砂糖消費税ハ砂糖消費税法第三條及臨時租税增徴法第十七條ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依ル

一 砂糖

第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲 移入黒糖及移入白下糖但シ分蜜シタルモノ、黒糖及白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ竝ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク 百斤ニ付 一圓二十錢

乙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 三圓三十錢

第二種 砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖 百斤ニ付 七圓十錢

第三種 砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖 百斤ニ付 八圓六十錢

第四種 氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ 百斤ニ付 十一圓

二 糖蜜

第一種 氷砂糖ヲ製造スルトキニ生ズル糖蜜

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エザルモノ 百斤ニ付 三圓九十錢

乙 其ノ他ノモノ 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付 八圓六十錢

第二種 其ノ他ノ糖蜜

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エザルモノ 百斤ニ付 一圓二十錢

乙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 三圓三十錢

三 糖水 百斤ニ付 七圓十錢

第十條 砂糖消費税ニ付徴收ヲ猶豫シ得ル期間ハ砂糖消費税法第四條第一項但書ノ規定ニ拘ラズ之ヲ三月内トス

第六十八條 昭和十三年六月三十日迄ニ製造場又ハ保税地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ノ消費税ニ付テハ第十條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ特別ノ徴收猶豫期間ヲ定ムルコトヲ得

第六十九條 本法施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ二萬斤ヲ超ユル數量ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本法施行ノ日ニ之ヲ製造場ヨリ引取リタルモノト看做シ砂糖消費税ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ二萬斤ヲ超ユル數量ニ付第九條ニ規定スル税率ニ依リ算出シタル税額ト臨時租税增徴法第十七條ニ規定スル税率ニ依リ算出シタル税額トノ差額ヲ以テ其ノ税額トシ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徴收ス

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所持者ハ其ノ所持スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ種別、數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ

支那事變特別税法

臺灣支那事變特別稅令

（昭和十三年三月三十一日律令第一號）

第一條　當分ノ內本令ニ依リ所得稅、法人資本稅及出港稅ヲ增徵シ利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ヲ課ス

第二條　所得稅中法人ノ普通所得及清算所得ニ對スル所得稅ニ付テハ臺灣所得稅令第二十五條ニ規定スル稅率百分ノ十ヲ百分ノ十二・二五、百分ノ二十ヲ百分ノ二十二・五トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

所得稅中法人ノ超過所得ニ對スル所得稅ニ付テハ同令第二十五條ニ規定スル稅率ヲ以テ算出シタル稅額ノ百分ノ十ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

前二項ノ規定ニ依ル普通所得及超過所得ニ對スル所得稅ノ增徵稅額ハ普通所得ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヨリ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得稅額ニ加算スル稅額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三條　所得稅中同族會社ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ニ付テハ臺灣所得稅令第二十五條ノ二ノ規定（加算稅額ノ制限ニ關スル規定ヲ除ク）ニ依リ算出シタル稅額ノ百分ノ十三・五ニ相當スル金額ヲ增徵ス

同族會社ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ハ普通所得ノ百分ノ五十五ニ相當スル金額ヨリ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅額（臺灣所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得稅額ヲ含マズ）、臨時利得稅ニ加算スル稅額及前條ノ規定ニ依ル增徵稅額ノ合計金額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ殘額ヲ超エザル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ル增徵ニ因リ之ヲ超ユルニ至ルトキハ其ノ增徵稅額ニ付亦同ジ

第四條　所得稅中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ臺灣所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子

利率年四分以下ノモノ　百分ノ二

利率年四分ヲ超ユルモノ　百分ノ六・五

國債以外ノ公債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ　百分ノ二・五

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ　百分ノ七・五

社債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ　百分ノ八

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ　百分ノ九・五

其ノ他　百分ノ十二・五

乙　百分ノ八

第五條　所得稅中第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ所得稅額ノ百分ノ十三・五ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

前項ノ規定ニ依ル增徵稅額ハ第三種所得ノ百分ノ四十五ニ相當スル金額ヨリ第三種ノ所得ニ對スル所得稅額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六條　第三種ノ所得ニ付所得金額決定後翌年所得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際所得額ガ決定所得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ所得金額ノ決定ニ付脫漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際所得額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第七條　法人資本稅ニ付テハ臺灣法人資本稅令第八條第一項ニ規定スル稅率千分ノ一ヲ千分ノ一・二トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

第八條　出港稅ニ付テハ臺灣酒類出港稅令及昭和十二年律令第八號ニ依ルノ外酒類ニ

一石ニ付七圓ヲ增徵ス

第九條　利益配當稅ハ臺灣ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

臺灣所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ利益配當稅ヲ課セズ

第十條　利益配當稅ハ前條ノ法人ヨリ支拂ヲ受クル利益ノ配當ニ付之ヲ賦課シ配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十一條　利益配當稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十二條　公債及社債利子稅ハ臺灣ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

臺灣所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子稅ヲ課セズ

第十三條　公債及社債利子稅ハ臺灣ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債（臺灣外貸債特別稅令第一條第二項ニ規定スル外貸債ヲ除ク）ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十四條　公債及社債利子稅ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十五條　利益配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子稅ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得稅（第一種所得稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ニ相當スル稅額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十六條　通行稅ハ汽車、乘合自動車及汽船ノ乘客ニ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

一等	六錢
二等	三錢
五十粁未滿	
一等	十錢
二等	五錢
三等	二錢
五十粁以上	
一等	十五錢
二等	五錢
三等	二錢
百粁以上	
一等	三十錢
二等	十五錢
三等	五錢
百五十粁以上	
一等	四十五錢
二等	二十錢
三等	十錢
三百粁以上	
一等	一圓二十錢
二等	六十錢
三等	二十錢
五百粁以上	
一等	一圓八十錢
二等	九十錢
三等	三十錢
八百粁以上	
一等	二圓四十錢
二等	一圓二十錢
三等	四十錢

回數乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

回數二十回以下ナルトキ	
前項稅額ノ五倍	
回數五十回以下ナルトキ	
前項稅額ノ十倍	
回數五十回ヲ超ユルトキ	
前項稅額ノ二十倍	

定期乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

契約期間一月內ナルトキ	
第一項稅額ノ五倍	
契約期間三月內ナルトキ	
第一項稅額ノ十倍	
契約期間六月內ナルトキ	
第一項稅額ノ二十倍	
契約期間六月ヲ超ユルトキ	

第一項稅額ノ三十倍
團體乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ
ハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
人員百人以下ナルトキ　第一項稅額ノ五倍
人員二百人以下ナルトキ　第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ超ユルトキ　第一項稅額ノ二十倍
貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ
ハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等　貸切運賃ノ百分ノ十
三等　貸切運賃ノ百分ノ五
前項ノ規定ニ依ル稅額ハ第一項稅額ニ乘
客定員數ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ
得ズ
第一項乃至第三項ニ規定スル通行稅ハ十
二歲未滿ノ乘客ニ付テハ其ノ半額トス
第十七條　左ノ場合ニ於テハ通行稅ヲ課セ
ズ
一　三等乘客ニシテ其ノ乘車船區間五十
粁未滿ナルトキ
二　陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ
臺灣總督ノ定ムルモノナルトキ
第十八條　往復乘車船又ハ遊遊乘車船ノ契
約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第十六條第一
項及前條第一號ノ乘車船區間ノ粁程ノ計
算ハ臺灣總督之ヲ定ム
第十九號　汽車、乘合自動車又ハ汽船ニシ
テ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザ
ルモノニ付テハ第十六條第一項、第五項
及第十七條第一號ノ等級ハ臺灣總督之ヲ
定ム乘客定員數ノ定ナキ車船ニ付貸切乘
車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第十
六條第六項ノ乘客定員數ニ付亦同ジ
第二十條　通行稅ハ汽車、乘合自動車又ハ
汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者（以下運輸業
者ト稱ス）運賃領收ノ際之ヲ定ム
特別ノ事情アル運輸業者ニ付テハ前項ノ
納期限ハ臺灣總督之ヲ定ム
第二十一條　汽車、乘合自動車又ハ汽船ニ
依ル運輸業ヲ營マントスル者及運輸業者
ニ代リテ乘車船券ヲ販賣セントスル者ハ
臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ
政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルト
キ亦同ジ
第二十二條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リ
テ乘車船券ヲ販賣スル者ハ臺灣總督ノ定
ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳
簿ニ記載スベシ
運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券
ヲ販賣スル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依
リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ
申告スベシ
第二十三條　入場稅ハ左ニ揭グル第一種ノ
場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所ノ設
備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス
第一種

一　演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物（相
撲、野球、擧鬪其ノ他ノ競技ニシテ公
衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスル
モノヲ含ム）ヲ催ス場所
二　競馬場
三　前二號ニ揭グルモノヲ除クノ外一
定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ觀覽
又ハ遊戲ニ供スル場所ニシテ臺灣總
督ノ定ムルモノ
第二種
一　舞踏場、麻雀場、撞球場
二　ゴルフ場、スケート場
第二十四條　入場稅ハ入場料ノ百分ノ五ト
ス
本令ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問
ハズ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第二種ノ
場所ノ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金
額ヲ謂フ
前項ノ入場料ノ算定ニ關シテハ臺灣總督
之ヲ定ム
第二十五條　第一種ノ場所ノ入場料ガ一人
一回三十九錢ニ滿タザル場合ニハ入場稅
ヲ課セズ
前項ノ規定ハ回數、定期又ハ貸切ニテ入
場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セ
ズ
第二十六條　第一種ノ催物（第一種ノ場所
ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬

其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ）若ハ設備
ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ
經營者ガ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ
入場料又ハ收益ノ總額ヲ慈善事業其ノ他
臺灣總督ノ定ムル目的ニ充ツル場合ニ於
テハ入場稅ヲ免除ス
第二十七條　入場稅ハ第一種ノ催物若ハ設
備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所
ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徵收シ翌月
十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ常時開設ニ
非ザルモノニ付テハ臺灣總督ノ定ムル場
合ヲ除クノ外終了後直ニ政府ニ納ムベ
シ
第二十八條　第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催
若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セン
トスル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其
ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セ
ントスルトキ亦同ジ
第二十九條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催
者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者
ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ
關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ
第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營
者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ臺灣總督
ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナ
ル事項ヲ政府ニ申告スベシ
第三十條　特別入場稅ハ運動競技ニシテ學
生生徒又ハ該競技ヲ爲スコトヲ業トセザ
ル者ノ行フモノニ付觀覽ノ爲競技場ニ入
場スル者ヨリ料金ヲ徵スル場合ニ於テ其

ノ入場者ニ之ヲ課ス
第三十一條　特別入場稅ハ特別入場料ノ百
分ノ五トス
本令ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タル
ヲ問ハズ前條ノ競技場ニ入場スル爲ニ支
拂フベキ金額ヲ謂フ
第三十二條　特別入場料ガ一人一回三十九
錢ニ滿タザル場合ニハ特別入場稅ヲ課セ
ズ
第二十五條第二項ノ規定ハ特別入場稅ニ
付之ヲ準用ス
第三十三條　特別入場稅ハ運動競技ノ主催
者特別入場料領收ノ際之ヲ徵收シ競技終
了後直ニ政府ニ納ムベシ但シ臺灣總督ノ
定ムル場合ニ於テハ翌月十日迄ニ之ヲ政
府ニ納ムベシ
第三十四條　第二十六條、第二十八條及第
二十九條ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準
用ス
第三十五條　物品稅ハ左ニ揭グル物品ニシ
テ臺灣總督ノ定ムルモノニ之ヲ課ス
第一種
甲類
一　貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタ
ル製品
二　眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品
三　貴金屬製品又ハ金若ハ白金ヲ用
ヒタル製品
四　鼈甲製品
五　瑚瑯製品
乙類
六　時計
七　萬年筆、金ペン及シャープペン
シル
八　身邊用細貨類
九　化粧用具
十　喫煙用具
十一　帽子、杖、鞄及傘
十二　皮革製又ハ金屬製ノ鞄及トラ
ンク
十三　靴及履物
十四　書畫及骨董
十五　室內裝飾用品
十六　照明器具
十七　圍碁及將棋用具
十八　家具
十九　漆器、陶磁器及硝子製器具ニ
シテ別號ニ揭ゲザルモノ
二十　貴金屬ヲ鍍シ又ハ張リタル製
品ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ
二十一　毛皮又ハ毛皮製品
二十二　羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタ
ル製品
二十三　皮革製品ニシテ別號ニ揭ゲ
ザルモノ
二十四　メリヤス、レース、フェルト
及同製品

第二種
甲類
一　寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品
二　寫眞用ノ乾板、フィルム及感光紙
三　蓄音器及同部分品
四　蓄音器用レコード
五　樂器、同部分品及附屬品
六　雙眼鏡及隻眼鏡
七　銃及同部分品
八　藥莢及彈丸
九　ゴルフ用具、同部分品及附屬品
十　娯樂用ノモーターボート、スカール及ヨット
十一　撞球用具
十二　ネオン管及同變壓器
十三　喫煙用ライター
乙類
十四　ラヂオ聽取機及同部分品
十五　受信用眞空管及擴聲器
十六　扇風機及同部分品
十七　煖房用ノ電氣、瓦斯又ハ礦油ストーブ
十八　冷藏器及同部分品
十九　金庫及鋼鐵製家具
二十　乘用自動車
二十一　化粧品
二十二　爆竹
二十三　金銀繪拜紙

第三種
燐寸　千本ニ付　五錢

同一物品ニシテ第一種及第二種ニ該當スルモノハ之ヲ第二種トシ、甲類及乙類ニ該當スルモノハ之ヲ甲類トス

第三十六條　物品稅ノ稅率左ノ如シ

第一種
甲類　物品ノ價格百分ノ十五
乙類　物品ノ價格百分ノ十

第二種
甲類　物品ノ價格百分ノ十五
乙類　物品ノ價格百分ノ十

第三種　千本ニ付　五錢
燐寸

第三十七條　前條ノ價格ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スル時ノ價格、但シ保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金徵收スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格ヲ標準トシ之ニ扇風機及煖房用ノ電氣、瓦斯又ハ礦油ストーブ、冷藏器及同部分品、金庫及鋼鐵製家具、乘用自動車、化粧品、爆竹ニ付テハ製造場ヨリ移出シタル時ノ價格ヲ標準トス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル物品ニシテ引取人ヨリ稅金徵收スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格及燐寸ノ本數ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十八條　物品稅ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格ニ應ジ小賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出セラレタル物品ノ價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出シタル物品ノ價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出シタル物品ノ價格ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ

第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ臺灣總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申

但シ保稅地域ヨリ引取ラルル物品ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取ラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第三十九條　物品稅ハ第一種第十四號ニ揭グル物品ニ付テハ其ノ物品ガ入札其ノ他競爭ノ方法ニ依リ賣買セラルル場合ニシテ臺灣總督ノ定ムル場合ニ限リ之ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ札元又ハ之ニ準ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物品ヲ販賣スルモノト看做ス

第四十條　製造場以外ノ場所ニ於テ販賣ノ爲化粧品ヲ容器ニ充塡シ又ハ改裝スルトキハ之ヲ化粧品ノ製造ト看做ス

第四十一條　第一種ノ物品ノ小賣業者ハ每月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品名每ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ノ製造者ハ每月其ノ品名每ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第三種ノ物品ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名每ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ每月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ノ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ札元又ハ之ニ準ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物品ヲ販賣スルモノト看做ス

第四十二條　物品稅ハ每月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第三十八條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付物品稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ一月內物品稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十三條　臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第四十四條　第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シタル場合亦同ジ

製造場ヨリ移出シタル第三種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シタル場合ニ於テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シタル場合ニ於テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ課稅標準額ヨリ其ノ物品ノ價格ヲ控除ス製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シタル場合亦同ジ

第四十五條　臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種ノ物品ニシテ第一種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スルモノニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ第二種ノ物品ニシテ第一種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スルモノニ付テハ物品稅ヲ免除ス

第四十六條　左ニ揭グル物品ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ物品稅ヲ免除ス

一　輸出スルモノ
二　學術研究用ニ供スルモノ
三　其ノ他臺灣總督ノ定ムル用途ニ供スルモノ

第四十七條　第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造セントスル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタル期間內ニ輸出シ又ハ其ノ用途ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

稅務官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對

告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第四十二條　小賣業者ガ其ノ販賣シタル第一種ノ物品ノ返還ヲ受ケタル場合ニ於テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ課稅標準額ヨリ其ノ物品ノ價格ヲ控除ス製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シタル場合亦同ジ

製造場ヨリ移出シタル第三種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シタル場合ニ於テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シタル場合ニ於テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ課稅標準額ヨリ其ノ物品ノ價格ヲ控除ス製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シタル場合亦同ジ

第四十三條　物品稅ハ每月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第三十八條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付物品稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ一月內物品稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十四條　臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間內ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ滅失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ物品稅ヲ免除ス

第四十五條　臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種ノ物品ニシテ第一種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スルモノニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ第二種ノ物品ニシテ第一種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スルモノニ付テハ物品稅ヲ免除ス

第四十六條　左ニ揭グル物品ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ物品稅ヲ免除ス

一　輸出スルモノ
二　學術研究用ニ供スルモノ
三　其ノ他臺灣總督ノ定ムル用途ニ供スルモノ

第四十七條　第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造セントスル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタル期間內ニ輸出シ又ハ其ノ用途ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

稅務官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對シ必要ナル事項ノ申告ヲ爲サシメ又ハ帳簿ニ記載スベキ事項ヲ指定シ其ノ小賣業又ハ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第四十八條　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第四十九條　第十一條、第十四條、第二十條、第二十七條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキ又ハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第五十條　稅務官吏ハ通行稅ニ付運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

稅務官吏ハ入場稅ニ付第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

稅務官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對

シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ揭グル物件ニ付檢査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ

二 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

第五十一條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル者ハ其ノ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務官署ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第五十二條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル者ハ其ノ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第五十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者

二 第四十一條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造シタル者

第五十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第二十二條第一項、第二十九條第一項又ハ第四十八條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第二十二條第二項、第二十九條第二項又ハ第四十八條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第五十條第一項、第二項又ハ第四項ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第五十五條 第五十一條及第五十二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ

第五十六條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本令中物品稅ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第五十七條 州廳、市街庄其ノ他ノ公共團體ハ本令ニ依リ增徵スル稅額(第六條ノ規定ニ依リ增額ト爲ル部分ヲ含マズ)又ハ本令ニ依リ課スル利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

州廳、市街庄其ノ他ノ公共團體ハ第一種ノ場所ノ入場者又ハ第二種ノ場所ノ設備利用者ニ對シ入場稅ノ課稅標準タル入場料ヲ標準トシテ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 本令ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

附 則

第五十九條 本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ利益配當稅及公債及社債利子稅ニ關スル規定ハ昭和十三年八月十二日ヨリ之ヲ施行ス

第六十條 所得稅中第一種ノ所得稅ニ付テハ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅ハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分、淸算所得ニ對スル所得稅ハ昭和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テ

ハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第六條ノ規定ハ昭和十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

法人ノ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル各事業年度分ノ所得ニ對スル所得稅及昭和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル淸算所得ニ對スル所得稅ニ付テハ北支事件特別稅中ノ第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ之ヲ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シ臺灣所得稅令第二十五條第二項及第三項ノ規定ヲ適用ス

第六十一條 法人ノ昭和十三年八月十一日迄ニ終了スル各事業年度分ノ普通所得及超過所得ニ對スル所得特別稅額ハ當該所得ニ付第二條及第三條ノ規定ニ依リ算出シタル增徵稅額ヨリ之ヲ控除ス

支拂期ノ昭和十三年八月十一日以前ニ在ル第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得特別稅額ハ當該所得ニ付第四條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ之ヲ控除ス

第六十二條 法人資本稅ニ付テハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本令ヲ適用ス

第六十三條 本令施行前ヨリ引續キ汽車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

本令施行前ヨリ引續キ第二十三條ニ規定スル第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營スル者、同第二種ノ場所ヲ經營スル者又ハ運動競技ヲ開催スル者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

本令施行前ヨリ引續キ第三十五條ニ揭グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

臺灣北支事件特別稅令第二十條ニ揭グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同令ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノハ第四十七條前段ノ申告ヲ要セズ

第六十四條 第三十五條ニ揭グル第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同條各號ニ揭グル品名每ニ價格三千圓ヲ超ユル第二種ノ物品(第一號乃至第五號ニ揭グル物品ヲ除ク)ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ其ノ價額中三千圓ヲ超ユル部分ニ付臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品稅ヲ徵收ス

前項ノ規定ハ燐寸ノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ千萬本ヲ超ユル數量ノ燐寸ヲ所持スル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ製造者又ハ販賣者ハ第二種ノ物品ニ付テハ其ノ品名每ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ數量及貯藏ノ場所ヲ本令施行後一月內ニ政府ニ申告スベシ

第六十五條 本令ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

(參照)

昭和十二年三月三十一日律令第八號ハ出港稅ノ臨時增徵ニ關スル件ナリ

臺灣支那事變特別稅令施行規則

(昭和十三年四月一日 臺灣總督府令第三十五號)

第一條 知事又ハ廳長臺灣支那事變特別稅令第六條第一項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二條 臺灣支那事變特別稅令第十一條又

ハ第十四條ノ規定ニ依リ配當金又ハ利子金額ノ支拂者利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ別記第一號書式ノ拂込書及別記第三號又ハ第四號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ所轄稅務官署所轄內ノ日本銀行代理店ニ拂込ムベシ

第三條　臺灣支那事變特別稅令第十七條第二號ノ規定ニ依リ陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ通行稅ヲ課セザルモノヲ定ムルコト左ノ如シ

一　鐵道軍事供用令ニ依ル乘車

二　軍事上ノ必要ニ依リ貸切ノ契約ニテ爲ス乘船

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ乘車船區間ノ粁程ハ各其ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

一　往復乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ粁程ハ往復各別ニ之ヲ計算ス

二　回遊乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ粁程ハ各區間毎ニ之ヲ計算ス

三　均一制又ハ區間制ニ依リ運賃ヲ定メタル區間ヲ乘車船スル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ該乘車船契約ニ依リ乘車船シ得ベキ區間中最モ短キモノニ依リ乘車船區間ノ粁程ヲ計算ス

第五條　汽車、乘合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ臺灣支那事變特別稅令第十六條第一號ノ六條第一項、第五項及第十七條第一號ノ等級ハ等級ヲ分タザルモノニ在リテハ三等、二等級ニ分チタルモノニ在リテハ二等及三等、一等ノ上又ハ三等ノ下ニ更ニ等級ヲ設ケタルモノニ在リテハ一等又ハ三等トス

第六條　乘客定員數ノ定ナキ車船ニ付貸切乘車船ニシテ通行稅ヲ徵收シタルトキハ臺灣支那事變特別稅令第十六條第六項ノ乘客定員數ハ運賃計算ノ基準ト爲リタル人員ニ依ル

第七條　臺灣支那事變特別稅令第二十條第一項ノ納期限ハ交通局ニ付テハ翌月二十日トス

第八條　臺灣支那事變特別稅令第二十條第一項ノ運輸業者通行稅ヲ徵收シタルトキハ納期限迄ニ別記第一號書式ノ計算書ヲ別記第五號書式ノ計算書ニ依リ之ヲ稅務官署ニ提出スベシ

前項ノ計算書ハ交通局ニ在リテハ其ノ所轄稅務官署ニ提出スベシ

第九條　汽車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ營業所所轄稅務官署ニ提出スベシ

一　住所及氏名又ハ名稱

二　營業所ノ所在地及其ノ名稱

三　運輸業ノ種類（汽車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ノ區別）

四　線路、路線又ハ航路ノ名稱、起終點ノ地名及粁程

五　汽車、乘合自動車又ハ汽船ノ等級區分

六　乘車船券ノ種類

第十條　運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣セントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱、販賣場ノ所在地竝ニ運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務官署ニ提出スベシ

第十一條　知事又ハ廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ運輸業者ニ左ノ事項ヲ申告セシムルコトヲ得

一　停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及其ノ所在地

二　停車場、停留所又ハ乘船場間ノ粁程

三　運賃ヲ粁制ニ依リ定メタルトキハ一粁當運賃、區間制ニ依リ定メタルトキハ各區間及其ノ運賃、均一制ニ依リ定メタルトキハ均一運賃

四　回數、定期、團體又ハ貸切ノ乘車船ニ付特別ノ運賃ヲ定メタルトキハ其ノ運賃

五　運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ其ノ販賣

場ノ所在地

六　連帶運輸ヲ爲ス運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ連帶運輸ヲ爲ス線路、路線又ハ航路ノ名稱、其ノ停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及該停車場、停留所又ハ乘船場間ノ粁程

第十二條　前三條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務官署ニ申告スベシ

第十三條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ業ヲ相續又ハ合併ニ因リ承繼シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第十四條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者其ノ業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第十五條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ毎日左ノ事項ヲ假簿ニ記載スベシ

一　稅率ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレタル者ノ人員及稅額

二　臺灣支那事變特別稅令第十七條各號ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレザル者ノ人員

第十六條　第九條乃至前條ノ規定ハ交通局ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十七條　臺灣支那事變特別稅令第二十三條ニ揭グル第一種第三號ノ場所ヲ定ムル

コト左ノ如シ

一　博覽會場

二　展覽會場

三　遊園地

第十八條　臺灣支那事變特別稅令第二十三條ニ規定スル第一種ノ場所ノ入場料ハ觀覽料、座席料、仲錢、下足料、敷物料其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ入場スル者ガ入場ノ爲ニ支拂フベキ金額ノ合計額ニ依ル

臺灣支那事變特別稅令第二十三條ニ規定スル第二種ノ場所ノ入場料ハ舞踏料、技料會費其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ入場スル者ガ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ニ依ル

第十九條　臺灣支那事變特別稅令第二十六條ニ規定スル牧畜ノ總額ハ入場料總額ヨリ其ノ入場料ヲ得ル爲ニ直接必要ナル經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第二十條　入場料又ハ牧畜ノ總額ヲ左ノ目的ニ充ツル場合ニ於テハ臺灣支那事變特別稅令第二十六條ノ規定ニ依リ入場稅ヲ免除ス

一　軍人ノ慰慰並ニ支那事變ノ爲ニ從軍シタル軍人及軍屬ノ家族又ハ遺族ノ慰問其ノ他ノ軍事援護

二　兵器、艦船其ノ他ノ國防舍品ノ獻納

第二十一條　第一種ノ催物（第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ）若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者臺灣支那事變特別稅令第二十六條ノ規定ニ依リ入場稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ七日前ニ左ノ事項ヲ具シ第一種ノ場所又ハ第二種ノ場所ノ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

一　期間

二　入場料又ハ牧畜ノ總額ヲ支出スベキ事業又ハ目的

三　入場料

四　牧入支出ノ徵算書

前項ノ承認ヲ受ケタル者其ノ開催若ハ經營ヲ終了シタルトキハ直ニ證憑書類ヲ添ヘ牧入支出ノ計算書ヲ提出スベシ

第二十二條　臺灣支那事變特別稅令第二十七條ノ規定ニ依リ第一種ノ催物者ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ別記第一號書式ノ拂込書及別記第六號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ所轄稅務官署所轄內ノ日本銀行代理店ニ拂込ムベシ但シ常時開設ニ非ザルモノニ在リテハ左ノ場合ヲ除クノ外ハ終了後直ニ之ヲ拂込ムベシ

一　開催又ハ經營ノ期間ガ一月以上ニ亙ル場合

二　開催期日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第二十三條　第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

一　主催者又ハ經營者ノ住所及氏名又ハ名稱

二　第一種又ハ第二種ノ場所ノ所在地及其ノ名稱

三　催物又ハ設備ノ種類

四　各等級別觀客定員及入場料

五　入場券發賣ノ方法

六　第一種又ハ第二種ノ場所ノ構造其ノ他設備ノ概要

七　開設ノ年月日及開催又ハ經營ノ期間

第二十四條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ニシテ常時開設スル者其ノ催物又ハ經營ヲ一月以上休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第二十五條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者前二條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務官署ニ申告スベシ

第二十六條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ相續又ハ合併ニ因リ承繼シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第二十七條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第二十八條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者又ハ第二種ノ場所ヲ移轉セントスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一種又ハ第二種ノ場所ノ構造其ノ前條ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

第二十九條　臺灣支那事變特別稅令第三十者若ハ經營者又ハ入場料領收ノ際入場券ヲ發行スベシ但シ知事又ハ廳長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ每日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　入場シタル人員

二　入場券ノ受入及拂出

三　入場料ノ總額

四　入場稅額

第三十一條　臺灣支那事變特別稅令第三十條ノ規定ニ依リ遊戲競技ノ主催者特別入場稅ヲ徵收シタルトキハ競技終了後直ニ別記第一號書式ノ拂込書及別記第六號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ所轄稅務官署所在日本銀行代理店ニ拂込ムベシ但シ合ハ翌月十日迄ニ之ヲ拂込ムベシ催ノ期間ガ一月以上ニ亙ル場合

第三十二條　第十八條第一項、第十九條乃至第二十三條、第二十七條、第二十八條第一項、第十九條乃至第二十五條、第二十七條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　日本銀行第二條、第二十二條及第三十一條ノ拂込ヲ受ケタルトキハ別記第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官ニ（稅務出張所ノ分掌區域內ニ於テハ歲入徵收分掌官ヲ經由シ）送付スベシ

第三十四條　臺灣支那事變特別稅令第三十五條ノ規定ニ依リ物品稅ヲ課スベキ物品ハ別表ニ於テ定ムル所ニ依ル

別表ニ於テ貴金屬トハ金、銀、白金及此等ヲ主タル材料トスル合金ヲ謂フ

別表ニ於テ貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ヲ用ヒタル製品トハ其ノ用ヒタル貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ノ價格（二種以上ノモノヲ用ヒタルモノニ付テハ其ノ價格ヲ合算ス）ガ三圓以上ノモノヲ謂フ

第三十五條　臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ揭グル第一種ノ物品中第十四號ニ揭グルモノニ付物品稅ヲ課スベキ場合ハ一個ノ賣買總金額ガ一萬圓ヲ超ユル場合ニ限ル但シ強制競賣ノ場合ハ物品稅ヲ課セズ

第三十六條　臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ揭グル第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第

マントスル者ハ販賣場及販賣スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務官署ニ提出スベシ

第三十七條　臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ揭グル第二種ノ物品又ハ燐寸ヲ製造セントスル者ハ製造場及製造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄稅務官署ニ提出スベシ

第三十八條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造者一月以上販賣又ハ製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第三十九條　知事又ハ廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第二種ノ物品又ハ燐寸ノ製造者ニ製造場ノ圖面及製造用ノ機械器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第四十條　第三十六條乃至第三十八條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務官署ニ申告スベシ

第四十一條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造者ニ於テ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノノ價格ハ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ニ當該物品ニ課セラルベキ關稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄稅務官署ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ承繼シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第四十二條　第一種ノ物品若ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造者又ハ製造者ガ第一種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ハ之ヲ徵收セズ

前項ノ場合ニ於テハ販賣場又ハ製造場ノ所轄稅務官署ヨリ交付ヲ受ケタル販賣者又ハ製造者タルコトヲ證明スベキ書類ヲ所轄稅關ニ提出スベシ

第一項ノ場合ニ於テハ臺灣支那事變特別稅令第四十一條第二項ノ規定ニ依ル申告書ノ提出ヲ要セズ

第四十三條　第一種ノ物品若ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造者又ハ製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第三十六條及前條ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

第四十四條　第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ通常容器ト共ニ販賣セラルルモノノ價格ハ其ノ容器ノ價格ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十五條　保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノノ價格ハ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ニ當該物品ニ課セラルベキ關稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十六條　燐寸ノ本數ハ軸木ノ本數ニ依ル但シ二個以上ノ點火裝置ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ點火裝置ノ個數ニ依ル

第四十七條　第一種ノ物品ノ販賣者又ハ製造者ガ第一種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ハ之ヲ徵收セズ

前項ノ場合ニ於テハ販賣場又ハ製造場ノ所轄稅務官署ヨリ交付ヲ受ケタル販賣者又ハ製造者タルコトヲ證明スベキ書類ヲ所轄稅關ニ提出スベシ

第一項ノ場合ニ於テハ臺灣支那事變特別稅令第四十一條第一項ノ規定ニ依ル申告書ノ提出ヲ要セズ

第四十八條　物品稅ノ免除ヲ受ケズシテ輸出シタル物品ヲ再輸入シ之ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ヲ徵收セズ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　臺灣支那事變特別稅令第四十一條第一項ノ規定ニ依ル申告書ハ所轄稅務官署ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ申告書ノ提出ナキトキ又ハ知事又ハ廳長其ノ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ知事又ハ廳長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スベシ

前二項ノ規定ハ臺灣支那事變特別稅令第四十一條第二項ノ規定ニ依ル申告ニ付之ヲ準用ス

第五十條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ製造者ガ返還ヲ受ケ又ハ戻ノニ付テハ其ノ點火裝置ノ個數ニ依ル申告

入シタル物品ニ付臺灣支那事變特別稅令第四十二條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及返還又ハ戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量及價格ニ付所轄稅務官署ノ承認ヲ受クベシ

第五十一條　燐寸ノ製造者戻入又ハ移入シタル燐寸ニ付臺灣支那事變特別稅令第四十二條第二項ノ規定ニ依ル徵收ノ免除ヲ受ケントスルトキハ當該燐寸ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及戻入又ハ移入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ所轄稅務官署ノ承認ヲ受クベシ

第五十二條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

擔保トシテ登錄國債ヲ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ

擔保トシテ提供シタル國債ノ償還ヲ受クルニ至リタルトキハ知事又ハ廳長ハ擔保ノ提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

第五十三條　臺灣支那事變特別稅令第四十三條第二項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ稅金及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第五十四條　臺灣支那事變特別稅令第四十四條第一項ノ規定ニ依リ第二種ノ物品又ハ燐寸ヲ移出セントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

前條ノ規定ハ前項ノ物品ヲ其ノ移出先ニ移入シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十五條　前條ノ承認ヲ受ケ第二種ノ物品又ハ燐寸ヲ移出シタル第二種ノ物品又ハ燐寸ヲ製造場又ハ藏置場ニ移入シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第五十六條　臺灣支那事變特別稅令第四十五條第一項ノ規定ニ依リ第二種ノ物品ヲ製造場ヨリ移出セントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受ケタル物品ニ付其ノ用途ヲ變更セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第五十七條　臺灣支那事變特別稅令第四十五條第一項ノ規定ニ依リ第二種ノ物品ヲ製造場ヨリ移出セントスル者ハ燐寸ヲ製造場ヨリ移出シ又ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條　臺灣支那事變特別稅令第四十六條第一項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ稅金及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第五十九條　臺灣支那事變特別稅令第四十六條第二項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者ハ燐寸ヲ製造場又ハ藏置場ニ移入シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第六十條　臺灣支那事變特別稅令第四十六條第二項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者ハ燐寸ヲ製造場ヨリ移出セントスル場合ニ付之ヲ準用ス

第六十一條　臺灣支那事變特別稅令第四十六條第三項、第四十五條第二項及第四十六條第二項ノ期間ハ知事又ハ廳長之ヲ指定ス

第六十二條　臺灣支那事變特別稅令第四十四條第三項但書、第四十五條第二項及第四十六條第二項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第五十四條、第五十六條第一項又ハ第五十九條第一項ノ稅務官署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ滅失シタル場所ガ前項ノ稅務官署ノ管轄外ナルトキハ最寄稅務官署ニ滅失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スベシ

第六十三條　第五十四條乃至第五十七條及第五十九條乃至前條ノ規定ハ臺灣支那事變特別稅令第四十四條乃至第四十六條ノ規定ニ依リ燐寸ノ製造者臺灣支那事變特別稅令第四十六條及前條ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ第一種ノ物品ヲ引渡シ又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ヲ製造場ヨリ移出スル際其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第六十四條　第一種若ハ第二種ノ物品又ハ燐寸ノ販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　受入レタル物品ノ品名、數量、價格及受入ノ日竝ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二　販賣シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣ノ日竝ニ其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セズ但シ知事又ハ廳長監督上必要アリト認メ其ノ記載ヲ命ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十五條　第一種若ハ第二種ノ物品又ハ燐寸ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　受入レタル材料ノ種類、數量及受入ノ日竝ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二　使用シタル材料ノ種類、數量及使用ノ日

三　製造シタル物品ノ品名、數量及製造ノ日

四　販賣シ又ハ移出シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣又ハ移出ノ日竝ニ其ノ買受人又ハ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱

前條第二項ノ規定ハ前項第四號ニ揭グル事項ノ記載ニ付之ヲ準用ス

第六十六條　販賣場ヲ有セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者ニ在リテハ其ノ住所、住所ナキトキハ居所ヲ以テ販賣場ト看做ス

第六十七條　本令中稅務官署ニ屬スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラルル物品ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

第六十八條　稅務官吏臺灣支那事變特別稅令第五十條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルトキハ臺灣所得稅令施行規則第五十一條ニ定ムル樣式ノ檢査章ヲ携帶スベシ

附　則

第六十九條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十條　臺灣支那事變特別稅令第六十四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ課スベキ物品稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十三年五月三十一日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス

稅額百圓ヲ超ユルトキ　昭和十三年五月及六月

稅額千圓ヲ超ユルトキ　同年五月乃至七月

稅額二千圓ヲ超ユルトキ　同年五月乃至八月

稅額五千圓ヲ超ユルトキ　同年五月乃至九月

第七十一條　臺灣支那事變特別稅令第六十四條第三項ノ規定ニ依ル申告ハ第一種若ハ第二種ノ物品又ハ燐寸ノ所在地所轄稅務官署ニ之ヲ爲スベシ

第七十二條　臺灣支那事變特別稅令第六十三條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第九條又ハ第十條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ汽車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ミ又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スルコトノ專賣ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

臺灣支那事變特別稅令第六十三條第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ第二十三條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種ノ催物者ハ設備、第二種ノ場所又ハ運動競技ヲ開催者ハ經營スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

臺灣支那事變特別稅令第六十三條第三項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第三十六條又ハ第三十七條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ヲ製造スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

（別表及別記書式省略）

支那事變特別稅法第六十八條及第六十九條ノ施行ニ關スル件

（昭和十三年四月一日　臺灣總督府令第三十九號）

第一條　支那事變特別稅法第六十八條ノ規定ニ依リ砂糖消費稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十三年五月三十一日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス

稅額百圓ヲ超ユルトキ稅額千圓ヲ超ユルトキ	昭和十三年五月及六月
稅額千圓ヲ超ユルトキ稅額二千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至七月
稅額二千圓ヲ超ユルトキ稅額五千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至八月
稅額五千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至九月

第二條　支那事變特別稅法第六十九條第一項ノ規定ニ依リ課スベキ砂糖消費稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十三年五月三十一日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス

稅額百圓ヲ超ユルトキ稅額千圓ヲ超ユルトキ	昭和十三年五月及六月
稅額千圓ヲ超ユルトキ稅額二千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至七月
稅額二千圓ヲ超ユルトキ稅額五千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至八月
稅額五千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至九月

第三條　支那事變特別稅法第六十九條第二項ノ規定ニ依ル申告ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所在地所轄稅務官署ニ之ヲ爲スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年勅令第四百二十一號臺灣ニ於ケル明治四十四年法律第四十五號ノ特例ニ關スル件改正ノ件

（昭和十三年四月一日　勅令第二百六號）

臺灣ニ於テハ明治四十四年法律第四十五號中支那事變特別稅法トアルハ臺灣支那事變特別稅令、北支事件特別稅法トアルハ臺灣

北支事件特別稅令、第三十八條トアルハ第三十五條トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

明治四十四年三月二十日法律第四十五號ハ砂糖消費稅戻稅物品稅還付等ノ徵收ニ關スル件ナリ

大正十一年勅令第五百二十六號間接國稅犯則者處分法ヲ臺灣ニ施行スルノ件中改正ノ件

（昭和十三年四月一日　勅令第二百九號）

第二條ニ左ノ一號ヲ加フ

九　物品稅

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

大正十一年十二月二十　勅令第五百二十六號裁錄

第二條　間接國稅犯則者處分法ニ於テ　間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス

（左記記載ス）

樺太支那事變特別稅令

（昭和十三年四月一日　勅令第二百二十號）

第一條　當分ノ內本令ニ依リ所得稅及法人資本稅ヲ增徵シ利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ヲ課ス

第二條　所得稅中法人ノ普通所得及濟算所得ニ對スル所得稅ニ付テハ樺太臨時租稅增徵令第二條ノ規定ニ拘ラズ樺太所得稅令第二十五條ニ規定スル稅率百分ノ五ヲ百分ノ十二・二五、百分ノ十ヲ百分ノ二十二・五トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

所得稅中法人ノ超過所得ニ對スル所得稅ニ付テハ同令第二十五條ニ規定スル稅率ヲ以テ算出シタル稅額ヲ增徵ス

前二項ノ規定ニ依ル普通所得及超過所得ニ對スル所得稅ノ增徵稅額ハ普通所得ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヨリ普通所得稅額（樺太所得稅令第二十五條ニ規定スル稅率ヲ含マズ）ニ依リ普通所得稅額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三條　所得稅中同族會社ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ニ付テハ樺太臨時租稅增徵令第四條ノ規定ニ拘ラズ樺太所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得稅額及前條ノ規定ニ依ル增徵稅額ノ合計金額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ殘額ヲ超エザル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ル增徵ニ因リ之ヲ超ユルニ至ルトキハ其ノ增徵稅額ニ付亦同ジ

第四條　所得稅中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ樺太所得稅令第二十六條及樺太臨時租稅增徵令第五條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子

利率年四分以下ノモノ	百分ノ二
利率年四分ヲ超ユルモノ	百分ノ二・五

國債以外ノ公債ノ利子
利率年四分五厘以下ノモノ　百分ノ六・五
利率年四分五厘ヲ超ユルモノ　百分ノ七・五
社債ノ利子
利率年四分五厘以下ノモノ　百分ノ八
利率年四分五厘ヲ超ユルモノ　百分ノ九・五
其ノ他　百分ノ八
乙　百分ノ十二・五

第五條　所得稅中第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ所得稅額ノ百分ノ十三・五ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

前項ノ規定ニ依ル增徵稅額ハ第三種所得ノ百分ノ四十ニ相當スル金額ヨリ第三種ノ所得ニ對スル所得稅額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六條　樺太所得稅令第二十四條ノ規定ニ拘ラズ第三種ノ所得千二百圓以上ナルトキハ所得稅ヲ課ス

前項ノ所得ハ樺太所得稅令第十六條乃至第十七條ノ二ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル殘額ニ依リ、戶主及其ノ同居家族ノ所得又ハ戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ハ其ノ合算總額ニ依ル

前條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ課セラルル所得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條　第三種ノ所得ニ付所得金額決定後翌年所得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ讓渡セシメタル者ノ當該營業ノ實際所得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ所得金額ノ決定ニ付脫漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際所得額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第八條　法人資本稅ニ付テハ樺太法人資本稅令第八條第一項ニ規定スル稅率千分ノ一ヲ千分ノ一・二トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

第九條　利益配當稅ハ樺太ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

樺太所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ課セラルル所得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十條　利益配當稅ハ前條ノ法人ヨリ支拂ヲ受クル利益ノ配當ニ付之ヲ賦課シ配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十一條　利益配當稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十二條　公債及社債利子稅ハ樺太ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

樺太所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子稅ヲ課セズ

第十三條　公債及社債利子稅ハ樺太ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債（樺太外貨債特別稅令第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク）ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十四條　公債及社債利子稅ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十五條　利益配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子稅ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得稅（第一種

所得稅ヲ除ク）又ハ資本利子稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

第十六條　通行稅ハ汽車、乘合自動車及汽船ノ乘客ニ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

五十錢未滿
一等　六錢
二等　三錢
五十錢以上
一等　十錢
二等　五錢
三等　二錢
百錢以上
一等　三十錢
二等　十五錢
三等　五錢
百五十錢以上
一等　六十錢
二等　三十錢
三等　十錢
三百錢以上
一等　一圓二十錢
二等　六十錢
三等　二十錢
五百錢以上
一等　一圓八十錢
二等　九十錢
三等　三十錢
八百錢以上
一等　二圓四十錢
二等　一圓二十錢
三等　四十錢

同數乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

同數二十回以下ナルトキ
前項稅額ノ二十倍

同數五十回以下ナルトキ
前項稅額ノ十倍

同數五十回ヲ超ユルトキ
前項稅額ノ五倍

同數乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

同數二十回以下ナルトキ
第一項稅額ノ五倍

同數五十回以下ナルトキ
第一項稅額ノ十倍

同數五十回ヲ超ユルトキ
第一項稅額ノ二十倍

定期乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

契約期間一月內ナルトキ
第一項稅額ノ五倍

契約期間三月內ナルトキ
第一項稅額ノ十倍

契約期間六月內ナルトキ
第一項稅額ノ二十倍

契約期間六月ヲ超ユルトキ
第一項稅額ノ三十倍

團體乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

人員百人以下ナルトキ
第一項稅額ノ五倍

人員二百人以下ナルトキ
第一項稅額ノ十倍

人員二百人ヲ超ユルトキ
第一項稅額ノ二十倍

貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

一等及二等　貸切運賃ノ百分ノ十
三等　貸切運賃ノ百分ノ五

前項ノ規定ニ依ル稅額ハ第一項稅額ニ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第一項乃至第三項ニ規定スル通行稅ハ十二歲未滿ノ乘客ニ付テハ其ノ半額トス

第十七條　左ノ場合ニ於テハ通行稅ヲ課セズ

一　三等乘客ニシテ其ノ乘車船區間五十粁未滿ナルトキ
二　陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ樺太廳長官ノ定ムルモノナルトキ

第十八條　往復乘車船又ハ遨遊乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第十六條第一項及前條第一號ノ乘車船區間ノ粁程ノ計

算ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第十九條　汽車、乘合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ第十六條第一項、第五項及第十七條第一號ノ等級ハ樺太廳長官之ヲ定ム乘客定員數ノ定ナキ車船ニ付貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第十六條第六項ノ乘客定員數ニ付亦同ジ

第二十條　通行稅ハ汽車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者（以下運輸業者ト稱ス）運賃領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ

軒券ト引換ニ乘車券ノ交付ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ引換ノ時ニ前項ノ運賃領收アルモノト看做ス

特別ノ事情アル運輸業者ニ付テハ第一項ノ納期限ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第二十一條　汽車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者及運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣セントスル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第二十二條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第二十三條　入場稅ハ左ニ揭グル第一種ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス

第一種

一　演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物（相撲、野球、拳鬪其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルモノヲ含ム）ヲ催ス場所

二　競馬場

三　前二號ニ揭グルモノヲ除クノ外一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ觀覽ニ供スル場所ニシテ樺太廳長官ノ定ムル目的トスル場所

第二種

麻雀場、撞球場

第二十四條　入場稅ハ入場料ノ百分ノ五トス

本令ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

前項ノ入場料ノ算定ニ關シテハ樺太廳長官之ヲ定ム

第二十五條　第一種ノ場所ノ入場料ガ一人一回三十九錢ニ滿タザル場合ニハ入場稅ヲ課セズ

前項ノ規定ハ回數、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十六條　第一種ノ催物（第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ）若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ガ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ入場料又ハ收益ノ總額ヲ慈善事業其ノ他樺太廳長官ノ定ムル目的ニ充ツル場合ニ於テハ入場稅ヲ免除ス

第二十七條　入場稅ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ常時開設ニ非ザルモノニ付テハ樺太廳長官ノ定ムル場合ヲ除クノ外終了後直ニ政府ニ納ムベシ

第二十八條　第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ

其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第二十九條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第三十條　特別入場稅ハ運動競技ニシテ學生生徒又ハ該競技ヲ爲スコトヲ業トセザル者ノ行フモノニ付觀覽ノ爲競技場ニ入場スル者ヨリ料金ヲ徵スル場合ニ於テ其ノ入場者ニ之ヲ課ス

第三十一條　特別入場稅ハ特別入場料ノ百分ノ五トス

本令ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ前條ノ競技場ニ入場スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

第二十四條第三項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第三十二條　特別入場料ガ一人一回三十九錢ニ滿タザル場合ニハ特別入場稅ヲ課セズ

第二十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　特別入場稅ハ運動競技ノ主催者特別入場料領收ノ際之ヲ徵收シ競技終了後直ニ政府ニ納ムベシ但シ樺太廳長官ノ定ムル場合ニ於テハ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ

第三十四條　第二十六條、第二十八條及第二十九條ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第三十五條　物品稅ハ左ニ揭グル物品ニシテ樺太廳長官ノ定ムルモノニ之ヲ課ス

第一種

甲類

一　貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品

二　眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品

三　貴金屬製品又ハ金若ハ白金ヲ用ヒタル製品

四　鼈甲製品

五　珊瑚製品

乙類

六　時計

七　萬年筆、金ペン及シャープペンシル

八　身邊用細貨類

九　化粧用具

十　喫煙用具

十一　帽子、杖、鞭及傘

十二　皮革製又ハ金屬製ノ鞄及トランク

十三　靴及履物

十四　書畫及骨董

十五　室內裝飾用品

十六　照明器具

十七　圍碁及將棋用具

十八　家具

十九　漆器、陶磁器及硝子製器具ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ

二十　貴金屬ヲ鍍シ又ハ張リタル製品ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ

二十一　毛皮又ハ毛皮製品

二十二　羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品

二十三　皮革製品ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ

二十四　メリヤス、レース、フェルト及同製品

第二種

甲類

一　寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品

二　寫眞用ノ乾板、フィルム及感光

紙

三　蓄音器及同部分品
四　蓄音器用レコード
五　業器、同部分品及附屬品
六　雙眼鏡及望眼鏡
七　銃及同部分品
八　藥莢及彈丸
九　ゴルフ用具、同部分品及附屬品
十　娛樂用ノモーターボート、スカール及ヨット
十一　撞球用具
十二　ネオン管及同變壓器
十三　喫煙用ライター

乙類

十四　ラヂオ聽取機及同部分品
十五　受信用眞空管及擴聲器
十六　扇風機及同部分品
十七　煖房用ノ電氣、瓦斯又ハ礦油ストーブ
十八　冷藏器及同部分品
十九　金庫及鋼鐵製家具
二十　乘用自動車
二十一　化粧品

第三種

一　鐏寸

二　酒類但シ濁酒ヲ除ク

同一物品ニシテ第一種及第二種ニ該當スルモノハ之ヲ第二種トシ、甲類及乙類ニ該當スルモノハ之ヲ甲類トス

第三十六條　物品稅ノ稅率左ノ如シ

第一種

甲類　物品ノ價格百分ノ十五
乙類　物品ノ價格百分ノ十

第二種

甲類　物品ノ價格百分ノ十五
乙類　物品ノ價格百分ノ十

第三種

一　鐏寸　千本ニ付　五錢
二　酒類

イ　清酒、白酒、味淋、燒酎及麥酒

一石ニ付　三圓

ロ　其ノ他ノ酒類

一石ニ付　五圓

第三十七條　前條ノ價格ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スル時ノ價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格トス

前項ノ價格及鐏寸ノ本數ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ樟太廳長官之ヲ定ム

第三十八條　物品稅ハ第一種ノ物品ニ付テハ販賣セラレタル物品ノ價格ニ應ジ小賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出セラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル物品ニ付テハ樟太廳長官ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取ラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第三十九條　物品稅ハ第一種第十四號ニ揭グル物品ニ付テハ其ノ物品ガ入札其ノ他競爭ノ方法ニ依リ賣買セラルル場合ニシテ樟太廳長官ノ定ムル場合ニ限リ之ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ札元又ハ之ニ準ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物品ヲ販賣スルモノト看做ス

第四十條　製造場以外ノ場所ニ於テ販賣ノ爲化粧品ヲ容器ニ充塡シ又ハ改裝スルトキハ之ヲ化粧品ノ製造ト看做ス

第四十一條　酒類ヲ製造場內ニ於テ飮用シタルトキハ之ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做ス

第四十二條　第一種ノ物品ノ小賣業者ハ每月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品名每ニ

數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ノ製造者ハ每月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名每ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第三種ノ物品ノ製造者ハ每月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名每ニ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ

第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ樟太廳長官ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第四十三條　小賣業者ガ其ノ販賣シタル第一種ノ物品ノ返還ヲ受ケタル場合ニ於テハ樟太廳長官ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ課稅標準額ヨリ其ノ物品ノ價格ヲ控除ス製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場合亦同ジ

製造場ヨリ移出シタル第三種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シ又ハ酒類ヲ製造場外ヨリ移入シタル場合ニ於テハ樟太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スルモ更ニ物品稅ノ徵收ヲ爲サズ

第四十四條　物品稅ハ每月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第三十八條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

樟太廳長官ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付物品稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ一月內物品稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十五條　樟太廳長官ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種ノ物品又ハ鐏寸ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間內ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ滅失シタルモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品稅ヲ徵收スルコトヲ得

第四十六條　樟太廳長官ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種ノ物品ニシテ第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スルモノニ付テハ物品稅ヲ免除ス

一　輸出スルモノ
二　學術研究用ニ供スルモノ
三　其ノ他樟太廳長官ノ定ムル用途ニ供スルモノ

第四十五條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間內ニ輸出シ又ハ其ノ用途ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條　第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者又ハ第二種ノ物品若ハ鐏寸ヲ製造セントスル者ハ樟太廳長官ノ定ムル所ニ依リ政府ニ申告スベシ其ノ小賣業又ハ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第四十九條　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ樟太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第五十條　第十一條、第十四條、第二十條、第二十七條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第五十一條　稅務官吏ハ通行稅ニ付運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

稅務官吏ハ入場稅ニ付第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

稅務官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ揭グル物件ニ付檢査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ

二　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

第五十二條　市町村ハ本令ニ依リ增徵スル稅額（第七條ノ規定ニ依リ增額ト爲ル部分ヲ含マズ）又ハ本令ニ依リ課スル利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第五十三條　保稅地域ヨリ引取ラルル第三十五條ニ揭グル物品ニ對スル物品稅ニ關スル事務ハ稅關ニ委託シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第五十四條　本令ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

第五十五條　本令ニ定ムルモノノ外本令ニ依リ增徵シ又ハ新ニ課スル租稅ニ關シ必要ナル規定ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

第五十六條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行シテ製造者又ハ販賣者ノ所持スル物品ニ對スル物品稅ニ付テハ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅ニ付テハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分、清算所得ニ對スル所得稅ハ昭和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第七條ノ規定ハ昭和十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第六條ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ニ付新ニ納稅義務ヲ有スルニ至リタル者ハ昭和十三年四月二十日迄ニ其ノ所得金額ヲ申告スベシ

前項ノ場合ニ於テハ所得金額ノ申告ト同時ニ樺太所得稅令第十七條又ハ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル控除ヲ申請スルコトヲ得

法人ノ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル各事業年度分ノ所得ニ對スル所得稅及昭和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得稅ニ付テハ北支事件特別稅中ノ第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ之ヲ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シ樺太所得稅令第二十五條第二項及第三項ノ規定ヲ適

用ス

第五十八條　法人ノ昭和十三年八月十一日迄ニ終了スル各事業年度分ノ普通所得及超過所得ニ對スル所得特別稅額ハ當該所得ニ付第二條及第三條ノ規定ニ依リ算出シタル增徵稅額ヨリ之ヲ控除ス

支拂期ノ昭和十三年八月十一日以前ニ在ル第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得特別稅額ハ當該所得ニ付第四條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ之ヲ控除ス

第五十九條　法人資本稅ニ付テハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本令ヲ適用ス

第六十條　本令施行前ヨリ引續キ汽車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

本令施行前ヨリ引續キ第二十三條ニ規定スル第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營スル者、同第二種ノ場所ヲ經營スル者又ハ運動競技ヲ開催スル者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

本令施行前ヨリ引續キ第三十五條ニ揭グル物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同條若ハ爾寸ノ製造ヲ爲ス者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スベシ

第六十一條　第三十五條ニ揭グル物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同條各號ニ揭グル品名毎ニ價格三千圓ヲ超ユル第二種ノ物品（第一號乃至第五號ニ揭グル物品ヲ除ク）ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課スル物品ノ場合ニ於テハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ其ノ價格中三千圓ヲ超ユル部分ニ付テハ其ノ場所ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課スル物品ノ場合ニ於テハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ其ノ價格中三千圓ヲ超ユル部分ニ付テハ其ノ場所ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課スル物品ノ場合ニ於テハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ同第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同條各號ニ揭グル品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本令施行後一月內ニ政府ニ申告スベシ

第六十二條　本令ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

樺太支那事變特別稅令施行規則

（昭和十三年四月一日樺太廳令第二十二號）

第一條　樺太廳支廳長樺太支那事變特別稅令第七條第一項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定セントスル場合ニ於テハ其ノ所得金額ノ調查ヲ所得調查委員會ニ送付スベシ

第二條　樺太廳支廳長樺太支那事變特別稅令第七條第一項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知

スベシ

第三條　樺太支那事變特別稅令第十一條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ配當金又ハ利子金額ノ支拂者利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ第一號書式ノ拂込書及第三號書式又ハ第四號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行又ハ郵便官署ニ拂込ムベシ

第四條　日本銀行又ハ郵便官署ニ於テ前條ノ規定ニ依リ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官又ハ歲入徵收分掌官ニ送付スベシ

第五條　樺太支那事變特別稅令第十七條第二號ノ規定ニ依リ陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ通行稅ヲ課セザルモノヲ定ムルコト左ノ如シ

一　鐵道軍事供用令ニ依ル乘車

二　軍事上ノ必要ニ依リ貸切ノ契約ニテ爲ス乘船

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ乘車船區間ノ粁程ハ各其ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

一　往復乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ粁程ハ往復各別ニ之ヲ計算ス

二　遊覽乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ粁程ハ各區間每ニ之ヲ計算ス

第七條　汽車、乘合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ樺太支那事變特別稅令第十六條第一項、第五項及第十七條第一號ノ等級ハ等級ヲ分タザルモノニ在リテハ二等、一等ノ上又ハ三等ノ下ニ更ニ等級ヲ設ケタルモノニ在リテハ一等又ハ三等トス

第八條　乘客定員數ノ定ナキ車船ニ付貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ樺太支那事變特別稅令第十六條第六項ノ乘客定員數ハ運賃計算ノ基準ト爲リタル人員ニ依ル

第九條　樺太支那事變特別稅令第二十條第一項ノ納期限ハ樺太廳鐵道ニ在リテハ翌月十五日トス

第十條　樺太支那事變特別稅令第二十一項ノ運輸業者通行稅ヲ徵收シタルトキハ納期限迄ニ第一號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行又ハ郵便官署ニ拂込ムベシ

第十一條　日本銀行又ハ郵便官署ニ於テ前條ノ規定ニ依リ通行稅ノ拂込ヲ受ケタル場合ニ於テハ第二號書式ノ領收書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官又ハ歲入徵收分掌官ニ送付スベシ

第十二條　汽車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ營業所所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

一　住所及氏名又ハ名稱

二　營業所ノ所在地及其ノ名稱

三　運輸業ノ種類（汽車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ノ區別）

四　線路、路線又ハ航路ノ名稱、起終點ノ地名及粁程

五　汽車、乘合自動車又ハ汽船ノ等級區分

六　乘車船券ノ種類

第十三條　運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣セントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱、販賣場ノ所在地竝ニ運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

第十四條　樺太廳支廳長ハ必要アリト認ムルトキハ運輸業者ニ左ノ事項ヲ申告セシムルコトヲ得

一　停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及其ノ所在地

二　停車場、停留所又ハ乘船場間ノ粁程

三　運賃又ハ料制ニ依リ定メタルトキハ一粁當運賃

四　回數、定期、團體又ハ貸切ノ乘車船ニ歲入徵收分掌官ニ送付スベシ

付特別ノ運賃ヲ定メタルトキハ其ノ運賃

五　運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ其ノ販賣場ノ所在地

六　連帶運輸ヲ爲ス運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ連帶運輸ヲ爲ス線路、路線又ハ航路ノ名稱、其ノ停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及該停車場、停留所又ハ乘船場間ノ粁程

第十五條　前三條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第十六條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ業ヲ相續又ハ合併ニ因リ承繼シタル者ハ其ノ旨ヲ營業所所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第十七條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者其ノ業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ營業所所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第十八條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ每日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　稅率ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレタル者ノ人員及稅額

二　樺太支那事變特別稅令第十七條各號ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレザル者ノ人員

第十九條　第十二條乃至前條ノ規定ハ樺太廳鐵道ニ付テハ之ヲ適用セズ

五　運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ其ノ販賣場ノ所在地

六　連帶運輸ヲ爲ス運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ連帶運輸ヲ爲ス線路、路線又ハ航路ノ名稱、其ノ停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及該停車場、停留所又ハ乘船場間ノ粁程

第十五條　前三條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第十六條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ業ヲ相續又ハ合併ニ因リ承繼シタル者ハ其ノ旨ヲ營業所所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第十七條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者其ノ業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ營業所所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第十八條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ每日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　稅率ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレタル者ノ人員及稅額

二　樺太支那事變特別稅令第十七條各號ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレザル者ノ人員

第十九條　第十二條乃至前條ノ規定ハ樺太廳鐵道ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十條　樺太支那事變特別稅令第二十一條ニ揭グル第一種第三號ノ場所ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　博覽會場

二　展覽會場

三　遊園地

第二十一條　樺太支那事變特別稅令第二十三條ニ規定スル第一種ノ場所ノ入場料ハ藝技料、會觀覽料、座席料、仲錢、下足料、敷物料其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ入場スル者ガ入場ノ爲ニ支拂フベキ金額ノ合計額ニ依ル

第二十二條　樺太支那事變特別稅令第二十六條ニ規定スル收益ノ總額ハ入場料總額ヨリ其ノ入場料ヲ得ルニ直接必要ナル經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第二十三條　入場料又ハ收益ノ總額ヲ左ノ目的ニ充ツル場合ニ於テハ樺太支那事變特別稅令第二十六條ノ規定ニ依リ入場稅ヲ免除ス

一　軍人ノ慰恤竝ニ支那事變ノ爲ニ從軍シタル軍人及軍屬ノ家族又ハ遺族ノ慰問其ノ他ノ軍事援護

二　兵器、艦船其ノ他ノ國防金品ノ獻納

第二十四條　第一種ノ催物（第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ）若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者樺太支那事變特別稅令第二十六條ノ規定ニ依リ入場稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ七日前ニ左ノ事項ヲ具シ第一種又ハ第二種ノ場所ノ所轄樺太廳支廳長ニ申請シ承認ヲ受クベシ

一　期間

二　入場料又ハ收益ノ總額ヲ支出スベキ事業又ハ目的

三　入場料

四　收入支出ノ概算書

前項ノ承認ヲ受ケタル者其ノ開催若ハ經營ヲ終了シタルトキハ直ニ證憑書類ヲ添ヘ收入支出ノ計算書ヲ提出スベシ

第二十五條　樺太支那事變特別稅令第二十七條ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ第一號書式ノ拂込書及第六號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行又ハ郵便官署ニ拂込ムベシ但シ常時開設ニ非ザルモノニ在リテハ左ノ場合ヲ除クノ外終了後直ニ之ヲ拂込ムベシ

一　開催又ハ經營ノ期間ガ一月以上ニ亙ル場合

二　開催期日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第二十六條　日本銀行又ハ郵便官署ニ於テ前條ノ規定ニ依リ入場稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ヲ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官又ハ歲入徵收分掌官ニ送付スベシ

第二十七條　第一種ノ催物若ハ設備ノ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

一　主催者又ハ經營者ノ住所及氏名又ハ名稱

二　第一種又ハ第二種ノ場所ノ所在地及其ノ名稱

三　催物又ハ設備ノ種類

四　各等級別觀客定員及入場料

五　入場券發賣ノ方法

六　第一種又ハ第二種ノ場所ノ構造其ノ他設備ノ概要

七　開設ノ年月日及開催又ハ經營ノ期間

第二十八條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ニシテ常時開設スル者其ノ催物又ハ經營ヲ一月以上休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第二十九條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者前二條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第三十條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ毎日左ノ事項ヲ翌日迄ニ之ヲ拂込ムベシ

一　入場シタル人員

二　入場券ノ受入及拂出

三　入場料ノ總額

四　入場稅額

第三十一條　樺太支那事變特別稅令第三十五條ニ揭グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者ハ販賣場及販賣スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

第三十二條　樺太支那事變特別稅令第三十五條ニ揭グル第二種ノ物品又ハ燐寸ヲ製造セントスル者ハ製造場及製造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

第三十三條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造者一月以上販賣又ハ製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第三十四條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造者ハ合併ニ因リ設立スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ消滅シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第三十五條　樺太支那事變特別稅令第三十五條ニ揭グル第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ營ム者ハ營業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ又ハ廢止シタルトキハ其ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ旨ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第三十六條　日本銀行又ハ郵便官署ニ於テ前條ノ規定ニ依リ特別入場稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官又ハ歲入徵收分掌官ニ送付スベシ

第三十七條　第二十一條第一項、第二十二條乃至第二十四條、第二十七條乃至第二十九條、第三十一條、第三十三條及第三十四條ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第三十八條　樺太支那事變特別稅令第三十五條ノ規定ニ依リ物品稅ヲ課スベキ物品ハ別表ニ定ムル所ニ依ル

別表ニ於テ貴金屬トハ金、銀、白金及此等ヲ主タル材料トスル合金ヲ謂フ

別表ニ於テ貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ヲ用ヒタル製品トハ其ノ用ヒタル貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ノ價格（二種以上ノモノヲ用ヒタルモノニ付テハ其ノ價格ヲ合算ス）ガ三圓以上ノモノヲ謂フ

第三十九條　樺太支那事變特別稅令第三十五條ニ揭グル第一種ノ物品中第十四號ニ揭グルモノニ付物品稅ヲ課スベキ場合ハ一回ノ賣買建金額ガ一萬圓ヲ超ユル場合ニ限ル但シ强制競賣ノ場合ハ物品稅ヲ課

セズ

第四十條　樺太支那事變特別稅令第三十五條ニ揭グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者ハ販賣場及販賣スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

第四十一條　樺太支那事變特別稅令第三十五條ニ揭グル第二種ノ物品又ハ燐寸ヲ製造セントスル者ハ製造場及製造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

第四十二條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造者一月以上販賣又ハ製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第四十三條　樺太廳支廳長ハ必要ト認ムルトキハ第二種ノ物品又ハ燐寸ノ製造者ニ製造場ノ圖面及製造用ノ機械器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第四十四條　第四十條乃至第四十二條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第四十五條　第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品ニシテ引取ラルル第一種ノ物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ承繼シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第四十六條　第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造者ハ合併ニ因リ設立シタル法人ハ其ノ旨ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第四十七條　第一種ノ物品若ハ燐寸ノ製造場ヲ移轉セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第四十八條　第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ通常容器ト共ニ販賣セラルルモノノ價格ハ其ノ容器ノ價格ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十九條　保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノノ價格ハ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ニ當該物品ニ課セラルベキ關稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第五十條　燐寸ノ本數ハ軸木ノ本數ニ依ル但シ二個以上ノ點火裝置ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ點火裝置ノ個數ニ依ル

第五十一條　第一種ノ物品ノ販賣者又ハ製造者ガ第一種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ハ之ヲ徵收セズ

前項ノ場合ニ於テハ販賣場又ハ製造場ノ所轄樺太廳支廳長ヨリ交付ヲ受ケタル販賣者又ハ製造者タルコトヲ證明スベキ書類ヲ所轄稅關ニ提出スベシ

第一項ノ場合ニ於テハ樺太支那事變特別稅令第四十二條第二項ノ規定ニ依ル申告書ノ提出ヲ要セズ

第五十二條　物品稅ノ免除ヲ受ケズシテ輸出シタル物品ヲ再輸入シ之ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ヲ徵收セズ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第五十三條　樺太支那事變特別稅令第四十二條第一項ノ規定ニ依ル申告書ハ所轄樺太廳支廳長ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ申告書ノ提出ナキトキ又ハ樺太廳支廳長其ノ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ樺太廳支廳長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スベシ

前二項ノ規定ハ樺太支那事變特別稅令第四十二條第二項ノ規定ニ依ル申告ニ付之ヲ準用ス

第五十四條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ製造者返還ヲ受ケ又ハ戻入シタル物品ニ付樺太支那事變特別稅令第四十三條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及返還又ハ戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量及價格ニ付所轄樺太廳支廳長ノ承認ヲ受クベシ

第五十五條　樺太支那事變特別稅令第三十五條ニ揭グル第三種ノ物品ノ製造者戻入又ハ移入シタル物品ニ付同令第四十三條第二項ノ規定ニ依ル徵收ノ免除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及戻入又ハ移入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名及數量ニ付所轄樺太廳支廳長ノ承認ヲ受クベシ

第五十六條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

擔保トシテ登錄國債ヲ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ

擔保トシテ國債ノ償還ヲ受ケントスルトキハ樺太廳支廳長ハ擔保ヲ提供セシムベシ

第五十七條　樺太支那事變特別稅令第四十四條第二項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及返還又ハ戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量及價格ニ付所轄樺太廳支廳長ノ承認ヲ受クベシ

第五十八條　樺太支那事變特別稅令第三十五條ニ揭グル第三種ノ物品ノ製造者戻入又ハ移入シタル物品ニ付同令第四十三條第二項ノ規定ニ依ル徵收ノ免除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及戻入又ハ移入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名及數量ニ付所轄樺太廳支廳長ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第五十九條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

擔保トシテ登錄國債ヲ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

第六十條　樺太支那事變特別稅令第四十五條第三項、第四十六條第二項及第四十七條第二項ノ期間ハ樺太廳支廳長之ヲ指定ス

第六十一條　樺太支那事變特別稅令第四十五條第三項但書、第四十六條第二項及第四十七條第二項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第五十八條、第六十條第一項又ハ第六十三條第一項ノ樺太廳支廳長ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ滅失シタル場所ガ前項ノ樺太廳支廳ノ管轄外ナルトキハ最寄樺太廳支廳長ニ滅失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スベシ

第六十二條　第五十八條乃至第六十一條及第六十三條乃至前條ノ規定ハ樺太支那事變特別稅令第四十五條乃至第四十七條ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及返還又ハ戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量及價格ニ付所轄樺太廳支廳長ノ承認ヲ受クベシ

第六十三條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者樺太支那事變特別稅令第四十七條及前條ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ第一種ノ物品ヲ引渡シ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スル際其ノ旨ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第六十四條　樺太支那事變特別稅令第四十七條第一項第一號ノ物品ニ付輸出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ輸出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

第六十五條　樺太支那事變特別稅令第四十五條第三項、第四十六條第二項及第四十七條第二項ノ期間ハ樺太廳支廳長之ヲ指定ス

第六十六條　樺太支那事變特別稅令第四十五條第三項但書、第四十六條第二項及第四十七條第二項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第五十八條、第六十條第一項又ハ第六十三條第一項ノ樺太廳支廳長ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ滅失シタル場所ガ前項ノ樺太廳支廳ノ管轄外ナルトキハ最寄樺太廳支廳長ニ滅失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スベシ

第六十七條　第五十八條乃至第六十一條及第六十三條乃至前條ノ規定ハ樺太支那事變特別稅令第四十五條乃至第四十七條ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及返還又ハ戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量及價格ニ付所轄樺太廳支廳長ノ承認ヲ受クベシ

第六十八條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ製造者樺太支那事變特別稅令第四十七條及前條ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ第一種ノ物品ヲ引渡シ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スル際其ノ旨ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第六十九條　樺太支那事變特別稅令第四十七條第一項第一號ノ物品ニ付輸出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ輸出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

第七十條　樺太支那事變特別稅令第四十五條第三項、第四十六條第二項及第四十七條第二項ノ期間ハ樺太廳支廳長之ヲ指定ス

第七十一條　樺太支那事變特別稅令第四十五條第三項但書、第四十六條第二項及第四十七條第二項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第五十八條、第六十條第一項又ハ第六十三條第一項ノ樺太廳支廳長ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ滅失シタル場所ガ前項ノ樺太廳支廳ノ管轄外ナルトキハ最寄樺太廳支廳長ニ滅失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スベシ

第七十二條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ製造者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第七十三條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第七十四條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第七十五條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第七十六條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第七十七條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第七十八條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第七十九條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第八十條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第八十一條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第八十二條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第八十三條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第八十四條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第八十五條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第八十六條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第八十七條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第八十八條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第八十九條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第九十條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第九十一條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第九十二條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第九十三條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第九十四條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第九十五條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第九十六條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第九十七條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第九十八條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第九十九條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百一條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百二條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百三條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百四條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百五條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百六條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百七條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百八條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百九條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百十條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百十一條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百十二條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百十三條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百十四條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百十五條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百十六條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百十七條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百十八條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百十九條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百二十條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百二十一條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百二十二條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百二十三條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百二十四條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百二十五條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百二十六條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百二十七條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百二十八條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百二十九條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百三十條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百三十一條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百三十二條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百三十三條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百三十四條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百三十五條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百三十六條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百三十七條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百三十八條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百三十九條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百四十條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百四十一條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百四十二條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百四十三條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百四十四條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百四十五條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關シテハ樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一種ノ物品ノ販賣者ニ對スル物品稅ノ賦課ニ關スル規定ノ例ニ依ル

第百四十六條　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ第一

場所ヲ經營シタル者
二　第四十二條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者
三　政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ヲ製造シタル者
四　樺太支那事變特別稅令第二十二條第一項、第二十九條第一項又ハ第四十九條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者
五　樺太支那事變特別稅令第二十二條第二項、第二十九條第二項又ハ第四十九條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者
六　樺太支那事變特別稅令第五十一條第一項、第二項又ハ第四項ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第七十五條　第七十二條及第七十三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第七十六條　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ物品稅ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第七十七條　利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ノ過誤納アリタル爲之ガ拂戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金ノ支拂地ノ所轄樺太廳支廳長ニ請求書ヲ提出スベシ

第七十八條　本令中樺太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第一條、第二條及第五十三條第二項ノ規定ヲ除クノ外租稅ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

附　則

第七十九條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十條　樺太支那事變特別稅令第六十條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ課スベキ物品稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十三年五月三十一日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス

稅額百圓ヲ超ユル　六昭トキ
稅額千圓ヲ超ユル　同年五月乃至七月トキ
稅額二千圓ヲ超ユル　同年五月乃至八月トキ
稅額五千圓ヲ超ユル　同年五月乃至九月トキ

第八十一條　樺太支那事變特別稅令第六十一條第三項ノ規定ニ依リ課スベキ物品稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ第三種ノ物品ノ所在地所轄樺太廳支廳長ニ之ヲ爲スベシ

第八十二條　樺太支那事變特別稅令第六十一條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ課スベキ物品稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十三年五月三十一日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス

稅額百圓ヲ超ユル　六昭トキ
稅額千圓ヲ超ユル　同年五月乃至七月トキ
稅額二千圓ヲ超ユル　同年五月乃至八月トキ
稅額五千圓ヲ超ユル　同年五月乃至九月ルトキ

第八十三條　樺太支那事變特別稅令第六十一條第三項ノ規定ニ依リ課スベキ物品稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ第三種ノ物品ノ所在地所轄樺太廳支廳長ニ之ヲ爲スベシ

第八十四條　樺太支那事變特別稅令第六十條第三項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ第二十七條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種ノ備物若ハ設備、第二種ノ場所又ハ運動競技ヲ開催若ハ經營スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

樺太支那事變特別稅令第六十條第三項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第四十一條又ハ第四十一條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ヲ製造スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

（書式及別表省略）

樺太支那事變特別稅令施行規則中改正

（昭和十三年四月二十六日　樺太廳令第三十二號）

第六十二條ニ左ノ一號ヲ加フ

七　揮發油混入ノ用ニ供セラルル揮精

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樺太ニ於ケル明治四十四年法律第四十五號ノ特例ニ關スル件

（昭和十三年四月一日　勅令第二百十九號）

樺太ニ於テハ明治四十四年法律第四十五號中支那事變特別稅法トアルハ樺太支那事變特別稅令、北支事件特別稅法トアルハ樺太北支事件特別稅令、第三十八條トアルハ第三十五條トス

樺太ニ於テ明治四十四年法律第四十五號ニ依リ砂糖消費稅、織物消費稅、揮發油稅、骨牌稅、物品稅又ハ物品特別稅ヲ徵收スルトキハ其ノ稅金ノ徵收ニ關スル事務ハ稅關ニ委託シテ之ヲ行ハシム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樺太施行法律特例第十條ノ二ヲ削ル

〔參照〕

大正九年五月三日　勅令第百二十四號　樺太施行法律特例勅令

第十條ノ二　明治四十四年　法律第四十五號ニ依リ砂糖消費稅、織物消費稅又ハ揮發油稅ヲ徵收スル場合ニ於テ　其ノ稅金ノ徵收ニ關スル事務ハ稅關ニ委託シテ之ヲ行ハシム

明治四十四年三月二十　法律第四十五號ハ砂糖　消費稅、織物消費稅及揮發油稅ノ徵收ニ關スル件ナリ

關東州支那事變特別稅令

（昭和十三年四月一日　勅令第二百十三號）

第一條　當分ノ內本令ニ依リ所得稅ヲ增徵シ利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ヲ課ス

第二條　所得稅中法人ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ付テハ關東州所得稅令第二十五條ニ規定スル稅率百分ノ六ヲ百分ノ七・五、百分ノ九ヲ百分ノ十一トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

所得稅中法人ノ超過所得ニ對スル所得稅ニ付テハ關東州所得稅令第二十五條ニ規定スル稅率百分ノ三ヲ百分ノ三・七、百分ノ九ヲ百分ノ十一トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

所得稅中法人ノ清算所得ニ對スル所得稅ニ付テハ關東州所得稅令第二十五條ニ規定スル稅率百分ノ三ヲ百分ノ三・七、百分ノ九ヲ百分ノ十一トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

第一條及第二項ノ規定ニ依ル普通所得及超過所得ニ對スル稅額ハ普通所得ノ百分ノ四十ニ相當スル金額ヨリ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅額（關東州所得稅令第二十六條ノ規定ニ依リ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ヲ含マズ）、臨時利得稅額及前條ノ規定ニ依ル增徵稅額ノ合計金額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルトキヲ得ズ

第三條　所得稅中同族會社ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ニ付テハ關東州所得稅令第二十六條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ノ百分ノ十三・五ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

同族會社ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ハ普通所得ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヨリ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅額（關東州所得稅令第二十六條ノ規定ニ依リ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ヲ含マズ）、臨時利得稅額及前條ノ規定ニ依ル增徵稅額ノ合計金額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルトキヲ得ズ

第四條　所得稅中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ關東州所得稅令第二十七條ノ規定ニ依ル增徵ニ因リ之ヲ超ユルニ至ルトキハ其ノ增徵稅額ニ付亦同ジ

ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子

利率年四分以下ノモノ　百分ノ一・五

利率年四分ヲ超ユルモノ　百分ノ一・八七

國債以外ノ公債及社債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ　百分ノ三・二

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ　百分ノ三・七五

其ノ他　百分ノ三・二

乙　百分ノ六・二五

第五條　所得稅中第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ所得稅額百分ノ十三・五ヲ相當スル稅額ヲ增徵ス

第六條　關東州所得稅令第二十四條ノ規定ニ拘ラズ第三種ノ所得千二百圓以上ナルトキハ所得稅ヲ課ス

前項ノ所得ハ關東州所得稅令第十四條、第十五條及第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル殘額ニ依リ、戶主及其ノ同居家族ノ所得又ハ戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ハ其ノ合算總額ニ依ル

前條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ課セラルル所得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條　第三種ノ所得ニ付所得金額決定後翌年所得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際所得額ガ決定所得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ所得金額ノ決定ニ付脫漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際所得額ヘ其ノ年ニ於ケル牧入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第八條　利益配當稅ハ關東州ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

關東州所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラルル利益ノ配當ニ付之ヲ賦課シ配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第九條　利益配當稅ハ前條ノ法人ヨリ支拂ヲ受クル利益ノ配當ニ付之ヲ賦課シ配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十條　利益配當稅ハ關東州ニ本店ヲ有スル者ニ於テハ之ヲ適用セズ

第十一條　關東州所得稅令第五十八條ノ規定ハ利益配當稅ニ付之ヲ準用ス

第十二條　公債及社債利子稅ハ關東州ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

關東州所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子稅ヲ課セズ

第十三條　公債及社債利子稅ハ關東州ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債（關東州外貨債特別稅令第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク）ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十四條　公債及社債利子稅ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十五條　利益配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子稅ヲ課セラルル公債若ハ社債ノ利子ニ付所得稅（第一種所得稅ヲ除ク）ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配

當稅又ハ公債及社債利子稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

第十六條　通行稅ハ汽車、電車、乘合自動車及汽船ノ乘客ニ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

五十粁未滿

一等　六錢
二等　三錢

五十粁以上

一等　十錢
二等　五錢
三等　二錢

百粁以上

一等　三十錢
二等　十五錢
三等　五錢

百五十粁以上

一等　六十錢
二等　三十錢
三等　十錢

三百粁以上

一等　一圓二十錢
二等　六十錢
三等　二十錢

五百粁以上

一等　一圓八十錢
二等　九十錢
三等　三十錢

八百粁以上

一等　二圓四十錢
二等　一圓二十錢
三等　四十錢

同數乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

同數二十圓以下ナルトキ

前項稅額ノ五倍

同數五十圓以下ナルトキ

前項稅額ノ十倍

同數五十圓ヲ超ユルトキ

前項稅額ノ二十倍

定期乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

契約期間一月內ナルトキ

第一項稅額ノ五倍

契約期間三月內ナルトキ

第一項稅額ノ十倍

契約期間六月內ナルトキ

第一項稅額ノ二十倍

契約期間六月ヲ超ユルトキ

第一項稅額ノ三十倍

團體乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

人員二百人以下ナルトキ

第一項稅額ノ十倍

人員二百人ヲ超ユルトキ

第一項稅額ノ二十倍

貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

一等及二等　貸切運賃ノ百分ノ十

三等　貸切運賃ノ百分ノ五

前項ノ規定ニ依ル稅額ハ第一項稅額ニ乘客定員數ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第一項乃至第三項ニ規定スル通行稅ハ十二歲未滿ノ乘客ニ付テハ其ノ半額トス

第十七條　左ノ場合ニ於テハ通行稅ヲ課セズ

一　三等乘客ニシテ其ノ乘車船區間五十粁未滿ナルトキ

二　陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ滿洲國駐箚特命全權大使ノ定ムルモノナルトキ

三　大使ノ指定スル外國航路ニ就航スル汽船ノ三等乘客ナルトキ

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十六條第一項及前條第一號ノ乘車船區間ノ軒程ノ計算ハ大使之ヲ定ム

一　關東州外ニ亘ル乘車ノ契約ヲ爲シタルトキ

二　往復乘車船又ハ周遊乘車船ノ契約ヲ爲シタルトキ

三　運賃ガ均一制又ハ區間制ニ依リ定メラレタルトキ

第十九條　汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ第十六條第一項、第五項及第十七條第一號、第三號ノ等級ハ大使之ヲ定ム乘客定員數ノ定メナキ車船ニ付貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第十六條第六項ノ乘客定員數ニ付亦同ジ

第二十條　通行稅ハ汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者（以下運輸業者ト稱ス）運賃領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ

第二十一條　汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者及運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣セントスル者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第二十二條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第二十三條　入場稅ハ左ニ揭グル第一種ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス

第一種

一　演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物（相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム）ヲ催ス場所

二　競馬場

三　前二號ニ揭グルモノヲ除クノ外一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ觀覽ニ供スル場所ニシテ大使ノ定ムルモノ

第二種

一　舞踏場、麻雀場、撞球場

二　ゴルフ場

第二十四條　入場稅ハ入場料ノ百分ノ五トス

本令ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

前項ノ入場料ノ算定ニ關シテハ大使之ヲ定ム

第二十五條　第一種ノ場所ノ入場料ガ一人一回三十九錢ニ滿タザル場合ニハ入場稅ヲ課セズ

前項ノ規定ハ回數、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十六條　第一種ノ催物（第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ）若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ガ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ入場料又ハ收益ノ總額ヲ慈善事業其ノ他大使ノ定ムル目的ニ充ツル場合ニ於テハ入場稅ヲ免除ス

第二十七條　入場稅ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ常時開設ニ

非ザルモノニ付テハ大使ノ定ムル場合ヲ除クノ外終了後直ニ政府ニ納ムベシ

第二十八條　第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催者ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第二十九條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

第三十條　特別入場稅ハ運動競技ニシテ學生生徒又ハ該競技ヲ爲スコトヲ業トセザル者ノ行フモノニ付觀覽ノ爲競技場ニ入場スル者ヨリ料金ヲ徵スル場合ニ於テ其ノ入場者ニ之ヲ課ス

第三十一條　特別入場稅ハ特別入場料ノ百分ノ五トス

本令ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ前條ノ競技場ニ入場スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

第二十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條　特別入場料ガ一人一回三十九錢ニ滿タザル場合ニハ特別入場稅ヲ課セズ

第二十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　特別入場料領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ大使ノ定ムル場合ニハ特別入場稅ヲ課セザル者特別入場料領收ノ際之ヲ徵收シ競技終了後直ニ政府ニ納ムベシ

第三十四條　第二十六條、第二十八條及第二十九條ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第三十五條　物品稅ハ左ニ揭グル物品ニシテ大使ノ定ムルモノニ之ヲ課ス

第一種

甲類

一　貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品

二　眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品

三　貴金屬製品又ハ金若ハ白金ヲ用ヒタル製品

四　鼈甲製品

五　珊瑚製品

乙類

六　時計

七　萬年筆、金ペン及シャープペンシル

八　身邊用細貨類

九　化粧用具

十　喫煙用具

十一　帽子、杖、鞭及傘

十二　皮革製又ハ金屬製ノ鞄及トランク

十三　靴及履物

十四　書畫及骨董

十五　室內裝飾用品

十六　照明器具

十七　圍碁及將棋用具

十八　家具

十九　漆器、陶磁器及硝子製器具ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ

二十　貴金屬ヲ鍍シ又ハ張リタル製品ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ

二十一　毛皮又ハ毛皮製品

二十二　羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品

二十三　皮革製品ニシテ別號ニ揭ゲザルモノ

二十四　メリヤス、レース、フェルト及同製品

第二種

甲類

一　寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品
二　寫眞用ノ乾板、フィルム及感光紙
三　蓄音器及同部分品
四　蓄音器用レコード
五　樂器、同部分品及附屬品
六　雙眼鏡及複眼鏡
七　銃及同部分品
八　藥莢及彈丸
九　ゴルフ用具、同部分品及附屬品
十　娯樂用モーターボート、スカール及ヨット
十一　撞球用具
十二　ネオン管及同變壓器
十三　喫煙用ライター

乙類

十四　ラヂオ聽取機及同部分品
十五　受信用眞空管及濾波器
十六　扇風機及同部分品
十七　煖房用ノ電氣、瓦斯又ハ石油ストーブ
十八　冷藏器及同部分品
十九　金庫及鋼鐵製家具
二十　乘用自動車
二十一　化粧品

第三種

一　鱗寸
二　酒類

イ　醸造酒

支那酒タル清酒、黃酒、濁酒

一石ニ付　一圓
一石ニ付　二圓

同一物品ニシテ第一種及第二種ニ該當スルモノヲ除ク

一石ニ付　三圓五十錢

ロ　蒸餾酒

酒精　一石ニ付　五圓
酒精以外ノ蒸餾酒　一石ニ付　二圓五十錢
ハ　再製酒

酒精分二十度以下ノ白酒、味淋　一石ニ付　二圓五十錢
前記以外ノ再製酒　一石ニ付　三圓五十錢

第三十六條　物品稅ノ稅率ハ左ノ如シ

第一種　物品ノ價格百分ノ十五
第二種　物品ノ價格百分ノ十
第三種　物品ノ價格百分ノ十五

甲類　物品ノ價格百分ノ十
乙類　物品ノ價格百分ノ十

第三十七條　前條ノ價格ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スルトキノ價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格トス

前項ノ價格及鱗寸ノ本數ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ大使之ヲ定ム

保稅地域トハ政府ニ於テ課稅物件ヲ藏置シ得ベキ場所トシテ指定シ又ハ特許シタル場所ヲ謂フ

第三十八條　物品稅ハ第一種ノ物品ニ付テハ販賣セラレタル物品ノ價格ニ應ジ小賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出セラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル物品ニ付テ

ハ大使ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取ラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第三十九條　物品稅ハ第一種第十四號ニ揭グル物品ニ付テハ其ノ物品ガ入札其ノ他競爭ノ方法ニ依リ賣買セラルル場合ニシテ大使ノ定ムル場合ニ限リ之ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ札元又ハ之ニ準ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物品ヲ販賣スルモノト看做ス

第四十條　製造場以外ノ場所ニ於テ販賣ノ爲化粧品ヲ容器ニ充塡シ又ハ改裝スルトキハ之ヲ化粧品ノ製造ト看做ス

第四十一條　酒類ヲ製造場內又ハ保稅地域內ニ於テ飲用シタルトキハ之ヲ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタルモノト看做ス

第四十二條　第一種ノ物品ノ小賣業者ハ每月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品名每ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ノ製造者ハ每月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名每ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第三種ノ物品ノ製造者ハ每月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名每ニ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出ス

ベシ

第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ大使ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第四十三條　小賣業者ガ其ノ販賣シタル第一種ノ物品ノ返還ヲ受ケタル場合ニ於テハ大使ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ課稅標準額ヨリ其ノ物品ノ價格ヲ控除ス製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シタル場合亦同ジ

製造場ヨリ移出シタル第三種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シ又ハ酒類ヲ製造場外ヨリ移入シタル場合ニ於テハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スルモ更ニ物品稅ノ徵收ヲ爲サズ

第四十四條　物品稅ハ每月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第三十八條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

大使ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付其ノ品名每ニ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出ス

供シタルトキハ一月內物品稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十五條　大使ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種ノ物品又ハ鱗寸ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セズ前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間內ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ滅失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ物品稅ヲ免除ス

第四十六條　大使ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ物品稅ヲ免除ス

一　第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スル第二種ノ物品

二　酒類製造用又ハ工業用ニ供スル酒類

前條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政

府ノ指定シタル期間内ニ移出先若ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノ又ハ其ノ用途ヲ變更セラレタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十七條　左ニ揭グル物品ニ付テハ大使ノ定ムル所ニ依リ物品稅ヲ免除ス

一　輸出スルモノ

二　其ノ他大使ノ定ムル用途ニ供スルモノ

第四十五條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出シ又ハ其ノ用途ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條　第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ヲ製造セントスル者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ政府ニ申告スベシ其ノ小賣業又ハ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第四十九條　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第五十條　第十條、第十四條、第二十條、第二十七條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第五十一條　稅務官吏ハ通行稅ニ付運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

稅務官吏ハ入場稅ニ付第一種ノ傭物若ハ第二種ノ場所ノ經營者又ハ第二種ノ場所ノ設備ノ主傭者若ハ經營者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

稅務官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ揭グル物件ニ付檢查ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ

二　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

第五十二條　市、會其ノ他ノ公共團體ハ本令ニ依リ增徵スル稅額又ハ本令ニ依リ課スル利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

市、會其ノ他ノ公共團體ハ第一種ノ場所ノ入場者又ハ第二種ノ場所ノ設備利用者ニ對シ入場稅ノ課稅標準タル入場料ヲ標準トシテ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第五十三條　大使ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外支那事變特別稅ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

第五十四條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十五條　所得稅中第一種ノ所得稅ニ付テハ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅ハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分、清算所得ニ對スル所得稅ハ昭

和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第七條ノ規定ハ昭和十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第六條ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ニ付新ニ納稅義務ヲ有スルニ至リタル者ハ昭和十三年四月三十日迄ニ其ノ所得金額ヲ申告スベシ

前項ノ場合ニ於テハ所得金額ノ申告ト同時ニ關東州所得稅令第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ申請スルコトヲ得

法人ノ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル各事業年度分ノ所得ニ對スル所得稅及昭和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得稅ニ付テハ北支事件特別稅中ノ第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ之ヲ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シ關東州所得稅令第二十五條第二項乃至第四項ノ規定ヲ適用ス

第五十六條　法人ノ昭和十三年八月二十六日以前ニ終了スル各事業年度分ノ普通所得及超過所得ニ對スル所得特別稅額ハ當該所得ニ付第二條及第三條ノ規定ニ依リ算出シタル增徵稅額ヨリ之ヲ控除ス

第四十七條　昭和十三年八月二十六日以前ニ支拂期ノ昭和十三年分第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得特別稅額ハ當該所得ニ付第四條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ之ヲ控除ス

第五十七條　昭和十三年八月二十六日以前ニ受クル利益ノ配當及支拂期ノ昭和十三年八月二十六日以前ニ在ル公債又ハ社債利子ニ對シテハ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ニ關スル規定ヲ適用セズ

第五十八條　本令施行前ヨリ引續キ汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

本令施行前ヨリ引續キ第三十五條ニ揭グル第一種ノ物品ノ製造ヲ營ム者、同第二種ノ場所ヲ經營スル者又ハ運動競技ヲ開催スル者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第五十九條　本令施行前ヨリ引續キ第三十五條ニ揭グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第六十條　第三十五條ニ揭グル第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造ヲ爲ス者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ同令ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノト看做ス

關東州北支事件特別稅令第二十條ニ揭グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同令ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノハ第四十八條前段ノ申告ヲ要セズ

第六十條　第三十五條ニ揭グル第二種ノ物品ノ製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同條各號ニ揭グル品名毎ニ價格三千圓ヲ超ユル第二種ノ物品（第一號乃至第五號ニ揭グル物品ヲ除ク）ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ其ノ價格三千圓ヲ超ユル部分ニ付大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品稅ヲ徵收ス

前項ノ規定ハ同第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同條各號ニ揭グル品名毎ニ價格三千圓ヲ超ユル數量ノ燐寸又ハ三十石ヲ超ユル數量ノ酒類ヲ所持スル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ製造者又ハ販賣者ハ第二種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本令施行後一月內ニ政府ニ申告スベシ

第六十一條　本令ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

關東州支那事變特別稅令施行規則

（昭和十三年四月一日關東局令第二十八號）

第一條　稅務署長又ハ民政署長關東州支那事變特別稅令（以下支那事變特別稅令ト稱ス）第七條第一項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定セントスル場合ニ於テハ其ノ所得金額ノ調査ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ

第二條　稅務署長又ハ民政署長支那事變特別稅令第七條第一項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

關東州所得稅令第四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三條　支那事變特別稅令第十條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ配當金又ハ利子金額ノ支拂者利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行代理店ニ拂込ムベシ

第四條　支那事變特別稅令第十七條第二號ノ規定ニ依リ陸海軍ノ關體トシテノ乘車船ニシテ通行稅ヲ課セザルモノヲ定ムルコト左ノ如シ

一　鐵道軍事供用令ニ依ル乘車

二　軍事上ノ必要ニ依リ貸切ノ契約ニテ爲ス乘船

第五條　支那事變特別稅令第十七條第三號ノ外國航路ハ內地、朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ寄港地ヲ有セザル汽船ノ航路トス

第六條　支那事變特別稅令第十七條第二號ノ汽船ニ連續スル三等ノ乘車區間ノ軒程ニ依リ通行稅ヲ課スル場合ニ於テハ本令施行地內ノ乘車區間ノ軒程ニ依リ通行稅ヲ課ス

第七條　支那事變特別稅令第十八條ノ規定ニ依リ關東州外ニ亙ル乘車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル乘車區間ノ軒程ヲ除キタル區間中ノ外國領土內ノ軒程ヲ計算スルモノニ依リ之ヲ計算ス

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ各其ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

一　往復乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ軒程ヲ計算ス

二　週遊乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ軒程ハ各區間毎ニ之ヲ計算ス

三　均一制又ハ區間制ニ依リ運賃ヲ定メタル區間ヲ乘車船スル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ該乘車船契約ニ依リ乘車船シ得ベキ區間中最モ短キモノニ依リ乘車船區間ノ軒程ヲ計算ス

第九條　汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ支那事變特別稅令第十六條第一項、第五項、第十七條第一號及第三號ノ等級ハ等級ヲ分タザルモノニ在リテハ二等及三等、一等ノ上又ハ三等ノ下ニ更ニ等級ヲ設ケタルモノニ在リテハ一等又ハ三等トス

第十條　乘客定員數ノ定ナキ車船ニ付貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ支那事變特別稅令第十六條第六項ノ乘客定員數ハ運賃計算ノ基準ト爲リタル人員ニ依ル

第十一條　支那事變特別稅令第二十條第一項ノ運輸業者通行稅ヲ徵收シタルトキハ納期限迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行代理店ニ拂込ムベシ

第十二條　汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ營業所所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ

一　住所及氏名又ハ名稱

二　營業所ノ所在地及其ノ名稱

三　運輸業ノ種類（汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ノ區別）

四　線路、路線又ハ航路ノ名稱、起終點ノ地名及軒程

五　汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ノ等級區分

六　乘車船券ノ種類

第十三條　運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣セントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱、販賣場ノ所在地竝ニ運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ

第十四條　稅務署長又ハ民政署長ハ必要アリト認ムルトキハ運輸業者ニ左ノ事項ヲ申告セシムルコトヲ得

一　停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及其ノ所在地

二　停車場、停留所又ハ乘船場間ノ軒程

三　運賃ヲ軒制ニ依リ定メタルトキハ對軒運賃、區間制ニ依リ定メタルトキハ各區間及其ノ運賃、均一制ニ依リ定メタルトキハ均一運賃

四　回數、定期、團體又ハ貸切ノ乘車船ニ付特別ノ運賃ヲ定ヌタルトキハ其ノ運賃

五　運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ其ノ販賣場ノ所在地

六　連帶運輸ヲ爲ス運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ連帶運輸ヲ爲ス線路、路線若ハ航路ノ名稱、其ノ停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及該停車場、停留所又ハ乘船場間ノ軒程

第十五條　前三條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務署又ハ民政署ニ申告スベシ

第十六條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ毎日左ノ事項ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ

第十七條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者其ノ業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ申告スベシ

第十八條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　稅率ノ區別ニ從ヒ通行稅及稅額

二　支那事變特別稅令第十七條各號ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレザル者ノ人員及稅額

前項第一號ノ記載ニ付テハ第六條及第七條ノ規定ニ依リ通行稅ヲ課セラレタルモノト其ノ他ノモノトヲ區分スベシ

第十九條　支那事變特別稅令附則第五十八條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第十四條ノ規定ニ準ジ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ミ又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スルモノニ付テハ支那事變特別稅令第二十六條ノ規定ニ依リ入場稅ヲ免除ス

一　軍人ノ慰恤竝ニ支那事變ノ爲ニ從軍シタル軍人及軍屬ノ家族又ハ遺族ノ慰問其ノ他ノ軍事援護

二　兵器、艦船其ノ他國防金品ノ獻納

第二十四條　第一種ノ催物ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者支那事變特別稅令第二十六條ノ規定ニ依リ入場稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ七日前ニ左ノ事項ヲ具シ所轄稅務署又ハ民政署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

一　期間

二　入場料又ハ收益ノ總額ヲ支出スベキ事業又ハ目的

三　入場料

四　收入支出ノ概算書

前項ノ承認ヲ受ケタル者其ノ開催若ハ經營ヲ終了シタルトキハ直ニ證憑書類ヲ添ヘ收入支出ノ計算書ヲ提出スベシ

第二十五條　支那事變特別稅令第二十七條ノ規定ニ依リ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込ミベシ但シ左ノ場合ハ翌月十日迄ニ之ヲ拂込ムベシ

一　開催ノ期間ガ一月以上ニ亙ル場合

二　開催期日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第二十六條　第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ豫メ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ

一　主催者若ハ經營者ノ住所及氏名又ハ名稱

二　第一種又ハ第二種ノ場所ノ所在地及其ノ名稱

三　催物若ハ設備ノ種類

四　各等級別觀客定員及入場料

五　入場券發賣ノ方法

六　第一種又ハ第二種ノ場所ノ構造其ノ他設備ノ概要

七　開設ノ年月日及開催又ハ經營ノ期間

八　前各號ノ外稅務署長又ハ民政署長ノ指定シタル事項

第二十七條　第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ其ノ名稱、種類、各等級別觀客定員及入場料ヲ變更シ又ハ第一種又ハ第二種ノ場所ヲ移轉セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ第二十六條及前條ノ規定ニ準ジ申告スベシ

第二十八條　第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ豫メ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ

一　主催者若ハ經營者ノ住所及氏名又ハ名稱

二　第一種又ハ第二種ノ場所ノ所在地及其ノ名稱

三　催物若ハ設備ノ種類

四　各等級別觀客定員及入場料

五　入場券發賣ノ方法

六　第一種又ハ第二種ノ場所ノ構造其ノ他設備ノ概要

七　開設ノ年月日及開催又ハ經營ノ期間

八　前各號ノ外稅務署長又ハ民政署長ノ指定シタル事項

第二十七條　第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ其ノ名稱、種類、各等級別觀客定員及入場料ヲ變更シ又ハ第一種又ハ第二種ノ場所ヲ移轉セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ第二十六條及前條ノ規定ニ準ジ申告スベシ

第二十八條　第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ豫メ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ

一　主催者若ハ經營者ノ住所及氏名又ハ名稱

二　第一種又ハ第二種ノ場所ノ所在地及其ノ名稱

三　催物若ハ設備ノ種類

四　各等級別觀客定員及入場料

五　入場券發賣ノ方法

六　第一種又ハ第二種ノ場所ノ構造其ノ他設備ノ概要

七　開設ノ年月日及開催又ハ經營ノ期間

八　前各號ノ外稅務署長又ハ民政署長ノ指定シタル事項

第二十九條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ相續又ハ合併ニ因リ承繼シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ申告スベシ

第三十條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ申告スベシ

第三十一條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者第一種又ハ第二種ノ場所ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第二十六條及前條ノ規定ニ準ジ申告スベシ

第三十二條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者ハ入場料領收ノ際入場券ヲ發行スベシ但シ稅務署長又ハ民政署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條　第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ每日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　入場シタル人員

二　入場券ノ受入及拂出

三　入場料ノ總額

四　入場稅額

五　前各號ノ外稅務署長又ハ民政署長ノ指定シタル事項

第三十四條　支那事變特別稅令第三十三條ノ規定ニ依リ運動競技ノ主催者特別入場

稅ヲ徵收シタルトキハ競技終了後直ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行代理店ニ拂込ムベシ但シ左ノ場合ハ翌月十日迄ニ之ヲ拂込ムベシ

一　開催ノ期間ガ一月以上ニ亙ル場合

二　開催期日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第三十五條　第二十一條第一號、第二十二條乃至第二十四條、第二十六條乃至第二十八條、第三十條、第三十二條及第三十三條ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第三十六條　支那事變特別稅令附則第五十八條ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ無場所ニ付第二十六條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種ノ催物若ハ設備、第二種ノ場所又ハ運動競技ヲ開催若ハ經營スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ

第三十七條　支那事變特別稅令第三十五條ノ規定ニ依リ物品稅ヲ課スベキ物品ハ別表ニ定ムル所ニ依ル

別表ニ於テ貴金屬トハ金、銀、白金及此等ヲ主タル材料トスル合金ヲ謂フ

別表ニ於テ貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ヲ用ヒタル貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ノ價格(二種以上ノモノヲ用ヒタルモノニ付テハ其ノ價格ヲ合算ス)ガ三圓以上ノモノヲ謂フ

第三十八條　支那事變特別稅令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ同令第三十五條ニ掲グル第一種ノ物品中第十四條ニ掲グルモノニ付物品稅ヲ課スベキ場合ハ一個ノ賣買總金額ガ一萬圓ヲ超ユル場合ニ限ル但シ强制競賣ノ場合ハ物品稅ヲ課セズ

第三十九條　支那事變特別稅令第三十五條ニ掲グル第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品販賣場及販賣スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場ノ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ

第四十條　支那事變特別稅令第三十五條ニ掲グル第二種ノ物品又ハ第一種ノ物品ノ製造場及製造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場ノ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ

第四十一條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造者一月以上販賣又ハ製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署又ハ民政署ニ申告スベシ

第四十二條　稅務署長又ハ民政署長ハ必要ト認ムルトキハ第二種ノ物品又ハ燐寸ノ製造者ニ製造場ノ圖面及製造用ノ機械器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第四十三條　第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務署又ハ民政署ニ申告スベシ

第四十四條　第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄稅務署又ハ民政署ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ申告スベシ

第四十五條　第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ申告スベシ

第四十六條　第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造者販賣場又ハ製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第三十九條又ハ第四十條及前

條ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

第四十七條　第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ通常容器ト共ニ販賣セラルルモノノ價格ハ其ノ容器ノ價格ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十八條　保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノノ價格ハ引取ノ際ニ於ケル到著價格ニ依ル

第四十九條　嵩寸ノ本數ハ軸木ノ本數ニ依ル但シ二箇以上ノ點火裝置ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ點火裝置ノ箇數ニ依ル

第五十條　保稅地域タル藏置場ハ藏置場一箇所毎ニ稅務署長又ハ民政署長ノ特許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ設置スルコトヲ得ズ

保稅地域タル藏置場ノ特許ヲ受ケントスル者ハ藏置場ノ位置、構造及坪數ヲ記載シタル申請書ニ其ノ土地及建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ提出スベシ

前項ノ申請書及圖面ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ所轄稅務署長又ハ民政署長ノ許可ヲ受クベシ

保稅地域タル藏置場ハ稅務署又ハ民政署ノ所在地ニ非ザレバ之ヲ特許セズ

第五十一條　保稅地域タル藏置場設置ノ特許ヲ受ケタル者其ノ藏置場ヲ廢止セントスルトキハ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ特許ノ取消ヲ求ムベシ

第五十二條　稅務署長又ハ民政署長保稅地域タル藏置場ノ特許ヲ與フル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ擔保ハ當該藏置場ヨリノ引取ニ關シ生ズルコトアルベキ物品稅ノ徵收不足額ノ補塡ニ充ツ

第五十三條　前條ノ規定ニ依ル擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ但シ左ニ揭グル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

一　第一種物品ノ販賣者又ハ製造者ガ第一種物品ヲ保稅地域ヨリ引取ルトキ

二　第六十八條ノ規定ニ依リ供用ノ承認ヲ受ケタル物品ヲ保稅地域ヨリ引取ルトキ

三　第七十三條ノ規定ニ依リ輸出承認又ハ供用承認ヲ受ケタル物品ヲ保稅地域ヨリ引取ルトキ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル申告ニ付之ヲ準用ス

第五十六條　物品稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ稅務署長又ハ民政署長ノ承認ヲ受クベシ

第五十七條　保稅地域タル藏置場ノ特許ヲ與フル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第五十四條　第一種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ノ徵收不足額ニ至リタルトキハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

第五十五條　擔保トシテ提供スル國債ノ價額ハ其ノ額面金額ニ依ル

擔保トシテ提供シタル國債ノ償還ヲ受クルニ至リタルトキハ稅務署長又ハ民政署長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

第五十四條　第一種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ノ徵收不足額ニ至リタルトキハ擔保ヲ提供セシムベシ

第五十五條　擔保トシテ提供スル國債ノ價額ハ其ノ額面金額ニ依ル

擔保トシテ提供シタル國債ノ償還ヲ受クルニ至リタルトキハ稅務署長又ハ民政署長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

第五十六條　物品稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ稅務署長又ハ民政署長ノ承認ヲ受クベシ

第五十七條　保稅地域タル藏置場ノ特許ヲ受ケタル者ハ藏置場ノ位置、構造及坪數ヲ記載シタル申請書ニ其ノ土地及建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ提出スベシ

前項ノ申請書及圖面ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ所轄稅務署長又ハ民政署長ノ許可ヲ受クベシ

保稅地域タル藏置場ハ稅務署又ハ民政署ノ所在地ニ非ザレバ之ヲ特許セズ

第五十八條　保稅地域タル藏置場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ藏置場ヲ廢止セントスルトキハ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ特許ノ取消ヲ求ムベシ

第五十九條　稅務署長又ハ民政署長保稅地域タル藏置場ノ特許ヲ與フル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ擔保ハ當該藏置場ヨリノ引取ニ關シ生ズルコトアルベキ物品稅ノ徵收不足額ノ補塡ニ充ツ

第六十條　前條ノ規定ニ依ル擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ但シ左ニ揭グル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

一　第一種物品ノ販賣者又ハ製造者ガ第一種物品ヲ保稅地域ヨリ引取ルトキ

二　第六十八條ノ規定ニ依リ供用ノ承認ヲ受ケタル物品ヲ保稅地域ヨリ引取ルトキ

三　第七十三條ノ規定ニ依リ輸出承認又ハ供用承認ヲ受ケタル物品ヲ保稅地域ヨリ引取ルトキ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル申告ニ付之ヲ準用ス

第六十一條　稅務署長又ハ民政署長保稅地域タル藏置場ノ特許ヲ與フル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ擔保ハ當該藏置場ヨリノ引取ニ關シ生ズルコトアルベキ物品稅ノ徵收不足額ノ補塡ニ充ツ

第六十二條　第一種ノ物品ノ製造者ガ第二種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ小賣業者ガ返還又ハ戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類及返還又ハ戻入ノ物品ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シタル者ニ對シ其ノ物品稅ヲ還付スル場合ニ於テハ其ノ還付ニ係ル物品稅ハ之ヲ徵收セズ

ベキ物品ノ種類、數量及藏置ノ方法ニ付テハ稅務官吏ノ指揮ニ從フベシ

第五十八條　旅客ガ携帶シテ輸入スル物品ニ付テハ輸入ノ際旅客ヨリ物品稅ヲ徵收ス

第五十九條　日本銀行代理店所在地外又ハ日本銀行代理店ノ執務時間外ニ於テハ稅務官吏ハ口頭ヲ以テ納稅ノ告知ヲ爲シ物品稅ヲ領收スルコトヲ得前條ノ規定ニ依リ旅客ガ携帶シテ輸入スル物品ニ付物品稅ヲ徵收スル場合亦同ジ

第六十條　物品稅ノ免除ヲ受ケズシテ關東州外ニ輸出シタル物品ヲ再輸入シ之ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ヲ徵收セズ

前項ノ場合ニ於テハ當該物品ガ物品稅ノ免除ヲ受ケタルモノニ非ザルコトヲ證明スベキ書類ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ

第一項ノ場合ニ於テハ支那事變特別稅令第四十二條第二項ノ規定ニ依ル申告書ノ提出ヲ要セズ

第六十一條　支那事變特別稅令第四十二條第一項ノ規定ニ依ル申告書ハ所轄稅務署又ハ民政署ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ其ノ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ稅務署長又ハ民政署長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スベシ

前二項ノ規定ハ支那事變特別稅令第四十二條第二項ノ規定ニ依ル申告ニ付之ヲ準用ス

第六十二條　第一種ノ物品ノ製造者ガ第二種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ小賣業者ガ返還又ハ戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類及返還又ハ戻入ノ物品ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シタル者ニ對シ其ノ物品稅ヲ還付スル場合ニ於テハ其ノ還付ニ係ル物品稅ハ之ヲ徵收セズ

第六十三條　第一種ノ物品ノ製造者ガ戻入シタル物品ニ付同令第四十三條第二項ノ規定ニ依ル申告ニ付之ヲ準用ス

第六十四條　支那事變特別稅令第三十五條ノ規定ニ依リ擔保ニ付テハ第五十三條ノ規定ニ依ル擔保ニ付テハ第五十四條ノ規定ニ依リ擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル者之ヲ提供セザルトキハ稅務署長又ハ民政署長ハ前條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲サズ

第六十五條　第六十五條ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル第二種物品又ハ燐寸ヲ移出先又ハ引取先ニ移入シタルトキハ同條ノ稅務署又ハ民政署及移出先又ハ引取先ヲ管轄スル稅務署又ハ民政署ニ其ノ旨ヲ申告スベシ

第六十六條　支那事變特別稅令第四十六條、第六十九條及第七十四條ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期間內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ之ヲ公賣ニ付シ稅金及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第六十五條　支那事變特別稅令第四十五條第一項ノ規定ニ依リ第二種物品又ハ燐寸ヲ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ラントスル者ハ移出先又ハ引取先ノ營業者ト連署シ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出シテ其ノ承認ヲ受クベシ

一　物品ノ品名、數量、價格及所在

二　移出又ハ引取ノ日時及方法

三　移出先又ハ引取先ノ場所名

第六十六條　稅務署長又ハ民政署長前條ノ場合ニ於テ徵稅保全上必要アリト認ムルトキハ製造者又ハ引取人ヲシテ其ノ物品稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル擔保ニ付テハ第五十三條ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル者之ヲ提供セザルトキハ稅務署長又ハ民政署長ハ前條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲サズ

第六十七條　第六十五條ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル第二種物品又ハ燐寸ヲ移出先又ハ引取先ニ移入シタルトキハ同條ノ稅務署又ハ民政署及移出先又ハ引取先ヲ管轄スル稅務署又ハ民政署ニ其ノ旨ヲ申告スベシ

第六十八條　支那事變特別稅令第四十六條、第六十九條及第七十四條ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期間內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ之ヲ公賣ニ付シ稅金及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第六十九條　支那事變特別稅令第四十五條第一項ノ規定ニ依リ第二種ノ物品又ハ燐寸ヲ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ラントスル者ハ移出先又ハ引取先ノ營業者ト連署シ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出シテ其ノ承認ヲ受クベシ

一　物品ノ品名、數量、價格及所在

二　移出又ハ引取ノ日時及方法

三　移出先又ハ引取先ノ場所名

第七十條　稅務署長又ハ民政署長前條ノ場合ニ於テ徵稅保全上必要アリト認ムルトキハ製造者又ハ引取人ヲシテ其ノ物品稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル擔保ニ付テハ第五十三條ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル者之ヲ提供セザルトキハ稅務署長又ハ民政署長ハ前條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲サズ

第七十一條　第六十九條ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタル第二種物品又ハ燐寸ヲ移出先又ハ引取先ニ移入シタルトキハ同條ノ稅務署又ハ民政署及移出先又ハ引取先ヲ管轄スル稅務署又ハ民政署ニ其ノ旨ヲ申告スベシ

第七十二條　支那事變特別稅令第四十六條、第六十九條及第七十四條ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期間內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ之ヲ公賣ニ付シ稅金及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

類ヲ製造場ヨリ移出シ又ハ保税地域ヨリ引取ラントスル者ハ豫メ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄税務署又ハ民政署ニ提出シ承認ヲ受クベシ

一 製造ノ用ニ供スル物品ノ品名、數量、價格及所在

二 製造スベキ物品ノ種別、品名、製造方法、製造場所竝ニ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱

前項ノ場合ニ於テ税務署長又ハ民政署長ガ條件ヲ指定シタルトキハ當該條件ニ從フニ非ザレバ物品税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ズ

前條ノ規定ハ第一項ノ物品ヲ其ノ移出先又ハ引取先ニ移入シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第六十九條 前條ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ税務署長又ハ民政署長ハ製造者又ハ引取人ヲシテ物品税額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル擔保ニ付テハ第五十三條ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル者之ヲ提供セザルトキハ前條ノ承認ヲ爲サズ

第七十條 支那事變特別税令第四十六條第一項ノ物品ニ付供用ノ證明ヲ爲サントスルトキハ税務署長又ハ民政署長ノ指定スル期間内ニ供用承認書及其ノ供用ノ事實ヲ證明スベキ税務官吏ノ書面ヲ所轄税務署又ハ民政署ニ提出スベシ

第七十一條 支那事變特別税令第四十六條第一項ノ規定ニ依リ物品税ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付其ノ用途ヲ變更セントスルトキハ豫メ所轄税務署又ハ民政署ノ承認ヲ受クベシ

第七十二條 支那事變特別税令第四十七條第一項第二號ノ規定ニ依リ物品税ヲ免除スル物品ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 學術研究用ニ供スルモノ

二 醫療用ニ供スルモノ但シ第三種ノ物品ヲ除ク

三 機械用ニ供スルモノ但シ第三種ノ物品ヲ除ク

四 神社、寺院、祠宇、佛堂、教會所及説教所ニ於テ式典用又ハ禮拜用ニ供スルモノ但シ第三種ノ物品ヲ除ク

五 教育用ニ供スルモノ但シ中等學校又ハ小學校ニ於テ使用スル寫眞機、映寫機、寫眞用フイルム、蓄音器、蓄音器用レコード、ピアノ、オルガン、箏、三絃、ラヂオ聽取機及擴聲器ニ限ル

六 軍用ニ供スルモノ但シ陸海軍ノ購入ニ係ル皮革製又ハ金屬製ノ鞄及トランク、靴、毛皮、毛皮製品、第一種第二十三號ノ皮革製品、メリヤス、メリヤス製品、寫眞機、寫眞機部分品、寫眞用乾板、寫眞用フイルム、寫眞用感光紙、雙眼鏡、隻眼鏡、銃、銃部分品竝ニ藥莢及彈丸ニ限ル

七 通信用ニ供スルモノ但シ無線電信又ハ無線電話（放送無線電話ヲ除ク）ノ用ニ供スルラヂオ聽取機及受信用眞空管ニ限ル

第七十三條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者支那事變特別税令第四十七條及前條ノ規定ニ依リ物品税ノ免除ヲ受ケントスルトキハ第一種ノ物品ヲ引渡シ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造場ヨリ移出前豫メ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄税務署又ハ民政署ニ提出シ承認ヲ受クベシ

一 輸出セントスル物品ニ付テハ其ノ物品ノ品名、價格及所在、輸出ノ日時、輸出地及輸出先

二 滿洲國駐箚特命全權大使ノ定ムル用途ニ供用スル物品ニ付テハ其ノ物品ノ品名、數量、價格及所在、用途、供用ノ日時及場所

第六十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

保税地域ニ在ル物品ニ付支那事變特別税令第四十七條及本令第七十二條ノ規定ニ依リ物品税ノ免除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ヲ保税地域ヨリ引取前豫メ第一項ノ規定ニ準ジ作成シタル申請書ヲ所轄税務署又ハ民政署ニ提出シ承認ヲ受クベシ

第七十四條 前條ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ税務署長又ハ民政署長ハ第一種ノ物品ノ小賣業者第二種ノ物品ノ製造者又ハ引取人ヲシテ其ノ物品税額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第六十九條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第七十五條 支那事變特別税令第四十七條第一項第一號ノ物品ニ付輸出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ税務署長又ハ民政署長ノ指定スル期間内ニ輸出承認書及仕向地ニ於ケル税關ノ輸入免除陸上證明書、其ノ他輸出ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ所轄税務署又ハ民政署ニ提出スベシ

第七十六條 支那事變特別税令第四十五條第三項、同令第四十六條第二項及同令第四十七條第二項ノ期間ハ税務署長又ハ民政署長之ヲ指定ス

第七十七條 支那事變特別税令第四十五條第三項但書、同令第四十六條第二項及同令第四十七條第二項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第六十五條、第七十一條又ハ第七十三條ノ税務署又ハ民政署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ滅失シタル場所ガ前項ノ税務署又ハ民政署ノ管轄外ナルトキハ最寄税務署又ハ民政署ニ滅失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スベシ

第七十八條 第六十五條乃至第七十一條及第七十三條乃至前條ノ規定ハ支那事變特別税令第四十五條乃至第四十七條ノ規定ノ適用ヲ受ケテ保税地域ヨリ引取ラルル第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付之ヲ準用ス

第七十九條 左ニ揭グル場合ニ於テハ税務署長又ハ民政署長ハ當該物品ヲ領置スルコトヲ得

一 輸入物品ヲ保税地域外ニ置去リタルトキ

二 保税地域ニ搬入シタル物品ニシテ其ノ荷主不明ナルトキ

三 旅客ガ携帶シテ輸入シタル物品ニシテ輸入ノ際物品税ヲ納付セザルトキ

前項ノ場合ニ於テハ税務署長又ハ民政署長ハ其ノ費用及危險ヲ負擔セズ

第八十條 税務署長又ハ民政署長前條ノ規定ニ依リ物品ヲ領置シタルトキハ三日内ニ其ノ旨ヲ揭示スベシ

第八十一條 第七十九條ノ規定ニ依リ領置セラレタル物品ノ引渡ヲ請求セントスル者ハ所轄税務署長又ハ民政署長ニ申出デ其ノ物品ノ一切ノ經費ヲ納付スベシ

第八十二條 物品ヲ領置シタル日ヨリ三月内ニ前條ノ申出ヲ爲ス者ナキトキハ税務署長又ハ民政署長ハ其ノ記號、番號、品名及數量ヲ公告スベシ

前項ノ公告ノ日ヨリ一月内ニ仍前條ノ申出ヲ爲ス者ナキトキハ公告シテ物品ヲ公賣ニ付シ其ノ賣得金ヲ以テ税金及其ノ物品ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ被領置者ニ交付スベシ

第八十三條 領置シタル物品ニ付損傷ノ虞アルトキハ税務署長又ハ民政署長ハ前條ノ期間ニ拘ラズ公告シテ公賣スルコトヲ得

第八十四條 税務署長又ハ民政署長ハ領置シタル物品ヲ公賣スルモ買受人ナキトキ又ハ賣得金ヲ以テ公賣費用ヲ償フニ足ラズト認ムルトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第八十五條 第八十二條第二項及第八十三條ノ規定ニ依ル公告ニハ物品ノ記號、番號、品名及數量ノ外公賣ノ事由、場所、日時其ノ他必要ナル事項ヲ記載スベシ

第八十六條 税務署長又ハ民政署長ハ第八十二條第二項ノ規定ニ依リ被領置者ニ交付スベキ金額アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第八十七條 保税地域ニ在ル物品ヲ災害其ノ他ノ事由ニ依リ廢棄セントスル者ハ所轄税務署長又ハ民政署長ニ申告シ其ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ規定ハ保税地域ニ在ル物品ガ災害其ノ他ノ事由ニ因リ滅失シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第八十八條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一 受入レタル物品ノ品名、數量、價格及

受入ノ日竝ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二　販賣シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣ノ日竝ニ其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セズ但シ所轄稅務署又ハ民政署監督上必要アリト認メ其ノ記載ヲ命ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八十九條　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　受入レタル材料ノ種類、數量及受入ノ日竝ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二　使用シタル材料ノ種類、數量及使用ノ日

三　製造シタル物品ノ品名、數量及製造ノ日

四　販賣シ又ハ移出シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣又ハ移出ノ日竝ニ其ノ買受人又ハ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱

前條第二項ノ規定ハ前項第四號ニ掲グル事項ノ記載ニ付之ヲ準用ス

第九十條　第一種物品ノ小賣業者、第二種物品若ハ第三種物品ノ製造者又ハ輸入者、物品ノ製造又ハ出入ニ關シ稅務署長又ハ民政署長ヨリ事項ヲ指定シテ檢査又ハ承認ヲ受クベキコトヲ命ゼラレタルトキハ其ノ檢査又ハ承認ヲ受クベシ

第九十一條　本令ニ依リ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クベキ場合ニ於テ保稅地域ニ出張シタル稅務官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第九十二條　支那事變特別稅令附則第五十九條ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第三十九條又ハ第四十條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種物品若ハ燐寸ヲ製造スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ

第九十三條　支那事變特別稅令附則第六十條第三項ノ規定ニ依ル申告ハ當該物品ノ所在地所轄稅務署又ハ民政署ニ之ヲ提出スベシ

第九十四條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ利益ヲ配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ逋脫シタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金ヲ徵收ス

第九十五條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル者ハ其ノ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第九十六條　關東州外ニ輸出スル爲物品稅ヲ免除セラレタル物品ヲ關東州內ニ於テ使用シ又ハ關東州內ニ於テ使用スル目的ヲ以テ他人ニ讓渡シタル者ハ其ノ免除シタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第九十七條　前三條ノ場合ニ於テ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額五圓ヲ下ルトキハ五圓トス

第九十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　政府ニ申告セズシテ第一種ノ備物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者

二　支那事變特別稅令第四十二條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ヲ製造シタル者

第九十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　支那事變特別稅令第二十二條第一項、同第二十九條第一項又ハ同第四十九條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第三十九條又ハ第四十條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種物品若ハ燐寸ヲ製造スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務署又ハ民政署ニ提出スベシ

二　支那事變特別稅令第二十二條第二項、同第二十九條第二項又ハ同第四十九條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　支那事變特別稅令第五十一條第一項、第二項又ハ第四項ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者又ハ其ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者

四　本令第五十條第一項又ハ同條第三項ノ規定ニ依ル特許若ハ許可ヲ受ケザル者又ハ事實ヲ詐リテ其ノ特許若ハ許可ヲ受ケタル者

五　本令ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ申告ヲ詐リタル者

第百條　稅務官吏支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ帳簿書類ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スベシ

稅務官吏支那事變特別稅令第五十一條第二項ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スベシ

第百一條　本令中物品稅ニ關スル規定ニ於テ所轄稅務署長又ハ民政署長ト稱スルハ物品ノ販賣場、製造場又ハ藏置場ノ所在地ヲ管轄スル稅務署長又ハ民政署長ヲ謂フ

第百二條　關東州外ヨリ輸入スル物品ノ取締ニ付テハ關東州酒類煙草セメント麥粉揮發油輸入取締規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ關東州支那事變特別稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

支那事變特別稅令第二十二條第二項、同第二十九條第二項又ハ同第四十九條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　支那事變特別稅令第五十一條第一項、第二項又ハ第四項ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者又ハ其ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者

四　本令第五十條第一項又ハ同條第三項ノ規定ニ依ル特許若ハ許可ヲ受ケザル者又ハ事實ヲ詐リテ其ノ特許若ハ許可ヲ受ケタル者

五　本令ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ申告ヲ詐リタル者

第百條　稅務官吏支那事變特別稅令第五十一條第一項ノ規定ニ依リ帳簿書類ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スベシ

稅務官吏支那事變特別稅令第五十一條第二項ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スベシ

第百一條　本令中物品稅ニ關スル規定ニ於テ所轄稅務署長又ハ民政署長ト稱スルハ物品ノ販賣場、製造場又ハ藏置場ノ所在地ヲ管轄スル稅務署長又ハ民政署長ヲ謂フ

第百二條　關東州外ヨリ輸入スル物品ノ取締ニ付テハ關東州酒類煙草セメント麥粉揮發油輸入取締規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ關東州支那事變特別稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州間接國稅犯則者處分令施行規則中改正

（昭和十三年四月一日　關東局令第二十九號）

第一條ニ左ノ一號ヲ加フ

九　物品稅

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州支那事變特別稅令施行規則ニ依ル拂込書、計算書、通知書及檢査章ノ書式等

（昭和十三年五月三日　關東局令第四十號）

第一條　關東州支那事變特別稅令施行規則第三條、第十一條、第二十五條及第三十四條ノ規定ニ依ル拂込書ハ別記第一號書式ニ、計算書ハ別記第三號書式乃至第六號書式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第二條　日本銀行代理店ニ於テ利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅及特別入場稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ別記第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官ニ送付スベシ

第三條　利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ノ過誤納アリタル爲之ガ拂戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金ノ支拂地ノ所轄稅務署長又ハ民政署長ヲ經由シテ關東州廳長官ニ請求書ヲ提出スベシ

第四條　關東州支那事變特別稅令施行規則第百條ノ規定ニ依ル檢査章ハ別記第七號書式ニ依ルベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ關東州支那事變特別稅令施行ノ日ヨ

リ之ヲ適用ス
（別記書式省略）

南洋群島臨時通行稅令

（昭和十三年三月二十一日勅令第百七十二號）

第一條　當分ノ內本令ニ依リ臨時通行稅ヲ課ス

第二條　臨時通行稅ハ汽船ノ乘客ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

五十粁未滿
一等　六錢
二等　三錢

五十粁以上
一等　十錢
二等　五錢
三等　二錢

百粁以上
一等　三十錢
二等　十五錢
三等　五錢

百五十粁以上
一等　六十錢
二等　三十錢
三等　十錢

三百粁以上
一等　一圓二十錢
二等　六十錢
三等　二十錢

五百粁以上
一等　一圓八十錢
二等　九十錢
三等　三十錢

八百粁以上
一等　二圓四十錢
二等　一圓二十錢
三等　四十錢

團體乘船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ臨時通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

人員百人以下ナルトキ
第一項稅額ノ五倍

人員二百人以下ナルトキ
第一項稅額ノ十倍

人員二百人ヲ超ユルトキ
第一項稅額ノ二十倍

貸切乘船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ臨時通行稅ヲ課ス

一　三等乘客ニシテ其ノ乘船區間五十粁未滿ナルトキ

二　環礁內ニ於ケル政府ノ命令航路ニ就航スル汽船ニ乘船スルトキ

第四條　往復乘船又ハ廻遊乘船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第二條第一項及前條第一號ノ乘船區間ノ粁程ノ計算ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第五條　汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ第二條第一項、第三項及第三條第一號ノ等級ハ南洋廳長官之ヲ定ム乘客定員數ノ定ナキ汽船ニ付貸切乘船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第二條第四項ノ乘客定員數ニ付亦

三等　貸切運賃ノ百分ノ五

前項ノ規定ニ依ル稅額ハ第一項稅額ニ乘客定員數ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第一項ニ規定スル臨時通行稅ハ十二歲未滿ノ乘客ニ付テハ其ノ半額トス

第三條　左ノ場合ニ於テハ臨時通行稅ヲ課セズ

一　三等乘客ニシテ其ノ乘船區間五十粁未滿ナルトキ

二　環礁內ニ於ケル政府ノ命令航路ニ就航スル汽船ニ乘船スルトキ

第四條　往復乘船又ハ廻遊乘船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第二條第一項及前條第一號ノ乘船區間ノ粁程ノ計算ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第五條　汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ第二條第一項、第三項及第三條第一號ノ等級ハ南洋廳長官之ヲ定ム乘客定員數ノ定ナキ汽船ニ付貸切乘船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第二條第四項ノ乘客定員數ニ付亦

同ジ

第六條　臨時通行稅ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者（以下運輸業者ト稱ス）運賃領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ

第七條　汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者及運輸業者ニ代リテ乘船券ヲ販賣セントスル者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第八條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘船券ヲ販賣スル者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘船券ヲ販賣スル者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第九條　第六條ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ運輸業者ヨリ徵收ス

第十條　當該官吏ハ臨時通行稅ニ付運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

第十一條　本令ニ定ムルモノノ外臨時通行稅ニ關シ必要ナル規定ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者又ハ運輸業者ニ代リテ乘船券ヲ販賣スル者本令施行後一月內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

南洋群島臨時通行稅令施行規則

（昭和十三年四月一日南洋廳令第六號）

第一條　南洋群島臨時通行稅令（以下臨時通行稅令ト稱ス）第四條ノ規定ニ依ル乘船區間ノ粁程ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

一　往復乘船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘船區間ノ粁程ハ往復各別ニ之ヲ計算ス

二　廻遊乘船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘船區間ノ粁程ハ各區間毎ニ之ヲ計算ス

第二條　汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ臨時通行稅令第二條第一項、第三項及第三條第一號ノ等級ハ等級ヲ分タザルモノニ在リテハ三等、二等級ニ分チタルモノニ在リテハ二等及三等一等ノ上又ハ三等ノ下ニ更ニ等級ヲ設ケタルモノニ在リテハ一等又ハ三等トス

第三條　乘客定員數ノ定ナキ汽船ニ付貸切乘船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ臨時通行稅令第二條第四項ノ乘客定員數ハ運賃計算ノ基準トナリタル人員ニ依ル

第四條　臨時通行稅令第六條ノ運輸業者通行稅ヲ徵收シタルトキハ納期限迄ニ第三號樣式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ所轄支廳ニ納付スベシ但シ支廳所在地ニ日本銀行代理店アルトキハ第三號樣式ノ計算書及第一號樣式ノ拂込書ヲ添ヘ之ヲ日本銀行ニ拂込ムベシ

第五條　日本銀行ニ於テ臨時通行稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號樣式ノ領收證書

ヲ拂込者ニ交付シ同號樣式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官又ハ歲入徵收分掌官ニ送付スベシ

第六條　汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ營業所所轄支廳長ニ提出スベシ

一　住所及氏名又ハ名稱

二　營業所ノ所在地及其ノ名稱

三　航路ノ名稱、起終點ノ地名及粁程

四　汽船ノ等級區分

五　乘船券ノ種類

第七條　運輸業者ニ代リテ乘船券ヲ販賣セントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱、販賣場ノ所在地竝ニ運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄支廳長ニ提出スベシ

第八條　支廳長ハ必要アリト認ムルトキハ運輸業者ニ左ノ事項ヲ申告セシムルコトヲ得

一　乘船場ノ名稱及其ノ所在地

二　乘船場間ノ粁程

三　運賃

四　團體又ハ貸切ノ乘船ニ付特別ノ運賃ヲ定メタルトキハ其ノ運賃

五　運輸業者ニ代リテ乘船券ヲ販賣スル者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ其ノ販賣場ノ所在地

第九條　前三條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄支廳長ニ申告スベシ

第十條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘船券ヲ販賣スル者其ノ業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄支廳長ニ申告スベシ

第十一條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘船券ヲ販賣スル者ハ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　稅率ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレタル者ノ人員及稅額

二　臨時通行稅令第三條各號ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレザル者ノ人員

第十二條　運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘船券ヲ販賣スル者ハ其ノ業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄支廳長ニ申告スベシ

第十三條　臨時通行稅令第十條ノ規定ニ依ル帳簿書類ノ檢查ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示ジタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

當該官吏臨時通行稅令第十條ノ規定ニ依リ帳簿書類ヲ檢查スルトキハ南洋群島所得稅令施行規則別表ニ定ムル檢查章ヲ携帶スベシ

第十五條　本令ノ規定ニ依リ支廳長ニ提出スベキ申告書ハ支廳出張所ノ管轄內ニ在リテハ所轄支廳出張所長ニ之ヲ提出スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時通行稅令附則第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ミ又ハ運輸業者ニ代リテ乘船券ヲ販賣スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ

第十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

（樣式省略）

南洋群島利益配當稅令

（昭和十三年七月三十日勅令第五百四十號）

第一條　當分ノ內南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者ニハ本令ニ依リ利益配當稅ヲ課ス

南洋群島所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ利益配當稅ヲ課セズ

第二條　利益配當稅ハ前條ノ法人ヨリ支拂ヲ受クル利益ノ配當ニ付之ヲ賦課シ配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第三條　利益配當稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第四條　前條ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第五條　利益配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當ニ付所得稅（第一種所得稅ヲ除ク）ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額ヨリ利益配當稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額ト看做ス

第六條　本令ニ定ムルモノノ外利益配當稅ニ關シ必要ナル規定ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和十三年八月十二日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島臨時利益配當稅令ハ之ヲ廢止ス但シ昭和十三年八月十一日以前ニ於テ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ臨時利益配當稅ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

南洋群島利益配當稅令施行規則

（昭和十三年八月十日南洋廳令第二十七號）

第一條　南洋群島利益配當稅令第三條ノ規定ニ依リ配當金ノ支拂者利益配當稅ヲ徵收シタル場合ニ於テハ翌月十日迄ニ第三號樣式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ所轄支廳ニ納付スベシ但シ支廳所在地ニ日本銀行代理店アルトキハ第三號樣式ノ計算書及第一號樣式ノ拂込書ヲ添ヘ之ヲ日本銀行ニ拂込ムベシ

第二條　日本銀行ニ於テ利益配當稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號樣式ノ領收證書ヲ拂込者ニ交付シ同號樣式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官又ハ歲入徵收分掌官ニ送付スベシ

第三條　利益配當稅ノ過誤納アリタル爲之ガ拂戾ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ南洋廳長官ニ請求書ヲ提出スベシ

前項ニ依リ南洋廳長官ニ提出スベキ書類ハ所轄支廳長ヲ經由スベシ

第四條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ利益配當稅ヲ逋脫シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ當該官吏ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

附　則

本令ハ昭和十三年八月十二日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島臨時利益配當稅令施行規則ハ之ヲ廢止ス但シ昭和十三年八月十一日以前ニ於テ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ臨時利益配當稅ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

（樣式省略）

臨時租稅措置法

（昭和十三年三月三十一日法律第五十二號）

第一條　當分ノ內本法ニ依リ田畑地租、營業收益稅、鑛產稅、特別鑛產稅及織物消費稅ヲ輕減又ハ免除シ砂金以外ノ砂鑛ニ付特別砂鑛區稅ヲ課ス

第二條　個人ノ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル田畑地租ヲ輕減ス

第三條　田畑地租ノ輕減額ハ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

減少割合ガ二割五分以上三割五分未滿ナルトキ　田畑地租額ノ二割

同三割五分以上五割未滿ナルトキ　田畑地租額ノ三割

同五割以上七割未滿ナルトキ　田畑地租額ノ四割

同七割以上ナルトキ　田畑地租額ノ五割

前項ノ輕減額ハ自作ノ田畑ニ對スル其ノ年分ノ地租額ニ付之ヲ計算ス

第四條　平常所得ハ昭和十一年以前三年ノ田畑自作ノ平均所得ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ田畑自作ヲ開始シタル者ニ付テハ昭和十二年ノ所得ニ付テハ昭和十二年ノ所得ニ依ル

第五條　田畑地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第六條　田畑自作ノ所得ハ政府ノ調査ニ依リ其ノ年第三種ノ所得金額ヲ決定スル時期ニ於テ政府之ヲ確定ス

第七條　所得稅法第十四條第一項第六號ノ規定及同條第三項中相續シタル資產ノ所得計算ニ關スル規定ハ本法ニ依ル田畑自作ノ所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第八條　法人又ハ個人ノ營業（個人ニ付テハ營業收益稅法第二條ニ揭グル營業ヲ謂フ以下同ジ）ノ純益ガ平常純益ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル營業收益稅ヲ輕減ス

第九條　營業收益稅ノ輕減額ハ營業ノ純益ガ平常純益ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

減少割合ガ二割五分以上三割五分未滿ナルトキ　營業收益稅額ノ二割

同三割五分以上五割未滿ナルトキ　營業收益稅額ノ三割

同五割以上七割未滿ナルトキ　營業收益稅額ノ四割

同七割以上ナルトキ　營業收益稅額ノ五割

第十條　法人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年內ニ終了シタル各事業年度ノ平均純益ニ依ル但シ第一次ノ事業年度ガ昭和十二年中ニ終了シタル法人ニ付テハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ノ平均純益ニ依ル

個人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年ノ平均純益ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ營業ヲ開始シタル個人ニ付テハ昭和十二年ノ純益ニ依ル

前二項ニ規定スルモノヲ除クノ外法人又ハ個人ノ平常純益ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　營業收益稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ營業收益稅ヲ輕減セズ

一　法人ノ營業ノ純益ガ年六千圓以上ナルトキ又ハ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキ

二　個人ノ營業ノ純益ガ六千圓以上ナルトキ

三　法人ノ資本金額ガ二十萬圓以上ナルトキ

第十三條　營業收益稅法第四條第一項ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付、同法第六條ノ規定ハ本法ニ依ル個人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付之ヲ準用ス

所得稅法第六條乃至第八條ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十四條　田畑自作ノ所得又ハ個人ノ營業ノ純益ニ付當初確定額ニ比シ減損アル場合ニ於テハ政府ハ申請ニ依リ第二條乃至第四條又ハ第八條乃至第十條及第十二條ノ規定ニ準ジ田畑地租又ハ營業收益稅ヲ輕減シ又ハ其ノ輕減稅額ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ規定ハ田畑自作ノ所得ガ所得確定後相續又ハ贈與ニ因リ減損シタル場合又ハ營業ノ純益ガ純益金額決定後營業繼續ニ因リ減損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十五條　前條ノ申請ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條　個人ノ營業收益稅ニ付純益金額決定後翌年純益金額決定前ニ於テ營業ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ營業ノ當該年ノ實際純益額ガ決定純益額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ純益金額ノ決定ニ付脫漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得稅法第六條乃至第八條ノ規定ニ依リ政府ニ於テ其ノ實際純益額ヲ調査シ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際純益額ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　第十四條第一項ノ申請アリタルトキハ政府ハ其ノ處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第十八條　昭和十三年一月一日以後鑛區ノ合併、分割又ハ分合ニ依ラズシテ設定セラレタル採掘權ニ基キ其ノ鑛區ヨリ產出シタル鑛物ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノニハ鑛產稅又ハ特別鑛產稅ヲ課セズ

第十九條　命令ヲ以テ指定スル鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ每年ノ產出數量ガ昭和十二年中ニ於ケル產出數量ヲ超過シタル鑛業ノ鑛業權者ニハ其ノ超過部分（鑛物及鑛產物ノ產出數量ガ何レモ超過シタルトキハ其ノ超過割合ノ大ナル一方ノ超過部分）ニ付鑛產稅又ハ特別鑛產稅ヲ免除ス

自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ產出シタル鑛產物ノ數量ハ前項ノ鑛產物ノ產出數量ニ之ヲ算入セズ但シ其ノ取得鑛物ノ數量ガ自己ノ掘採シタル鑛物ノ數量ヲ超過スルトキハ其ノ超過部分ノ鑛物ヨリ產出スル鑛產物ノ數量ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十二年以後鑛業ノ全部又ハ一部ノ繼續アリタル場合ニ於テハ當該部分ヨリ昭和十二年中ニ產出シタル鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ數量ハ之ヲ繼續者ノ昭和十二年中ノ鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ產出數量ニ加算シ被繼續者ノ昭和十二年中ノ鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ產出數量ヨリ除算シ第一項ノ超過部分ヲ計算ス

前項ノ繊積アリタル場合ニ於テハ被繊積者ガ當該部分ヨリ其ノ年ニ於テ産出シタル鑛物又ハ其ノ鑛産物ノ數量ハ之ヲ繊積者ノ其ノ年ニ於ケル鑛物又ハ鑛産物ノ産出數量ト看做ス

第二十條　砂金以外ノ砂鑛ノ採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ稅率ニ依リ毎年特別砂鑛區稅ヲ課ス

河床	砂鑛區域一町毎ニ　金三十錢
河床ニ非ザルモノ	砂鑛區域千坪毎ニ　金三十錢

前項ノ場合ニ於テ一町未滿又ハ千坪未滿ノ端數ハ之ヲ一町又ハ千坪トシテ計算ス

特別砂鑛區稅ノ賦課徵收ニ關シテハ鑛區稅ノ賦課徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ特別砂鑛區稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第二十一條　命令ヲ以テ定ムル混紡絲ハ之ヲ織物消費稅法第一條及第一條ノ二ニ規定スル綿又ハ綿絲ト看做ス

第二十二條　綿絲又ハ前條ノ規定ニ依リ綿絲ト看做シタル絲ト人造絹絲トヲ以テ組成シタル織物ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ織物消費稅法第一條ノ二ノ規定ニ拘ラズ之ヲ綿織物ト看做ス

第二十三條　本法ニ依リ輕減又ハ免除セラルル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス

附　則

第二十四條　本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條　田畑地租ニ付テハ昭和十三年分ヨリ、營業收益稅中法人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分、個人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ昭和十二年分營業收益稅ヨリ之ヲ適用ス

第二十六條　鑛產稅及特別鑛產稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十七條　昭和十三年分ノ特別砂鑛區稅ニ付テハ昭和十三年四月以後ノ月割ヲ以テ其ノ稅額ヲ計算シ同年五月三十一日迄ニ之ヲ納付セシム

第二十八條　左ニ揭グル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

一　本法施行前消費稅ヲ納付シテ輸出若ハ朝鮮移出ノ目的ヲ以テスハ織物消費稅法第七條ノ規定ニ依リテ消費稅ヲ納付セズシテ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取リタルモノ

二　本法施行前消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ

三　本法施行前消費稅ヲ納付シテ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出シタルモノ

四　本法施行前消費稅ヲ納付シテ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出シタルモノ

第二十九條　本法施行前消費稅ヲ納付シタル織物ニシテ本法ニ依リ消費稅ヲ納付セザルコトトナリタルモノ又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ本法施行後輸出シ又ハ朝鮮ニ移出スル織物消費稅法第三條第二項ノ規定及大正九年法律第五十一號ヲ適用セズ

第三十條　本法ハ支那事變終了後其ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

（參照）
大正九年八月七日公布　法律第五十一號ハ內地關係諸法又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除ニ關スル件ナリ

臨時租稅措置法施行規則

（昭和十三年四月一日大藏省令第二十一號）

第一條　田畑自作ノ期間一年未滿ニシテ其ノ所得ガ一年分ノ所得ニ非ズト認メラルル場合ニ於テハ田畑地租ノ輕減ヲ受クベキ年ニ於ケル自作ノ時期ト同一ノ時期ニ付昭和十一年以前三年又ハ昭和十二年ニ於テ自作ヲ爲シタルモノトシテ其ノ所得ヲ見積リ算出シ平常所得ヲ計算ス

第二條　田畑地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ每年三月十五日迄ニ土地所在ノ市町村（市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區、以下同ジ）ヲ經由シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ土地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格ヲ記載シ田畑自作ノ所得及平常所得ノ計算書ヲ添附スベシ但シ申請者ガ自己ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ地目每地積及賃貸價格ノ合計額ヲ記載シ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ申請ヲ爲シタル後自作ヲ爲スニ至リタル田畑ニ付テハ其ノ際前二項ニ準ジ其ノ地租ノ輕減ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第三條　稅務署長ハ前條第一項ノ申請ヲ爲シタル者ノ田畑自作ノ所得ヲ調査シ其ノ年第三種ノ所得金額ヲ決定スル時期ニ於テ之ヲ確定スベシ

第四條　第二條第一項ノ申請アリタル場合ニ於テ稅務署長其ノ年ノ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ二割五分以上減少セズト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

第五條　稅務署長田畑地租ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ納稅義務者及土地所在ノ市町村ニ通知スベシ

第六條　稅務署長第二條ノ申請ヲ受理シタル場合ニ於テ申請者ノ住所地ガ其ノ管轄區域內ニ在ラザルトキハ申請者ノ住所地各事業年度ニ在リテハ之ヲ切捨テ營業收益稅ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ニ在リテハ之ヲ一月トス

第七條　市町村ハ田畑地租ノ輕減額ヲ地租法第七十四條ノ例ニ準ジ稅務署長ニ報告スベシ

第八條　法人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ純益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス但シ第一次ノ事業年度ガ昭和十二年中ニ終了シタル法人ニ付テハ昭和十二年中ニ終了シタル事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ純益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第九條　法人ノ平常純益ヲ計算スルニ當リ營業收益稅ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ノ期間ガ昭和十一年以前三年內又ハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ノ期間ト異ル場合ニ於テハ昭和十一年以前三年內又ハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ノ純益ハ營業收益稅ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ之ヲ換算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ昭和十一年以前三年內又ハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ニ在リテハ之ヲ切捨テ營業收益稅ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ニ在リテハ之ヲ一月トス

第十條　法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ平常純益ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ヲ合算シテ之ヲ計算ス

第十一條　個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於テハ營業收益稅ノ輕減ヲ受クベキ年ノ營業ノ期間ノ月數ニ應ジ月割ヲ

以テ昭和十一年以前三年又ハ昭和十二年ノ純益ヲ算出シテ平常純益ヲ計算ス

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十二條　營業收益稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ營業收益稅法ニ依ル純益金額ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ平常純益ノ計算書ヲ添附スベシ

第十三條　前條ノ申請アリタル場合ニ於テ稅務署長其ノ營業ノ純益ガ平常純益ニ對シ二割五分以上減少セズト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

第十四條　稅務署長營業收益稅ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

前項ノ通知ハ營業收益稅法ニ依ル純益金額ノ決定通知書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第十五條　臨時租稅措置法第十二條第一號ノ年六千圓ノ金額ハ事業年度ノ月數ヲ六千圓ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ依ル前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

第十六條　臨時租稅措置法第十二條第一號ノ年百分ノ七ノ割合ノ金額ハ事業年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ七ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十七條　第二條（第三項ヲ除ク）、第四條乃至第六條及第十二條乃至第十四條第一項ノ規定ハ臨時租稅措置法第十四條ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十八條　稅務署長臨時租稅措置法第十六條第一項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定セントスル場合ニ於テハ其ノ純益金額ノ調査ニ關シ必要アリト認ムルトキハ所得調査委員會ニ諮問スベシ

第十九條　稅務署長臨時租稅措置法第十六條第一項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十條　臨時租稅措置法第十八條及第十九條ノ規定ニ依リ左ノ鑛物ヲ指定ス

金鑛、銅鑛、錫鑛、亞鉛鑛、硫化鐵鑛、滿俺鑛、ニッケル鑛

第二十一條　臨時租稅措置法第二十一條ノ規定ニ依リ全重量百分中五十ヲ超ユル綿絲又ハ前條ノ規定ニ依リ綿絲ト看做シタル混紡絲ト人造絹絲トヲ以テ組成スル織物ハ織物消費稅法第一條ノ二ノ規定ニ拘ラズ之ヲ綿織物ト看做ス

第二十三條　臨時租稅措置法第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ織物消費稅ヲ課セザルコトト爲リタル織物ヲ製造スル者ハ織物消費稅法施行規則第二條ノ規定ニ依ル申告ノ際同條但書ニ規定スル事項ノ外第二十一條ノ規定ニ依リ綿又ハ綿絲ト看做シタル混紡絲ニ付其ノ原料及重量割合ヲ併セ申告スベシ

附　則

本令ハ臨時租稅措置法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十三年ニ限リ四月三十日トス

昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分營業收益稅ニ對スル第十二條ノ申請ハ本令施行ノ日ヨリ決算確定又ハ合併ノ場合ニ在リテハ十四日

內ニ、清算著手ノ場合ニ在リテハ二十日內ニ之ヲ爲スベシ

個人ノ昭和十三年分營業收益稅ニ對スル第十二條ノ申請ハ昭和十三年四月十五日迄ニ之ヲ爲スベシ

本令施行前ヨリ引續キ臨時租稅措置法第二十一條又ハ二十二條ノ規定ニ依リ新ニ織物消費稅ヲ課セザルコトト爲リタル織物ヲ製造スル者ハ本令施行後一月內ニ第二十三條ニ規定スル事項ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

臨時地方稅措置ニ關スル件

（昭和十三年四月一日勅令第二百四號）

當分ノ內臨時租稅措置法ニ依ル田畑地租及營業收益稅ノ輕減ノ例ニ依リ特別地稅、特別地稅附加稅及營業稅ヲ輕減ス

附　則

本令ハ昭和十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

本令ハ支那事變終了後其ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

大正十五年勅令第三百三十九號（大正十五年法律第二十四號地方稅ニ關スル法律施行ニ關スル件）中改正ノ件

（昭和十三年四月一日勅令第二百三號）

第十二條中「理髮業」ノ次ニ「演劇興行業」ヲ加フ

第十七條第一項中「水車」、「市場」、「牛馬」及「演劇興行人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者」ヲ削リ「遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者」ニ改ム

附　則

本令ハ昭和十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

觀覽其ノ他之ニ類スルモノニ對スル地方稅ノ許可ハ昭和十二年度分限リ其ノ效力ヲ失フ

（參照）

大正十五年十一月十七日勅令第三百三十九號ヲ以テ公布

第十二條　大正十五年法律第二十四號第十五條ノ規定ニ依リ營業稅ヲ賦課スベキ營業ノ種類ハ左ノ如シ

（左ノ記載ス）

第十七條第一項

大正十五年法律第二十四號第十九條ノ規定ニ依リ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得ベキモノノ種類ハ左ノ如シ

（左ノ記載ス）

地方稅ニ關スル法律施行規則中改正

（昭和十三年四月一日內務、大藏省令第一號）

第六條中「水車、」ヲ削ル

第七條　削除

第八條中「牛馬及」ヲ削ル

第十二條中第四號ヲ第六號トシ第三號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

四　委託者ヨリ受託者ニ信託財產ヲ移ス場合ニ於ケル不動產ノ取得

五　委託者ノミガ信託財產ノ元本ノ受益者タル信託ニ因リ受託者ヨリ受益者ニ信託財產ヲ移ス場合ニ於ケル不動產ノ取得

第十二條ノ二及第十二條ノ三ヲ削ル

第十四條中「遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、」ヲ削ル

第十五條　削除

第十六條中「演劇興行ノ他ノ興行ヲ爲ス者及」ヲ削ル

第二十條第一項第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ、同項第五號中「年金」ノ下ニ「（郵便年金ヲ除ク）」ヲ、「恩給」ノ下ニ「（一時恩給ヲ除ク）」ヲ加フ

一ノ二　一時恩給及之ニ類スル退職給與ヘ前年中ノ收入金額ヨリ支拂者ヲ異ニスル每ニ五千圓ヲ控除シタル金額

第二十三條中「年金」ノ下ニ「（郵便年金ヲ除ク）」ヲ、「恩給」ノ下ニ「（一時恩給ヲ除ク）」

ヲ加フ

第二十五條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四　第二十條第一項第六號ノ所得中營利ノ事業ニ屬セザル一時ノ所得

附　則

本令ハ昭和十三年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與ニシテ昭和十三年三月三十一日以前ノ退職ニ因ルモノニ付テハ第二十條第一項第一號ノ二及第二十五條ノ改正規定ハ之ヲ適用セズ

信託財產ニシテ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ不動產取得ニ對シ從前ノ規定ニ依リ雜種稅ヲ課セラレタルモノニ付テハ當該不動產ヲ受託者ヨリ受益者ニ移ス場合ニ於ケル受益者ノ不動產取得ニ對シ雜種稅ヲ課スルコトヲ得ズ

（參照）

大正十五年十一月二十七日内務大藏省令地方稅ニ關スル法律施行規則抄錄

第六條　水車、電柱及金庫ニ對シテハ所在地府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第七條　市場ニ對シテハ所在地府縣ニ於テ其ノ經營者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第八條　牛馬及犬ニ對シテハ飼育地府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第十二條　左ニ揭グル不動產ノ取得ニ對シテハ雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

（左記略ス）

第十二條ノ二　左ニ揭グル信託ニ因リ信託財產タル不動產ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル不動產ノ取得ニ對シテハ雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ但シ當該不動產ニ付其ノ後其ノ信託條項ヲ變更シタル爲本條ニ揭グル信託ニ該當セザルニ至リタル場合又ハ信託法第二十二條ノ規定ニ依リ固有財產ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ時ニ不動產ノ取得アリタルモノト看做シ雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得

一　委託者ガ信託利益ノ全部ヲ受クベキ信託

二　委託者ガ元本ノ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トガ收益ノ受益者ナル信託

三　委託者ガ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トガ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財產ノ管理ヲ目的トスルモノ

第十二條ノ三　信託ニ因ル受益者又ハ歸屬權利者ノ不動產ノ取得ニ對シテハ雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ但シ前條第三號ノ信託ニ付其ノ元本ヲ受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ移ス場合ニ於ケル不動產ノ取得ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條　遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者ニ對シテハ其ノ住所地府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス其ノ住所地府縣ニ於テ之ヲ課セザルトキハ三月以上滯在ノ府縣ニ於テ之ヲ賦課ス

第十五條　同一人ニシテ遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者ノ二以上ニ該當スルトキハ其ノ一ニ就キ雜種稅ヲ賦課ス其ノ稅額異ルトキハ多キニ從フ

第十六條　演劇其ノ他ノ興行ヲ爲ス者及遊興ヲ爲ス者ニ對シテハ其ノ行爲地府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス

第二十條第一項

戶數割納稅義務者ノ資力算定ノ標準タル所得額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ計算ス

五　俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非ザルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

第二十二條　第二十條乃至前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料、賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ十分ノ一、六千圓以下ナルトキハ同十分ノ二、三千圓以下ナルトキハ同十分ノ三、千五百圓以下ナルトキハ同十分ノ四、八百圓以下ナルトキハ同十分ノ五ニ相當スル金額ヲ控除ス

第二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ戶數割納稅義務者ノ資力算定ノ標準タル所得額ニ之ヲ算入セズ

四　營利ノ事業ニ屬セザル一時ノ所得

朝鮮臨時租稅措置令

（昭和十三年三月三十一日制令第十三號）

第一條　當分ノ內本令ニ依リ田畓地稅、營業稅、鑛產稅及移入稅ヲ輕減又ハ免除ス

第二條　個人ノ田畓自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル田畓地稅ヲ輕減ス

第三條　田畓地稅ノ輕減額ハ田畓自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

減少割合ガ二割五分以上三割五分未滿ナルトキ　田畓地稅額ノ二割

同三割五分以上五割未滿ナルトキ　田畓地稅額ノ三割

同五割以上七割未滿ナルトキ　田畓地稅額ノ四割

同七割以上ナルトキ　田畓地稅額ノ五割

前項ノ輕減額ハ自作ノ田畓ニ對スル其ノ年分ノ地稅額ニ付之ヲ計算ス

第四條　平常所得ハ昭和十一年以前三年ノ田畓自作ノ平均所得ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ田畓自作ヲ開始シタル者ニ付テハ昭和十二年ノ所得ニ依ル

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外平常所得ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第五條　田畓地稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第六條　田畓地稅ノ輕減ヲ申請シタル者ノ田畓自作ノ所得ハ政府ノ調査ニ依リ其ノ年第三種ノ所得金額ヲ決定スル時期ニ於テ政府之ヲ確定ス

第七條　朝鮮所得稅令第十五條第一項第六號ノ規定及同條第三項中相續シタル資產ノ所得計算ニ關スル規定ハ本令ニ依ル田畓自作ノ所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第八條　營業稅ノ課稅標準額ガ平常課稅標準額ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル營業稅ヲ輕減ス

第九條　營業稅ノ輕減額ハ營業稅ノ課稅標準額ガ平常課稅標準額ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

減少割合ガ二割五分以上三割五分未滿ナルトキ　營業稅額ノ二割

同三割五分以上五割未滿ナルトキ　營業稅額ノ三割

同五割以上七割未滿ナルトキ　營業稅額ノ四割

同七割以上ナルトキ　營業稅額ノ五割

第十條　平常課稅標準額ハ昭和十一年以前三年ノ平均課稅標準額ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ營業ヲ開始シタル者ニ付テハ昭和十二年ノ課稅標準額ニ依ル

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外平常課稅標準額ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十一條　營業稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ營業稅ヲ輕減セズ

一　營業稅額ガ百圓以上ト爲ルトキ

二　法人ノ資本金額ガ二十萬圓以上ナルトキ

三　法人ノ營業ノ利益ガ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキ

朝鮮所得稅令第八條乃至第十條ノ規定ハ前項ノ資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十三條　田畓自作ノ所得又ハ營業稅ノ課稅標準額ニ付當初確定額ニ比シ減損アル場合ニ於テハ政府ハ申請ニ依リ第二條乃至第四條又ハ第八條乃至第十條及前條ノ規定ニ準ジ田畓地稅又ハ營業稅ヲ輕減シ又ハ其ノ輕減稅額ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ規定ハ田畓自作ノ所得ガ所得確定後相續又ハ贈與ニ因リ減損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ申請ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條　前條ノ場合ニ於テ營業稅ノ課稅標準額ガ當初決定額ニ比シ四分ノ一以上ノ減損ト爲ルトキハ其ノ實際課稅標準額ニ基キ計算シタル營業稅額ニ付前條ノ規定ニ依ル輕減又ハ變更ヲ爲ス

第十五條　第十三條第一項ノ申請アリタルトキハ政府ハ其ノ處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第十六條　昭和十三年一月一日以後鑛區ノ合併、分割又ハ分合ニ依ラズシテ設定セラレタル鑛業權ニ基キ其ノ鑛區ヨリ產出シタル鑛物ニシテ朝鮮總督ノ指定スルモノニハ鑛產稅ヲ課セズ

第十七條　朝鮮總督ノ指定スル鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ每年ノ產出數量ガ昭和十二年中ニ於ケル產出數量ヲ超過シタル鑛業ノ鑛業權者ニハ其ノ超過部分（鑛物及鑛產物ノ產出數量ガ何レモ超過シタルトキハ

其ノ超過割合ノ大ナル一方ノ超過部分）ニ付鑛産稅ヲ免除ス

自己ノ採掘シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製錬スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ産出シタル鑛産物ノ數量ハ前項ノ鑛産物ノ産出數量ニ之ヲ算入セズ但シ其ノ取得鑛物ノ數量ガ自己ノ採掘シタル鑛物ノ數量ヲ超過スルトキハ其ノ超過部分ノ鑛物ヨリ産出スル鑛産物ノ數量ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十二年以後鑛業ノ全部又ハ一部ノ繼續アリタル場合ニ於テハ當該部分ヨリ昭和十二年中ニ産出シタル鑛物又ハ其ノ鑛産物ノ數量ハ之ヲ繼續者ノ昭和十二年中ノ鑛物又ハ其ノ鑛産物ノ産出數量ニ加算シ被繼續者ノ昭和十二年中ノ鑛物又ハ其ノ鑛産物ノ産出數量ヨリ除算シ第一項ノ超過部分ヲ計算ス

前項ノ繼續アリタル場合ニ於テハ被繼續者ガ當該部分ヨリ其ノ年ニ於テ産出シタル鑛物又ハ其ノ鑛産物ノ數量ハ之ヲ繼續者ノ其ノ年ニ於ケル鑛物又ハ鑛産物ノ産出數量ト看做ス

第十八條　綿絲又ハ朝鮮總督ノ定ムル混紡絲ト人造絹絲トヲ以テ組成シタル織物ニシテ朝鮮總督ノ定ムルモノハ大正九年制令第十九號第二條第一項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ綿織物ト看做シ其ノ移入稅ヲ輕減ス

第十九條　本令ニ依リ輕減又ハ免除セラルル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス

前項ノ規定ハ地方稅ニシテ本令ニ依ル輕減又ハ免除ニ因リ輕減又ハ免除セラルルモノニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

田畓地稅、營業稅及鑛産稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ昭和十三年分ノ營業稅ニ限リ第八條中每年一月三十一日迄トアルハ昭和十三年四月三十日迄トス

大正九年朝鮮總督府令第百二十號第一條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第十七號ニ揭クル原料ノミヲ以テ組成スル織物ニ付テハ全重量百分中五十以上ノ麻ヲ以テ組成シタルモノヲ除ク

同條ニ左ノ二號ヲ加フ

十六　全重量百分中五十ヲ超ユル綿ト麻トノ混紡絲

十七　全重量百分中九十五以上ノステープルファイバー綿トノ混紡絲又ハ前號ニ揭クル混紡絲ト絹、人造絹、金屬絲、金屬箔、漆絲又ハ漆箔以外ノモノ

（參照）

大正九年八月十六日朝鮮總督府令第百二十號ハ朝鮮ニ移入スル物品ノ移入稅等ニ關スル制令ノ施行ニ關スル件ナリ

朝鮮臨時租稅措置令施行規則

（昭和十三年三月三十一日朝鮮總督府令第五十八號）

第一條　年ノ中途ニ於テ田畓自作ヲ開始シタル場合ニ於ケル平常所得ハ其ノ年ニ於ケル自作ノ期間ノ月數ヲ以テ其ノ年ノ田畓自作ノ所得ヲ除シ之ヲ十二倍シタル金額ニ依ル

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

第二條　朝鮮臨時租稅措置令第五條ノ規定ニ依リ田畓地稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ每年四月三十日迄ニ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ土地所在ノ府邑面ヲ經由シ所轄稅務署長ニ提出スベシ

一　自作田畓ノ所在、地番、地目、地積及地價

二　田畓自作ノ所得竝ニ平常所得及其ノ算出基礎

前項ノ申請後自作ヲ爲スニ至リタル田畓ニ付テハ其ノ際前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第三條　田畓地稅ノ輕減ヲ申請シタル者ノ田畓自作ノ所得ハ稅務署長其ノ年第三種ノ所得金額決定ノ際之ヲ確定ス

第四條　稅務署長田畓地稅ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキハ納稅義務者及土地所在ノ府邑面ニ通知スベシ

第五條　府邑面ハ田畓地稅ノ輕減額ヲ地稅令施行規則第二十四條ノ例ニ準ジ稅務署長ニ報告スベシ

第六條　朝鮮所得稅令施行規則第十一條ノ規定ハ田畓自作ヲ開始シタル場合ニ於ケル平常所得ニ之ヲ準用ス

第七條　昭和十一年中ニ營業ヲ開始シタル場合ニ於ケル平常課稅標準額ハ昭和十二年ノ課稅標準額ニ依ル

第八條　朝鮮臨時租稅措置令第十一條ノ規定ニ依リ營業稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ每年一月三十一日迄ニ其ノ年分營業稅ノ課稅標準額竝ニ平常課稅標準額及其ノ算出ノ基礎ヲ明記シタル申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スベシ

第九條　稅務署長營業稅ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

前項ノ通知ハ朝鮮營業稅令ニ依ル課稅標準ノ決定通知書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第十條　朝鮮所得稅令施行規則第三條及第四條ノ規定ハ朝鮮臨時租稅措置令第十二條第一項ノ資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十一條　朝鮮臨時租稅措置令第十三條ノ規定ニ依ル申請ハ其ノ事由ヲ明ニシタル書類ヲ添附シ所轄稅務署長ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ申請ハ田畓地稅ノ輕減又ハ其ノ輕減稅額ノ變更ノ場合ニ在リテハ土地所在ノ府邑面ヲ經由スベシ

規定ハ田畓自作ノ所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十二條　稅務署長朝鮮臨時租稅措置令第十三條ノ規定ニ依リ田畓地稅又ハ營業稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ每年一月三十一日迄ニ其ノ年分營業稅ノ課稅標準額ニ依ル

第十三條　朝鮮臨時租稅措置令第十三條ノ規定ニ依リ田畓地稅又ハ營業稅ノ輕減ヲ受ケタル者ガ輕減ノ事由ヲ消滅シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十四條　朝鮮臨時租稅措置令第十八條ノ規定ニ依ル混紡絲ハ全重量百分中五十ヲ超ユル綿絲又ハ前條ノ綿織物ト看做スベキ織物ハ全重量百分中五十ヲ超ユル綿絲又ハ前條ノ綿絲ト人造絹絲トヲ以テ組成スル織物ノ混紡絲トス

第十五條　朝鮮臨時租稅措置令第十八條ノ規定ニ依リ綿織物ト看做スベキ織物ハ全重量百分中五十ヲ超ユル綿絲又ハ前條ノ綿絲ト人造絹絲トヲ以テ組成スル織物トス

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時租稅措置法ノ一部ヲ臺灣ニ施行スルノ件

（昭和十三年四月一日勅令第二百八號）

臨時租稅措置法第二十一條、第二十二條、第二十八條及第二十九條ノ規定ハ之ヲ臺灣ニ

施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣臨時租稅措置令

（昭和十三年三月三十一日律令第五號）

第一條　當分ノ內本令ニ依リ田畑及養魚池ノ地租、營業稅竝ニ鑛產稅ヲ輕減又ハ免除ス

第二條　個人ノ田、畑及養魚池ノ自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ五割以上減少シタルトキハ其ノ納付スル田、畑及養魚池ノ地租ヲ輕減ス

第三條　田、畑及養魚池ノ地租ノ輕減額ハ田、畑及養魚池ノ自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

減少割合ガ五割以上七割未滿ナルトキ　田、畑及養魚池ノ地租額ノ三割

同七割以上ナルトキ　田、畑及養魚池ノ地租額ノ五割

前項ノ規定ハ田、畑及養魚池ノ自作ノ所得ガ所得確定後相續又ハ贈與ニ因リ減損シタル場合又ハ營業稅ノ課稅標準額ガ課稅標準額決定後營業繼續ニ因リ減損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ申請ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條　平常所得ハ昭和十一年以前三年ノ田、畑及養魚池ノ自作ノ平均所得ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ田、畑又ハ養魚池ノ自作ヲ開始シタル者ニ付テハ昭和十二年ノ所得ニ依ル

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外平常所得ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第五條　田、畑及養魚池ノ地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第六條　田、畑及養魚池ノ地租ノ輕減ヲ申請シタル者ノ田、畑及養魚池ノ自作ノ所得ハ政府ノ調査ニ依リ其ノ年第三種ノ所得金額ヲ決定スル時期ニ於テ政府之ヲ確定ス

第七條　臺灣所得稅令第十五條第一項第六號ノ規定及同條第四項中相續シタル資產所得計算ニ關スル規定ハ本令ニ依ル田、畑及養魚池ノ自作ノ所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第八條　營業稅ノ課稅標準額ガ平常課稅標準額ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル營業稅ヲ輕減ス

第九條　營業稅ノ輕減額ハ營業稅ノ課稅標準額ガ平常課稅標準額ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

減少割合ガ二割五分以上三割五分未滿ナルトキ　營業稅額ノ二割

同三割五分以上五割未滿ナルトキ　營業稅額ノ三割

同五割以上七割未滿ナルトキ　營業稅額ノ四割

同七割以上ナルトキ　營業稅額ノ五割

第十條　平常課稅標準額ハ臺灣營業稅令所定ノ方法ニ準ジ計算シタル昭和十一年以前三年ノ平均課稅標準額相當額ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ營業ヲ開始シタルモノニ付テハ昭和十二年ノ課稅標準額ニ依ル

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外平常課稅標準額ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十一條　營業稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ於テハ營業稅ヲ輕減セズ

一　營業稅額ガ二百圓以上ト爲ルトキ

二　法人ノ資本金額ガ二十萬圓以上ナルトキ

三　法人ノ營業ノ利益ガ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキ

臺灣所得稅令第六條乃至第八條ノ規定ハ

前項ノ資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十三條　田、畑及養魚池ノ自作ノ所得又ハ營業稅ノ課稅標準額ニ付當初確定額ニ比シ減損アル場合ニ於テハ政府ヘ申請ニ依リ第二條乃至第四條又ハ第八條乃至第十條及第十二條ノ規定ニ準ジ田、畑及養魚池ノ地租又ハ營業稅ヲ輕減シ又ハ其ノ輕減稅額ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ規定ハ田、畑及養魚池ノ自作ノ所得ガ所得確定後相續又ハ贈與ニ因リ減損シタル場合又ハ營業稅ノ課稅標準額ガ課稅標準額決定後營業繼續ニ因リ減損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ申請ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條　前條ノ場合ニ於テ營業稅ノ課稅標準額ガ當初決定額ニ比シ四分ノ一以上ノ減損ト爲ルトキハ其ノ實際課稅標準額ニ基キ計算シタル營業稅額ニ付前條ノ規定ニ依ル輕減又ハ變更ヲ爲ス

第十五條　第十三條第一項ノ申請アリタルトキハ政府ハ其ノ處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第十六條　昭和十三年一月一日以後鑛區ノ變更、分割又ハ合併ニ依ラズシテ設定セラレタル鑛業權ニ基キ其ノ鑛區ヨリ產出シタル鑛物ニシテ臺灣總督ノ指定スルモノニハ鑛產稅ヲ課セズ

第十七條　臺灣總督ノ指定スル鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ每年ノ產出數量ガ昭和十二年中ニ於ケル產出數量ヲ超過シタル鑛業人ニハ其ノ超過部分（鑛物及鑛產物ノ產出數量ガ何レモ超過シタルトキハ其ノ超過割合ノ大ナル一方ノ超過部分）ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十二年以後鑛業ノ全部又ハ一部ノ繼續アリタル場合ニ於テ當該部分ヨリ昭和十二年中ニ產出シタル鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ數量ハ之ヲ繼續者ノ昭和十二年中ノ產出數量ニ加算シ被繼續者ノ昭和十二年中ノ鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ產出數量ヨリ除算シ第一項ノ超過部分ヲ計算ス

前項ノ繼續アリタル場合ニ於テハ被繼續者ガ當該部分ヨリ其ノ年ニ於テ產出シタル鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ數量ハ之ヲ繼續者ノ昭和十二年中ノ產出數量ト看做ス

第十八條　本令ニ依リ輕減又ハ免除セラルル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

田畑及養魚池ノ地租、營業稅竝ニ鑛產稅ニ付之ヲ準用ス

臺灣臨時租稅措置令施行規則

（昭和十三年四月一日臺灣總督府令第四十號）

第一條　田、畑及養魚池ノ自作ノ期間一年未滿ニシテ其ノ所得ガ一年分ノ所得ニ非ズト認メラルル場合ニ於テハ田、畑及養魚池ノ地租ノ輕減ヲ受クベキ年ニ於ケル自作ノ時期ト同一ノ時期ニ付昭和十一年以前三年又ハ昭和十二年ニ於テ自作ヲ爲シタルモノトシテ其ノ所得ヲ見積算出シ平常所得ヲ計算ス

第二條　田、畑及養魚池ノ地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ每年三月十五日迄ニ其ノ旨所轄稅務官署ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ土地ノ所在、地番、等則、地目、甲數及地租ヲ記載シ田、畑及養魚池ノ自作ノ所得及平常所得ノ計算書ヲ添附スベシ

第一項ノ申請後自作ヲ爲スニ至リタル田、畑及養魚池ニ付テハ其ノ際第一項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第三條　知事又ハ廳長ハ前條第一項ノ申請ヲ爲シタル者ノ田、畑及養魚池ノ自作ノ所得ヲ調査シ其ノ年第三種ノ所得金額ヲ決定スル時期ニ於テ之ヲ確定スベシ

第四條　第二條第一項ノ申請アリタル場合ニ於テ知事又ハ廳長其ノ年ノ田、畑及養魚池ノ自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ五割以上ノ減少ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

第五條　知事又ハ廳長田、畑及養魚池ノ地租ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第六條　營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於テハ營業稅ノ輕減ヲ受クベキ年ノ營業年以前ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ昭和十一年以前三年又ハ昭和十二年ノ課稅標準額ヲ計算當額ヲ算出シテ平常課稅標準額ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ但シ營業稅ノ輕減ヲ受クベキ年ニ在リテハ之ヲ一月トス

第七條　營業稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ臺灣營業稅令ニ依ル課稅標準額ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務官署ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ平常課稅標準額ノ計算書ヲ添附スベシ

第八條　前條ノ申請アリタル場合ニ於テ知事又ハ廳長ハ前條第一項ノ申請ヲ爲シタル者ノ營業ノ課稅標準額ガ平常課稅標準額ニ對シ二割五分以上ノ減少ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

昭和十三年分營業稅ノ輕減ノ決定ハ昭和十三年四月二十日迄ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ通知ハ臺灣營業稅令ニ依ル課稅標準ノ決定通知書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第九條　知事又ハ廳長其ノ年ノ田、畑及養魚池ノ自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ五割以上ノ減少ナシト認メタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十條　臺灣臨時租稅措置令第十二條第一項第三號ノ營業ノ利益ハ營業ニ依ル總收入金額ヨリ收入ヲ得ルニ直接必要ナル經費ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ年百分ノ七割合ノ金額ハ營業期間ノ月數ヲ資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ七ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

第十一條　第二條（第三項ヲ除ク）、第四條、第五條及第七條乃至第九條第一項ノ規定ハ臺灣臨時租稅措置令第十三條ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十二條　臺灣臨時租稅措置令第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ左ノ鑛物ヲ指定ス

金鑛、銅鑛、亞鉛鑛、硫化鐵鑛、滿俺鑛、砂金

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十三年ニ限リ四月三十日トス

昭和十三年分營業稅ニ對スル第七條ノ申請ハ昭和十三年四月二十日迄ニ之ヲ爲スベシ

臨時租稅措置法第二十一條及第二十二條ノ施行ニ關スル件

（昭和十三年四月一日　臺灣總督府令第四十一號）

第一條　臨時租稅措置法第二十一條ノ規定ニ依リ全重量百分中五十ヲ超ユル綿トステープルファイバー又ハ麻トノ混紡絲ハ之ヲ織物消費稅法第一條及第一條ノ二ニ規定スル綿又ハ綿絲ト看做ス

第二條　臨時租稅措置法第二十二條ノ規定ニ依リ全重量百分中五十ヲ超ユル綿絲又ハ前條ノ規定ニ依リ綿絲ト看做シタル混紡絲トヲ以テ組成スル織物ハ織物消費稅法第一條ノ二ノ規定ニ拘ラズ之ヲ綿織物ト看做ス

第三條　臨時租稅措置法第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ織物消費稅ヲ課セザルコトト爲リタル織物ヲ製造セントスル者ハ織物消費稅法施行規則第二條ノ規定ニ依ル申告ノ際同條但書ニ規定スル事項ノ外第一條ノ規定ニ依リ總又ハ總絲ト看做シタル混紡絲ニ付其ノ原料及重量割合ヲ併セ申告スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ臨時租稅措置法第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ新ニ織物消費稅ヲ課セザルコトト爲リタル織物ヲ製造スル者ハ本令施行後一月內ニ第三條ニ規定スル事項ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

臺灣臨時地方稅措置ニ關スル件

（昭和十三年四月二十日　臺灣總督府令第四十八號）

當分ノ內臺灣臨時租稅措置令ニ依ル營業稅ノ輕減ノ例ニ依リ特別營業稅ヲ輕減ス

附　則

本令ハ昭和十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

本令ハ支那事變終了後其ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

臨時租稅措置法ノ一部ヲ擇太ニ施行スルノ件

（昭和十三年四月一日　勅令第二百十四號）

臨時租稅措置法ハ田畑地租及特別鑛產稅ニ關スル規定竝ニ第十六條ノ規定ヲ除キ之ヲ樺太ニ施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

前項ノ輕減額ハ自作ノ田畑ニ對スル其ノ年分ノ地租額ニ付之ヲ計算ス

第四條　平常所得ハ昭和十一年以前三年ノ田畑自作ノ平均所得ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ田畑自作ヲ開始シタル者ニ付テハ昭和十二年ノ所得ニ依ル前項ニ規定スルモノヲ除クノ外平常所得ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ滿洲國駐箚特命全權大使之ヲ定ム

第五條　田畑地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第六條　田畑地租ノ輕減ヲ申請シタル者ノ田畑自作ノ所得ハ政府ノ調査ニ依リ其ノ年第三種ノ所得金額ヲ決定スル時期ニ於テ政府之ヲ確定ス

第七條　關東州所得稅令第十三條第一項第六號ノ規定及同條第三項中相續シタル資產ノ所得計算ニ關スル規定ハ本令ニ依ル田畑自作ノ所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第八條　田畑自作ノ所得ニ付當初確定額ニ比シ減損アル場合ニ於テハ政府ハ申請ニ依リ第二條乃至第四條ノ規定ニ準ジ田畑地租ヲ輕減シ又ハ輕減稅額ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ規定ハ田畑自作ノ所得ガ所得確定

後相續又ハ贈與ニ因リ減損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ申請ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九條　前條第一項ノ申請アリタルトキハ政府ハ其ノ處分ノ確定スルニ至ル迄地租ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和十三年分田畑地租ヨリ之ヲ適用ス

本令ハ支那事變終了後其ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

昭和十二年勅令第五百七十二號第一條中「第三種所得税」ノ下ニ「及同十三年以降ノ分ノ地租」ヲ加フ

（參照）

昭和十二年十月二日公布勅令第五百七十二號　支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル關東州及滿洲國ニ於ケル租税ノ減免、徴收猶豫等ニ關スル件　抄錄

第一條　滿洲國駐箚特命全權大使ハ其ノ定ムル所ニ依リ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ納付スル昭和十二年以降ノ分ノ第三種所得税ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

關東州臨時地租措置令施行規則

（昭和十三年六月四日關東局令第五十五號）

第一條　田畑自作ノ期間一年未滿ニシテ其ノ所得ガ一年分ノ所得ニ非ズト認メラル場合ニ於テハ田畑地租ノ輕減ヲ受クベキ年ニ於ケル自作ノ時期ト同一ノ時期ニ付昭和十一年以前三年又ハ昭和十二年ニ於テ自作ヲ爲シタルモノトシテ其ノ所得ヲ見積リ算出シ平常所得ヲ計算ス

第二條　田畑地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ毎年三月十五日迄ニ其ノ旨ヲ所轄税務署長又ハ民政署長ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ土地ノ所在、地番、地目、地積及地價ヲ記載シ田畑自作ノ所得及平常所得ノ計算書ヲ添附スベシ但シ申請者ガ自己ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ地目毎ニ地積及地價ノ合計額ヲ記載シ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ申請ヲ爲シタル後自作ヲ爲スニ至リタル田畑ニ付テハ其ノ際前二項ニ準ジ其ノ地租ノ輕減ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第三條　税務署長又ハ民政署長ハ前條第一項ノ申請ヲ爲シタル者ノ田畑自作ノ所得ヲ調査シ其ノ年第三種ノ所得金額ヲ決定スル時期ニ於テ之ヲ確定スベシ

第四條　第二條第一項ノ申請アリタル場合ニ於テ税務署長又ハ民政署長其ノ年ノ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ五割以上減少セズト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

第五條　税務署長又ハ民政署長田畑地租ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ納税義務者及土地所在ノ會ニ通知スベシ

第六條　税務署長又ハ民政署長第二條ノ申請ヲ受理シタル場合ニ於テ申請者ノ住所地ガ其ノ管轄區域内ニ在ラザルトキハ申請者ノ住所地ヲ管轄スル税務署長又ハ民政署長ニ協議シ之ガ處分ヲ爲スベシ

第七條　第二條第一項第二項及第四條乃至第六條ノ規定ハ關東州臨時地租措置令第八條ノ場合ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年分田畑地租ヨリ之ヲ適用ス

第二條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十三年ニ限リ六月三十日トス

關東州臨時營業税措置規則

（昭和十三年六月二十日關東局令第五十九號）

第一條　當分ノ内本令ニ依リ營業税ヲ輕減ス

第二條　營業税ノ課税標準額ガ平常課税標準額ニ對シ五割以上減少シタルトキハ其ノ納付スル營業税ヲ輕減ス

物品販賣業、製造業及請負業ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ平常課税標準額ニ所定ノ税率ヲ乘ジ算出シタル税額ニ對シ其ノ年課税標準額ニ所定ノ税率ヲ乘ジ算出シタル税額ガ五割以上減少シタル場合ニ限リ其ノ納付スル營業税ヲ輕減ス

第三條　營業税ノ輕減額ハ左ノ割合ノ金額トス

減少割合ガ五割以上七割未滿ナルトキ　營業税額ノ三割

同七割以上ナルトキ　營業税額ノ五割

第四條　平常課税標準額ハ關東州營業税規則（以下營業税規則ト稱ス）ニ依リ計算シタル昭和十一年以前三年ノ平均課税標準額ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ營業ヲ開始シタル者ニ付テハ昭和十二年ノ課税標準額ニ依ル

第五條　營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於テハ營業税ノ輕減ヲ受クベキ年ノ營業ノ期間ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ昭和十一年以前三年又ハ昭和十二年ノ課税標準額ヲ算出シテ平常課税標準額ヲ計算ス

第六條　營業税ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ營業税規則ニ依ル課税標準額ノ申告ト同時ニ其ノ旨ヲ所轄税務署長又ハ民政署長ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ平常課税標準額ノ計算書ヲ添附スベシ

第七條　前條ノ申請アリタル場合ニ於テ税務署長又ハ民政署長第二條ノ規定ニ該當セズト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

第八條　税務署長又ハ民政署長營業税ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ納税義務者ニ通知スベシ

前項ノ通知ハ營業税規則ニ依ル課税標準額ノ決定通知書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ營業税ヲ輕減セズ

一　營業税額ガ百圓以上ナルトキ

二　法人ノ資本金額ガ二十萬圓以上ナルトキ

關東州所得税令第六條乃至第八條ノ規定ハ本令ニ依ル法人ノ資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十條　營業税ノ課税標準額ニ付當初確定額ニ比シ減損アル場合ニ於テハ税務署長又ハ民政署長ハ申請ニ依リ第二條乃至第四條ノ規定ニ準ジ營業税ヲ輕減シ又ハ其ノ輕減税額ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ規定ハ營業税ノ課税標準額ガ課税標準額決定後營業繼續ニ因リ減損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ申請ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條　前條ノ場合ニ於テ營業税ノ課税標準額ガ當初決定額ニ比シ二分ノ一以上ノ減損ト爲ルトキハ其ノ實際課税標準額ニ基キ計算シタル營業税額ニ付前條ノ規定ニ依ル輕減又ハ變更ヲ爲ス

第十二條　第十條第一項ノ申請アリタルトキハ税務署長又ハ民政署長ハ其ノ處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第十三條　第六條乃至第八條ノ規定ハ第十條ノ場合ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十三年分營業税ヨリ之ヲ適用ス

昭和十三年分營業税ニ對スル第六條ノ申請ハ昭和十三年七月十日迄ニ之ヲ爲スベシ

税務署長又ハ民政署長ハ前項ノ申請ヲ爲シタル者ノ昭和十三年分營業税ノ輕減税額ヲ昭和十三年八月十日迄ニ決定シ之ヲ納税義務者ニ通知スベシ

第三條ノ規定ニ依リ輕減スベキ税金ハ昭和十三年第二期以後ノ納期分ノ納額ヨリ之ヲ輕減ス

本令ハ支那事變終了後其ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

日滿國稅徵收事務共助法

（昭和十三年四月六日法律第七十五號）

第一條　國稅、督促手數料、延滯金若ハ滯納處分費ヲ徵收セラルベキ者又ハ其ノ者ノ財產ガ滿洲國內ニ在ルトキハ當該官吏ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿洲國ノ當該官吏ニ其ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得

第二條　滿洲國ノ國稅、督促手數料、延滯金若ハ滯納處分費ヲ徵收セラルベキ者又ハ其ノ者ノ財產ガ帝國內ニ在ル場合ニ於テ滿洲國ノ當該官吏ノ囑託アルトキハ當該官吏ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿洲國ノ當該國稅、督促手數料、延滯金又ハ滯納處分費ヲ徵收シ之ヲ滿洲國ノ當該官吏ニ送付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル徵收金ノ徵收ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國ノ當該法令ニ依ル

第三條　前條ノ規定ニ依ル徵收金ハ國稅徵收ノ例ニ依リテ徵收スルコトヲ得ベキ請求權ニ次ギ先取特權ヲ有ス

第四條　第二條ノ規定ニ依ル徵收金ノ滯納處分ニ對シ不服アル者ハ國稅滯納處分ノ場合ニ準ジ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五條　第二條ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收及送付ノ費用ハ帝國ノ負擔トス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

國稅徵收法第四條ノ一第二號ヲ左ノ如ク改ム

二　府縣稅其ノ他ノ公課又ハ徵收ノ囑託ヲ受ケタル滿洲國ノ國稅ニ付滯納處分ヲ受クルトキ

（參照）

明四三・三・三〇　法律第二一號　國稅徵收法

抄錄

第四條ノ一　納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得

二　府縣稅其ノ他ノ公課ノ徵收ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外國稅ノ當該法令ニ依ル

日滿國稅徵收事務共助法施行ノ件

二十日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十三年勅令第三百五十一號）

八日勅令第三百五十一號）

日滿國稅徵收事務共助法施行規則

（昭和十三年五月十八日勅令第三百五十六號）

第一條　日滿國稅徵收事務共助法第一條ノ徵收ノ囑託ハ內國稅ニ關シテハ稅務署長、關稅及噸稅ニ關シテハ稅關長之ヲ爲スベシ

第二條　徵收ノ囑託ヲ爲サントスルトキハ內國稅ニ關シテハ納稅者ノ住所若ハ居所又ハ財產ノ所在地ヲ管轄スル滿洲國ノ稅捐局長ニ、關稅及噸稅ニ關シテハ納稅者ノ住所若ハ居所又ハ財產ノ所在地ヲ管轄スル滿洲國ノ稅關長ニ對シテ之ヲ爲スベシ

第三條　徵收ノ囑託ハ納稅者ノ住所又ハ居所、氏名、徵收金ノ種類及金額其ノ他徵收上必要ナル事項ヲ記載シタル書面ニ依リ之ヲ爲スベシ

第四條　日滿國稅徵收事務共助法第二條ノ徵收金ノ徵收及送付ハ滿洲國ノ內國稅ニ關シテハ稅務署長、滿洲國ノ關稅及噸稅ニ關シテハ稅關長之ヲ爲スベシ

第五條　徵收ノ囑託アリタル事項ガ他ノ官廳ノ管轄ニ屬スルモノト認メタルトキハ其ノ囑託事項ヲ當該官吏ニ移送スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ囑託ヲ爲シタル滿洲國ノ官吏ニ通知スベシ

第六條　徵收ノ囑託アリタル徵收金ニシテ其ノ金額ガ滿洲國ノ通貨ヲ以テ表示セラレタルモノニ付テハ邦貨換算額ニ依リ徵收ノ手續ヲ爲スベシ

第七條　徵收ノ囑託アリタル滿洲國ノ國稅ノ延滯金ハ滿洲國ノ法令ニ依リ之ヲ算定ス

第八條　日滿國稅徵收事務共助法第二條ノ規定ニ依ル徵收金ニ付過誤納アリタル爲滿洲國ニ對シ之ガ拂戾ヲ請求セントスルトキハ該徵收金ノ徵收ヲ爲シタル稅務署長又ハ稅關長ヲ經由スベシ

第九條　本令中稅務署長トアルハ臺灣ニ於テハ州知事又ハ廳長、樺太ニ於テハ支廳長トス

朝鮮ニ於ケル移入稅及出港稅竝ニ臺灣ニ於ケル出港稅ニ關シテハ第一條及第二條ノ規定ニ拘ラズ稅關長ハ納稅者ノ住所若ハ居所又ハ財產ノ所在地ヲ管轄スル滿洲國ノ稅關長ニ對シテ徵收ノ囑託ヲ爲スベシ

附　則

本令ハ日滿國稅徵收事務共助法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

日滿國稅徵收事務共助法ヲ朝鮮及樺太ニ施行スルノ件

（昭和十三年五月十八日勅令第三百五十二號）

日滿國稅徵收事務共助法ハ第四條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ朝鮮及樺太ニ施行ス

附　則

本令ハ昭和十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

日滿國稅徵收事務共助法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

（昭和十三年五月十八日勅令第三百五十三號）

日滿國稅徵收事務共助法ハ行政訴訟ニ關スル規定ヲ除クノ外之ヲ臺灣ニ施行ス

附　則

本令ハ昭和十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

關東州ニ於ケル日滿國稅徵收事務共助ニ關スル件

（昭和十三年五月十八日勅令第三百五十四號）

關東州ニ於ケル日滿國稅徵收事務共助ニ關シテハ日滿國稅徵收事務共助法第四條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル

附　則

本令ハ昭和十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島ニ於ケル日滿國稅徵收事務共助ニ關スル件

（昭和十三年五月十八日勅令第三百五十五號）

南洋群島ニ於ケル日滿國稅徵收事務共助ニ關シテハ日滿國稅徵收事務共助法第四條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル

附　則

本令ハ昭和十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

國家總動員法

衆議院委員長報告

○小川郷太郎君　委員會ニ於ケル經過、結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ憲法行ハレテ以來、稀ニ見ル劃期的ノ立法デアリマシテ、委員會ニ於キマシテモ、二月ノ二十六日カラ今日ニ至リマシテ、十四回ニ亙リ、時ニハ深夜ニ入ルヲ辭シマセヌデ、熱心ニ愼重ニ審議ヲシタノデアリマス、其質問應答ハ非常ニ多岐ニ亙リマシタガ、私ハ玆ニ其重要ナルモノニ付キマシテ、少シク御報告ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス

　第一ハ憲法第三十一條ト本案トノ關係デアリマス、憲法三十一條ハ非常大權デアリマスガ、之ニ依ッテ戰時ノ規定ヲ十分ニ爲シ得ラレルノニ、此法案ヲ提出セラレルト云フコトハ憲法違反デハナイカ、斯ウ云フヤウナ趣旨デ質問ガアリマシタ、尙ホ他ノ言葉ヲ用ヒテ――他ノ方面カラ見マシテ、憲法三十一條ノ發動ヲ避ケル爲ニ立法セントスルノデハナイカ、非常大權ノ行ハル、コトヲ豫メ想定シテ、備ヘ置クト云フ趣旨デ立法スルノデハナイカ、ソレハ憲法違反、大權干犯ニナルノデハナイカ、斯ウ云フヤウナ趣旨ガ繰返サレマシテ質問セラレタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府ハ、戰時ニ於キマシテハ非常大權ノミガ働クト前提スルト云フコトハ正シクナイ、戰時モ平時モ同ジク臣民ノ權利自由ヲ制限スルニハ法律ニ依ルベキモノデアル、憲法三十一條ニハ憲法第二章ニ揭ゲタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ　天皇大權ノ施行ヲ妨グルコトナシト書イテアル、其妨グルコトナイト云フコトハ、是デモ宜シイ、隨テ法律ヲ以テ規律スルト云フコトハ決シテ惡クナイノデアル、斯ウ云フ風ニ答ヘラレテ居ルノデアリマス、デ憲法三十一條ハ既存法令ニ拘ラズ行ハレルノデアリマシテ、本法ガ制定セラレテモ非常大權ノ發動ハ妨ゲラレナイノデアル、本法ヲ制定シテ、戰時總動員ヲ行フニ際シ、如何ナル形ニ於テ國家權力ガ發動スルカト云フ大綱ヲ國民ニ知ラシメテ、戰時ニ國民ガ迷フコトナク、同ジ方向ニ働クト云フ覺悟ト準備ヲ致サシムルト云フコトガ、非常大權ニ依ルヨリモ寧ロ立憲的デハナイカ、サウ云フ風ニ考ヘテ提案シタモノデアルト說明セラレ、尙ホ先例モ幾ツモアルト云フコトヲ辯明サレテ居ッタノデアリマス

　第二ノ質問ハ、廣汎ナル委任立法ハ憲法ニ違反シ、若クハ憲法ノ精神ニ違反スルト云フヤウナ質問デアリマシタ、是ハ此委員會ヲ通ジマシテ幾回トナク繰返サレタノデアリマス、法理論ト致シマシテ、委任立法ハ憲法違反デハナイカト云フヤウナ質問ニ對シマシテ、政府ハ委任命令ト云フモノハ法律ノ內容ヲ成スモノデアル、隨テ是ハ憲法違反デハナイ、斯ウ云フ說明ヲ貫カレテ居ラレタノデアリマス

　更ニ憲法三十一條デ大權命令、卽チ形ハ勅令デアリマスガ、勅令デ規定セラレルニ拘ラズ、法律ニ依ッテ勅令ニ委任スルト云フコトハ憲法違反デアル、斯ウ云フヤクナ意見ヲ以テノ質問ガアリマシタガ、政府ハ初メト同ジヤウニ憲法三十一條ノ非常大權ヲ發動スルモ一ツノ行キ方デアルガ、政府ハ寧ロ普通ノ立法手段ニ依ッテ戰時ニ對處スルコトガ憲法精神ニ合致スル、次ニ此法律ニハ立法事項ニ付テ法律ト同樣ノ效力ヲ有スル勅令ガ公布セラレナイト十分ニ働カヌ分ガアル、其際憲法三十一條ノ發動ヲ仰グハ適當デナイ、此法律自體ノ系統デ形ヲ整ヘ委任勅令ニ依ルコトガ宜シイ、斯ウ云フヤウナ御答デアッタヤウデアリマス

　更ニ之ヲ政治論、憲法ノ運用ト云フ上カラ見マシテ、廣汎ナル委任ト云フコトハ如何ニモ當ヲ得ナイ、少クトモ憲法ノ精神ニ副ハナイノデハナイカ、白紙委任狀ヲ出セト云フコトト同ジヂヤナイカ、何ヲヤラレルカ分ラナイ、ソコデ非常ナ不安ガ起ルノデアル、斯ウ云フ質問ガアリマシタガ、政府ハ之ニ對シマシテ、此法案各條ニ依ッテ臣民ニ義務ヲ負ハスノデアル、義務ノ本體ハ本條ニ依ッテ定マルノデアル、義務ヲ負ハス手段方法ヲ勅令ニ讓ッタノデアル、勅令ハ其義務以上ニ出ナイノデアル、寧ロ本條ノ義務ヲ狹メルコトニナルノデ、決シテ此勅令委任ト云フモノガ不安ヲ來スベキモノデハナイ、而モ憲法第二章ノ立法事項ガ、殆ド此法律ニ依ッテ皆含メラレテ居ルト云フヤウナコトデアレバ、ソレハサウデナイノデアル、事項カラ言ヒマスト、勞務、物資、情報ト云フヤウナモノニ限ラレテ居ル、臣民ノ權利義務ニ關スル憲法第二章ト云フモノノ中デモ、關係スル所ハ大體ニ憲法二十七條所有權ノ條文デアル、ソレカラ言論ニ關スル條文、卽チ二十九條等二三ノ條文ニ觸レルガ、アトノ憲法第二章ノ條章ニハ殆ド觸レテ居ナイノデアル、而モ又是ハ戰時

ニ際シテ、國民總動員上必要ナル時ニ限ヲレテ居ル、平時其他ノ場合ニハ適用サレルモノデハナイノデアル、斯ウ云フヤウナ說明デアリマス、而モ先例ガアル、先例ト言フガ、コンナ廣汎ナ先例ガアルカト云フヤウナ質問ニ對シマシテ、本案ニ規定シテ居ルモノハ、現行法ノ色々ナモノヲ集メテ綜合單一化シタノデアル、新シク加ハッタ規定ト云フモノハ、五條、六條、七條、十四條、十七條、十八條、二十條位ノモノデアル、サウ俄ニ非常ナ廣汎ナル委任立法ヲ、此處ニ持ッテ來タノデハナイト云フヤウナ趣旨ノ辯明ガアリマシタ

　次ニ之ニ關聯シマシテ、ソレニシテモドウ云フコトヲ規定スルノカ、勅令ノ要綱トナルヤウナモノヲ出スコトヲ要求シタガ、政府ノ方デハ其要綱ヲ示サレタノデアリマス、其要綱ニ付テ其內容ヲ立法化スル、卽チ此法律ノ中ヘ、サウ云フ要綱ニ書カレテ居ルヤウナ條項ヲ入レテシマッタラ、ドウカト云フヤウナ質問モアリマシタガ、政府ハ其要綱ノ中ニハ種々雜多ナモノガアル、法規命令ニ關スルモノモアリ、執行命令ニ關スルモノモアルノダト云フコトヲ答ヘタ、何ニシテモ勅令ヲ法文化シテ行クト云フコトハ出來ナイ、ナゼ出來ナイカト云ヘバ、戰爭ハ千變萬化スルモノデ、之ニ卽應シテ行カナケレバナラナイ、然ルニ今日ニ於キマシテ、其千變萬化ニ應ジテ立法スルコトガ中々容易デナイ、第一ニ戰ノ規模ニ依ッテ違フノデアル、第二ニハ相手國ニ依ッテ違フノデアル、サウ云フモノニ對應シテ今日カラ豫メ決メテ法文ノ中ヘ定メルト云フコトハ出來ナイ、又對外關係ノ上カラ申シマシテモ、法律ニ細カク規定シテ置クト云フコトハ、總動員計畫ヲ外國ニ窺ヒ知ラシムルコトニナル、ソレハ避ケナケレバナラナイ、斯ウ言ハレルノデアリマス、尙ホ此勅令ニ委任シテ居ルト申シマシテモ、其勅令ガ一ツノ箇條ニ於テ必ズ一本ト限ラナイ、今想定シ得ラレルモノヲ一本出シ、ソレカラ又必要ニ應ジテ、同ジ條文ニ基イタ第二ノ勅令モ出テ來ルノデアル、ソレヲ今日カラ總テ立法化シテ、此法文ノ中ニ勅令ノ內容ニナルベキモノヲ皆現ハス譯ニハ行カヌ、斯ウ云フヤウナ答辯デアリマシタ

　斯ノ如ク法理論、憲法ノ運用論、憲法ノ精神論デ、質問者ト政府ノ方トノ間ニ幾多ノ議論ガ上下セラレマシタ、併シ尙其政府ノ答辯ニ依ッテモ、委員ノ方デハ十分ニ氷解出來マセヌデ、斯ウ云フヤウナ法律案ヲ提出スルニハ、何カ背後ニ一種ノ思想ガアルノデハナイカ、卽チ獨裁政治ノヤウナ考ガアルノデハナイカ、ソレカラ出發シテ斯ウ云フ法律案ガ提出サレルコトニナッタノデハナイカト云フヤウナ質問ガアッタノデアリマス、「ナチス」ノ授權立法ト云フモノト同巧異曲デハナイカ、殊ニ過去數年來ノ我國ニ行ハレタ暗流ニ顧ミテ見マスト、試ニ人心不安ノ環境デアル、ソコニ此法律案ガ出タノデアル、何カソコニ關係ガアルノデハナイカ、サウ云フヤウナ意味ノ質問ガアリマシタ、尙ホ他方面カラ言フト、現內閣ハ或ハ此法律ヲ運用スルニ於テ誤リナイカモ知ラヌガ、是カラ後ニ來ル內閣ト云フモノハ、ドンナモノデアルカモ分ラヌ、最惡ノ內閣ガ出來タナラバ、此法律ニ依ッテ立憲政治ヲ破壞スルコトニナルノデハナイカ、斯ウ云フヤウナ議論ヲ以テ政府ニ迫ラレタノデアリマス、政府ハ之ニ對シマシテ、立憲政治ト云フコトニ關聯致シマシテ、近衞首相モ、廣田外相モ、末次內相モ、皆口ヲ揃ヘテ憲法ハ儼存シテ居ルノデアル、此憲法ノ條章ヲ遵守シテ政治ヲ行ハウト思フ、尙ホ是カラ後ニ惡イ內閣ガ出來テ、此法律ニ依ッテ憲法政治ヲ破壞スル　モノガアルカモ知レヌト云フ質問ニ對シテハ、近衞首相ハ、我國ニハ憲法ガ儼トシテ、存在シテ居ル、上ニハ　聖天子ガ御在シマスノデアル、ソレデアルカラ獨逸ヤ伊太利ノヤウニ、下カラ力ニ依ッテ政權ヲ握ルト云フ如キ事態ハ我國ニハ起ラナイ、憲法ノ條章ニ依ッテ國政ノ運用ヲ爲スコトハ、如何ナル時代ニ於テモ變ルベキモノデハナイ、斯ウ云フ風ニ言明セラレタノデアリマス、尙ホ首相ハ此法律ハ戰時ノミニ行ハウトスルノデアルカラ、「ナチス」ノヤウナ平時ニ適用セラレル所ノ法律ト云フモノトハ本質上ノ差ガアル、更ニ此法律ノ背後ニ恐ルベキ一種ノ思想ガアルト言ハレルケレドモ、沿革カラ見テモ此法律ト云フモノハ、決シテ獨裁政治ノ「イデオロギー」カラ出タモノデハナイ、既ニ十數年以來歷代ノ內閣ガ此總動員計畫ト云フモノニ苦慮シテ、ソレガ今日殆ド出來上ッテ、今ヤ之ニ法ノ根據ヲ與ヘントスルト云フノデ、此法案ガ提出セラレタノデアル、沿革的ニ考ヘテ見テモ、玆ニ左樣ナ恐ルベキ考ガ背後ニ潜ンデ居ルモノデハナイ、斯ウ云フ風ニ辯明ヲセラレタノデアリマス

　次ニサウハ言フケレドモ、現在ノ官吏ト現在ノ行政機構トヲ以テシテ、是ガ旨ク行

ハレルカ、ソコニ心配ガナイカ、斯ウ云フヤウナ質問ニ移ッテ來マシテ、ソコデ行政機構ノ改革ハドウスルカ、或ハ官吏制度ノ改革ハドウスルカ、斯ウ云フ質問ガアリマシタ、政府ハ之ニ對シマシテ行政機構ノ改革、官吏制度ノ改正ト云フモノヲ今考ヘテ居ル、殊ニ此法律ガ行ハレルト云フコトニナッタナラバ、其必要ハ益〻痛感スルト云フコトヲ述ベラレタノデアリマス

更ニ此法律ヲ運用スルニ當ッテハ、今日マデノ行政機構デハイカヌ、ドウ云フ行政機構デヤルカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ大體中央統轄機關トシテハ内閣ガ之ニ當リ、總理大臣ハ總轄事項ニ付テ責任ニ任ズルノデアル、中央執行機關トシテハ各省ガ之ニ當ッテ、各省大臣ガ其責任ヲ持ツノデアル、戰時ノ特設機關トシマシテハ、即チ戰爭ノ規模ニ應ジマシテ、ソレニ適スルヤウナ所要ノ機關ヲ新設シ擴充スル、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居ルト云フノデアリマス

ソレカラ次ニハ本法ノ行ハレル時期デアリマス、之ニ付テ色々質問應答ガアリマシタガ、此本法ガ兩院ヲ通過スレバ直チニ公布ノ手續ヲ執リ、勅令ニ依ッテ施行期日ガ定マル、ソレデ其法律ガ全般的ニ施行セラレルコトニナルガ、併シ其中デ愈〻是ガ發動スルト云フコトハ、事情ニ依ッテ決ルノデアル、施行ハセラレルガ、全部ガ皆發動スルノデハナイ、斯ウ云フヤウナ御説明デアリマシタ、戰時ニ際シト云フ言葉ガアルガ、アレハ戰爭ノ始マリカラ戰爭ノ終リマデ是ハ戰時デアルガ、戰時ニ際シト云フコトハ、ドウ云フ事デアルカト云ヘバ、其戰時ノ前ト後ニ多少幅ガアル、ソレハ戰爭ノ緊迫シタ時ハ、ヤハリ戰時ト見ル、斯ウ云フヤウナ解釋デ、戰爭ノ時ト云フモノハ宣戰布告ノ時、或ハ戰爭ニ準ズベキ事變ト云フモノハ、御裁可ニ依ッテ決マルノデアル、其前ニ此法律ノ發動ハ多少必要デアル、是ハ戰時ニ際シテト云フコトノ説明デアリマシタ

ソレカラ國家總動員審議會ニ付キマシテ、色々ナ質問應答ガアリマシタ、色々ノ質問ノ中デ之ヲ分類シテ見マスト、第一ハ其權限ニ付テノ質問デアリマス、其權限ニ付テハ重要事項ヲ審議スルト書イテアリマスガ、其重要事項トハ何デアルカ、ソレハ勅令案デアルカ、此質問ニ對シマシテハ勅令案其モノヂヤナイ、ガ勅令ニ規定セラレルモノハ大抵此重要事項ニナルノダト云フ答辯デアリマシタ、第二ニ其審議會ノ組織ハドウスルカ、之ニ付テ色々ノ角度カラ質問ガアリマシタガ、或ハ勅令ノ内容ハ生産力ノ擴充ト勞働動員トガ重要デアルニ鑑ミテ、勞働者ノ代表ヲ入レル意思ハナイカト云フヤウナ意味ノ質問ガアリマシタガ、政府ハ尤デアル、考慮スルト答ヘラレマシタ、併シ最モ多クノ質問ハ、廣汎ナル立法事項ヲ勅令ニ委任スルニ依ッテ生ズル不安ヲ、緩メントスル趣旨カラ出タモノデアリマス、即チ貴族院、衆議院ノ議員ガ多數ニ此審議會ニ參加スルコトニナリマスレバ、之ヲ通ジテ間接的ニ、實質的ニ、立法ノ協贊權ヲ或ル程度ニ行ヒ得ラレルトモ見ラレルノデアリマスカラ、其趣旨カラシテ主トシテ貴族院議員、衆議院議員ヲ以テ組織スベキデハナイカ、サウ云フ意見ヲ附シテ政府ニ質問ヲシタノデアリマスガ、初メ政府ハ之ニ付テ明確ナル答辯ヲ致シマセヌデシタ、今日ノ委員會ニ於キマシテ總理大臣ガ此質問ニ答ヘラレマシテ、第五十條ノ委員會、即チ國家總動員審議會、此審議會ノ構成ニ付テハ委員ノ過半數ハ貴衆兩院議員ヲ以テ之ニ充ツル考デ居リマス、之ニ依ッテ質問者ノ趣旨ニ適フコトト思ヒマスト云フ風ニ、御言明ニ相成ッタノデアリマス、尚ホ今日ノ委員會ニ於キマシテ、第五十條ノ施行要綱ガ配ラレタノデアリマス、其中ニハ第四ニ「委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官、貴族院議員、衆議院議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズルコト、前項ノ貴族院議員及衆議院議員ハ委員ノ過半數ヲ占ムルコト」斯ウ云フコトニ相成ッテ居リマスガ、此要綱ニ書イタモノト總理大臣ノ言明セラレタコトハ同ジコトデアルト云フコトヲ政府委員カラ附加ヘラレマシタ、尚ホ質問應答ノ重要ナルモノガアリマスガ、是ハ此際速記録ニ讓リマス

質疑ガ終了シマシテ討論ニ入リマシテ、民政黨ヲ代表シテ豐田豐吉君、政友會ヲ代表シテ西岡竹次郎君、第一議員倶樂部ヲ代表シテ井阪豐光君、社會大衆黨ヲ代表シテ淺沼稻次郎君、第二控室ヲ代表シテ今井新造君、東方會ヲ代表シテ三田村武夫君、是等ノ諸君ガ皆本案ニ贊成スルノ意見ヲ述ベラレタノデアリマス、採決ニ入リマシテ、全會一致ヲ以テ本案ハ可決セラレマシタ

尚ホ西岡竹次郎君ヨリ、立憲民政黨竝ニ立憲政友會ノ共同提案ニナル附帶決議ガ提出サレマシタ、ソレハ次ノ如キモノデアリマス

附帶決議

一 本法ノ如キ廣汎ナル委任立法ハ全ク

異例ニ屬ス政府ハ將來努メテ其ノ立法化ヲ圖ルト共ニ官吏制度ノ改革ヲ斷行シ又之ガ運用ニ當リテハ憲法ノ精神ニ悖ラザルベキハ勿論國民愛國心ノ自主的發露ヲ基調トシ苟モ本法ヲ濫用シテ人心ノ安定ヲ脅威シ産業ノ發達ヲ阻止セザル樣嚴ニ戒心スベシ

二 本法ノ制定ト共ニ政府ハ進ンデ世界ノ平和ヲ實現シ文運ノ進歩ニ貢獻スル爲速ニ外交機能ヲ刷新シ新ニ對外國策ヲ確立スベシ

此附帶決議ニ付キマシテ採決ヲ致シマシタ所、是モ全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、右大要ヲ御報告申上ゲマス(拍手)

貴族院委員長報告

○子爵渡邊千冬君 國家總動員法案ノ委員會ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ノ御報告ヲ申上ゲタイト存ジマス、本案ハ其ノ規定スル所ノ内容頗ル廣汎ニ亙リ、且我ガ憲法ノ運用ニモ重大ナル關係ヲ持ッテ居リマスル未曾有ノ重要法案デアリマシテ、委員會ニ於テハ去ル三月十七日之ヲ付託セラレタノデアリマスガ、爾來今日迄數日ノ間、愼重且熱心ニ審議ヲ重ネタノデアリマス、其間行ハレマシタ質疑應答ノ内容ノ詳細ニ付キマシテハ之ヲ速記録ニ讓ルコトニ致シ、玆ニ其ノ重要ナルモノニ付御報告ヲ申上ゲタイト存ジマス、先ヅ第一ニハ憲法第三十一條ト本案トノ關係ニ付テデアリマス、其ノ趣旨ハ、憲法第三十一條ノ非常大權ハ、戰時又ハ國家事變ノ際、國家ノ存立ヲ保全スル爲、眞ニ已ムヲ得ナイ非常緊急ノ場合ニ限リ發動スルモノデアッテ、法律又ハ緊急勅令ヲ超越スル本質ヲ有シ、決シテ法律又ハ緊急勅令ト同列ニ立ッテ發動スルモノデハナイ、此ノ本質ヲ明確ニシ、苟モ誤解ナキヲ期スルコトハ憲法上重要ナ事柄デアルガ、此ノ點ニ關シ政府ハ衆議院ニ於テ普通ノ立法手續ト結ビ付ケテ、非常大權ノ發動ヲ説明シテ居ルガ爲、動モスレバ戰時又ハ國家事變ノ際ニ於テハ、非常大權ガ法律又ハ緊急勅令ト同列ニ立ッテ、何時デモ發動シ得ルガ如キ誤解ヲ生ゼシムル虞ガアル、是ハ頗ル重大ナ問題デアルガ、政府ハ如何ニ考ヘルカト云フ質問デアリマシタ、之ニ對シ政府ハ、憲法第三十一條ノ非常大權ハ、法律又ハ緊急勅令ト同列ニ立ツモノデハナク、全ク之ヲ超越シタモノデ、戰時又ハ國家事變ニ際シ、國家存立ノ保全上眞ニ已ムヲ得ナイ非常ノ變局ニ處スル非常ノ例外デアルコトハ同感デアル、此ノ考ヘ方ハ歴代内閣ノ一貫セル方針デアッテ、ソレハ本法ノ前身タル軍需工業動員法ガ法律トシテ制定セラレタコト、及ビ日清日露ノ戰役ニ際シ、各種ノ戰時法律、又ハ緊急勅令ガ制定セラレタニ拘ラズ、非常大權ノ發動ヲ見タコトハ今日マデ未ダ曾テ一度モナカッタコトニ徴シテモ明瞭デアル、衆議院ニ於テ説明ヲシタノハ、立法事項ハ戰時ト雖モ平時ト同ジク法律又ハ緊急勅令ニ依ルノガ原則デアルカラ、憲法第三十一條ノ規定ガアルカラ、本法制定ノ必要ナシトスルノハ立憲的デハナイ、又今日本法ヲ制定シテモ、非常大權ガ發動スベキ要件ノ備ッタ場合ニハ、其ノ發動スルコトヲ何等妨ゲルモノデナイコトヲ申シタニ過ギナイト云フ答辯デアリマシタ、次ニハ本條ノ、第四條以下第三十一條迄殆ド各條ニ於テ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、又勅令ヲ以テ之ヲ定ムト云フ字句ヲ以テ現シテ居ル、所謂委任命令ノ適否ニ關シ、繰返シ〳〵種々ノ質疑應答ガ行ハレタノデアリマス、即チ本法案ハ、憲法第二章ノ條規ノ中、主トシテ第二十七條ノ所有權ニ關スルモノ、第二十九條ノ言論ニ關スルモノ等ニ該當スル事項ヲ規定シ、臣民ノ權利義務ノ全部ニ付規定スルモノトモ考ヘナイガ、國民ノ一部ニ不安ト衝動ヲ與ヘタノハ、廣汎ナル委任命令ノ形式ヲ取ッタコトニ起因スル、而モ政府ノ提出シタ施行要綱ヲ見ルト、其ノ中ニ掲ゲテアル事項ハ、大部分法律ノ執行ニ關スルモノデアッテ、立法事項ハ寧ロ少イノデアルカラ、委任命令ニ依ラズシテ、執行命令デモ足リルト思フ、然ラバ國民ノ不安ノ原因タル委任命令ノ形式ハ之ヲ避クベキデハナイカ、斯樣ナ意味ノ質問ガ屢〻強調サレタノデアリマス、之ニ對シ政府ノ答辯ハ、本法案ハ大綱ニ付規定シテアル關係上、具體的事項ハ命令ノ規定ニ讓ラナケレバナラヌガ、其ノ具體的事項ノ中ニハ、國民ノ權利義務ニ關スル重要ナルモノヲ相當ニ含ンデ居ル、此ノ種ノ事項ハ法律ト同一視スベキ委任命令ノ形式ニ依ッテ規定スルノガ適當デアル、本法中數箇條ノ規定ハ、今日ノ處執行命令ニ依ルモ差支ナイト認メラル、ガ、是トテモ將來事態ガ變化シタ場合ニハ、其ノ範圍程度ヲ擴大セラレ、

立法事項ニモ觸ルヽ場合モアルノデアルカラ、寧ロ委任命令ノ形式ニ依ルヲ可トスル、又委任命令ハ、本質上法律ニ規定スル義務ノ範圍内ニ限ラレルノミナラズ、事態ニ順應シテ必要ナル最小限度ニ拘束ヲ止メ得ルノ利益モアルカラ、何等不安ハナイ譯デアル、國民ノ一部ニ不安ヲ懷カシメタコトハ遺憾デアルガ、運用上十分注意シテ誤解ヲ一掃スルコトニ努メタイト云フ答辯デアリマシタ、又右ニ關聯シテ本案ハ國民ノ權利義務ニ關シ、極メテ廣汎且重要ナル事項ヲ規定スルモノデアルニ拘ラズ、其ノ規定スル所ガ餘リニ抽象的デアッテ、斯クノ如ク非常ニ廣汎ナル事項ヲ命令ニ委セテ居ルノハ、憲法ノ精神ニ反スルノデハナイカ、法律ニハ大綱ヲ規定スルニシテモ、今少シ具體的ニ規定スベキデハナイカト云フ質問モアッタノデアリマスガ、之ニ對シ本法ハ戰爭ノ規模、對手國等ノ如何ニ依リ千變萬化スル事態ニ對應スル爲ニ、又總動員計畫ガ外國ニ窺知セラルヽコトヲ避ケ必要上、具體的ニ規定スルコトヲ避ケタ旨ノ答辯ガアリマシタ、又委任命令ガ廣汎ニ亙ルコト本法ノ如キハ未ダ曾テ先例ガナイ、斯カル廣汎ニシテ委任ヲ受ケタレバナライ理由ハ如何デアルカト云フ質問ニ對シマシテハ、本法ガ軍需ノ關係、民需ヲモ含ム多岐ノ內容ヲ持ッテ居リマスカラ、事項ノ廣汎複雜ナルノハ已ムヲ得ナイ、如何ナル場合ニモ是等ノ委任命令ハ、法律ノ規定ノ範圍内デ義務ヲ負ハス手段方法ヲ規定スルニ過ギナイノデアルカラ、差支ナイデアラウト云フ答辯ガアリマシタ、又更ニ之ニ對シ、假ニ現在ハ法律ニハ抽象的ニ規定スルノ外ナシトスルモ、將來之ヲ具體的ニ規定スル義務ノ生ジタ時ニハ、更ニ法律又ハ急ヲ要スル時ニハ緊急勅令ニ規定スルノガ立憲的デアッテ、必要ヲ生ズル場合ニハ之ヲ發動セシムルモノデアルト云フ說明ガアリマシタ、次ニ本法案ノ各條ニ關シテ、先ヅ第三條第七號ニ關シ、政府ハ新聞紙發行業務ガ總動員業務ニ含マレルコトヲ言明サレタノデアルガ、從ッテ其ノ新聞紙ノ施設ハ之ヲ徵用シ得ルコトナルト思フガ、言論機關ニ對シ斯クノ如キ立入ッタ措置ヲ執ルコトハ國民ノ精神的協力ヲ妨ゲ、却テ總動員ノ目的ニ合シナイ結果ヲ來ス處ガアル、政府ハ果シテ新聞ニ對シ其ノ施設迄徵用スル等ノ意思ガアルカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シ政府ヨリ、新聞發行業務ヲ總動員業務トシタノハ、戰時ニ於ケル新聞業務ノ重要性ニ鑑ミ、之ヲ本法ノ規定ヨリ除外スルコトヲ不適當トセルニ依ルノデアルガ、其ノ施設ヲ徵用收用スル等ノコトハ、今日全ク之ヲ豫想シテ居ナイ旨ノ答辯ガアリマシタ、又第二十條ニハ總動員ノ必要上、記事ノ揭載ヲ禁止制限スル規定ガアリマスケレドモ其ノ運用ニ付テモ十分之ヲ注意致スト云フ言明ガアッタノデアリマス、次ニ本案第二十八條ノ損失補償及第二十九條ノ損失補償委員會ニ關シテ質問ガアッタノデアリマス、ソレハ損失補償ノ適否ハ、本法ノ如ク軍需ノミナラズ民需ニモ及ブ廣汎ナルモノニアッテハ、殊ニ國民ノ利害ニ重大ナル關係ガアルガ、其ノ金額ハ補償委員會ノ議ヲ經テ政府ガ之ヲ定メルコトニナッテ居ルノハ宜シイ、唯之ニ對シテ不服ノアル場合ノ救濟規定ヲ缺クノハ不當デハナイカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ、補償委員會ヲ設ケル其ノ趣旨ハ、現行ノ軍需工業動員法ニ依ル軍需評議會設置ノ目的ト同樣、戰時ニ際シテハ國民ト政府トノ間ニ補償金額等ニ付幾多ノ訴訟問題、係爭問題等ノ起ルコトハ適當デナイト思フカラ、政府ハ豫メ愼重ナル手續ヲ踏ンデ適切ナル補償ヲシテ、サウシテ兩者ノ關係ヲ成ルベク速カニ解決シタイト思フカラ、別ニ救濟手段ヲ設ケテナイ、斯ウ云フ說明デアリマシタ、從ッテ之ニ對シ更ニ國民ガ訴訟等ニ依リ不服ヲ申立テル途ヲ開イテ置クノハ適當デナイト云フ說明デアリマス、次ニ第五十條ニ總動員審議會ノ規定ガアルノデアリマスガ、此ノ審議會ノ規定ニ關係ヲ致シ、此ノ總動員法案ハ廣汎ナル事項ヲ勅令ニ委任シテ居ルカラ、國民ノ間ニ不安ヲ懷カシメテ居ルカラ、此ノ不安ヲ解イテ國民ヲシテ精神的ニ總動員ニ協力セシメルヤウニ措置ヲスルコトハ極メテ必要ナルコトデアル、總動員審議會ハ此ノ目的ニ副フモノデアルトハ思ケレドモ、其ノ重要ナル趣旨ニ鑑ミ、之ヲ單ナル諮問機關トセズ、更ニ進ンデ議決機關トスベキデハナイカト云フ質問ガアッタノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ハ審議會ノ設置ハ本法ノ運用ニ當リ、國民ノ意見ヲ十分ニ取入レ、圓滑適切ナル運用ヲ期スル趣旨ニ出ヅルノデアルガ、本法運用ニ關スル全責任ハ政府ガ之ヲ負擔スルノデアルカラ、之ヲ諮問機關ニスルノガ至當デアル、之ヲ議決機關トスルコトハ却テ責任ヲ審議會ニ轉嫁スル結果トナルノデ、審議會ノ設置ノ目的カラ言フテ好マシカラヌコトデアルト云フ答辯ガアッタノデアリマス、審議會ハ、其ノ他本法ヲ圓滑ニ實施スル爲ニハ、單ニ法規ヲ整備スルノミデハ不十分デアル、之ガ運用ニ當ルベキ中央及地方ノ行政機關ヲ擴充改善スルコトガ必要デアル、又官吏制度ヲ改革シテ、官吏ノ素質ヲ向上セシメ、更ニ國民精神ヲ作興シ、敎學ヲ刷新スル等ノ事柄ガ極メテ重要デハナイカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ同感ノ意ヲ表セラレタノデアリマス、以上申述ベマシタ如ク、本法案中最モ問題トナッタハ、勅令ニ委任シタ事項ガ餘リニ廣汎ナルコトデアリマシテ、玆ニ大ナル不安ヲ惹キ起シタ次第デアリマスガ、之ニ關シ政府ハ、委任勅令ガ本法ノ規定ノ範圍外ニ出ヅルコトナキハ勿論、其ノ範圍内ニ於テモ必要ノ程度ヲ超エナイヤウニ深甚ノ注意ヲ拂ッベキ旨ヲ言明セラレマシタ、最後ニ世上ニハ此ノ法案ヲ提出スルニ至リタル其ノ裏面ニハ、憲法政治ニ背反スル指導精神ノ伏在スルコトヲ懸念スル者ガ尠クナイガ、政府ノ所見果シテ如何ト云フ質問ニ對シマシテハ、近衞總理大臣ノ答辯ニ依リマシテ、此ノ法案ハ近時「ヨーロッパ」ノ或國々ニ行ハレテ居ル獨裁政治ノ思想トハ根柢ヲ異ニシテ居ル、我ガ國ニハ上ニ萬邦無比ノ皇室ヲ戴キ、又欽定憲法ガ儼存致シテ居ルノデアッテ、政治ハ飽迄モ憲法ノ條章ニ從ッテ行ハレナケレバナラナイ、又此ノ法案ハ今日ノ時局ニ際シ卒然トシテ起草セラレタモノデハナクテ、十數年以前ヨリ資源局等ニ於テ長ク考究セラレツヽアッタモノガ實ヲ結ンダモノデアリ、又「ドイツ」ノ千九百三十三年ノ「ナチス」ノ態ノ著シキ變化ナキ限リ其ノ儘施行スルノデアル、從ッテ本法ノ當該部分ハ今次事變ニ之ヲ發動セシメナイ、其ノ他ノ部分ノ發動ヲスルヤ否ヤハ一ニ事態ノ推移如何ニ係ルモノデアッテ、必要ヲ生ズル場合ニハ之ヲ發動セシムルモノデアルト云フ說明ガアリマシタ、次ニ本法案ノ各條ニ關シテ、政府ハ勅令ニ規定スル事項ノ範圍デアルカラ、更ニ法律ニハ抽象的ニ規定スルノ外ナシトスルモ、將來之ヲ具體的ニ規定スル義務ノ生ジタ時ニハ、更ニ法律又ハ急ヲ要スル時ニハ緊急勅令ニ規定スルノガ立憲的デアッテ、必要ヲ生ズル場合ニハ之ヲ發動セシムルモノデアルト云フ說明ガアリマシタ、次ニ本法案ノ各條ニ關シテ、政府ハ勅令ニ規定スル事項ノ範圍デアルカラ、更ニ法律ニハ抽象的ニ規定スルノ外ナシトスルモ、將來之ヲ具體的ニ規定スル義務ノ生ジタ時ニハ、更ニ法律又ハ急ヲ要スル時ニハ緊急勅令ニ規定スルノガ立憲的デアッテ、必要ヲ生ズル場合ニハ之ヲ發動セシムルモノデアルト云フ說明ガアリマシタ、次ニ本法案ノ各條ニ關シテ、先ヅ第三條第七號ニ關シ、政府ハ勅令ニ規定スル事項ノ範圍デアルカラ、更ニ法律ニハ抽象的ニ規定スルノ外ナシトスルモ、將來之ヲ具體的ニ規定スル義務ノ生ジタ時ニハ、更ニ法律又ハ急ヲ要スル時ニハ緊急勅令ニ規定スルノガ立憲的デアッテ、必要ヲ生ズル場合ニハ之ヲ發動セシムルモノデアルト云フ說明ガアリマシタ、次ニ本法案ノ各條ニ關シテ、政府ハ新聞紙發行業務ガ總動員業務ニ含マレルコトヲ言明サレタノデアルガ、從ッテ其ノ新聞紙ノ施設ハ之ヲ徵用シ得ルコトナルト思フガ、言論機關ニ對シ斯クノ如キ立入ッタ措置ヲ執ルコトハ國民ノ精神的協力ヲ妨ゲ、却テ總動員ノ目的ニ合シナイ結果ヲ來ス處ガアル、政府ハ果シテ新聞ニ對シ其ノ施設迄徵用スル等ノ意思ガアルカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シ政府ヨリ、新聞發行業務ヲ總動員業務トシタノハ、戰時ニ於ケル新聞業務ノ重要性ニ鑑ミ、之ヲ本法ノ規定ヨリ除外スルコトヲ不適當トセルニ依ルノデアルガ、其ノ施設ヲ徵用收用スル等ノコトハ、今日全ク之ヲ豫想シテ居ナイ旨ノ答辯ガアリマシタ、又第二十條ニハ總動員ノ必要上、記事ノ揭載ヲ禁止制限スル規定ガアリマスケレドモ其ノ運用ニ付テモ十分之ヲ注意致スト云フ言明ガアッタノデアリマス、次ニ本案第二十八條ノ損失補償及第二十九條ノ損失補償委員會ニ關シテ質問ガアッタノデアリマス、ソレハ損失補償ノ適否ハ、本法ノ如ク軍需ノミナラズ民需ニモ及ブ廣汎ナルモノニアッテハ、殊ニ國民ノ利害ニ重大ナル關係ガアルガ、其ノ金額ハ補償委員會ノ議ヲ經テ政府ガ之ヲ定メルコトニナッテ居ルノハ宜

シイ、唯之ニ對シテ不服ノアル場合ノ救濟規定ヲ缺クノハ不當デハナイカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ、補償委員會ヲ設ケル其ノ趣旨ハ、現行ノ軍需工業動員法ニ依ル軍需評議會設置ノ目的ト同樣、戰時ニ際シテハ國民ト政府トノ間ニ補償金額等ニ付幾多ノ訴訟問題、係爭問題等ノ起ルコトハ適當デナイト思フカラ、政府ハ豫メ愼重ナル手續ヲ踏ンデ適切ナル補償ヲシテ、サウシテ兩者ノ關係ヲ成ルベク速カニ解決シタイト思フカラ、別ニ救濟手段ヲ設ケテナイ、斯ウ云フ說明デアリマシタ、從ッテ之ニ對シ更ニ國民ガ訴訟等ニ依リ不服ヲ申立テル途ヲ開イテ置クノハ適當デナイト云フ說明デアリマス、次ニ第五十條ニ總動員審議會ノ規定ガアルノデアリマスガ、此ノ審議會ノ規定ニ關係ヲ致シ、此ノ總動員法案ハ廣汎ナル事項ヲ勅令ニ委任シテ居ルカラ、國民ノ間ニ不安ヲ懷カシメテ居ルカラ、此ノ不安ヲ解イテ國民ヲシテ精神的ニ總動員ニ協力セシメルヤウニ措置ヲスルコトハ極メテ必要ナルコトデアル、總動員審議會ハ此ノ目的ニ副フモノデアルトハ思ケレドモ、其ノ重要ナル趣旨ニ鑑ミ、之ヲ單ナル諮問機關トセズ、更ニ進ンデ議決機關トスベキデハナイカト云フ質問ガアッタノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ハ審議會ノ設置ハ本法ノ運用ニ當リ、國民ノ意見ヲ十分ニ取入レ、圓滑適切ナル運用ヲ期スル趣旨ニ出ヅルノデアルガ、本法運用ニ關スル全責任ハ政府ガ之ヲ負擔スルノデアルカラ、之ヲ諮問機關ニスルノガ至當デアル、之ヲ議決機關トスルコトハ却テ責任ヲ審議會ニ轉嫁スル結果トナルノデ、審議會ノ設置ノ目的カラ言フテ好マシカラヌコトデアルト云フ答辯ガアッタノデアリマス、審議會ハ、其ノ他本法ヲ圓滑ニ實施スル爲ニハ、單ニ法規ヲ整備スルノミデハ不十分デアル、之ガ運用ニ當ルベキ中央及地方ノ行政機關ヲ擴充改善スルコトガ必要デアル、又官吏制度ヲ改革シテ、官吏ノ素質ヲ向上セシメ、更ニ國民精神ヲ作興シ、敎學ヲ刷新スル等ノ事柄ガ極メテ重要デハナイカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ同感ノ意ヲ表セラレタノデアリマス、以上申述ベマシタ如ク、本法案中最モ問題トナッタハ、勅令ニ委任シタ事項ガ餘リニ廣汎ナルコトデアリマシテ、玆ニ大ナル不安ヲ惹キ起シタ次第デアリマスガ、之ニ關シ政府ハ、委任勅令ガ本法ノ規定ノ範圍外ニ出ヅルコトナキハ勿論、其ノ範圍内ニ於テモ必要ノ程度ヲ超エナイヤウニ深甚ノ注意ヲ拂ッベキ旨ヲ言明セラレマシタ、最後ニ世上ニハ此ノ法案ヲ提出スルニ至リタル其ノ裏面ニハ、憲法政治ニ背反スル指導精神ノ伏在スルコトヲ懸念スル者ガ尠クナイガ、政府ノ所見果シテ如何ト云フ質問ニ對シマシテハ、近衞總理大臣ノ答辯ニ依リマシテ、此ノ法案ハ近時「ヨーロッパ」ノ或國々ニ行ハレテ居ル獨裁政治ノ思想トハ根柢ヲ異ニシテ居ル、我ガ國ニハ上ニ萬邦無比ノ皇室ヲ戴キ、又欽定憲法ガ儼存致シテ居ルノデアッテ、政治ハ飽迄モ憲法ノ條章ニ從ッテ行ハレナケレバナラナイ、又此ノ法案ハ今日ノ時局ニ際シ卒然トシテ起草セラレタモノデハナクテ、十數年以前ヨリ資源局等ニ於テ長ク考究セラレツヽアッタモノガ實ヲ結ンダモノデアリ、又「ドイツ」ノ千九百三十三年ノ「ナチス」ノ

授權法等トハ異ッテ居ッテ、本法ハ主トシテ戰時ニ於テ適用ヲ見ルモノデアル、全ク其ノ撰ヲ異ニスルモノデアルト云フ意味ガ明白ニナッタ次第デアリマス、質疑ヲ終了シテ討論ニ入リマシテ、修正案ガ提出セラレマシタ、其ノ修正案ハ本法ノ第二條、第三條及第十八條ノ規定中、「勅令ヲ以テ」トアルヲ「別ニ」ト改メ、第四條乃至第十一條、第十三條乃至第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定中「勅令ノ」トアルヲ「別ニ」ト改メムトスル修正ノ動議ガ提出セラレマシタガ、此ノ修正案ハ採決ノ結果、少數ニテ否決セラレマシタ、仍テ更ニ原案ニ付テ採決致シマシタ處、一委員ヲ除クノ外委員會全部ノ贊成ヲ以テ本案ハ可決ト相成ッタ次第デアリマス、右御報告ヲ終リマス

國家總動員法

（昭和十三年四月一日法律第五十五號）

第一條　本法ニ於テ國家總動員トハ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル樣人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第二條　本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資

二　國家總動員上必要ナル被服、食糧、飲料及飼料

三　國家總動員上必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衞生用物資及家畜衞生用物資

四　國家總動員上必要ナル船舶、航空機、車輛、馬其ノ他ノ輸送用物資

五　國家總動員上必要ナル通信用物資

六　國家總動員上必要ナル土木建築用物資及照明用物資

七　國家總動員上必要ナル燃料及電力

八　前各號ニ揭グルモノノ生産、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、裝置其ノ他ノ物資

九　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資

第三條　本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　總動員物資ノ生産、修理、配給、輸出、輸入又ハ保管ニ關スル業務

二　國家總動員上必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務

三　國家總動員上必要ナル金融ニ關スル業務

四　國家總動員上必要ナル衞生、家畜衞生又ハ救護ニ關スル業務

五　國家總動員上必要ナル教育訓練ニ關スル業務

六　國家總動員上必要ナル試驗研究ニ關スル業務

七　國家總動員上必要ナル情報又ハ啓發宣傳ニ關スル業務

八　國家總動員上必要ナル警備ニ關スル業務

九　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務

第四條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨ゲズ

第五條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國又ハ地方公共團體ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第六條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇又ハ賃金其ノ他ノ勞働條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働爭議ノ豫防若ハ解決ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ作業所ノ閉鎖、作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ勞働爭議ニ關スル行爲ノ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第八條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、修理、配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、所持及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、輸出若ハ輸入ヲ命ジ、輸出税若ハ輸入税ヲ課シ又ハ輸出税若ハ輸入税ヲ增課若ハ減免スルコトヲ得

第十條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十一條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ增加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ總動員業務タル事業ヲ營ム會社ノ當該事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲ノ社債ノ募集又ハ資本ノ增加ニ付商法第二百條又ハ第二百十條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬スル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ前項ニ揭グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ從業者ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實施スル特許發明若ハ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ必要ナル土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

第十四條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十五條　前二條ノ規定ニ依リ收用シタルモノ不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ十年内ニ拂下グルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ舊所有者若ハ舊權利者又ハ其ノ一般承繼人ハ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十六條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第十七條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種若ハ異種ノ事業ノ事業主間ニ於ケル當該事業ニ關スル統制協定ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制協定ノ設定、變更若ハ取消ヲ命ジ又ハ統制協定ノ加盟者若ハ其ノ統制協定ニ加盟セザル事業主ニ對シ其ノ統制協定

ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十八條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種又ハ異種ノ事業ノ事業主ニ對シ當該事業ノ統制ヲ目的トスル組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ組合ハ法人トス

第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者其ノ設立ヲ爲サザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ組合成立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

政府ハ第一項ノ組合ニ對シ其ノ組合員ノ營業ニ關スル統制規程ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ組合員ニ對シ組合ノ統制規程ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、賃貸料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ揭載ニ付制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者其ノ他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障アルモノノ發賣及頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ併セテ其ノ原版ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル檢査ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ管理者又ハ養成セラルベキ者ノ雇傭主ニ對シ國家總動員上必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、販賣又ハ輸入ヲ業トスル者ヲシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得

第二十四條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ノ事業主又ハ戰時ニ際シ總動員業務ヲ實施セシムベキ者ヲシテ戰時ニ際シ實施セシムベキ總動員業務ニ關スル計畫ヲ設定セシメ又ハ當該計畫ニ基キ必要ナル演練ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ業トスル者又ハ試驗研究機關ノ管理者ニ對シ試驗研究ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ豫算ノ範圍內ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ爲サシメ又ハ國家總動員上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條　政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依

ル資金ノ融通若ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令又ハ第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第二十八條　政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス

第二十九條　前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル拂下ノ價額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條　政府ハ第二十六條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ利益ノ保證又ハ補助金ノ交付ヲ受クル事業ヲ監督シ之ガ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第三十二條　第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコトヲ能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第三十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者

二　第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三　第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者

四　第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

五　第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用若ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

二　第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

三　第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ統制協定若ハ統制規程ヲ設定、變更若ハ廢止シ又ハ第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四　第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者

五　第二十六條ノ規定ニ違反シ生產、修理又ハ設備ヲ爲サザル者

第三十五條　前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事セザル者

二　第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタ

ル者

第三十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二　第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ爲サザル者

三　第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試驗研究ヲ爲サザル者

第三十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ設立ヲ爲サザル者

二　第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三　第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者

第三十九條　第二十條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ發行人及編輯人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ發行者及著作者ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙ニ在リテハ編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及揭載ノ記事ニ署名シタル者亦前項ニ同ジ

第四十條　第二十條第二項ノ規定ニ依ル押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　前二條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十四條　總動員業務ニ從事シタル者其ノ業務遂行ニ關シ知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者職務上知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十五條　公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條　第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ設立シタル組合ノ役員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四十七條　前條第一項ニ揭グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條　法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十二條乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條　前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

本法ノ罰則ハ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニモ之ヲ適用ス

第五十條　本法施行ニ關スル重要事項（軍機ニ關スルモノヲ除ク）ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲國家總動員審議會ヲ置ク

國家總動員審議會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當規定ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ト看做ス

軍需工業動員法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

國家總動員法ハ昭和十三年五月五日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十三年五月四日勅令第三百十五號）

（參照）

明治二十二年三月九日公布法律第四十八號商法抄錄

第二百條　社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ニ超ユルコトヲ得ス

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産カ前項ノ金額ニ滿タサルトキハ社債ノ總額ハ其財産ノ額ニ超ユルコトヲ得ス

第二百十條　會社ノ資本ハ株金全額拂込ノ後ニ非サレハ之ヲ增加スルコトヲ得ス

昭和十二年九月十日公布法律第八十八號ハ軍需工業動員法ノ適用ニ關スル件ナリ

工場事業場管理令

（昭和十三年五月四日勅令第三百十八號）

第一條　國家總動員法第十三條第一項ノ規定ニ依ル總動員業務タル事業ニ屬スル工場若ハ事業場又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設（以下工場事業場ト稱ス）ノ管理ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　主務大臣工場事業場ヲ管理セントスルトキハ內閣總理大臣ニ協議スベシ

第三條　管理ハ主務大臣ノ發スル管理令書ヲ以テ送達ノ時ヨリ開始ス但シ管理令書ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

管理令書ノ送達ハ管理スベキ工場事業場ノ事業主ニ對シ之ヲ爲ス但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ工場事業場ノ長其ノ他之ニ準ズル者ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　管理令書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　工場事業場ノ名稱及所在ノ場所

二　管理ノ範圍

三　第十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ職權ノ一部ヲ行フ官衙ノ長アルトキハ其ノ長及其ノ職權ノ範圍

四　監理官ノ官職氏名

五　其ノ他必要ト認ムル事項

第五條　第二條及第三條ノ規定ハ管理ノ範圍ヲ變更シ又ハ管理ヲ廢止スル場合ニ之ヲ準用ス

第三條第二項ノ規定ハ第四條第三號乃至第五號ノ事項ニ變更アリタル場合ニ之ヲ

準用ス

第六條　主務大臣ハ其ノ管理ニ係ル工場事業場ニ於ケル總動員物資ノ生産又ハ修理ニ關シ當該工場事業場ノ業務ニ付事業主ヲ指揮監督ス

第七條　主務大臣ハ其ノ管理ニ係ル工場事業場ニ付監理官ヲ置キ當該工場事業場ノ業務ノ監督ニ從事セシム

第八條　管理ニ係ル工場事業場ノ事業主當該工場事業場ノ經營ヲ廢止シ又ハ休止セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第九條　管理ニ係ル工場事業場ノ事業主ハ本令又ハ本令ニ依ル命令ノ適用ニ付事業主ニ代ルベキ事業管理人ヲ選任スルコトヲ得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ事業管理人ノ選任ヲ命ズルコトヲ得

事業主左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ事業管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

一　法人ナルトキ

二　營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者又ハ禁治産者ナルトキ

三　本令施行地ニ居住セザルトキ

事業管理人ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二項及第三項ノ場合ニ於テ事業主事業管理人ヲ選任セズ又ハ選任スルコト能ハザルトキハ主務大臣ハ工場事業場ノ經營ニ付權限ヲ有スル者ノ中ヨリ事業管理人ヲ選任スルコトヲ得

第十條　事業管理人ガ本令又ハ本令ニ依ル命令ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第十一條　國家總動員法第二十七條ノ規定ニ依リ補償スベキ損失ハ管理ニ因ル通常生ズベキ損失トス

損失ノ補償ヲ請求セントスル者ハ管理廢止ノ後命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ請求スベシ但シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ每事業年度ノ終リタル後又ハ損失ノ生ジタル都度之ヲ請求スルコトヲ得

第十二條　管理ニ係ル工場事業場ノ經營ヲ承繼スル者ハ本令又ハ本令ニ依ル命令ニ基ク前者ノ權利義務ヲ承繼ス

第十三條　主務大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ其ノ管理ニ係ル工場事業場ノ業務若ハ財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ管理ニ係ル工場事業場若ハ其ノ事業主ノ事務所、營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ當該工場事業場ニ關スル業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢查セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十四條　主務大臣ハ本令ニ依ル管理ニ係ル工場事業場ニ對スル職權ノ一部ヲ所轄官衙ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官衙ノ長ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ニ依ル職權ヲ其ノ所屬官衙ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第十五條　本令中主務大臣トアルハ軍機保護上其ノ他軍事上特ニ必要アル工場事業場ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣トス

前項ノ場合ヲ除クノ外本令中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス

附　則

本令ハ昭和十三年五月五日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年勅令第五百二十八號工場事業場管理令ハ之ヲ廢止ス

學校卒業者使用制限令

（昭和十三年八月二十四日勅令第五百九十九號）

第一條　厚生大臣ノ指定スル大學、專門學校、實業學校其ノ他之ニ準ズベキ各種學校ニ於テ厚生大臣ノ指定スル學科ヲ修メ其ノ學校ヲ本令施行後ニ於テ卒業スル者（以下卒業者ト稱ス）ノ國家總動員法第六條ノ規定ニ基ク使用制限ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　卒業者ヲ雇傭契約ニ基キ使用セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ學校ノ程度及學科別ニ各年ノ卒業者ノ使用員數ニ付厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三條　厚生大臣前條ノ認可ノ申請ニ付不正又ハ虛僞ノ事實アリト認ムルトキハ認可シタル員數ヲ減少シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第四條　厚生大臣必要ト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ認可ヲ申請シタル者又ハ卒業者ヲ使用スル者ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ報告ヲ徵スルコトヲ得

厚生大臣又ハ地方長官必要ト認ムルトキハ卒業者ノ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ認可ヲ申請シタル者、事業場又ハ卒業者ヲ使用スル者ニ付卒業者ノ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ報告ヲ徵スルコトヲ得

第五條　本令ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ於テ卒業者ヲ吏員トシテ使用スル場合ニ之ヲ準用ス

第六條　本令ハ國又ハ道府縣ニ於ケル卒業者ノ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ第二條ノ認可ヲ申請シタル者又ハ卒業者ヲ使用スル者ノ工場、事業場又ハ事務所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類ヲ檢查セシムルコトヲ得

第七條　本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ府、道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方廳トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

學校卒業者使用制限令施行規則

（昭和十三年八月二十六日厚生省令第二十三號）

第一條　學校卒業者使用制限令（以下令ト稱ス）第二條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ卒業者ノ卒業ノ前年九月末日迄ニ樣式第一號ニ依リ申請スベシ

第二條　前條ノ申請ニ對スル認可ヲ爲シタル後ニ於テ使用シ得ベキ卒業者アルトキハ其ノ他特別ノ必要アルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ令第二條ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第三條　令第二條ノ認可ノ申請ハ工場、事業場又ハ事務所別ニ之ヲ爲スベシ

第四條　令第二條ノ認可ヲ受ケタル者卒業者ヲ使用シ又ハ使用セザルニ至リタルトキ

キハ遅滯ナク様式第二號ニ依リ卒業者ノ勤務スル工場、事業場又ハ事務所所在地ノ所轄地方長官ヲ經由シテ厚生大臣ニ報告スベシ

第五條　令第四條第二項ノ規定ニ依リ當該官吏臨檢スル場合ニハ様式第三號ノ證票ヲ携帶スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式第一號

秘

學校卒業者使用認可申請書

1 工場事業場事務所ノ名稱				2 所在地							3 事業ノ種類		
4 申請員數	學科別 / 教育程度	機械	造兵	造船	航空	電氣	應用化學	採鑛冶金	火藥	燃料	計		
	大學卒業												
	專門學校卒業												
	實業學校卒業												
5 利用率	軍需	%	官需	%	民需	%	7 主要生産(販賣)品目						
6 初任給	大學卒業	圓	專門學校卒業	圓	實業學校卒業	圓							
8 技術者及從業者ノ員數並從業者數ニ對スル技術者ノ割合													
區別 / 學科別		機械	造兵	造船	航空	電氣	應用化學	採鑛冶金	火藥	燃料	計		
申請ノ前年七月一日現在ノ狀況	技術者 大學卒業												
	技術者 專門學校卒業												
	技術者 實業學校卒業												
	技術者 計												
	從業者數												
	從業者數ニ對スル技術者數ノ割合	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
申請ノ年七月一日現在ノ狀況	技術者 大學卒業												
	技術者 專門學校卒業												
	技術者 實業學校卒業												
	技術者 計												
	從業者數												
	從業者數ニ對スル技術者數ノ割合	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
シタル場合ノ狀況 申請員數全部ヲ採用	技術者 大學卒業												
	技術者 專門學校卒業												
	技術者 實業學校卒業												
	技術者 計												
	從業者數												
	從業者數ニ對スル技術者數ノ割合	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
9 申												10 備考	

8 學科ハ下ノ例ニ依リ區分スルコト

(1)機械—機械工學科、鑛山機械科、精密機械科、計器科、原動機科、電氣機械科、機械電氣科、化學機械科、木型科、鐵工科、鍛工科其ノ他之ニ準ズベキ學科

(2)造兵—造兵學科

(3)造船—船舶工學科、造船學科其ノ他之ニ準ズベキ學科

(4)航空—航空學科其ノ他之ニ準ズベキ學科

(5)電氣—電氣工學科其ノ他之ニ準ズベキ學科

(6)應用化學—應用化學科、電氣化學科、化學工學科、工業化學科其ノ他之ニ準ズベキ學科

(7)採鑛冶金—採鑛學科、冶金學科、鑛山工學科、金屬工學科、應用金屬學科其ノ他之ニ準ズベキ學科

(8)火藥—火藥學科

(9)燃料—燃料學科其ノ他之ニ準ズベキ學科

9 大學卒業者ヲ希望スルモ之ヲ得ラレザルトキハ專門學校卒業者ノ配當ヲ受ケタキ希望アルトキ等 第二次的希望アルトキハ其ノ旨備考欄(10)ニ記載スルコト

10 從業者數ノ欄(8)ニハ技術者ヲ含マザル從業者數ヲ記載スルコト但工場、鑛山ニ付テハ職工、鑛夫ノ數ヲ記載スルコト

11 從業者數ニ對スル技術者數ノ割合ノ欄(8)ニハ學科別技術者數ノ從業者數ニ對スル百分比ヲ記入スルコト

12 申請員數全部ヲ採用シタル場合ノ狀況欄(8)中從業者數ハ其ノ見込數ヲ記載スルコト

13 申請ノ理由ノ欄(9)ニハ現在ニ於ケル 技術者不足ノ狀況、今後一年間ニ於ケル生產施設擴充計畫(臨時資金調整法ニ依ル許可アリタルモノハ其ノ許可ノ年月日、番號及許可アリタル事項ノ概要ヲ記載ノコト)及之ニ伴フ要員數(技術者及其ノ他ノ勞働者別)交替制採用ノ計畫及之ニ伴フ要員數(技術者及其ノ他ノ勞働者別)充足シ得ザル場合ノ支障ノ程度、使用セントスル卒業者及從前ヨリ使用スル 技術者配置ノ豫定竝ニ使用セントスル 卒業者ヲシテ從事セシムベキ業務ノ概要其ノ他ノ參考事項等ヲ記載スルコト

14 鑛業、紡織工業、金屬工業、機械器具工業、窯業及化學工業ニ在リテハ申請ノ前年ニ於ケル生產金額及數量竝ニ申請ノ年及其ノ翌年ニ於ケル生產見込金額及數量ヲ主要生產品目(陸、海軍ヨリ直接受注ノモノヲ除ク)別ニ記載シタル別表調書ヲ添附スルコト

15 工場、事業場以外ノ事務所ニ勤務セシムベキ卒業者ニ付申請スル場合ニ於テ關係工場、事業場アルトキハ各工場、事業場別ニ申請書樣式中4及6ヲ除ク 各欄ニ其ノ狀況ニ付記載シタル書類ヲ作成添附スルコト此ノ場合當該關係工場、事業場ニ所屬セシムベキ者ニ付別途申請スルトキハ其ノ旨備考欄(10)ニ記載シ上ノ書類ノ添附ヲ要セザルコト

16 特ニ勘酌スベキ事情ノ存スルトキハ其ノ詳細ヲ備考欄(10)ニ記載スルコト

17 當該工場 事業場、事務所等ノ創立年月日ヲ備考欄(10)ニ記載スルコト

18 申請書ハ厚生省職業部長宛親展提出スルコト

別表

主要生產品目名	申請ノ前年ニ於ケル生產額		申請ノ年ニ於ケル生產見込額		申請ノ翌年ニ於ケル生產見込額	
	金額	數量	金額	數量	金額	數量

(註) 1 本表ノ用紙ノ大サハ國定規格A5判(148mm×210mm)又ハA4判(210mm×297mm)トスルコト

2 生產ニ關スル數量ノ單位ハ任意トスルモ全記載ヲ通ジ統一スルコト

3 各品目毎ニ生產額ノ內輸出ニ向ケタル額ヲ朱書併記スルコト

請ノ理由

昭和 年 月 日

住所又ハ所在地

氏名又ハ名稱 印

記載上ノ注意

1 本申請書ノ用紙ノ大サハ國定規格A4判(210mm×297mm)トスルコト

2 本申請書ニハ謄本一通ヲ作成添附スルコト

3 事業ノ種類欄(3)ニハ國勢調査產業分類ノ中分類ニ依リ記入スルコト

4 利用率欄(5)ノ記入ハ申請ノ年ノ一月一日ヨリ六月末日ニ至ル 六月間ニ於ケル生產金額ニ依ルコト 但繊維又ハ製糸業等原料素材製造業ニ在リテハ本欄ノ記入ヲ要セザルコト

5 利用率欄(5)中軍需トハ軍ニ直接納入シタルモノ 其ノ他軍ノ用ニ供セラレタルモノヲ謂ヒ 官需トハ官ニ直接納入セラレタルモノ(軍需ヲ除ク)ヲ謂フコト

6 初任給欄(6)ニハ給料等ノ基本額ヲ記入シ加給又ハ諸手當ヲ含マシメザルコト尙日給又ハ月給等ノ區別ヲ明ニスルコト

7 教育程度ハ下ノ例ニ依リ區分スルコト

(1)大學—大學ノ工學部及理工學部、旅順工科大學

(2)專門學校—

イ、工業ニ關スル專門學校、朝鮮及臺灣ノ工業ニ關スル專門學校、南滿洲工業專門學校

ロ、專門學校ニ非ザル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ三年以上トスルモノ

(3)實業學校—

イ、工業學校(大正十年文部省令第五號二種以上ノ 實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム)竝ニ 朝鮮及臺灣ノ工業學校(大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム)ニシテ下記各號ノ一ニ該當スルモノ

1. 尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ五年以上トスルモノ

2. 高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ三年以上トスルモノ

3. 前二號ト同等以上ノモノ

4. 工業學校規程第十一條ノ二又ハ臺灣公立工業學校規則第四條ノ規定ニ依リ設ケタル第二部

ロ、大連工業學校及鹽順工業學校

ハ、實業學校及專門學校ニ非ザル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ一年以上三年未滿トスルモノ竝ニ之ト同等ノモノ

様式第二號

記號	學校卒業者使用開始又ハ解雇ノ届				
工場、事業場又ハ事務所	名稱		所在地		
使用開始又ハ解雇ノ年月日	從事セシメムル業務ノ種類	卒業學校名	修了シタル學科	氏名	備考

昭和　年　月　日

住所又ハ所在地
使用者　氏名又ハ名稱　㊞

記載上ノ注意
1 本報告ハ工場、事業場又ハ事務所別ニ作成スルコト
2 本報告ノ用紙ノ大サハ國定規格 B5 判(182mm×257mm)トスルコト
3 本報告ノ標題ハ使用届出ニ在リテハ解雇ヲ、使用セザルニ至リタル届出ニ在リテハ使用ノ文字ヲ抹消スルコト
4 學校名ハ其ノ固有ノ名稱ヲ記載スルコト
5 解雇ノ報告ニハ其ノ理由ヲ備考欄ニ記載スルコト

様式第三號
本票ノ用紙ノ大サハ國定規格A7判(74mm×105mm)トシ中央點線ノ所ヨリ二ツ折トナス
(表面)

學校卒業者使用制限ニ關スル臨檢票

(裏面)

第　號

昭和　年　月　日交付

厚生省又ハ廳府縣印

官職　氏名

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

學校卒業者使用制限令第四條第二項　厚生大臣又ハ地方長官必要ト認ムルトキハ卒業者ノ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ第二條ノ認可ヲ申請シタル者又ハ卒業者ヲ使用スル者ノ工場、事業場又ハ事務所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

學校卒業者使用制限令第一條ノ學校指定

(昭和十三年八月二十六日厚生省告示第百十九號)

大學
一　大學ノ工學部及理工學部
二　旅順工科大學

專門學校
一　工業ニ關スル專門學校
二　朝鮮及臺灣ノ工業ニ關スル專門學校
三　南滿洲工業專門學校

實業學校
一　工業學校(大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム)竝ニ朝鮮及臺灣ノ工業學校(大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム)ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ
(一)尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ五年以上トスルモノ
(二)高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ三年(夜間授業ノモノニ在リテハ四年)以上ト

スルモノ
(三)前二號ト同等以上ノモノ
(四)工業學校規程第十一條ノ二又ハ臺灣公立工業學校規則第四條ノ規定ニ依リ設ケタル第二部
二　大連工業學校
三　撫順工業學校
各種學校
一　工業學校ニ準ズベキ私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ一年以上トスルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ(夜間授業ノモノヲ除ク)

學校卒業者使用制限令第一條ノ學科指定

(昭和十三年八月二十六日厚生省告示第百二十號)

大學
一　機械工學科(北海道帝國大學工學部第三部類ヲ含ム)
二　船舶工學科(造船學科ヲ含ム)
三　航空學科
四　造兵學科
五　電氣工學科(北海道帝國大學工學部第四部類ヲ含ム)
六　應用化學科(工業化學科及化學工學科及電氣化學科ヲ含ム)
七　採鑛冶金學科(鑛山及冶金學科、採鑛學科、冶金學科、金屬工學科、應用金屬學科及北海道帝國大學工學部第二部類甲ヲ含ム)
八　火藥學科
九　燃料化學科(北海道帝國大學工學部第三部類乙ヲ含ム)
一及五乃至七ノ學科ノ中早稻田大學ノ工業經營分科ハ之ヲ除ク
專門學校(專門學校ニ非ザル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ三年以上トスルモノヲ含ム)
一　機械工學科(精密機械科及鑛山機械科ヲ含ム)
二　造船工學科
三　航空工學科
四　電氣工學科
五　應用化學科(電氣化學科ヲ含ム)
六　採鑛冶金科(採鑛學科、鑛山工學科、冶金學科及採炭學科ヲ含ム)
七　燃料學科
工業學校(大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條又ハ大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノ竝ニ專門學校及實業學校ニ非ザル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ三年以上トスルモノヲ含ム)
一　機械科(計器科、原動機科、採鑛機械科、電氣機械科、機械電氣科、化學機械科、木型科、鑄工科、鍛工科其ノ他機械科ニ準ズベキ學科ヲ含ム)
二　造船科
三　航空科(機體製作科及航空機關科ヲ含ム)
四　電氣科
五　應用化學科(工業化學科、化學工業科、電氣化學科其ノ他應用化學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム)
六　採鑛冶金科(採鑛科及冶金科其ノ他之ニ準ズベキ學科ヲ含ム)

醫療關係者職業能力申告令

(昭和十三年八月二十四日勅令第六百號)

第一條　國家總動員法第二十一條ノ規定ニ基ク醫師、齒科醫師、藥劑師及看護婦ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告竝ニ其ノ職業能力ニ關スル檢査ハ本令ノ定ムル所ニ依ル
第二條　本令ニ於テ醫師トハ醫師法ニ依リ

厚生大臣ノ免許ヲ受ケタル醫師、齒科醫師トハ齒科醫師法ニ依リ厚生大臣ノ免許ヲ受ケタル齒科醫師、藥劑師トハ藥劑師法ニ依リ厚生大臣ノ免許ヲ受ケタル藥劑師ヲ謂フ但シ朝鮮ニ在リテハ各朝鮮總督ノ免許ヲ受ケタル醫師、齒科醫師及藥劑師ヲ、臺灣ニ在リテハ各臺灣總督ノ免許ヲ受ケタル醫師、齒科醫師及藥劑師ヲ、樺太ニ在リテハ各樺太廳長官ノ免許又ハ假免許ヲ受ケタル醫師、齒科醫師及藥劑師ヲ、南洋群島ニ在リテハ各南洋廳長官ノ指定スル者ヲ含ム
本令ニ於テ看護婦トハ命令ヲ以テ定ムル看護婦ヲ謂フ
第三條　醫師、齒科醫師、藥劑師及看護婦ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告ハ昭和十三年ノ申告ヲ第一回トシ爾後四年毎ニ一回之ヲ爲サシムルモノトス
前項ノ申告ハ八月一日現在ニ依リ同月十五日迄ニ之ヲ爲スベシ
第一項ノ申告ヲ爲スベキ年ノ八月二日以後ニ於テ醫師、齒科醫師、藥劑師若ハ看護婦ト爲リタル者、第十二條ニ揭グル者ニシテ本令ノ適用ヲ受クルニ至リタルモノ、內地、朝鮮、臺灣、樺太若ハ南洋群島ノ何レカノ地域ヨリ他ノ地域ニ就業ノ場所ヲ有セザル者及就業ノ場所ヲ有セザル者ニ付テハ住所)ヲ移シタル者(就業ノ場所一定セザル者、就業ノ場所ヲ有セザル者及船舶內ニ於テ就業スルノ常況ニ在ル者ニ付テハ住所及就業ノ場所ノ又ハ本令施行地內ニ住所及就業ノ場所ノ何レヲモ有セザリシ者ニシテ本令施行地內ニ其ノ何レカヲ有スルニ至リタルモノヲ含ム)ニ在リテハ其ノ事實ノ生ジタル日ノ次ノ八月一日(當該事實ノ生ジタル日ガ八月一日ナルトキハ其ノ日)現在ニ依リ同月十五日迄ニ之ヲ爲スベシ
第四條　醫師ハ左ニ揭グル事項ヲ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ申告スベシ
一　氏名
二　男女ノ別
三　出生ノ年月日
四　本籍
五　住所
六　兵役關係
七　醫籍登錄番號
八　診療能力
九　學歷及職歷
十　就業ノ場所
十一　就業ノ態樣
十二　俸給、給料等ヲ受クル者ナルトキハ其ノ額
十三　健康狀況特ニ總動員業務從事ニ關スル支障ノ有無
十四　配偶者ノ有無及現ニ扶養スル者ノ數
十五　總動員業務從事ニ關スル希望
十六　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項
醫師前項ノ申告ヲ爲シタル後同項第一號、第十號又ハ第十一號ニ揭グル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ第九條ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外三十日以內ニ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ其ノ旨申告スベシ
第五條　齒科醫師ハ左ニ揭グル事項ヲ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ申告スベシ
一　前條第一項第一號乃至第六號及第九號乃至第十五號ニ揭グル事項
二　齒科醫籍登錄番號
三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項
第六條　藥劑師ハ左ニ揭グル事項ヲ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ申告スベシ
一　第四條第一項第一號乃至第六號及第九號乃至第十五號ニ揭グル事項
二　藥劑師名簿登錄番號
三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項
第七條　看護婦ハ左ニ揭グル事項ヲ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ申告スベシ

一　第四條第一項第一號、第三號乃至第五號及第九號乃至第十五號ニ掲グル事項

二　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

第八條　第四條第二項ノ規定ハ歯科醫師、藥劑師及看護婦ニ之ヲ準用ス

第九條　醫師、歯科醫師、藥劑師又ハ看護婦前六條ノ規定ニ依ル申告ヲ爲シタル後左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遲滯ナク前ニ申告ヲ爲シタル地方長官ニ其ノ旨申告スベシ

一　第十二條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ

二　內地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ノ何レカノ地域ヨリ他ノ地域ニ住所又ハ就業ノ場所ヲ移シタルトキ

三　本令施行地外ニ住所又ハ就業ノ場所ヲ移シタルトキ

第十條　地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ本令ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ其ノ職業能力ニ關シ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條　地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令ノ申告ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徵スルコトヲ得

第十二條　本令ハ第九條第一號ノ規定ニ依ル申告ニ關スル規定ヲ除クノ外陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ又ハ兵役法第五十五條第二項（志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム）ノ規定ニ依リ召集中ノモノ、陸海軍軍屬竝ニ國家總動員法第四條ノ規定ニ依リ徵用中ノ者ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第十三條　醫師、歯科醫師、藥劑師又ハ看護婦ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ申告ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ申告期限ヲ延長スルコトヲ得

一　陸海軍軍人ニシテ召集中ノモノ（前條ニ規定スル召集中ノ者ヲ除ク）

二　外國旅行中ノ者

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル者

第十四條　本令中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ藥劑師又ハ看護婦ニ關シテハ警視總監トス

第十五條　二以上ノ就業ノ場所ヲ有スル者ニ付テハ主タル就業ノ場所ニ付テハ住所地ヲ以テ本令ノ就業地ト看做ス

第十六條　本令中醫籍登錄番號、歯科醫籍登錄番號又ハ藥劑師名簿登錄番號トアルハ朝鮮總督ノ免許ヲ受ケタル醫師、歯科醫師又ハ藥劑師ニ關シテハ各其ノ免許番號トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

第十七條　本令ニ規定スルモノノ外申告ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年ニ限リ第三條第二項中八月一日現在ニ依リ同月十五日迄トアルハ十月十五日現在ニ依リ同月三十一日迄トシ同條第三項中八月二日以後トアルハ十月十六日以後トス

醫療關係者職業能力申告令施行規則

（昭和十三年九月五日厚生省令第二十六號）

第一條　醫療關係者職業能力申告令（以下申告令ト稱ス）第三條ノ規定ニ依ル申告ハ別表第一號樣式ニ依ル職業能力申告書用紙ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第二條　申告令第九條ノ規定ニ依ル申告ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　申告者ノ氏名

二　前ニ申告ヲ爲シタル就業ノ場所又ハ住所

三　申告令第九條ニ該當スルニ至リタル年月日及其ノ事實

第三條　申告令第三條第一項ニ該當スル年ニ於テハ地方長官ハ七月二十日迄ニ職業能力申告書用紙ヲ醫師、歯科醫師、藥劑師及看護婦ニ配付ス

申告ヲ爲スベキ醫師、歯科醫師、藥劑師及看護婦前項ノ期日迄ニ職業能力申告書用紙ノ交付ヲ受ケザルトキハ地方長官ニ申出デ之ガ交付ヲ受クベシ

申告令第三條第三項、第四條第二項又ハ第八條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲スベキ醫師、歯科醫師、藥劑師及看護婦ハ地方長官ニ申出デ申告書用紙ノ交付ヲ受クベシ

第四條　申告令第二條第二項ノ規定ニ依リ看護婦ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　大正四年內務省令第九號看護婦規則ニ依リ看護婦タル者（明治四十三年勅令第二百二十八號日本赤十字社條例ニ依リ日本赤十字社救護員タル者ヲ除ク）

二　申告令第十三條第二號ニ該當スル者

三　朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島又ハ關東州ニ旅行中ノ者

交通至難ノ島嶼ニ住所又ハ就業ノ場所ヲ有スル者ニシテ正規ノ期限ニ申告ヲ爲シ難キモノノ申告期限ノ延長ニ付テハ地方長官ハ厚生大臣ノ認可ヲ受ケ特別ノ規定ニ依ル申告ヲ爲シタル者ニ就キ身體、技能其ノ他必要ト認ムル事項ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ當該官吏ハ別表第三號樣式ニ依ル證票ヲ携帶スベシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ申告期限ハ內地ニ歸來シタル日ヨリ十五日目迄之ヲ延長ス

一　申告令第十三條第一號ニ該當スル者ニシテ內地ニ居住セザルモノ

二　申告令第十三條第二號ニ該當スル者

三　朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島又ハ關東州ニ旅行中ノ者

交通至難ノ島嶼ニ住所又ハ就業ノ場所ヲ有スル者ニシテ正規ノ期限ニ申告ヲ爲シ難キモノノ申告期限ノ延長ニ付テハ地方長官ハ厚生大臣ノ認可ヲ受ケ特別ノ規定

用紙ヲ以テ之ヲ爲スベシ

申告令第四條第二項及第八條ノ規定ニ依ル申告ハ別表第二號樣式ニ依ル職業能力異動申告書用紙ヲ以テ之ヲ爲スベシ

ヲ設クルコトヲ得

第七條　申告令第十四條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

第八條　醫師ハ申告令第三條ノ規定ニ依リテ爲ス最初ノ申告ニ限リ副本一通ヲ添附シ提出スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中七月二十日迄トアルハ昭和十三年ニ限リ十月五日迄トス

第八條ノ規定ハ昭和十三年ニ行フ申告ニ限リ之ヲ適用セズ

別紙第一號樣式

（表面）

（裏面）